

平成 2 6 年 度

全国学力・学習状況調査

調 査 結 果 報 告 書

国語

算数
数学

質問紙
調査



平成 2 6 年 1 2 月
福岡県教育委員会

平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果報告書

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	
2 調査対象の学年	
3 調査の方式	
4 調査の内容	
5 調査日	
6 4月22日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数	
7 調査問題の内容	
II 調査結果の概要	3
1 調査結果の概況	
2 教科に関する調査の結果（全体の状況）	
3 これまでの調査結果から	
4 教育事務所・政令市の状況	
5 県全体の平均正答率度数分布状況	
6 市町村別の状況	
7 児童生徒の無解答の状況	
III 各教科の調査結果	38
1 小学校国語	
2 小学校算数	
3 中学校国語	
4 中学校数学	
5 過去の調査問題（同一問題）との正答率比較	
IV 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析	59
1 学習に対する関心・意欲・態度	
2 算数・数学の内容理解	
3 発表の機会	
4 家庭学習	
5 読書	
6 基本的な生活習慣	
7 テレビやビデオ・DVD	
8 家庭でのコミュニケーション	
9 規範意識	
10 自尊意識	
V 学校質問紙に関する調査結果と分析	89
1 学習態度	
2 指導方法	
3 学習規律の指導	
4 家庭での学習方法の指導	
5 P T Aや地域との連携	
6 教員研修	
7 就学援助	

VI 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の対比・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108

- 1 小学校
 - 授業のめあての提示
 - 授業の振り返り
 - 発表の機会
 - 話し合い活動を通しての児童の考えの深まり
 - 児童の良いところを認める
- 2 中学校
 - 授業のめあての提示
 - 授業の振り返り
 - 発表の機会
 - 話し合い活動を通しての生徒の考えの深まり
 - 生徒の良いところを認める

VII 本年度新たに分析した調査項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113

- 1 学級やグループで話し合う活動
- 2 言語活動の学校全体としての取組
- 3 総合的な学習の時間
- 4 全職員による課題の共有と組織的な取組
- 5 携帯電話やスマートフォンの時間

VIII まとめと今後の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118

- 1 分析結果の総括
- 2 改善に向けた今後の取組

※ 調査結果についての基本的な考え方

全国学力・学習状況調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえて、本調査報告書を作成しています。

※ Web ページへの掲載

なお、本調査結果報告書は、平成26年12月25日(木)17:00以降、次のWeb ページで閲覧することができます。

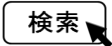
① 福岡県庁ホームページ

URL : <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/life/5/41/>

(トップページ→子育て・教育→教育→義務教育→一般情報)

② 福岡県教育庁教育振興部義務教育課各種資料のページ(学力アップパッケージ)

URL : <http://gimu.fku.ed.jp/Default1.aspx>

(トップページ→Contents[指導資料等]学力アップパッケージ→「学力実態調査の調査結果」報告書「学力アップパッケージ」で  して、「学力実態調査の結果報告」報告書をクリック

平成26年度 全国学力・学習状況調査 調査結果報告書 (国語、算数・数学)

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象の学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の方式

文部科学省による悉皆方式の調査として実施する。

4 調査の内容

① 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数・数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数・数学B〕
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

③ 調査時間

小学校

1時限目	2時限目	3時限目	
国語A (20分) 算数A (20分)	国語B (40分)	算数B (40分)	児童質問紙 (20分程度)

※ 児童質問紙は、3時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

中学校

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	
国語A (45分)	国語B (45分)	数学A (45分)	数学B (45分)	生徒質問紙 (20分程度)

※ 生徒質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

5 調査日

平成26年4月22日(火)

6 4月22日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

小学校	児童数				学校数
	国語A	国語B	算数A	算数B	
福岡県(公立)	44,305	44,311	44,309	44,319	747
全国(公立)	1,080,663	1,080,444	1,080,657	1,080,442	20,177

中学校	生徒数				学校数
	国語A	国語B	数学A	数学B	
福岡県(公立)	41,851	41,867	41,879	41,869	351
全国(公立)	1,017,965	1,018,157	1,018,328	1,018,365	9,742

※ 福岡県(公立)には、両政令市を含む。

※ 本年度児童生徒質問紙は、一部内容の異なる質問紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかを各学校に割り当て実施された。

7 調査問題の内容

■ 各教科のA区分とB区分の問題数

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
A 主として「知識」	15	17	32	36
B 主として「活用」	10	13	9	15

■ 評価の観点別の問題数(※複数の観点を含む問題があるため、問題数とは必ずしも一致しない。)

国語の評価の観点	小学校		中学校		算数・数学の評価の観点	小学校		中学校	
	国語A	国語B	国語A	国語B		算数A	算数B	数学A	数学B
国語への関心・意欲・態度	0	3	0	3	算数(数学)への関心・意欲・態度	0	0	0	0
話す・聞く能力	1	3	4	0	数学的な考え方	0	6	0	14
書く能力	3	3	6	3	数量や図形についての表現・処理	8	4	15	0
読む能力	2	7	5	8	数量や図形についての知識・理解	9	3	21	1
言語についての知識・理解・技能	12	2	17	4					

■ 問題形式別の問題数

問題形式	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
選択式	7	4	8	4	20	6	18	3
短答式	8	3	9	4	12	0	18	6
記述式	0	3	0	5	0	3	0	6

Ⅱ 調査結果の概要

1 調査結果の概況

小学校		平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語A	福岡県(公立)	10.8	72.0	11.0	3.1
	全国(公立)	10.9	72.9	12.0	3.1
国語B	福岡県(公立)	5.4	54.4	6.0	2.4
	全国(公立)	5.5	55.5	6.0	2.4
算数A	福岡県(公立)	13.2	77.7	14.0	3.1
	全国(公立)	13.3	78.1	14.0	3.2
算数B	福岡県(公立)	7.5	57.4	8.0	3.3
	全国(公立)	7.6	58.2	8.0	3.3

中学校		平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語A	福岡県(公立)	25.1	78.4	27.0	5.9
	全国(公立)	25.4	79.4	27.0	5.7
国語B	福岡県(公立)	4.5	49.6	5.0	2.3
	全国(公立)	4.6	51.0	5.0	2.3
数学A	福岡県(公立)	23.6	65.6	25.0	8.5
	全国(公立)	24.3	67.4	26.0	8.2
数学B	福岡県(公立)	8.7	57.8	9.0	3.9
	全国(公立)	9.0	59.8	10.0	3.9

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。
平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。
中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値のこと。
標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値のこと。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

2 教科に関する調査の結果（全体の状況）

(1) 全国の状況

- 各年度で平均正答率（公立）が低い3都道府県の平均を見ると、全国平均との差は縮小傾向にあり、学力の底上げが進展している。
- これまでの調査で見られた課題について、依然として課題が見られるが、課題の所在がより明確になったものがある。
- 今回の調査を見る限り、改善の状況が見られるものがあるが、これらについては引き続き注視が必要である。

(2) 福岡県の状況

- 小学校は、昨年度は国語A、算数A及び算数Bの平均正答率が全国平均以上であったが、今年度は全ての教科区分で全国を下回った。
- 中学校は、昨年度と同じく全ての教科区分で平均正答率が全国平均を下回っている。

3 これまでの調査結果から

平成19年度から実施されている本調査における本県の平均正答率と全国の平均正答率との差をもとに、7回の推移について分析する。なお、平成23年度については、震災の影響により国が調査を実施せず、本県独自に国の調査問題を活用した悉皆調査を行った。そのため、これまでの調査と実施時期などの条件が異なることから、本報告書においては、平成23年度の結果を省略することとした。

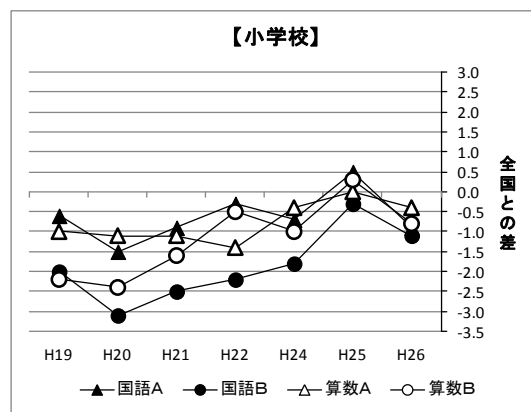
○ 平均正答率の差の推移

<小学校>

- 昨年度は国語A、算数A及び算数Bの平均正答率が全国平均以上であったが、今年度は全ての教科区分で全国を下回った。
- 昨年度との比較では、すべての教科区分において、全国平均との差が広がっている。
- 平成19年度との比較では、国語A以外の教科区分において全国との差が縮まった。

■ 本県と全国の平均正答率の差（小学校）

	国語A	国語B	算数A	算数B
平成19年度	-0.6	-2.0	-1.0	-2.2
平成20年度	-1.5	-3.1	-1.1	-2.4
平成21年度	-0.9	-2.5	-1.1	-1.6
平成22年度	-0.3	-2.2	-1.4	-0.5
平成24年度	-0.7	-1.8	-0.4	-1.0
平成25年度	0.5	-0.3	0.0	0.3
平成26年度	-0.9	-1.1	-0.4	-0.8



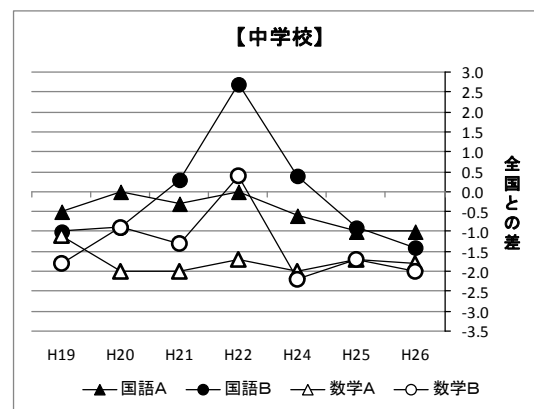
※ 平成22・24年度は、全国調査が抽出調査であるため、全国の「平均正答率の95%信頼区間の中間値」との差で示す。

<中学校>

- 昨年度と同じく全ての教科区分で平均正答率が全国平均を下回っている。
- 昨年度との比較では、すべての教科区分において、全国平均との差が広がっている。
- 平成19年度と比較しても、全ての教科区分において全国との差が広がっている。

■ 本県と全国の平均正答率の差（中学校）

	国語A	国語B	数学A	数学B
平成19年度	-0.5	-1.0	-1.1	-1.8
平成20年度	0.0	-0.9	-2.0	-0.9
平成21年度	-0.3	0.3	-2.0	-1.3
平成22年度	0.0	2.7	-1.7	0.4
平成24年度	-0.6	0.4	-2.0	-2.2
平成25年度	-1.0	-0.9	-1.7	-1.7
平成26年度	-1.0	-1.4	-1.8	-2.0



※ 平成22・24年度は、全国調査が抽出調査であるため、全国の「平均正答率の95%信頼区間の中間値」との差で示す。

4 教育事務所・政令市の状況

県内を6つの教育事務所と政令市（福岡市・北九州市）の7つの地区に分けて分析した。

- 7つの地区間の平均正答率には差がみられ、最大最小の差をみると、小学校では算数Bで最大9.4ポイント、中学校では数学Bで最大14.2ポイントの差がある。
- 最大・最小の差をみると、小学校国語以外は、主としてA問題（「知識」に関する問題）よりも、B問題（主として「活用」に関する問題）の方が、差が大きい。
- 小学校に比べ、中学校の方が差が大きく、小学校では算数よりも国語の方が、中学校では国語よりも数学の方が差が大きい。
- 標準偏差により7地区間の平均正答率のばらつきをみると、小学校、中学校とも国語Bを除いてばらつきが大きくなっている。また、平成25年度との比較においては小学校国語A、中学校数学で1ポイント以上の差があり、ばらつきが拡大している。
- 平成19年度との比較では7つの地区間の最大最小の差は、小学校国語B、算数A、中学校国語Bを除いて拡大している。

■ 教育事務所・政令市別の平均正答率の最大最小の差

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
福岡	75.3	57.3	79.8	59.8	80.2	51.8	69.4	61.7
北九州	69.9	52.6	77.2	54.6	78.1	47.1	63.3	53.3
北筑後	71.3	54.5	77.4	56.2	77.1	48.7	65.3	56.9
南筑後	75.7	56.1	79.9	58.8	77.1	46.5	64.5	55.1
筑豊	67.3	49.5	73.6	50.4	72.7	41.7	56.5	47.5
京築	70.4	53.6	77.6	57.0	77.0	46.1	61.7	52.4
政令市	71.1	53.7	77.0	57.6	78.8	50.6	65.7	58.6
最大・最小の差 (H26)	▼8.4	○7.8	○6.3	▼9.4	▼7.5	○10.1	▼12.9	▼14.2
H25	6.1	9.2	4.9	8.8	7.0	10.6	9.5	10.1
H24	4.6	8.0	4.2	7.8	7.8	10.1	10.1	12.4
H22	4.6	8.1	5.9	7.8	8.8	11.6	14.1	14.4
H21	4.5	8.4	5.4	8.6	7.5	10.6	11.2	11.5
H20	6.5	7.2	6.0	7.4	7.5	10.9	12.8	11.4
H19	5.3	10.8	7.0	9.0	7.1	13.6	12.8	12.7

○:H19より差が縮小 ▼:H19より差が拡大

■ 教育事務所・政令市間の状況

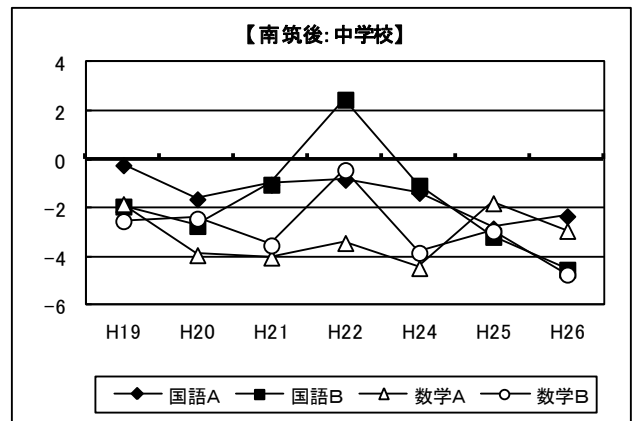
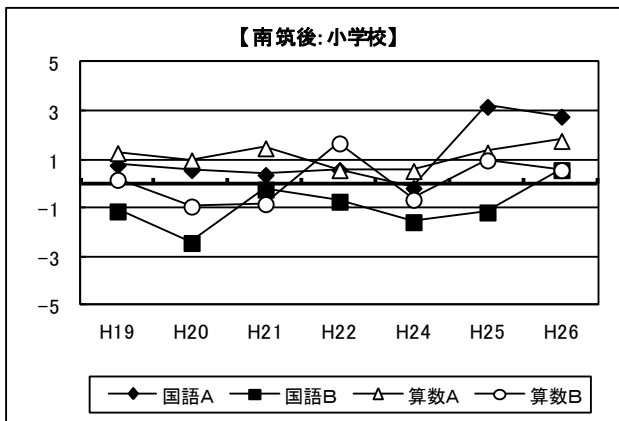
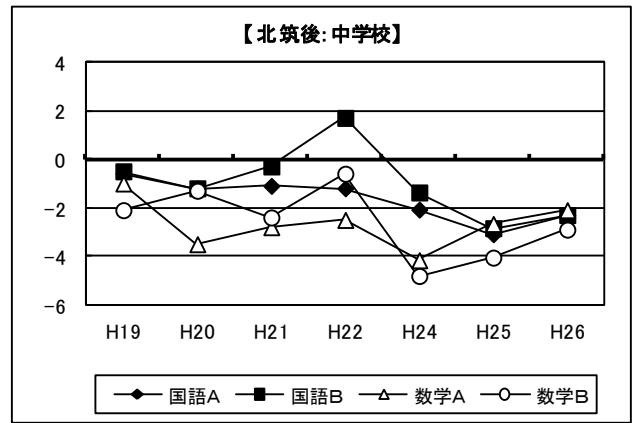
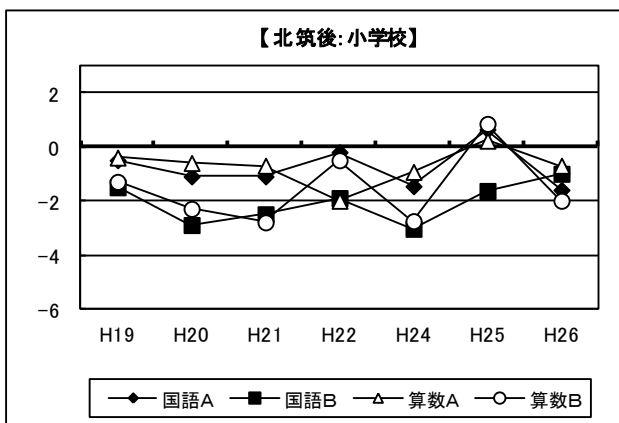
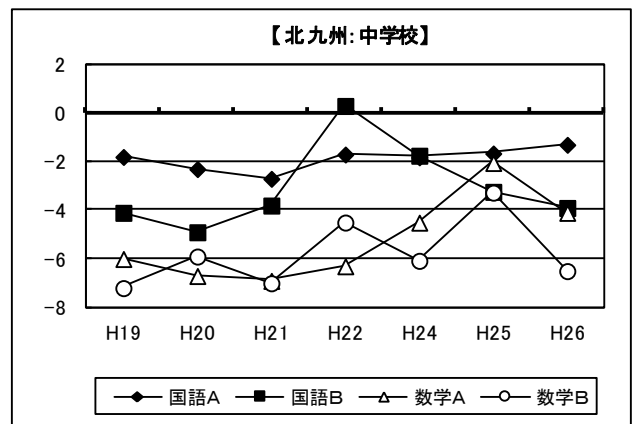
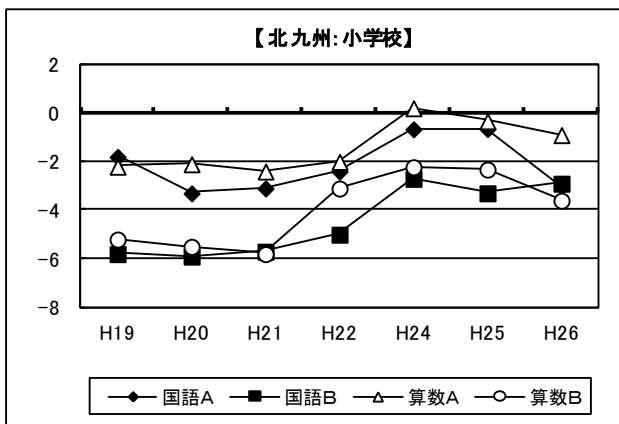
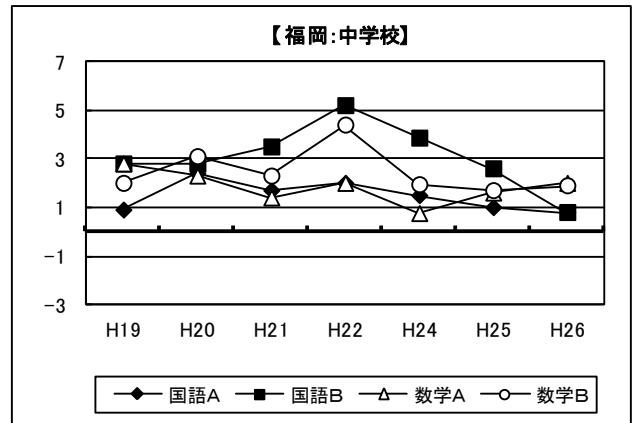
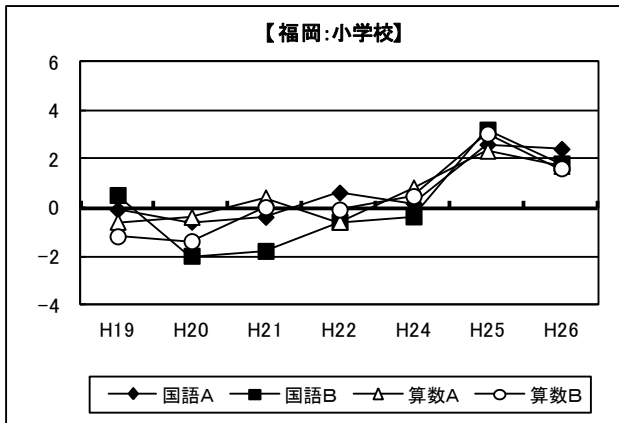
【平成19年度～26年度の教育事務所・政令市間の標準偏差】

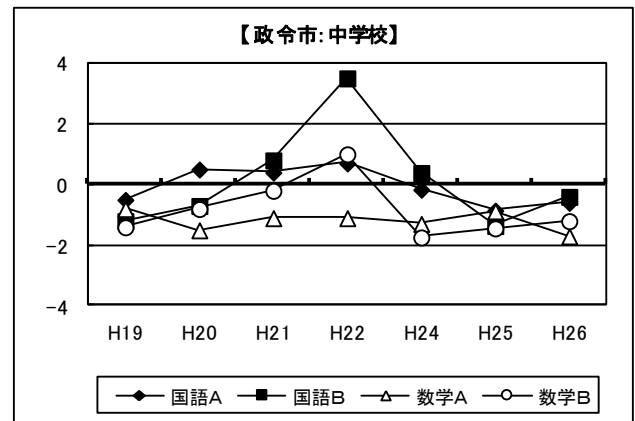
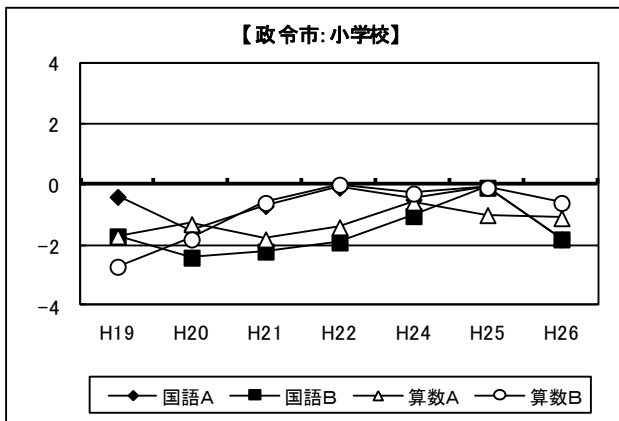
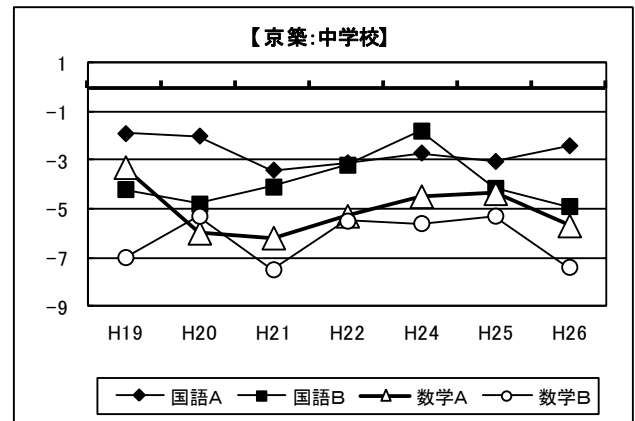
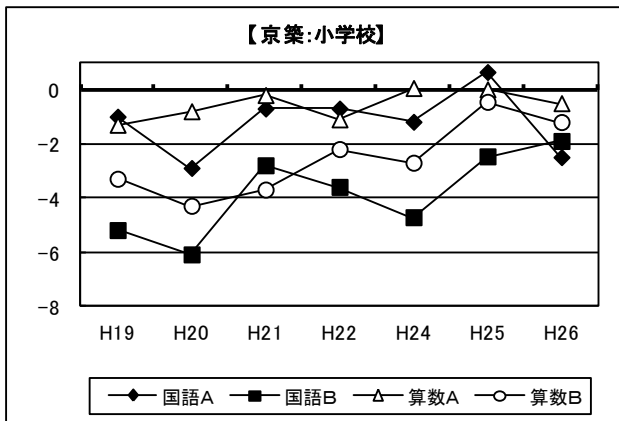
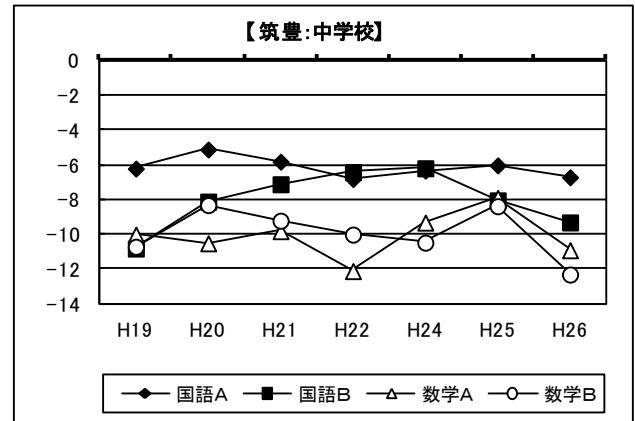
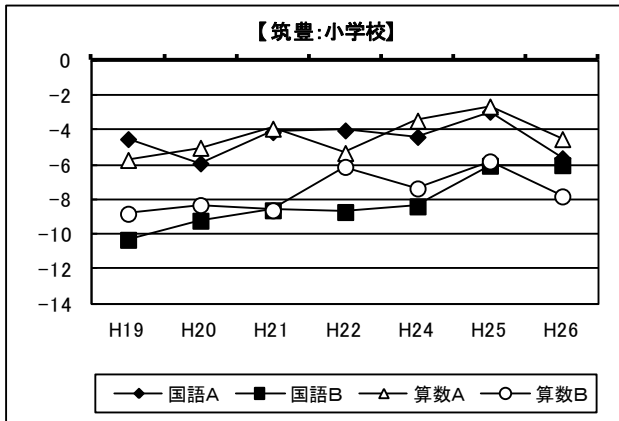
	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
平成26年度	3.0	2.5	2.1	3.1	2.3	3.3	4.0	4.6
平成25年度	2.0	2.8	1.6	2.8	2.2	3.3	2.9	3.1
平成24年度	2.9	2.6	3.5	3.1	5.6	2.0	7.9	3.8
平成22年度	1.6	2.7	1.7	2.4	2.6	3.7	4.1	4.4
平成21年度	1.5	2.6	1.7	2.9	2.3	3.3	3.5	3.9
平成20年度	2.0	2.5	1.7	2.5	2.2	3.3	3.8	3.5
平成19年度	1.6	3.5	2.0	2.8	2.1	3.9	3.8	4.0

※ 分析の方法

教科区分ごとに、各教育事務所・政令市の平均正答率のばらつきを「標準偏差」を用いて分析している。標準偏差は、ばらつきが小さくなるほど値が小さくなり、ばらつきがまったくない場合は、値が「0」となる。

■ 地区別平均正答率の全国平均との差の経年変化

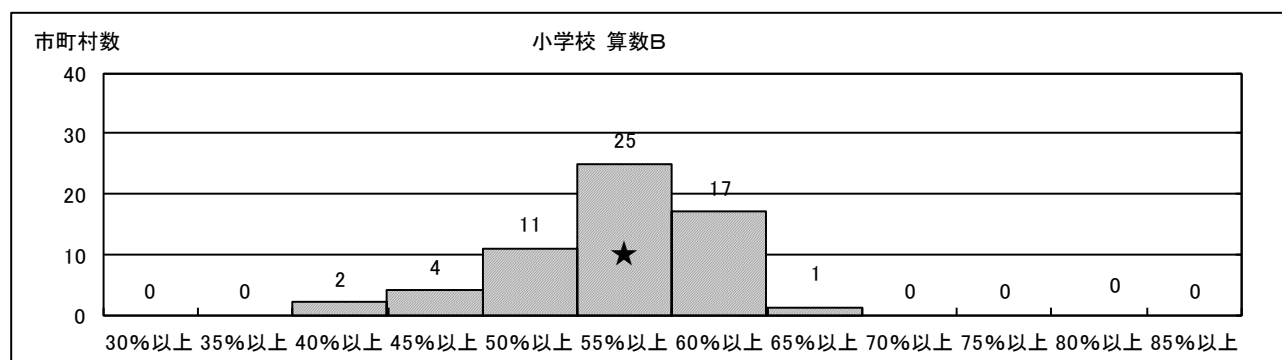
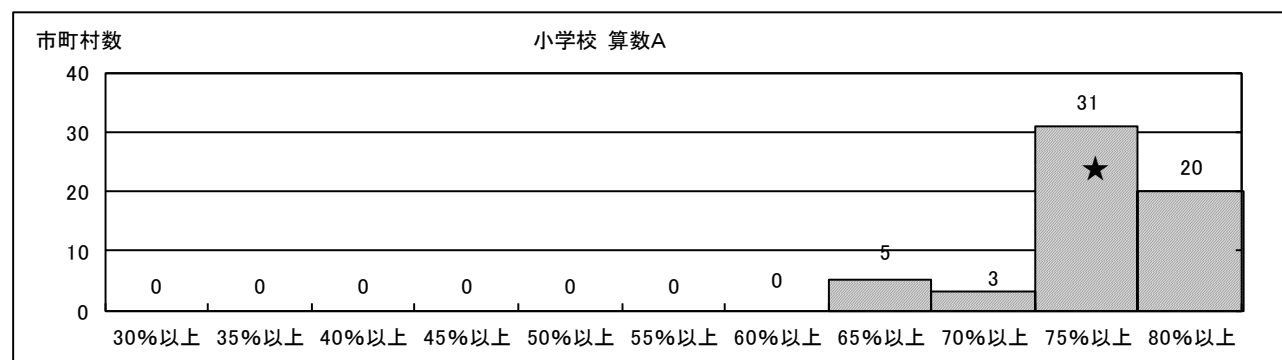
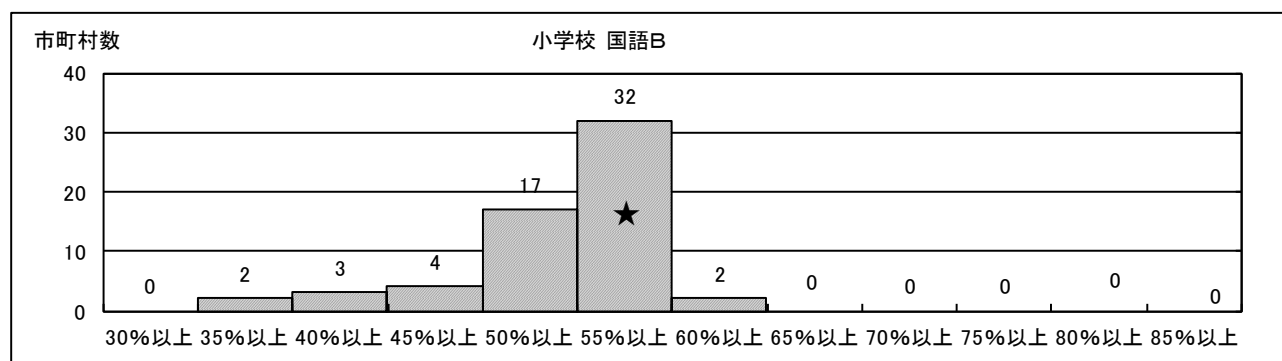
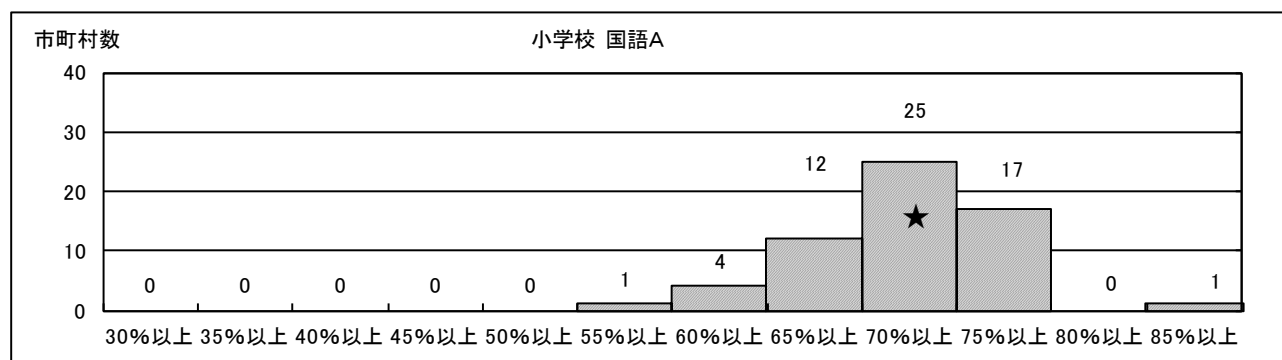




5 県全体の平均正答率度数分布状況

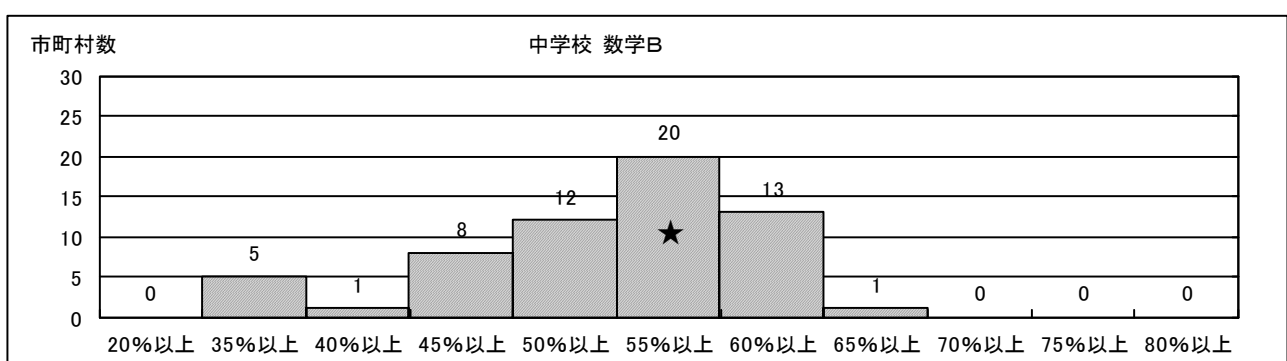
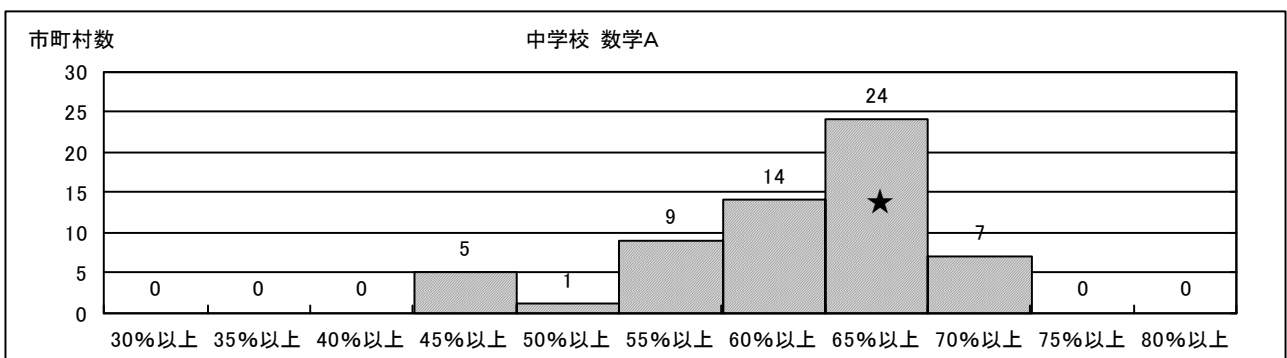
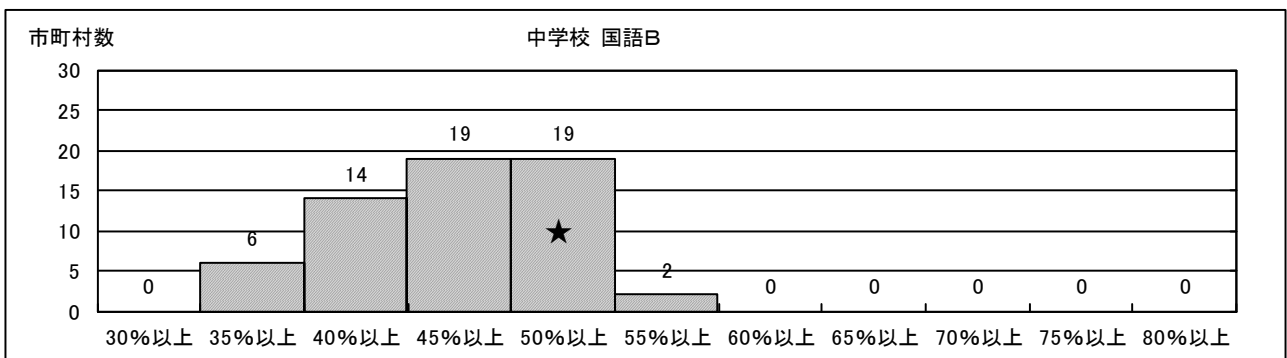
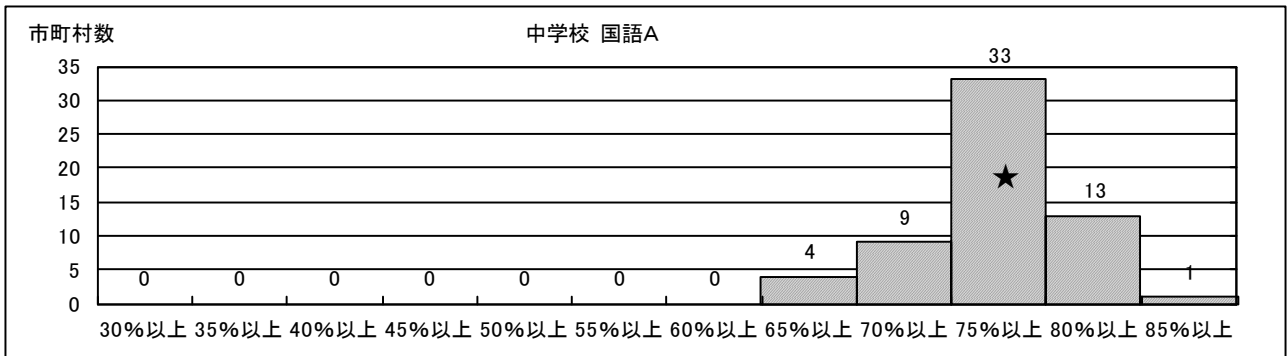
■ 小学校

- 全国の平均正答率のある階級（★印）を含め、それ以上の階級に位置する市町村の数は、国語Aでは43、国語Bで34、算数Aで51、算数Bで43であり、国語B以外は全市町村数の約7割以上となっている。
- 全ての教科区分で、全国の平均正答率のある階級（★印）に最も多くの市町村が集まっている。



■ 中学校

- 全国の平均正答率のある階級（★印）を含め、それ以上の階級に位置する市町村の数は、国語Aでは47、国語Bで21、数学Aで31、数学Bで34であり、国語B以外は全市町村数の半数以上となっている。
- 全ての教科区分で、全国の平均正答率のある階級（★印）に最も多くの市町村が集まっている。また、国語Bの39市町村が50%未満に、数学Aの29市町村が65%未満に分布している。



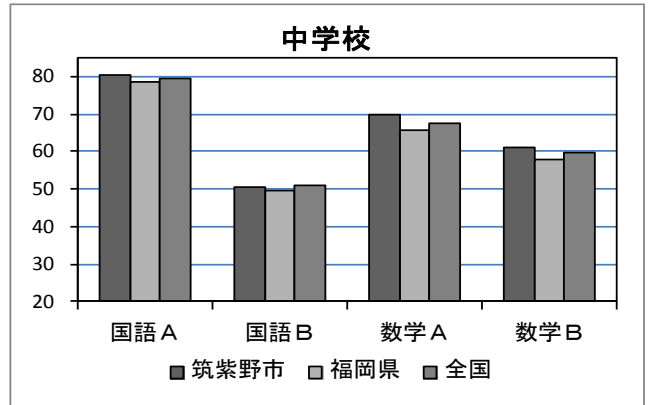
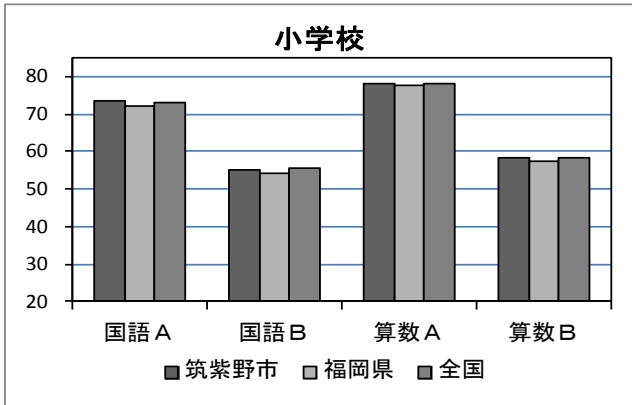
6 市町村別の状況

■ 市町村別の平均正答率の状況

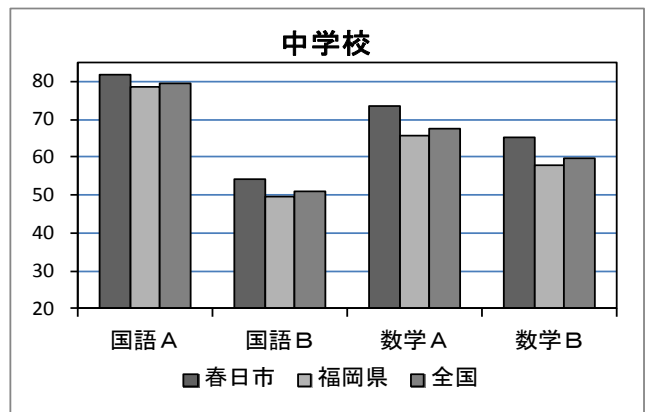
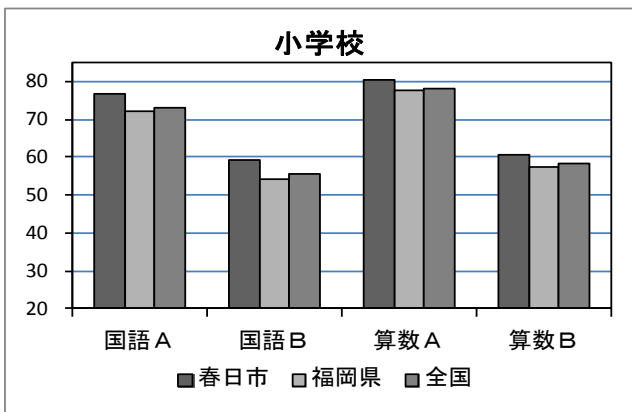
※同意を得た市町村のみ掲載

県教育委員会としては、市町村立学校別結果の公表はしないため、市町村内の学校数が1小学校、1中学校である場合は公表しない。

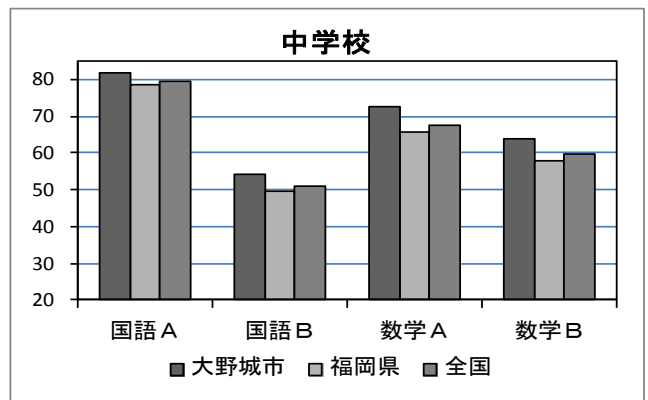
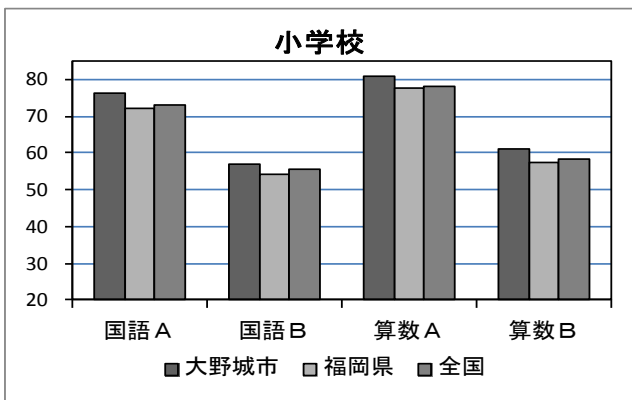
【筑紫野市】



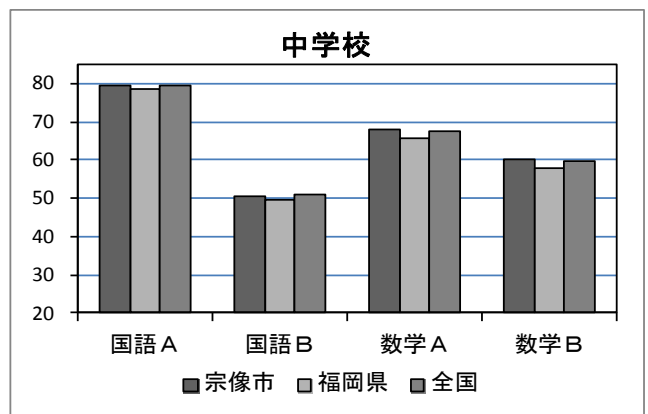
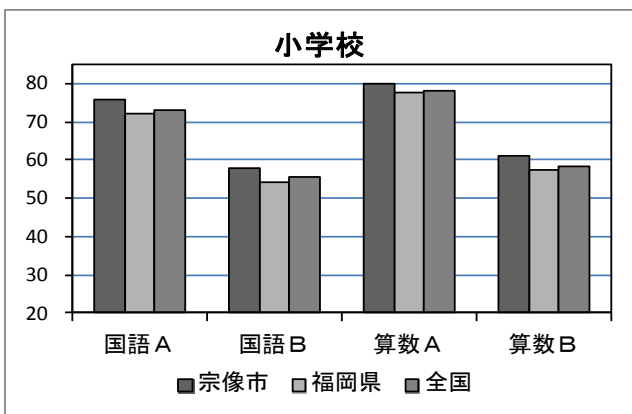
【春日市】



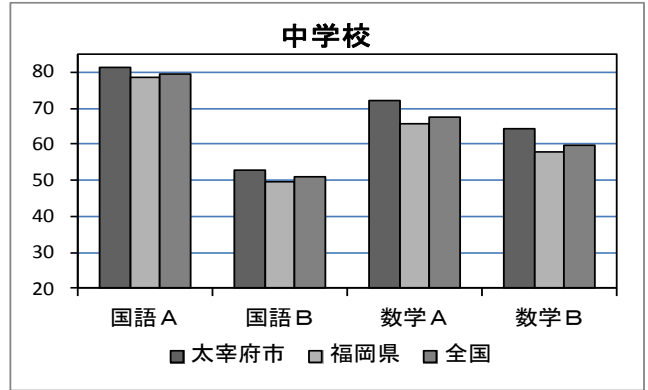
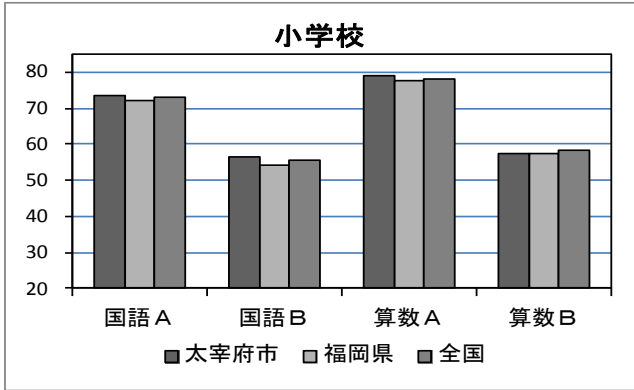
【大野城市】



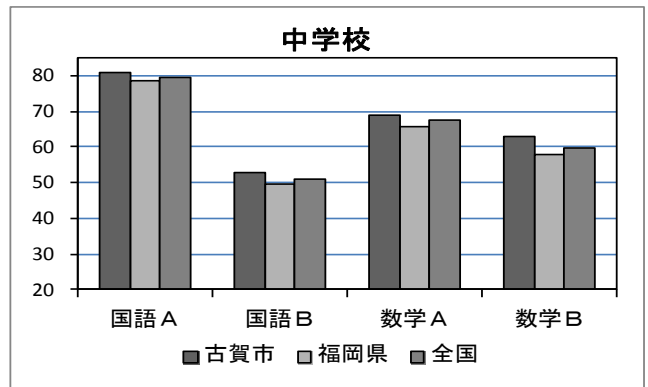
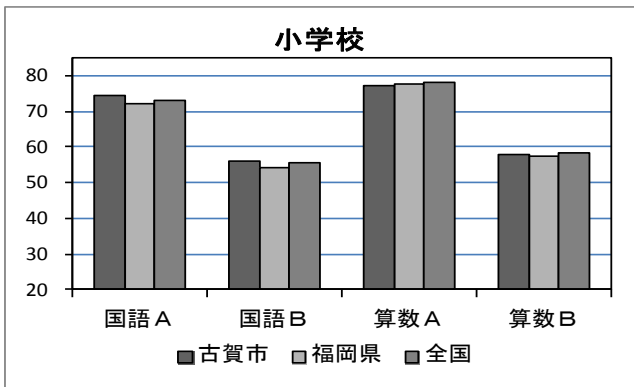
【宗像市】



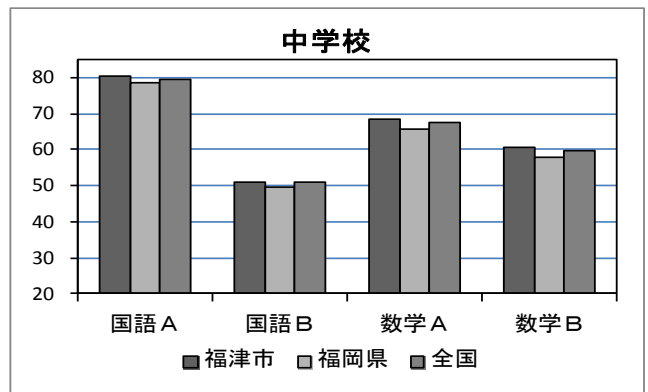
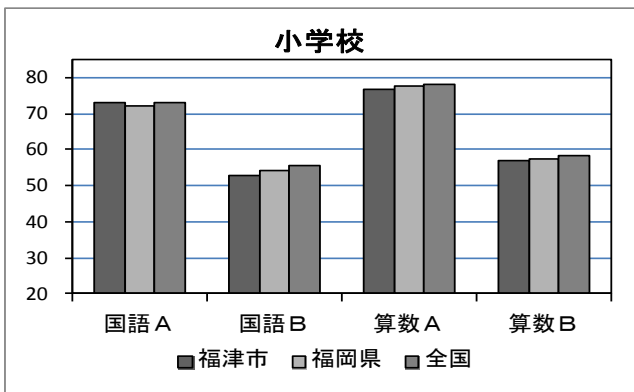
【太宰府市】



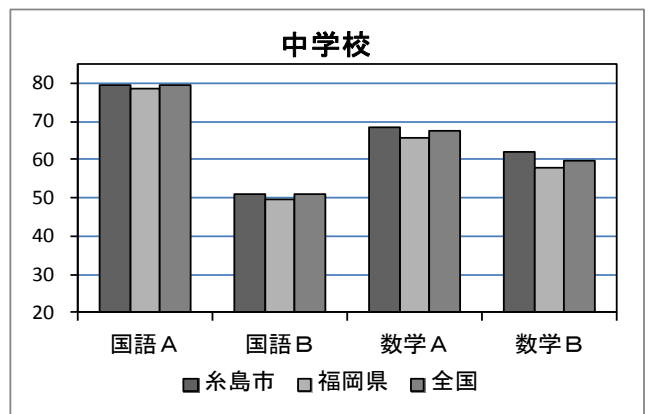
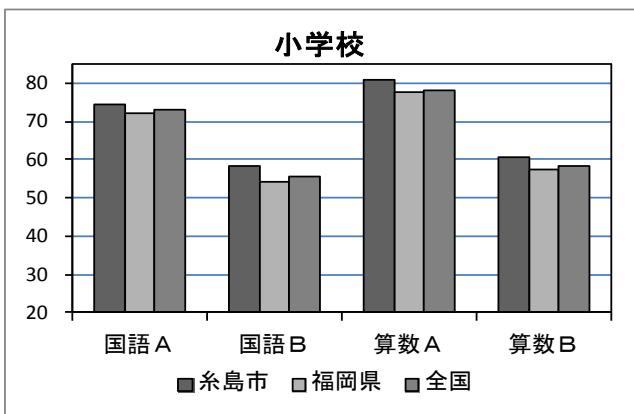
【古賀市】



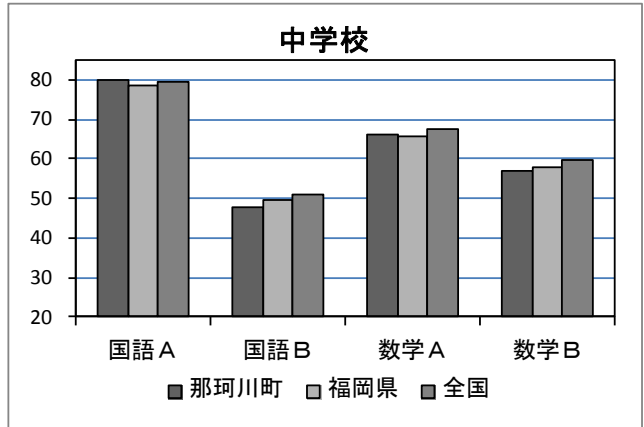
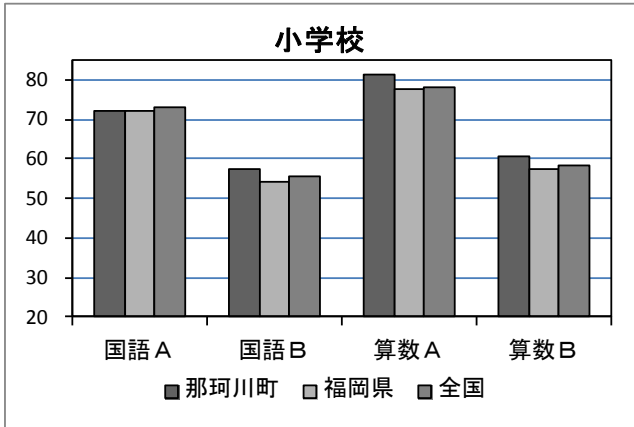
【福津市】



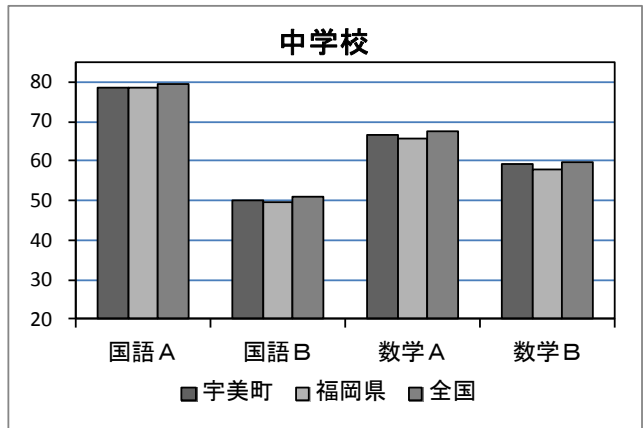
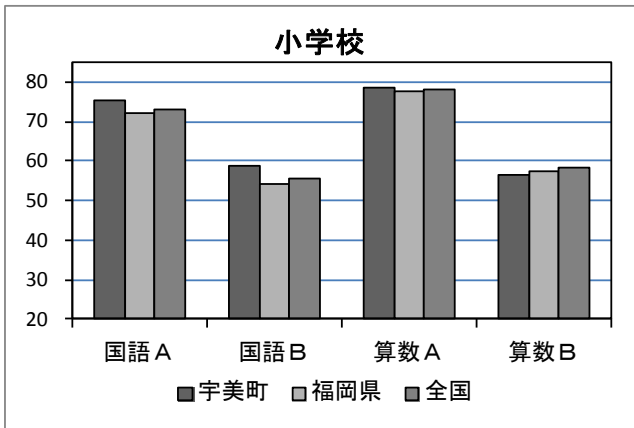
【糸島市】



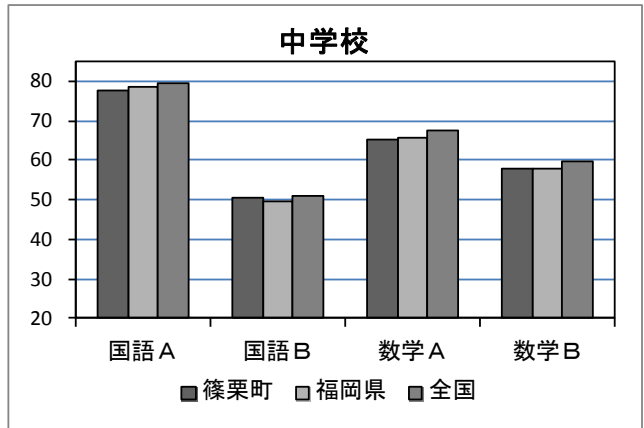
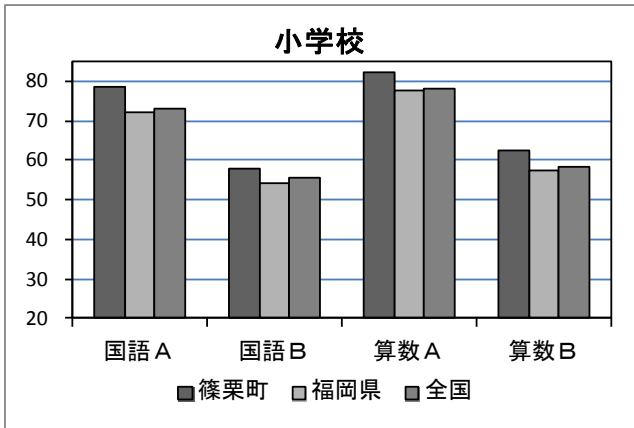
【那珂川町】



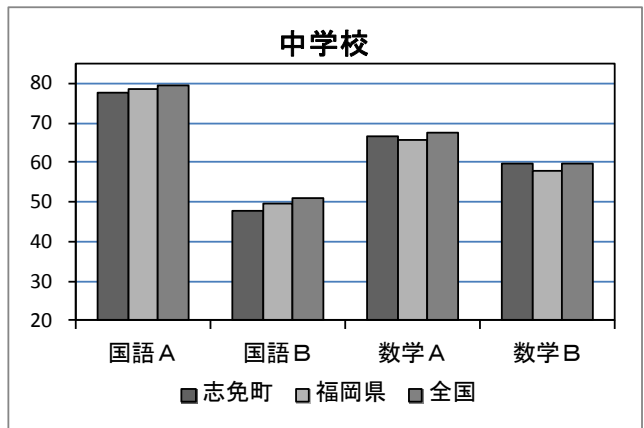
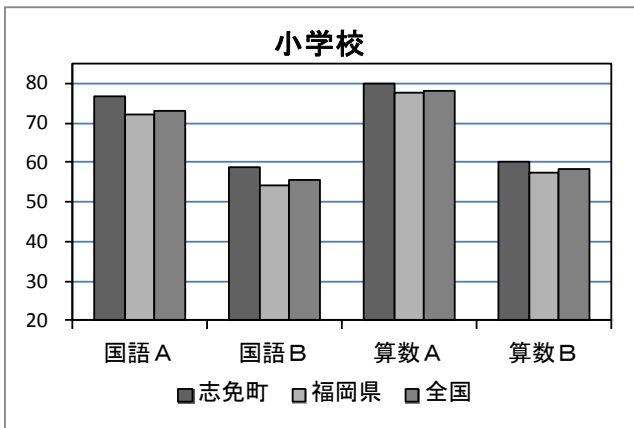
【宇美町】



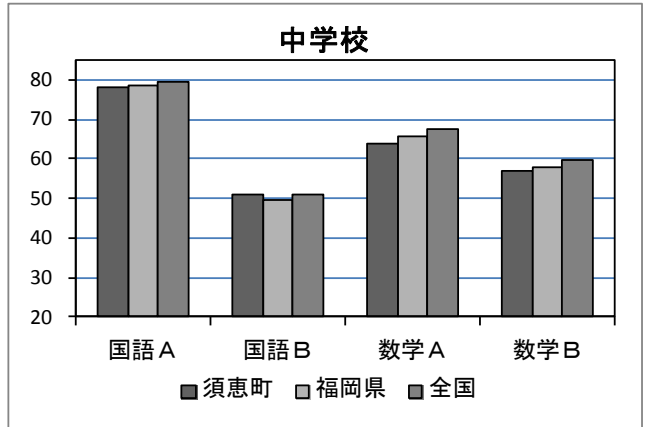
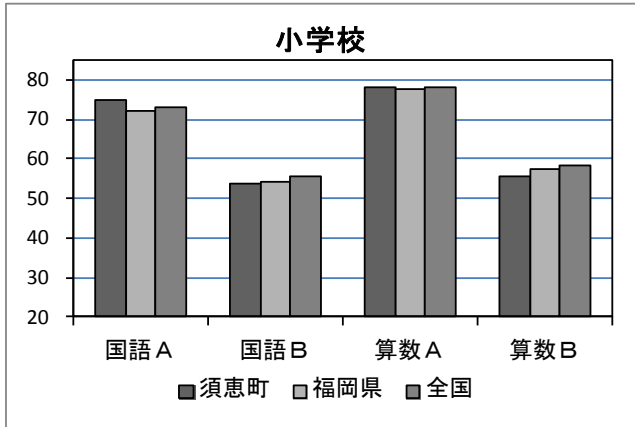
【篠栗町】



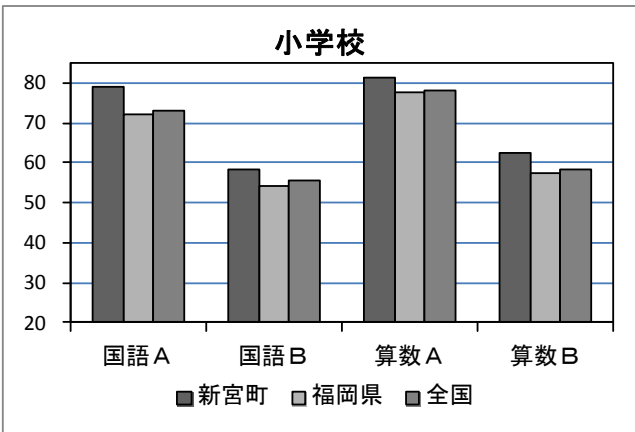
【志免町】



【須恵町】

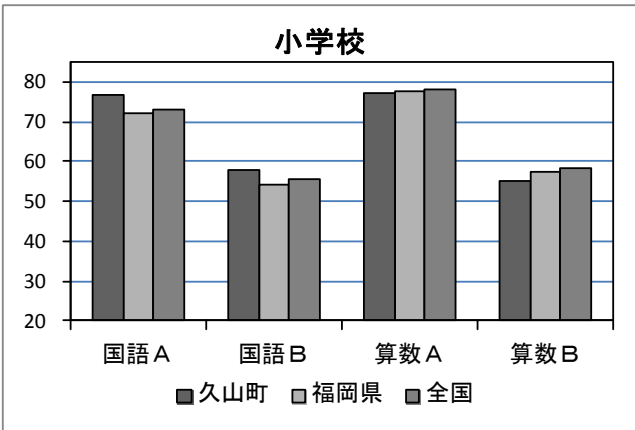


【新宮町】



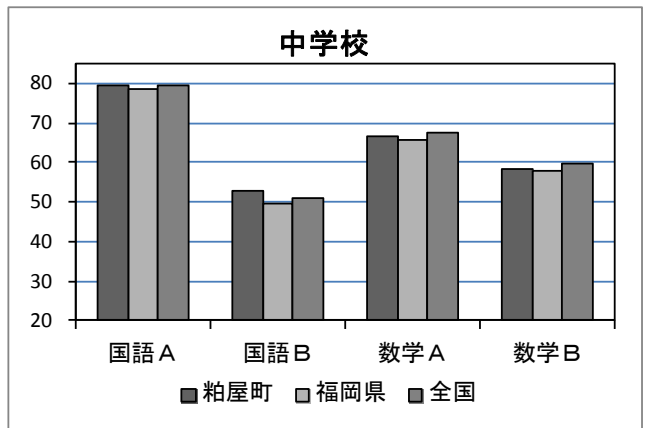
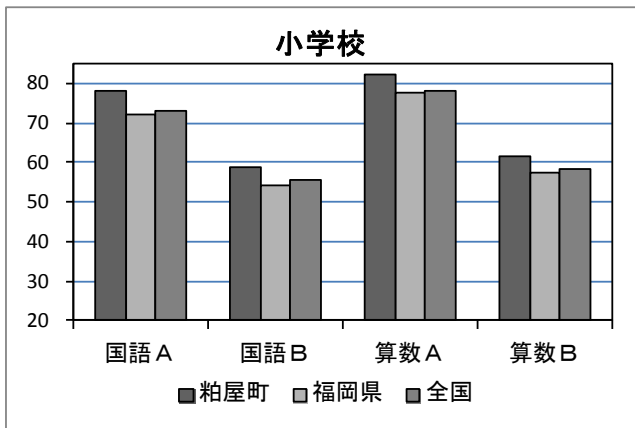
※ 町立中学校が1校のため、公表しない。

【久山町】

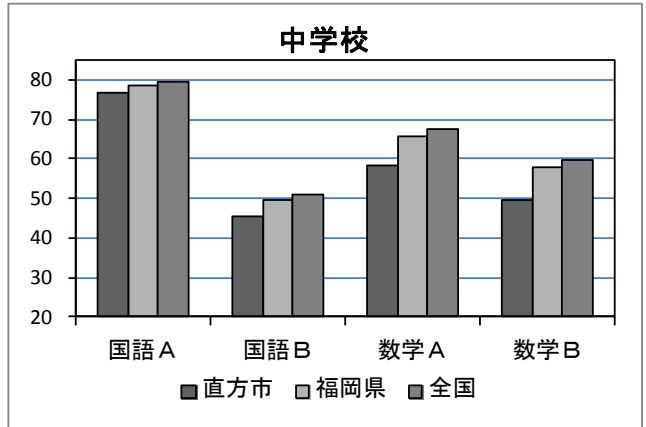
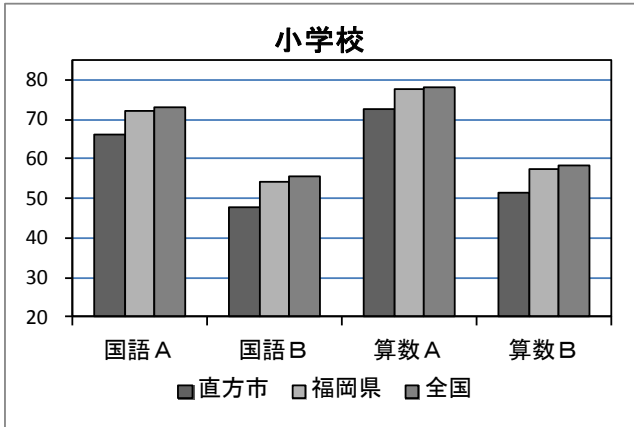


※ 町立中学校が1校のため、公表しない。

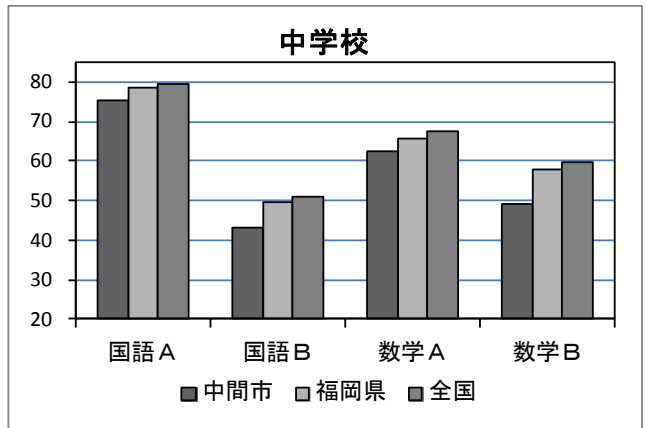
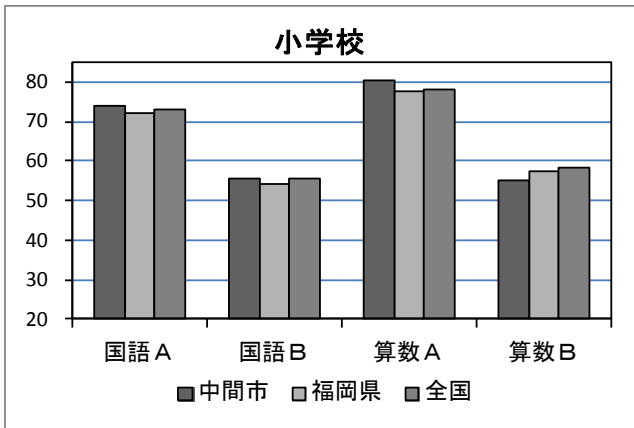
【粕屋町】



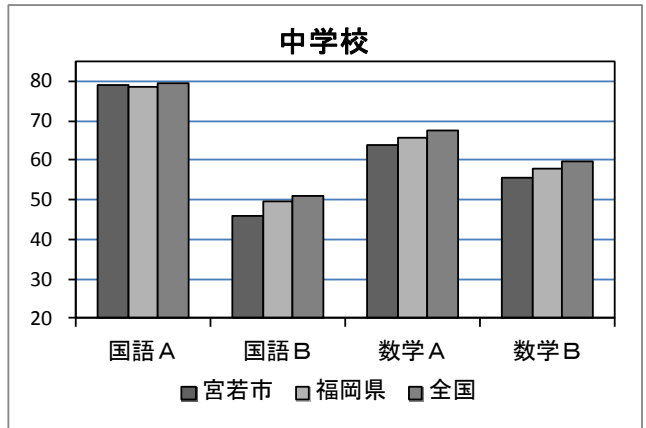
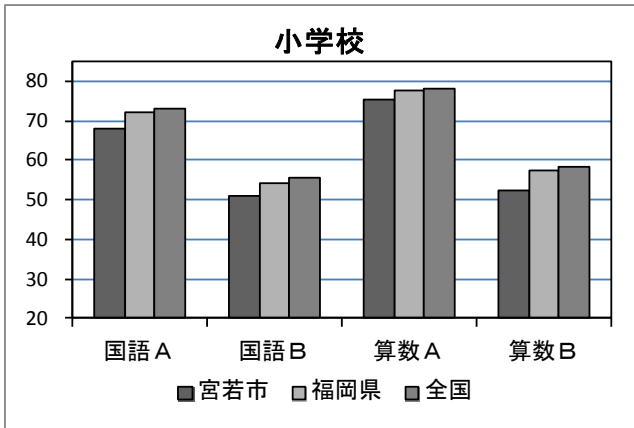
【直方市】



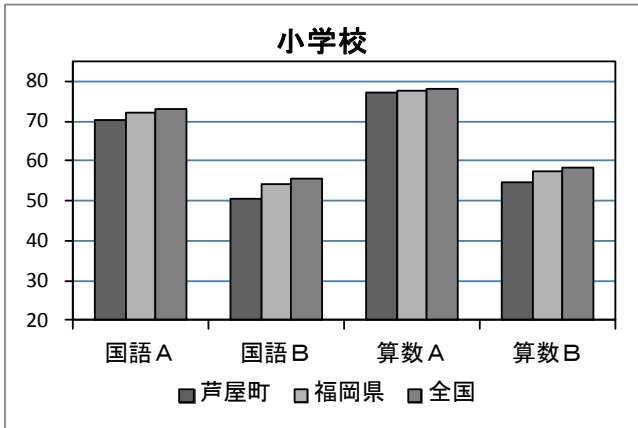
【中間市】



【宮若市】

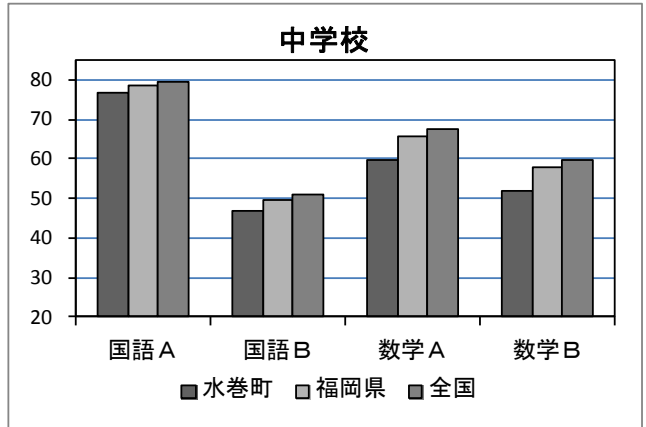
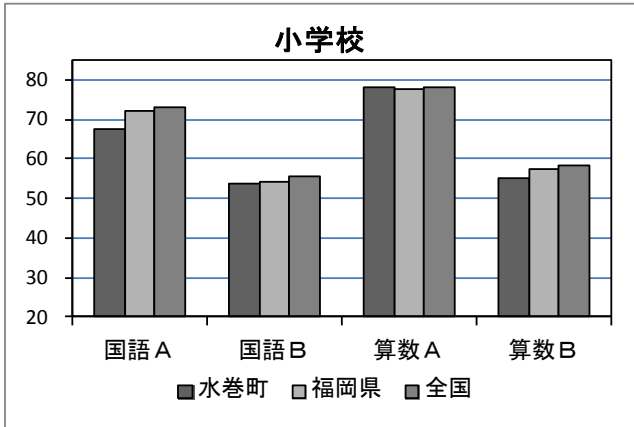


【芦屋町】

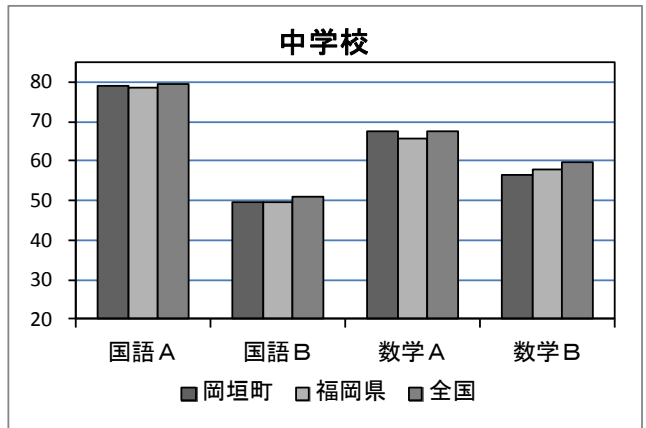
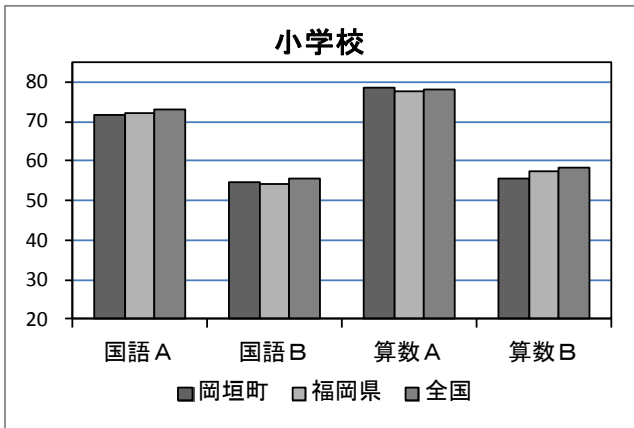


※ 町立中学校が1校のため、公表しない。

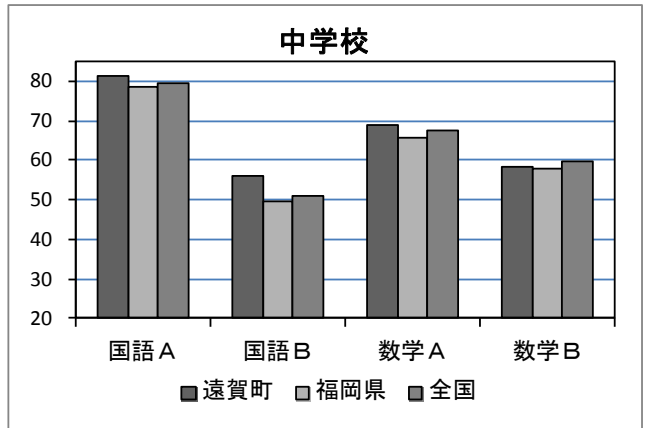
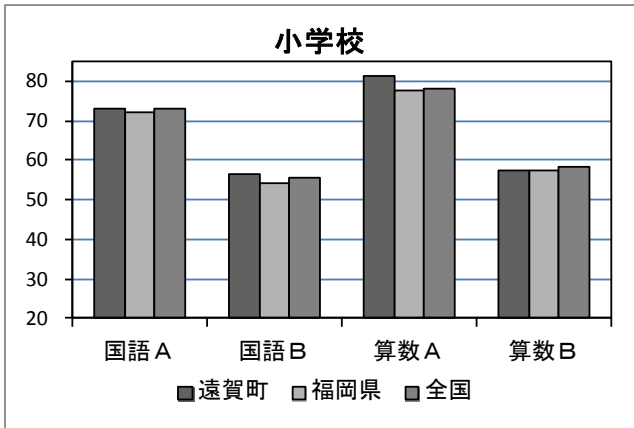
【水巻町】



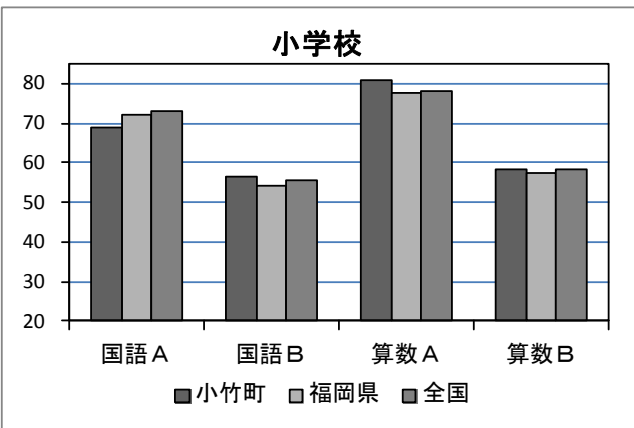
【岡垣町】



【遠賀町】

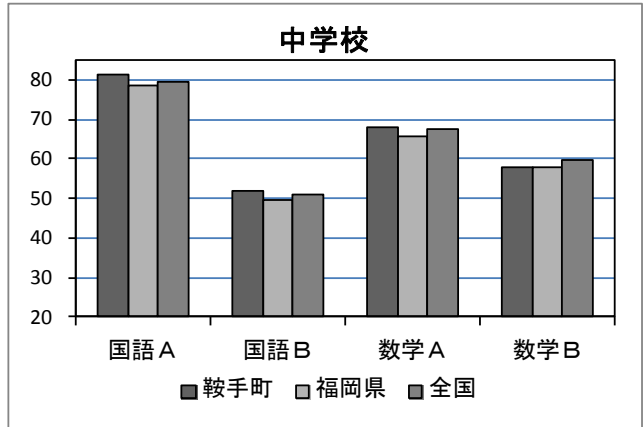
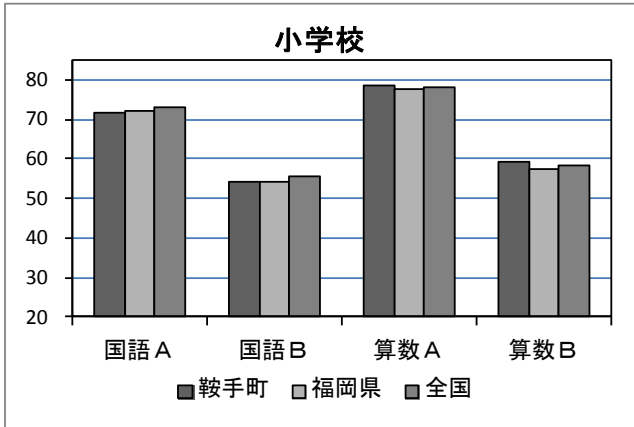


【小竹町】

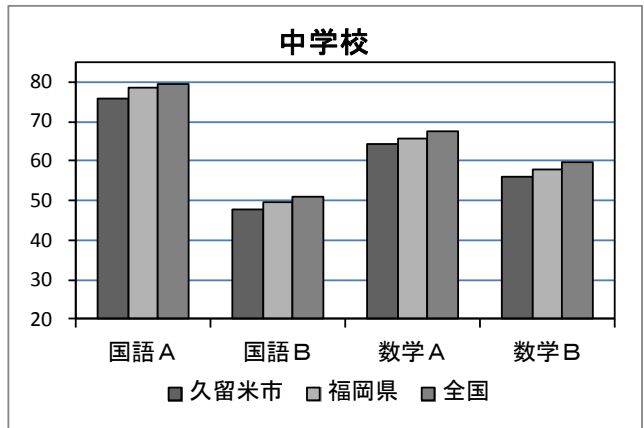
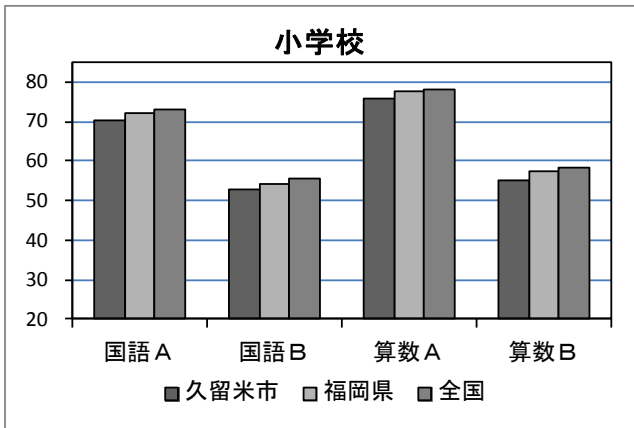


※ 町立中学校が1校のため、公表しない。

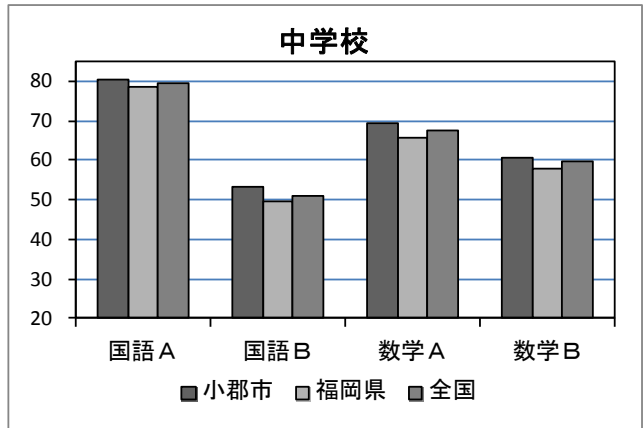
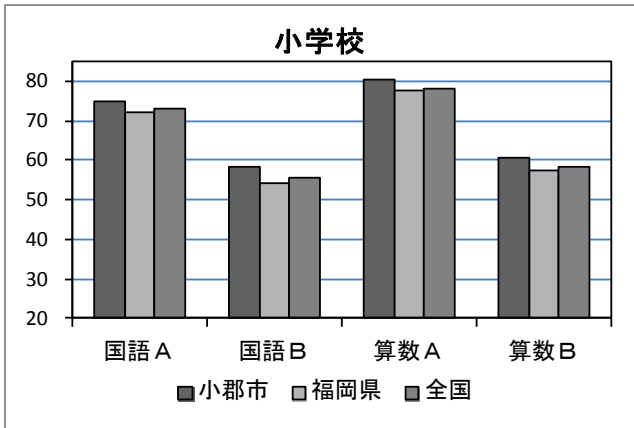
【鞍手町】



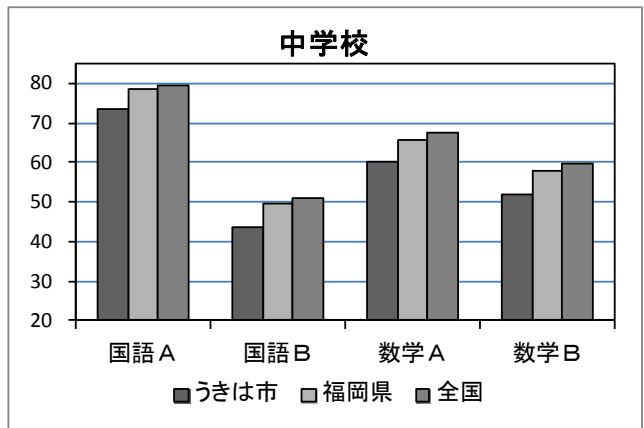
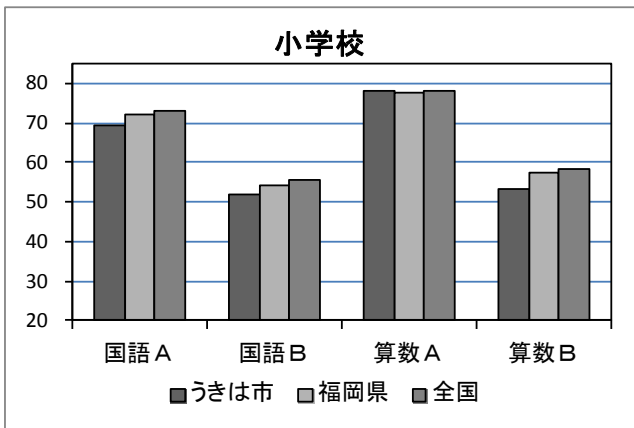
【久留米市】



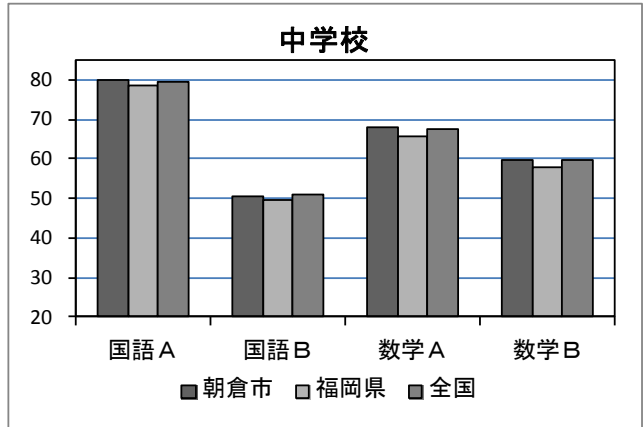
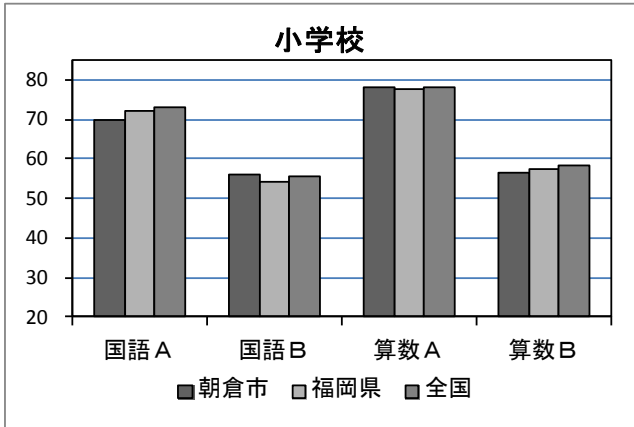
【小郡市】



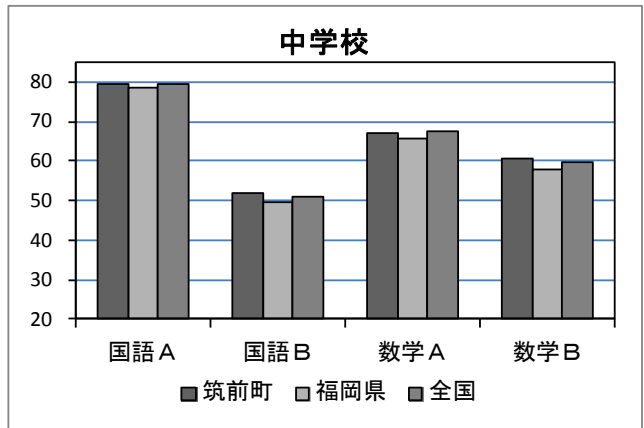
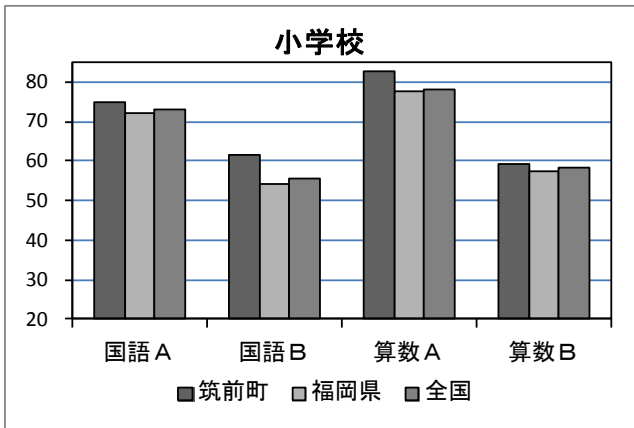
【うきは市】



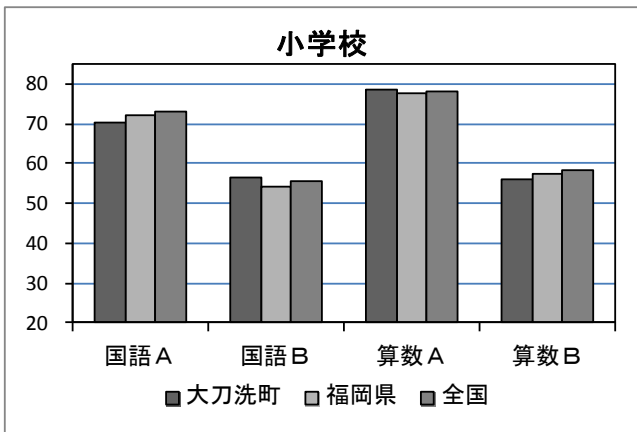
【朝倉市】



【筑前町】

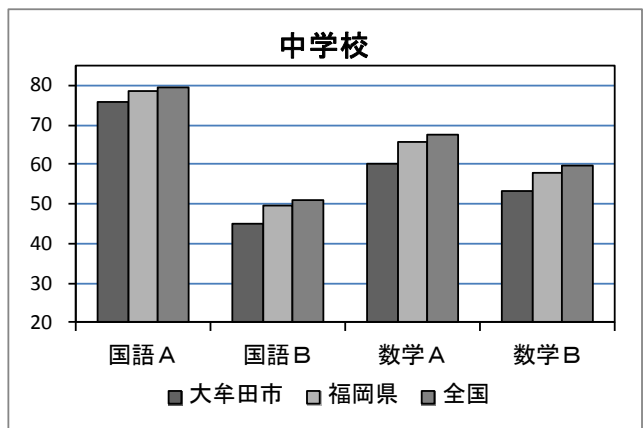
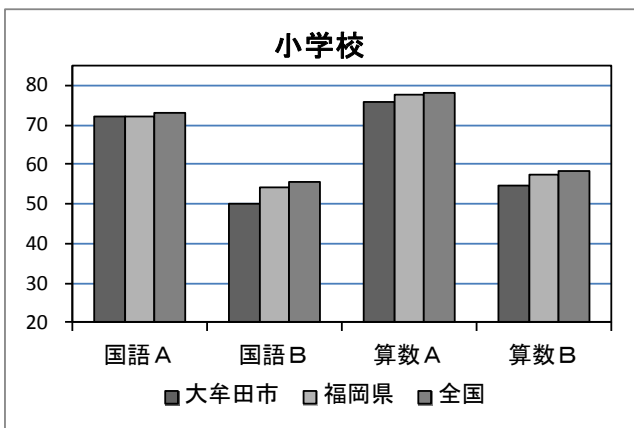


【大刀洗町】

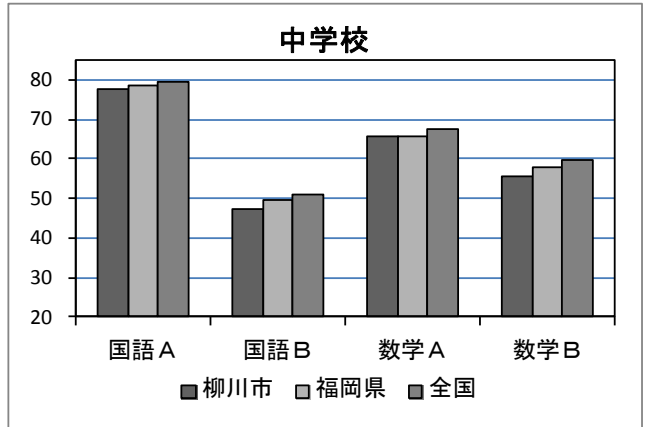
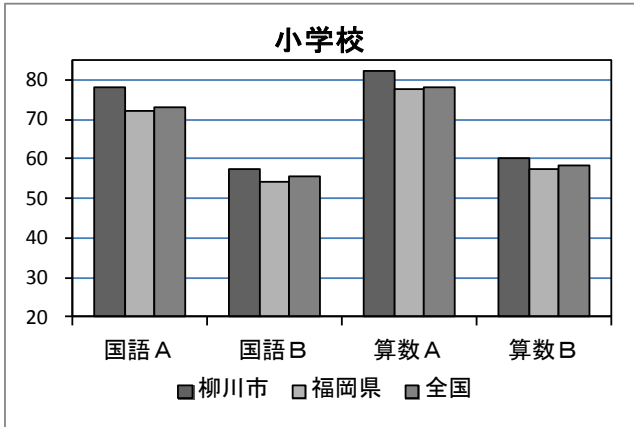


※ 町立中学校が1校のため、公表しない。

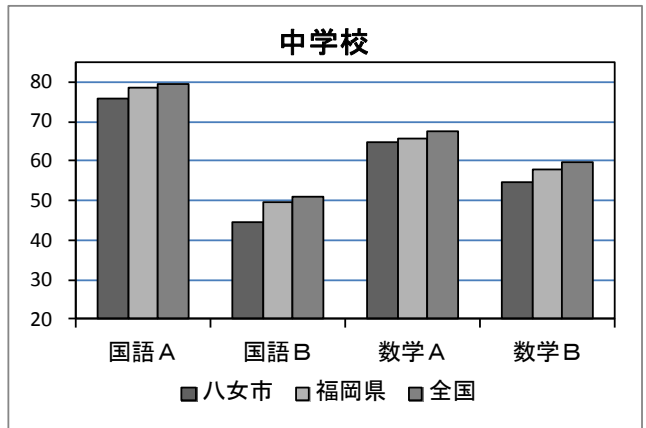
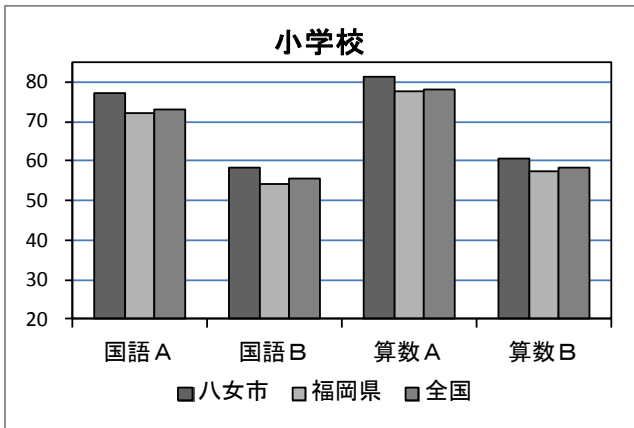
【大牟田市】



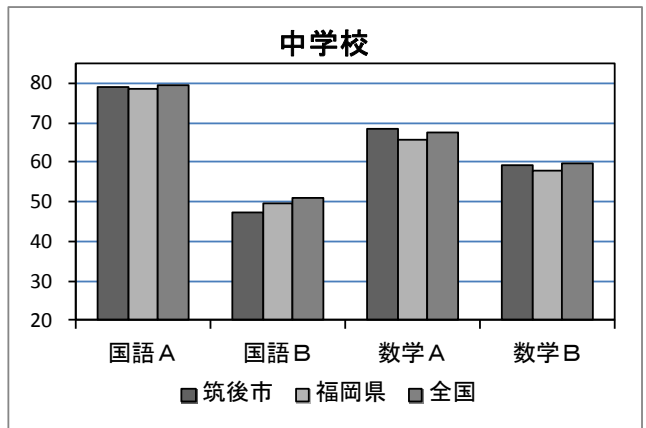
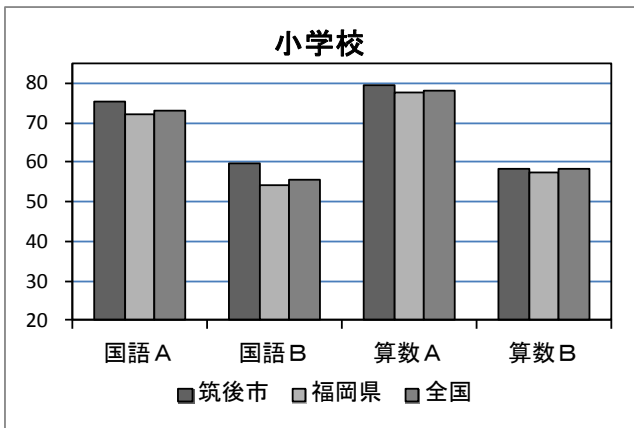
【柳川市】



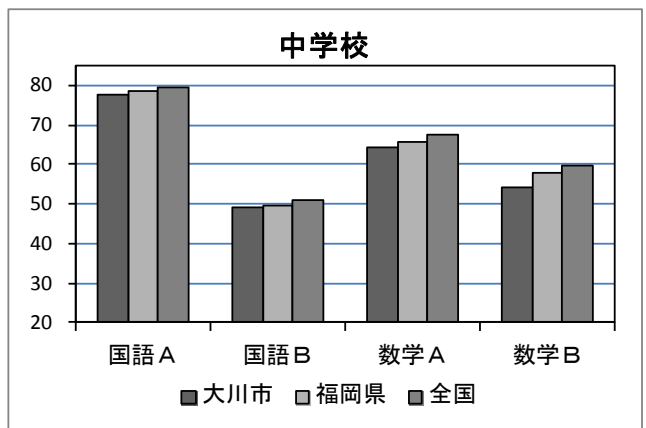
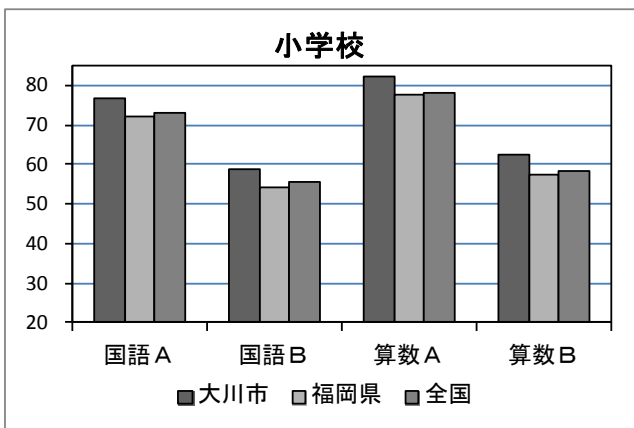
【八女市】



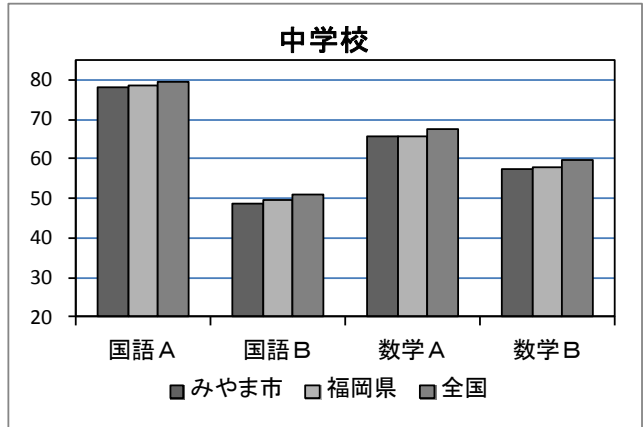
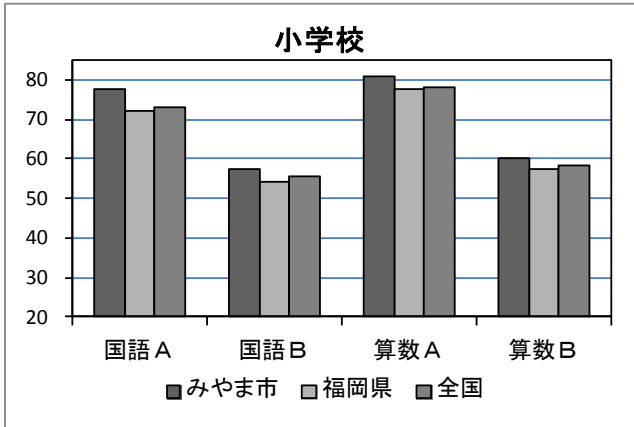
【筑後市】



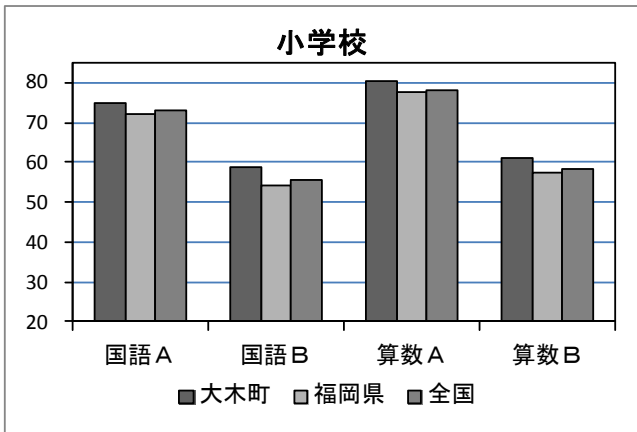
【大川市】



【みやま市】

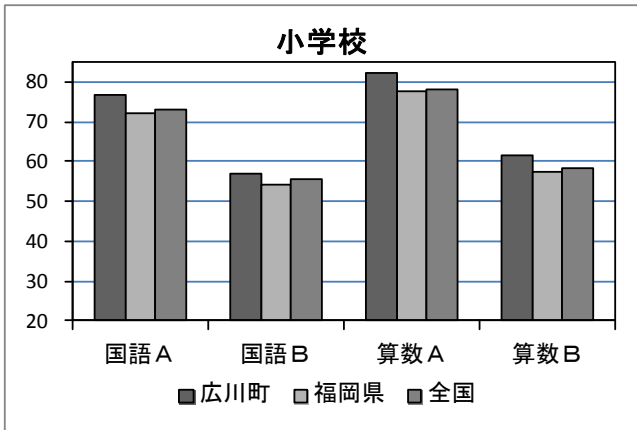


【大木町】



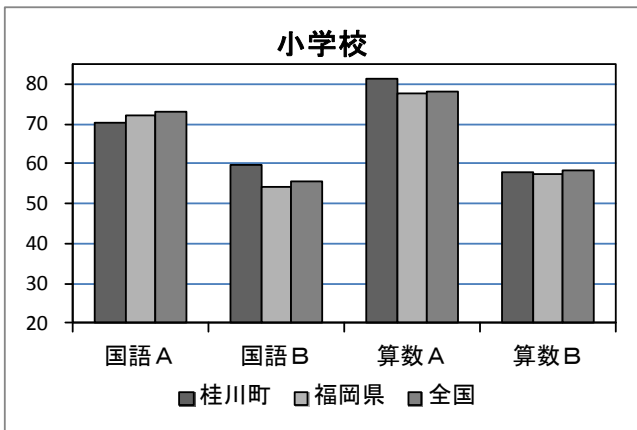
※ 町立中学校が 1 校のため、公表しない。

【広川町】



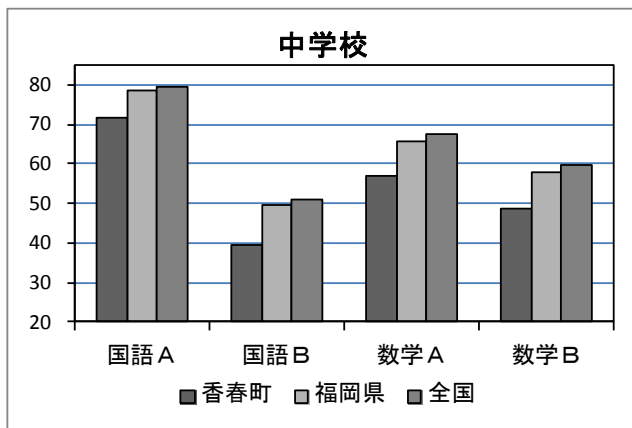
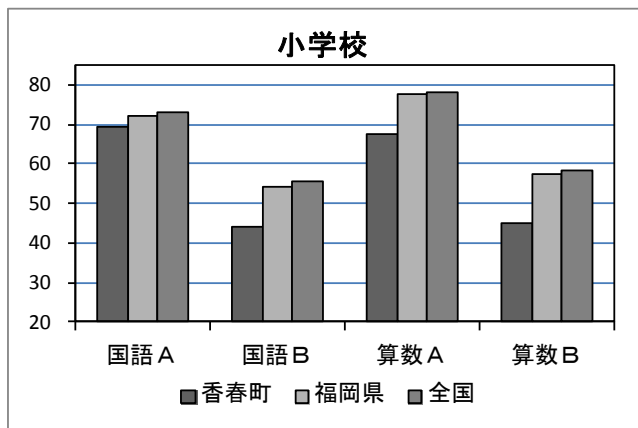
※ 町立中学校が 1 校のため、公表しない。

【桂川町】

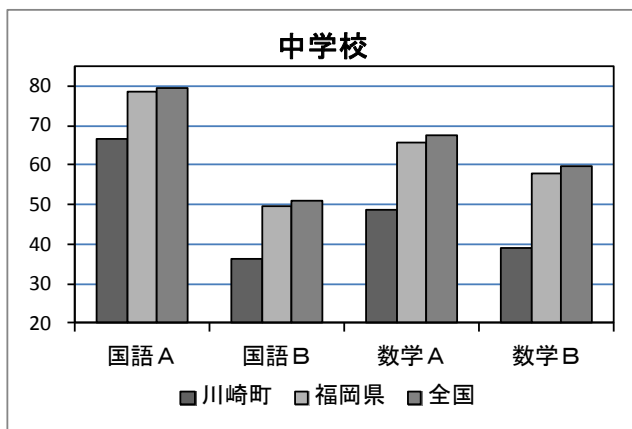
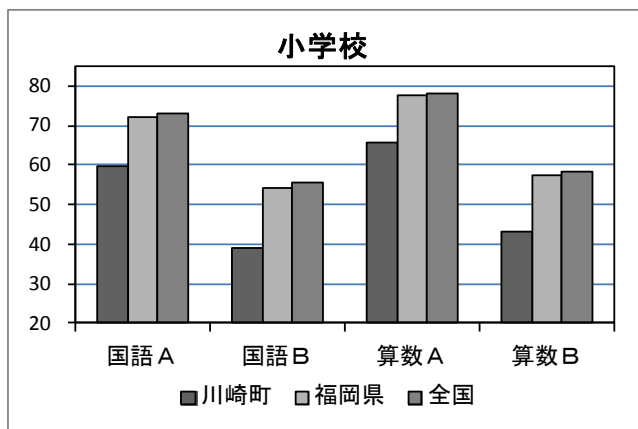


※ 町立中学校が 1 校のため、公表しない。

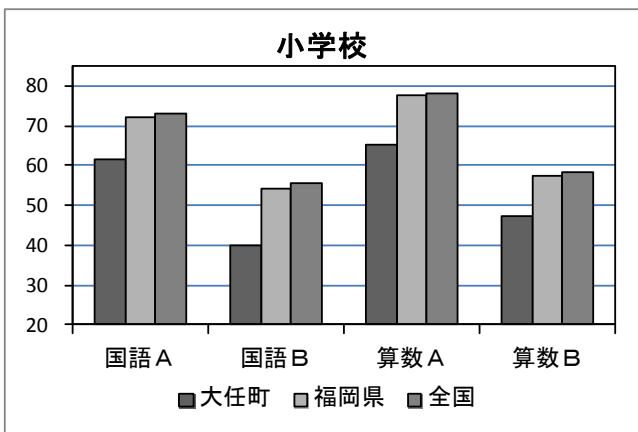
【香春町】



【川崎町】

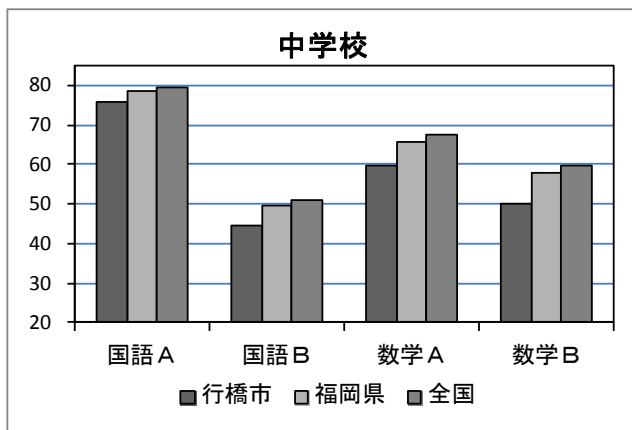
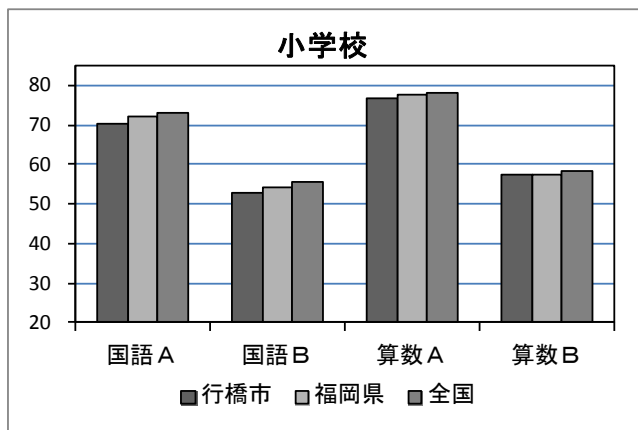


【大任町】

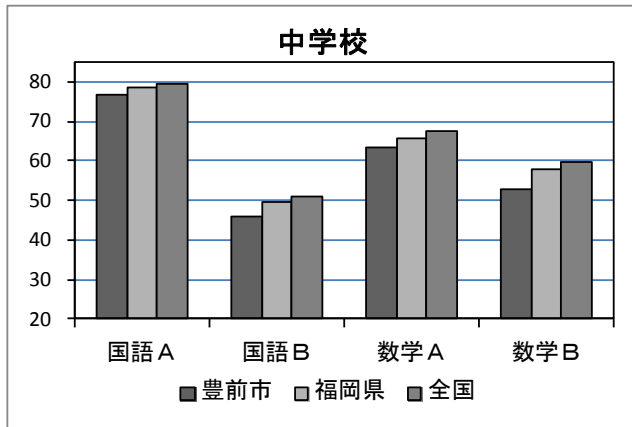
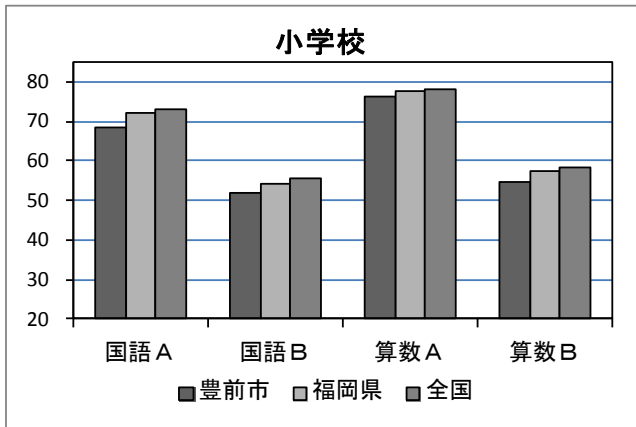


※ 町立中学校が1校のため、公表しない。

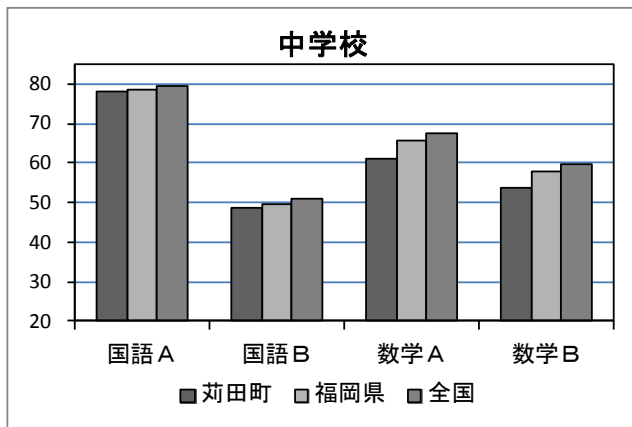
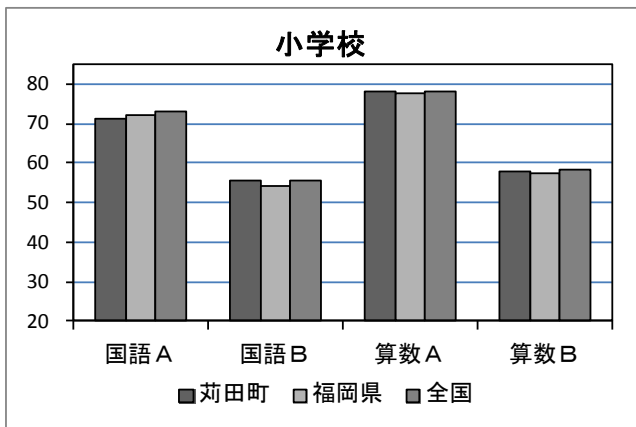
【行橋市】



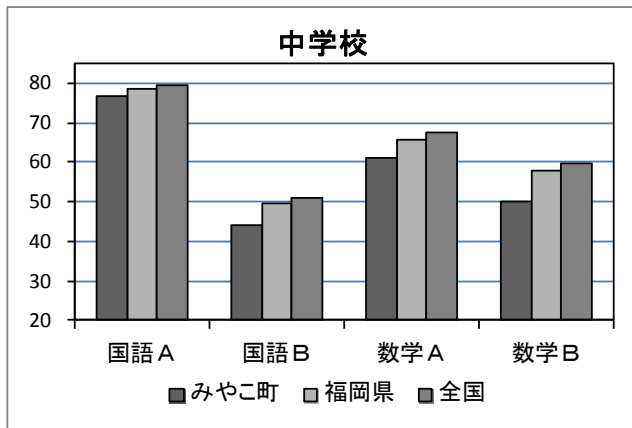
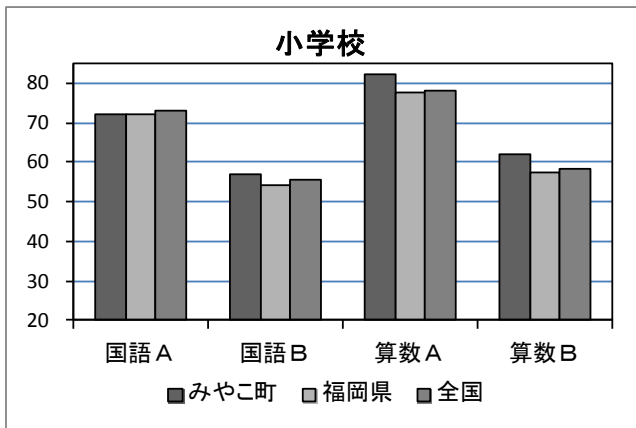
【豊前市】



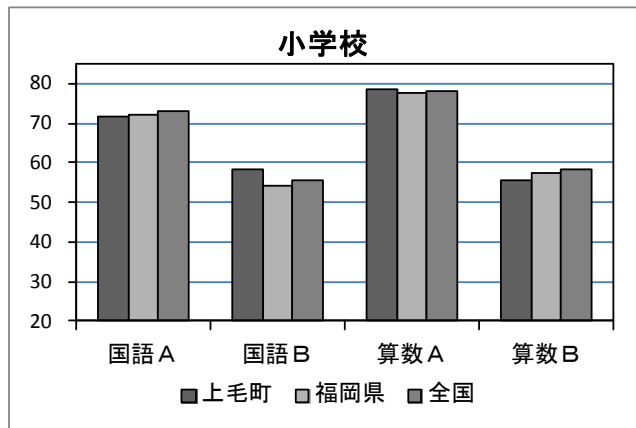
【苅田町】



【みやこ町】

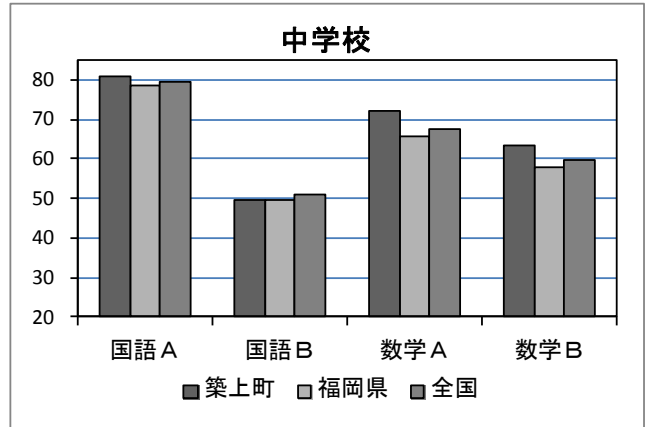
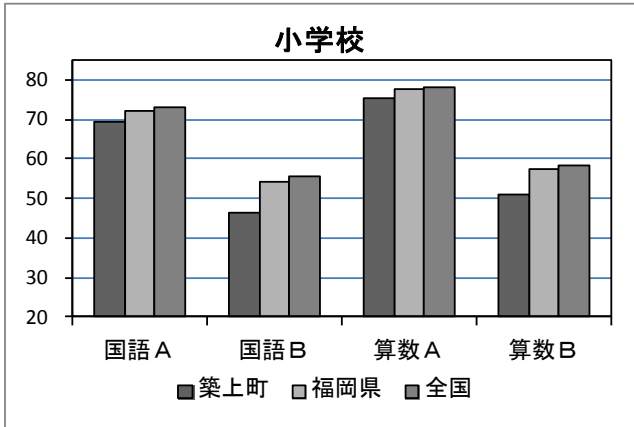


【上毛町】

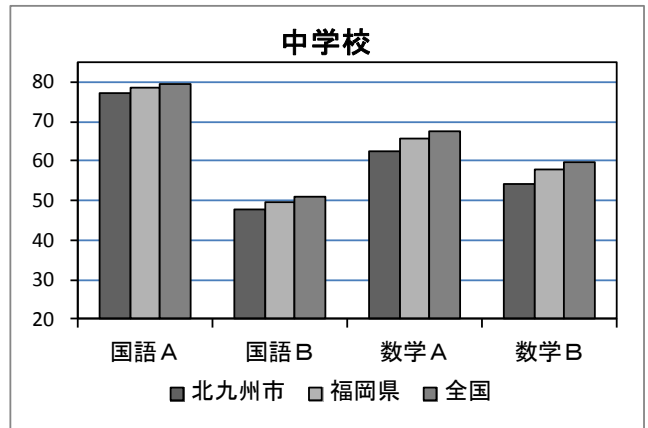
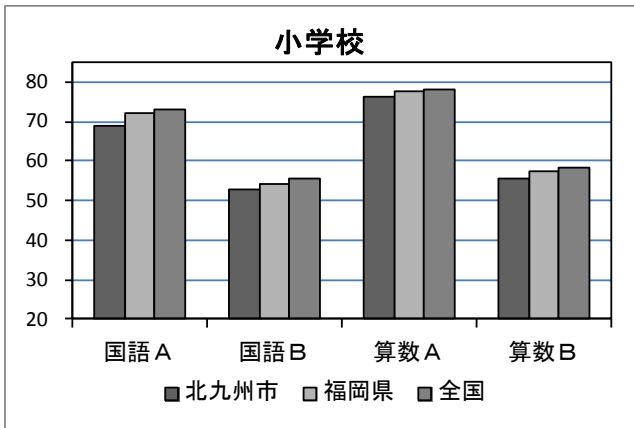


※ 町立中学校が1校のため、公表しない。

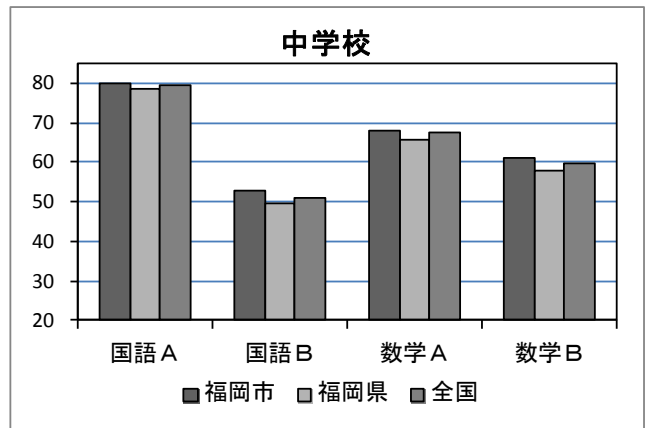
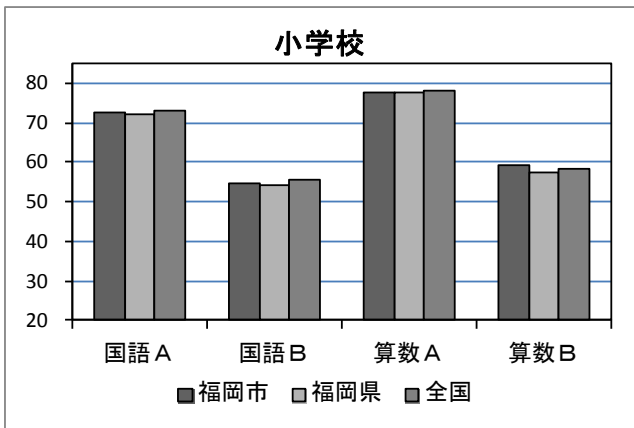
【築上町】



【北九州市】



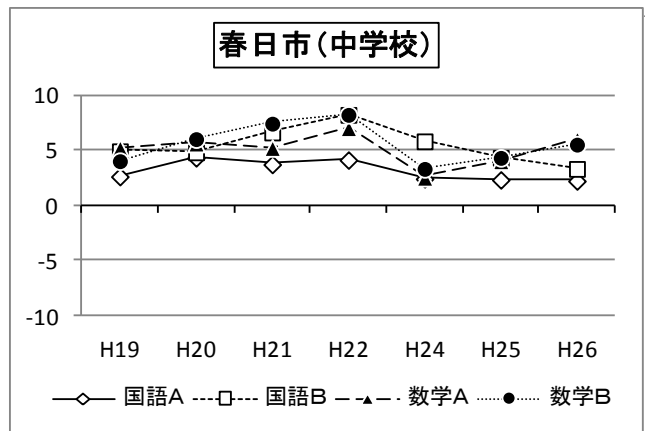
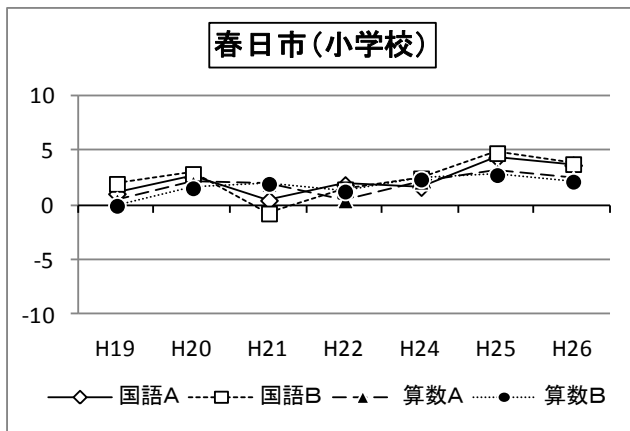
【福岡市】



■ 取組の成果が見られる市町村の状況（全国との差の経年変化）

※ 顕著な改善が見られる又は良好な結果を維持している市町村のうち、同意を得られた市町村のみ表示

【春日市】



【成果に繋がった取組の内容】

1 学力向上のための人的支援配置

個に応じたきめ細やかな指導のために、市独自の人的支援配置を行う。

① 小学校6年生30人以下学級（平成20年度から実施）

小学校6年生30人以下学級のために、13名の人的な配置を実施した。

② サポートティーチャー及び特別支援教育支援員配置

個に応じた支援や担任支援の充実のために、サポートティーチャー7名、特別支援教育支援員24名の配置を実施した。

2 学力向上につなぐ行動連携を推進・強化するコミュニティ・スクール(CS)の取組

学力向上のために、中学校区ごとにCSを指定し、学校、家庭、地域が連携した取組を推進する。

① 学力向上・生活習慣形成をめざした小中及び家庭との連携

「中学校区で共通する『家庭学習の手引き』『親子でチェック表』『〇〇校区式15年子育てサポート』『計画的な家庭学習をサポートするサクセスノート』等を導入した。

② 学力向上に特化した学校と地域の連携

「地域の方（中学生も含む）による小学生のための公民館学習」「大学生による中学生の個別学習支援や授業サポート」等の導入を行った。

3 学校への日常的・定期的・直接的な支援

① 小学校における「問題データベース」導入

家庭学習や習熟度別学習等の質の向上をめざし、小学校全学年が活用する「問題データベース（国語・算数）」を市で契約している。

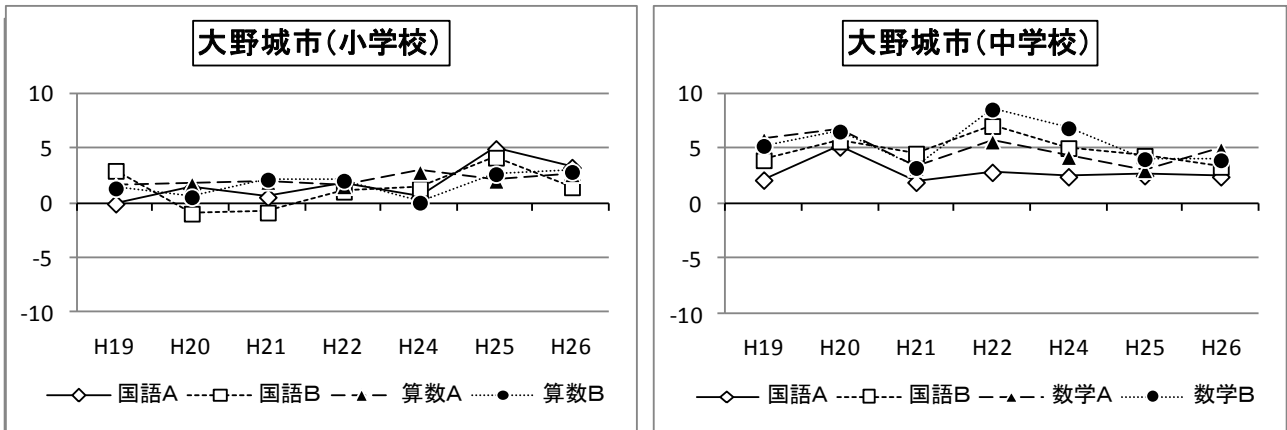
② 教育長「学校出前トーク」

学習指導論や学力観（児童生徒観）等に関する協議をする教育長「学校出前トーク」を毎年度、夏季休業中に実施している。

③ 指導主事・指導主幹による各学校の学力向上コーディネーターへのヒアリング

学力に関して各校が抱える課題や悩み、実態、具体的な取組の進捗状況、市への要望等を詳しく聞き、各校の実情に即した支援や助言を行うとともに、市の施策につなげている。

【大野城市】



【成果に繋がった取組の内容】

1 市統一の学力調査の実施

児童生徒の詳細な学力実態を把握・分析し、個別の指導や各学校での学力向上プランの検証に活用するため、平成20年度から市内すべての児童生徒に学力調査を実施している。実施教科は、小学校は国語、算数の2教科、中学校では国語、社会、数学、理科、英語の5教科。特に、平成25年度からは、それまで回答の方式がほとんど「選択式」だった学力調査を「記述式」を含む学力調査に変更し、思考力や表現力を測定・分析しやすくした。

2 学力向上のための組織的な取組

各小・中学校が学力向上の取組を統一して進めていくため、以下のような組織を編成している。

① 学力向上戦略会議

各小・中学校の教頭で構成する組織。市全体の全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、課題を共有するとともに、各学校の学力向上策について情報交換する。

② 学力向上推進協議会

各小・中学校の主幹教諭又は教務主任で構成する組織。市で共通して取り組む計算などのドリルや小学校を卒業した児童に中学校入学までに行わせる宿題の作成、学力向上のための教育課程編成等について協議している。

③ 学力向上実行委員会

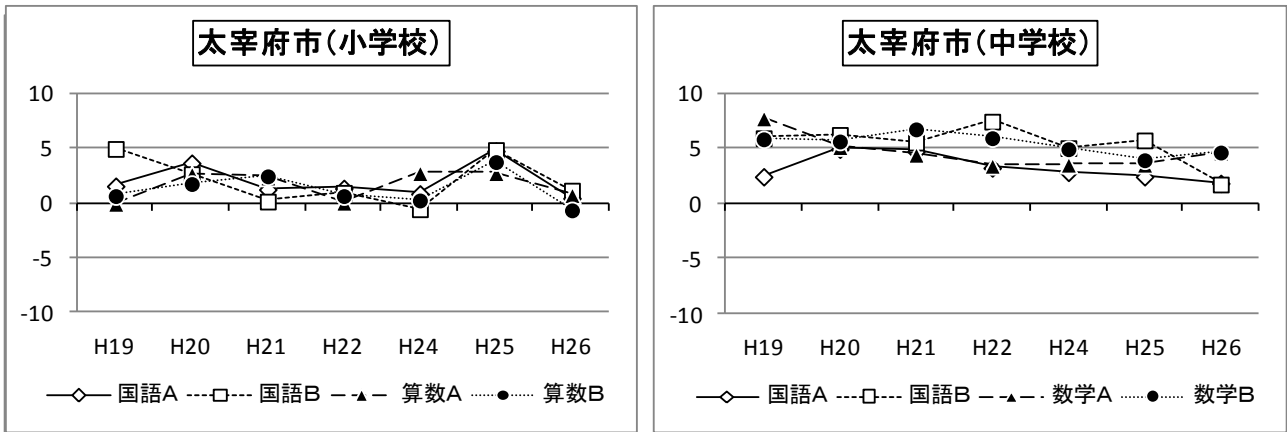
各小・中学校の研究主任で構成する組織。知識や技能を活用する力を育成するための授業づくりやブロック別の授業研究を企画・運営している。

3 授業力量を高める授業づくり

小学校では、中学校ブロック別に分かれて全教員の参加による授業研修を行っている。平成24年度までは、全国学力・学習状況調査で課題が見られた国語の読解力に重点を置いた研修を実施し、平成25年度からは、算数の「活用」に重点を置いた研修を行っている。

中学校では、筑紫地区の教科等研究会と連携し、各教科の指導力量を高める研修を行っている。

【太宰府市】



【成果に繋がった取組の内容】

1 小中連携

小中9年間を通して学力の定着を図るために、小中学校で連携した取組を実施する。

① 学習強化週間

家庭学習の習慣化を図るために、年間5回の中学校の中間、期末テストに合わせ、小中ともに家庭学習の充実をめざす「学習強化週間」を実施している。

② 「とびうめルール」の徹底

小中学校共通の、各学年で習得すべき学び方を示した「とびうめルール」を各学校で児童生徒に徹底している。

「五つの観点」 心構え 聴き方 話し方 姿勢 準備

2 太宰府市学力向上委員会

学力向上を図るために、教務担当者を委員として組織し、学力向上に向けた取組の推進を図る。

① 効果のある学力向上への取組の交流及び検討

各学校の実態に応じた重点的な取組（「1校1取組」）の交流、各学校の実態分析の深化（クラスごとに定期的に数値で測定）及び全国学力・学習状況調査等の分析のフィードバックとその効果の検証を行う。

② 家庭学習の充実

小中9年間の系統性に留意した宿題の在り方と共通理解に基づく取組を推進している。

3 全小・中学校によるコミュニティ・スクール（CS）の推進

家庭・地域と一体となった学力向上の取組を推進するために、全小・中学校をCSに指定する。

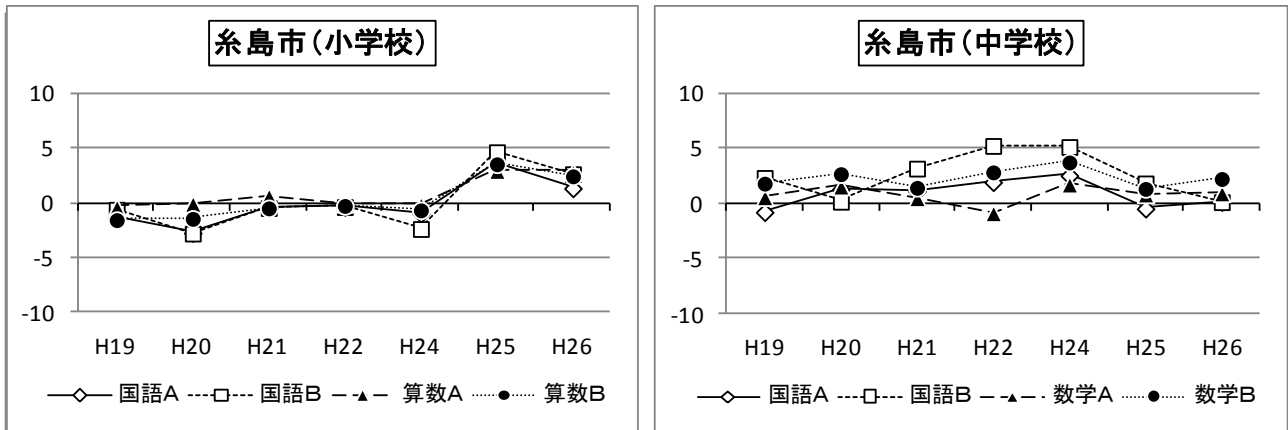
① 地域ボランティアによる学習支援

習熟の時間等における丸付け補助（筑紫女学園大学との連携協定による「学生サポーター」も含む）を行っている。

③ 家庭学習のルールの作成

学校・家庭・地域の三者での家庭学習ルール（小学校であれば学年×10分、きちんと机につく 等）を作成し、取組チェックシートなどを活用してルールの徹底を図っている。

【糸島市】



【成果に繋がった取組の内容】

1 教職員の指導力量向上のための取組

教職員の指導力量向上のために、各種研修会を実施している。

① 糸島市教育センター事業

学力向上のための教職員の指導力を高めるため、糸島市教育センターにおいて、九州大学の教授等を講師として招き、多様な研修会を実施している。以下に特徴的なものを示す。

ア 調査研究（各中学校区における学力を把握・分析し、小・中共通の取組を行うことで、児童生徒の学力向上に資する。）

イ 基礎講座（教科等研各部会による授業や協議会等を通して、本市の実態に応じた学習指導方法や指導技術の向上を図る。）

② 小中連携事業（中学校区小中連携教育研究事業）

小中学校が連携し、学習指導や生活指導の小中学校の接続の在り方を協議し合う、実践的な研修会を中学校区別に実施している。

2 児童生徒一人一人を大切にした学力保障の取組

児童生徒の学力を向上するために、児童生徒一人一人の学力に応じた取組を推進する。

① 土曜授業の推進

学力向上を図る補充学習や発展的学習等、個の学力に応じた授業を土曜日に年10回程度実施している。

② 市独自の学力調査、生活対応調査に基づく授業改善の実施

全小中学校において学力調査及び生活対応調査（楽しい学校生活をおくるためのアンケート調査）を実施し、子どもの実態に応じた授業やその基盤となる学級経営の改善を図っている。

③ 中学1、3年生での2泊3日の勉強合宿

1年生は1学期に学習方法や学習習慣の形成を、3年生は2学期に受験の心構えのために勉強合宿を行っている。

3 家庭・地域の教育力を生かした取組

児童生徒の学力向上のために、地域・家庭が積極的に参画する取組を推進する。

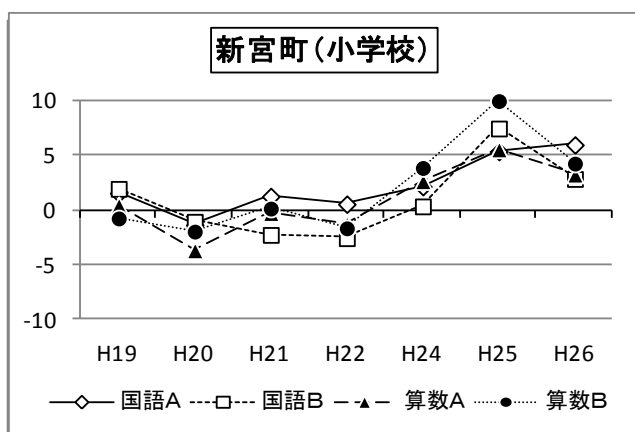
① 学力支援事業

保護者や地域の方々を活用した個別学習、朝の活動や放課後学習等を推進している。

② 地域人材活用事業

元教師等の地域の人材が小学生を対象に公民館で放課後教室を開催している。

【新宮町】



※ 町立中学校が1校であり、学校が特定されるため、掲載していない。

【成果に繋がった取組の内容】

1 授業力の向上等、教職員の意識改革と実践的指導力の向上を図る研修会

経験年数や職務内容に応じた専門的な指導力を高める研修会を小中学校合同の形態で年33回開催実施している（平成22年度～）。

- ・ 公開授業や実践発表等の形態で研修会を実施し、研修内容を各学校における日々の授業につなぐことを重視する（授業改善の日常化）。
- ・ すべて小中学校合同の形態とし、小中連携・接続、学力向上等に視点をあてた研修会とする。
- ・ 各学校における人材育成へと繋がるように、町内校長会や教頭会等で取組成果を報告する。
- ・ OJTの推進に向けて、講師については、できるだけ町内校長、副校長・教頭等に依頼する。

2 児童生徒の学力向上に向けた調査・研究を行う会議

指導方法や指導体制の工夫改善等に係る研究及び効果的な諸施策を検討する会議『学力向上プロジェクト会議（構成員：各小中学校の学力向上コーディネーター）』を年5回実施している（平成24年度～）。

本会議で立案された主な取組・事業と成果物

① 『家庭学習のすすめ』を活用した家庭学習強化週間

学校と家庭とが連携・協働しながら、学習の基礎をしっかりと身に付け、粘り強く家庭学習に取り組む児童生徒を育成することをねらいとして、6月下旬と11月中旬のそれぞれ1週間、『家庭学習のすすめ』を活用した家庭学習強化週間を実施している（平成24年度～）。

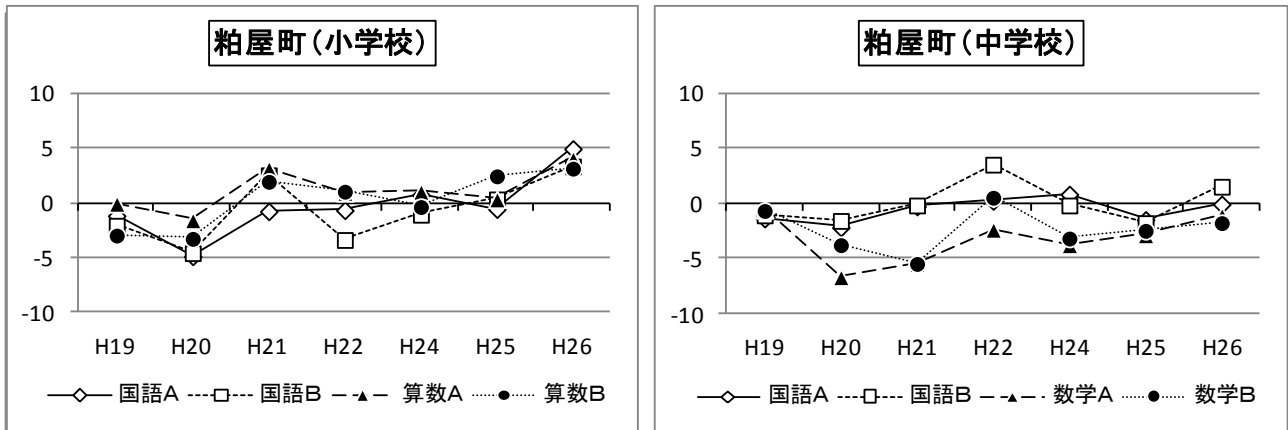
- ・ 他学年の内容も一見できるよう小1から中3までの内容を合冊した手引きになっている。
- ・ 町内小中学校が同一週に家庭学習強化週間を設定して取り組んでいる。
- ・ 実行した時間や内容を記録する「がんばりカード」を配布し、学習意欲を喚起している。

② 中学校入学準備課題『かけはし』を活用した取組

小中学校と家庭とが連携・協力を深め、規則正しい学習習慣や生活習慣を継続し、夢や目標を持って中学校入学を迎えることができるように、小学校卒業日から中学校入学日まで、中学校入学準備課題『かけはし』を活用した取組を実施している（平成25年度～）。

- ・ 学習内容の系統を再確認できるように小中学校教職員が協働で学習課題を作成する。
- ・ 日々の生活を振り返るために、起床就寝時間や朝食摂取状況、日記などの欄を設けている。
- ・ 本取組と併せて、小中連携・接続を基盤とした授業づくり等に反映されるような各種研修会を実施している。

【粕屋町】



【成果に繋がった取組の内容】

1 「説明力を高める授業づくり」を目指す学習指導の改善

① 「説明力を高める授業づくり」の推進

理由や方法を求める学習課題を提示したり、「ペア→グループ→全体」という交流の流れを仕組んだりすることで、児童生徒が説明し合う授業となるよう努めている。

② 「①目的 ②手順 ③ツール（道具）」の3つを明確にした説明活動の推進

説明活動では上記3点を明確にし、学力向上につながる活動となるよう努めている。

③ 「①人間関係づくり ②自己判断や自己決定 ③体験的活動」の波及効果

説明力アップの取組によって、児童生徒に満足感や達成感が得られるようにしている。

④ 「学力向上検証委員会」の組織

教頭、教務担当者、研究担当者による委員会を組織し、目指すべき授業像や推進体制づくり等の共通理解を図っている。

2 教職員の指導力向上を図る研修の充実

○ 町独自の教職員の指導力向上を図る研修事業

急速な世代交代による指導力低下を防ぐため、若年教師や常勤講師などを対象にした「指導力向上個別研修会」、校内の育成機能を高める「OJT推進研修会」等を実施している。

3 読書活動の推進

○ 朝の読書活動及び読み聞かせ活動の推進

第2次粕屋町子ども読書活動推進計画に基づき、図書委員会を中心とした読書に親しむ風土づくりを進めている。

4 補充学習の充実

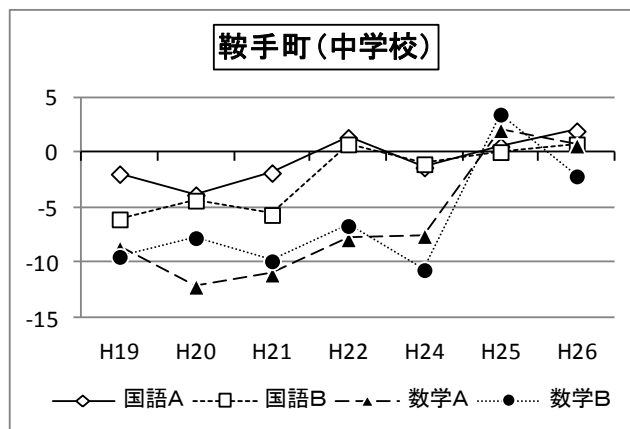
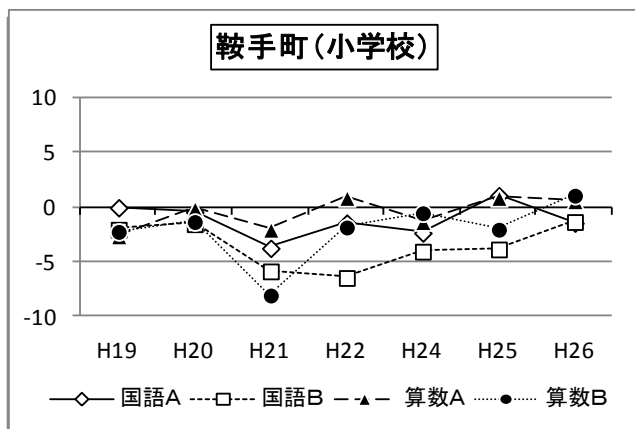
① 「ふくおか寺子屋事業」の継続実施

25年度実施以来、各小学校で週に1回、地域住民による補充学習を実施している。

② 「小中連携夏季学習会」の実施

夏季休業中を利用し、小学5年生と中学1年生を同一会場に集め、教職員に加えて中学3年生が学習サポーターとなり、下級生の指導に当たっている。

【鞍手町】



【成果に繋がった取組内容】

1 鞍手町学力向上研修会の実施

- 教育長、町内各小・中学校校長、教務担当者が構成する学力向上推進委員会を設置し、学力実態の分析等を行うとともに、取組内容の企画等を行った。
- 年1回、町内全教職員参加による学力向上研修会を実施し、町内児童生徒の学力の実態や取組方法を共有し、9年間を見通した継続的で組織的な取組の実施について確認した。
- 学力向上推進指定校による「学力が上がるシステムづくり」、「基礎基本の徹底を図る活動」「家庭学習の取組」の実践発表や、講師を招いた「授業改善の促進」の講演会などを行った。

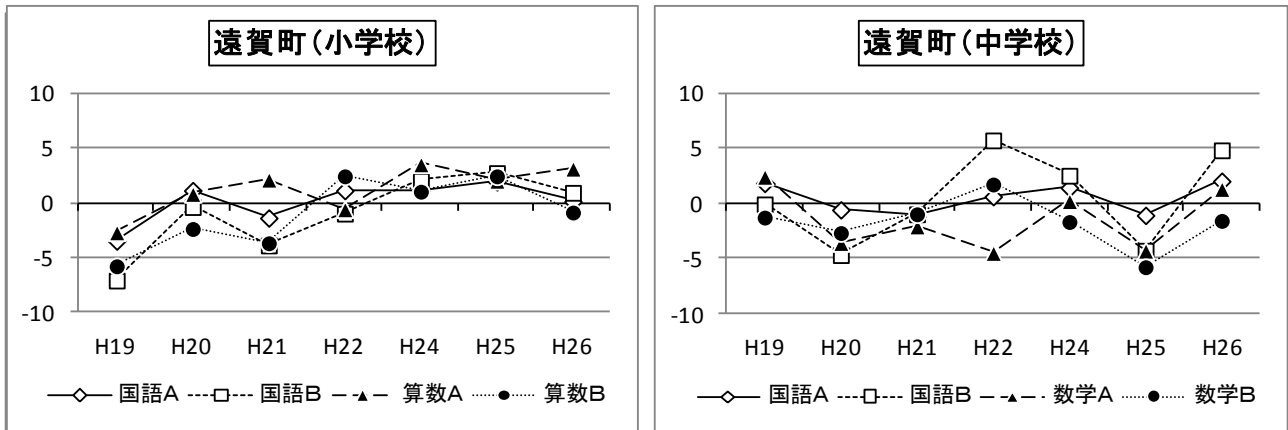
2 中学校校区連携事業の実施

- 義務教育9年間で子どもたちを育てるために、各学年でつけるべき学力・態度・習慣を確実に身につけさせ、中学校区の教職員が教育課題を共有し、共通実践した。
- 具体的方策としては、①板書計画作成による授業の流れの「見える化」、②言語活動の活性化、の2つの視点を重視した小・中学校合同の授業研修会を年1回実施した。協議は、子どもたちの変容を軸とする意見交流とすることで、教師同士が互いに教え合い高め合う場として機能しており、互いの力量の向上に寄与した。また、交流会を実施し教職員の親睦を深めた。

3 家庭学習習慣の定着

- 町統一の「家庭学習のすすめ」を作成し、各家庭に配付し、取組の共有を図った。
- 家庭学習について、教職員の共通理解を図り、小・中学校が同一歩調で指導できるよう町統一の「宿題・自学習習慣化プラン」を作成し、実施した。
 - ・ 小学校1年生で宿題を中心とした学習習慣の形成を徹底し、高学年に向かうにしたがって自学へ移行するよう指導した。中学校では、自学と毎日帰りの学活前に15分間行っている「帰りの学習」をリンクさせることを目標として行った。
 - ・ 小学校においては、家庭学習習慣の定着のための手立てとして、自学へのコメントやポイント、がんばりカードなどの子どもの意欲を引き出すための点検、評価の工夫をした。
 - ・ 中学校においては、英語・数学のテスト課題を与え、自主学习ノートを使って家庭学習を行い、学校でテストを実施するというスキルアップタイムを実施した。

【遠賀町】



【成果に繋がった取組内容】

1 組織マネジメントの改革（改善）

遠賀町学力向上検証委員会の継続的開催と学校でのPDC Aによる校内検証委員会の機能化を図っている。

① 町学力向上検証委員会の回数を増やして、学期毎、年3回実施

- ・ 教職員の意識の持続と一人一人の授業実践力が向上している。

② 小中連携協議会（学習指導部会・生徒指導部会・特別支援教育部会）の充実

- ・ 学習指導部会は中学校区でノ一部活動日を設定し、小学校研修日に合わせて月1回の小中合同授業研修会を継続実施。授業公開後は必ず研究協議会を実施。
- ・ 生徒指導部会は児童会と生徒会で共同する取組を計画・実施。（合同清掃活動等）

③ 学力調査結果の分析結果を基に効果があった取組や重点化内容を分析共有

- ・ 各校内検証委員会から全教職員への周知、自校の授業改善に活かしている。

2 委員会としての教職員の資質向上（授業力UP）方策

① 小中連携による共通の授業研究の充実

- ・ 小中合同による研修会を行い、それぞれの学校文化のよさを授業に活かしている。

② 中学校は全教科の公開授業研修会（最低年1回以上）を実施

- ・ 専門的な指導者を講師として招聘し、教科内容・指導方法の充実を図っている。

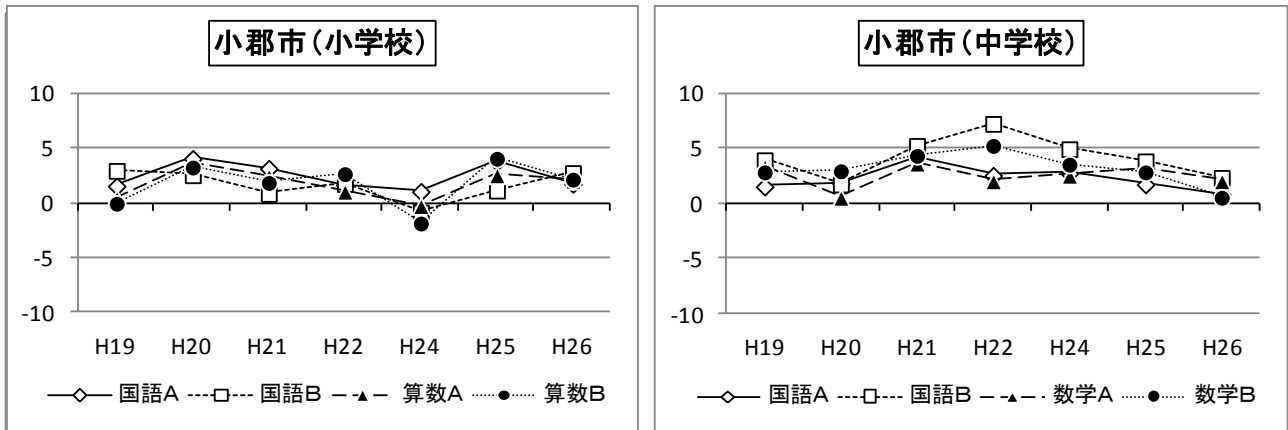
③ 主体的な教科等研修会参加の啓発と促進

- ・ 県教育センター講座（応募率90%以上）、県体育研究所・遠賀郡教育研究所教科部会加入促進により、研修の場と機会を活かして指導力向上を図っている。
- ・ 自主サークル活動を支援し、教師のライフステージに応じた職能育成を図っている。

3 全小中学校共通で取り組んでいること

- 過去の全国学力調査A・B問題、福岡県教育委員会作成の問題集を授業等で活用している。
- B問題の傾向と対策を校内で研修し、授業改善の視点にしている。
- 理解不十分、低位層の児童生徒に対しては、土曜授業を行い、補充学習の時間を確保し、繰り返し学習をしたり、習熟の程度に応じた指導をしたりして、基礎基本の徹底を図っている。
- 北九州教育事務所作成の「学力向上Tool Box」などを各単元末に活用している。

【小郡市】



【成果に繋がった取組の内容】

1 学力向上に係る組織マネジメントの考えを生かした取組の推進

各学校が自己改善能力を高めるように、組織マネジメントの考えをもとに指導助言等を行う。

① 各学校におけるRPDCAサイクルの推進

各学校が全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、課題を明らかにして方策を設定する。

② 各学校の課題解決に向けた創意ある取組の推進

各学校が課題解決のために取り組む改善策（全員補充、個別指導、課題・領域別の重点指導等）について、校長研修会等を通して交流し、改善を図る。

2 小中連携した学力向上の推進

小中が連携した、校長研修会での情報交換や、各学校の学力向上コーディネーターを集めた学力向上推進委員会等を実施する。

① 小中連携した基本的生活習慣等の定着

各中学校区において、一貫した生活規律、学習規律をつくり、共通理解のもと実践する。また、読書習慣なども継続して取り組むことで、学力の基礎づくりを進める。

② 学力向上推進委員会の充実

各学校の学力向上コーディネーターが各校の学力向上プランをもとにして、RPDCAサイクルで改善できるよう支援を行う。

3 教員の指導力向上のための研修の強化

教師の授業力量の向上を図るために、小郡市・三井郡教育研究所や中学校教科等研究会と連携を図るとともに、校内研修等の充実のための支援を行う。

① 小学校・中学校授業力向上研修会の実施

教育事務所や教育研究所、中学校教科等研究会等と連携を図り、全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた授業改善の方法等についての研修を行う。

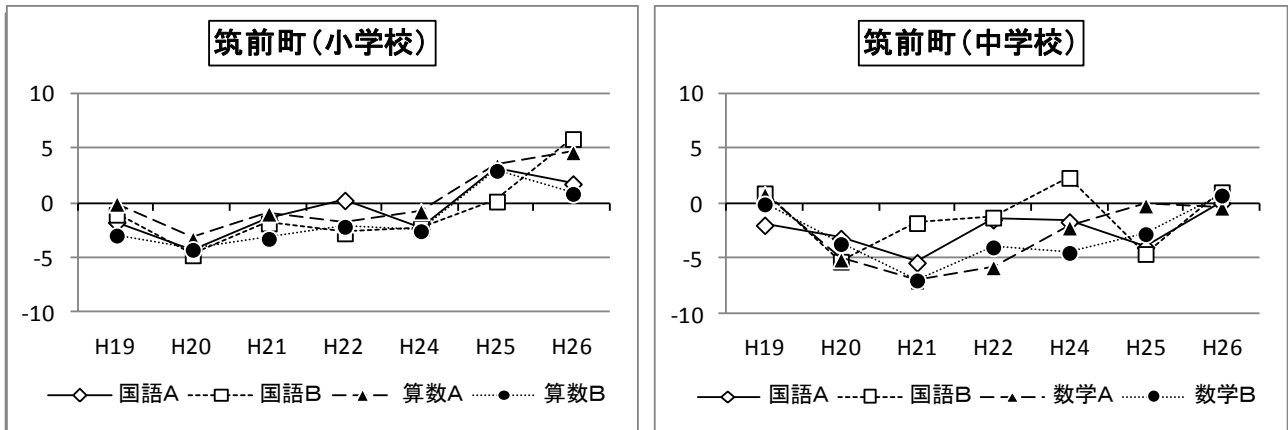
② 校内研修の充実

学力向上に係る学校の課題解決の取組と校内研修（特に主題研究）の関連を図る。

③ 学級づくりに関する研修の充実

人間関係づくりや学級経営に関して、講師を招いて研修を実施する。

【筑前町】



【成果に繋がった取組の内容】

1 筑前町教職員研修の取組

教職員の実践力的指導力を磨くために、経験年数、職務内容に応じた研修を行っている。

① 経験年数に応じた研修

スキルアップ研修（教職経験 3、4 年経過）グローイングアップ研修（教職経験 6～9 年）、主題研修（教職経験 11 年～25 年）、エキスパート研修（教職経験 26 年以上）を位置付けた。

② 職務内容に応じた研修

校内研修担当者会において、外部講師を招聘した授業分析方法についての講話や効果のある校内研修の進め方について研修を行い、指導方法や授業分析方法の改善を図っている。

2 筑前町学力向上推進協議会の取組

児童生徒の実態を踏まえた学力向上の方策を検討し、各学校における指導の充実を図るために、学力向上推進協議会を設置し、学力向上のための指標の作成と改善の方策への支援を行っている。

① 学力実態分析部会

各学校が作成した学力向上のための指標についての指導・助言を行い、指標に基づいた分析・検証を推進し、各学校の学力向上の取組に対する改善点を明確にした。

② 授業改善部会

課題のある設問等の分析を行い、授業改善方策の検討、授業改善の参考となる資料の作成と配布を行い、年間計画に位置付け、授業や補充学習におけるテキストとして活用を図った。

3 コミュニティスクールの取組

学校、保護者・地域住民等と目標を共有し、地域と一体となって、子どもたちの確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むために、コミュニティスクールの推進を行っている。

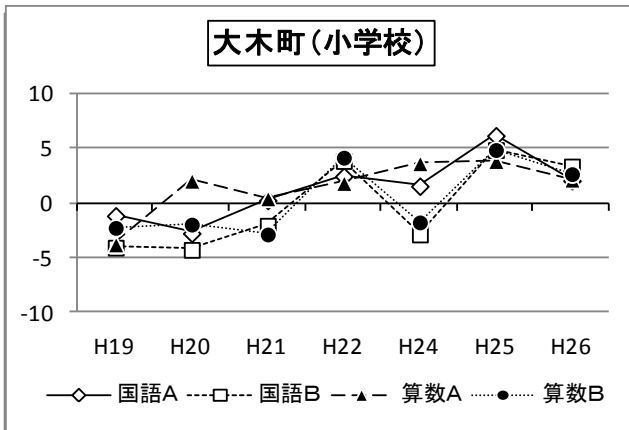
① 体験学習の充実による学力の向上

コミュニティスクールを通じて、児童・生徒を積極的にボランティア活動や地域行事に参加させることで、自己有用感や規範意識の向上を図っている。

② 保護者等による補充学習等への支援の充実

コミュニティスクールを通じて、放課後の補充学習会の支援員（保護者、学生サポーター）を要請し、教職員とボランティア等が協働して生徒の学力補充にかかわっている。

【大木町】



※ 町立中学校が1校であり、学校が特定されるため、掲載していない。

【成果に繋がった取組の内容】

1 町単独雇用の講師等の配置など個に応じた指導への財政支援

教育の平等性を確保し、学校間の学力格差をできるだけ小さくするとともに、子ども一人ひとりの学習課題に丁寧に応えることができるようにする。

① 少人数指導を推進するための講師の配置

小学校においては、町費による常勤講師を配置し、指導方法工夫改善担当教員の活用と併せて町内の全ての学級で35人以下学級を実現している。

中学校においては、数学科における少人数学習指導を充実させるために非常勤講師を配置している。また、数学の基礎・基本の定着が不十分な子どもに対して、放課後の補充学習の指導を行っている。

② 家庭環境に課題のある子どもが学習に向かえる支援

すべての小学校に家庭教育支援員を2名ずつ配置し、子育てに悩み等を抱いている親に対する相談に応じたり、学校を休みがち子どもや学習へ集中できない子どもたちをサポートしたりして、子どもが学習に向かえる環境づくりに努めている。

このことにより、学級担任は気になる子どもへの対応負担が軽減され、教材準備など授業づくりに集中することができるようになっている。

2 学校との連携による校種の壁を越えた共同研修の推進

小・中連携、幼・保・小連携による学習指導方法や学習・生活習慣づくり等の共同研究を推進する。

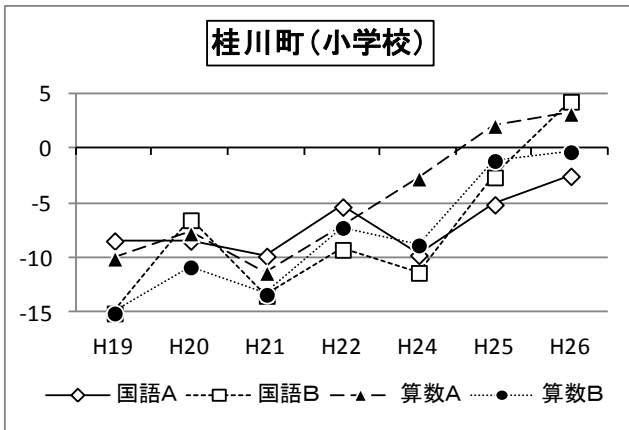
① 小・中合同研究による共通実践

学力との相関が認められる自尊感情の育成をテーマに掲げ、小学校と中学校の教職員が相互に授業参観・研究協議する研究会を立ち上げた。この研究会をとおして、小学校の教員は中学校の教科の専門性を学び、中学校の教員は小学校のきめ細やかな指導を学ぶなど、教材研究・発問・板書など学習指導力や学習規律を高める共同研究を行っている。

② 幼・保・小連携による安定した生活リズムづくりの推進

小学校と幼稚園・保育園とが連携して、基本的な生活習慣づくりや、学びの基盤（カリキュラム）づくりの調査・研究や家庭への啓発活動の実施を推進している。

【桂川町】



※ 町立中学校が1校であり、学校が特定されるため、掲載していない。

【成果に繋がった取組の内容】

1 教員の指導力向上のための研修

桂川町の児童生徒の学力向上に資するため、各校の学力実態を分析し、学力向上プラン及び取組内容の交流を行い、全教職員の共通理解を図って取組を進めるようにしている。

① 町学力向上委員会での取組

町の学力向上プランの共通理解を深めて、取組の重点化を図っている。また、「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」や「診断テスト」の活用の仕方について交流している。

② 年3回の教職員全員研修会の実施

町の教職員全員が一同に会して研修することで、共通理解及び小中連携を図っている。

③ 校内授業研修の交流

小中合同で授業と協議会を行い、全3校(小2校、中1校)が連携して授業改善を図っている。

2 家庭学習推進の取組

家庭学習の確かな定着のため、PTAと連携して手引等を作成し、児童生徒・保護者に配付することで家庭学習の質と量の改善を図っている。

① 手引き等の作成

「家庭教育の手引き」・「家庭学習の手引き」・「学習のきまり」を作成し、配付した。

② 家庭学習の啓発

家庭学習の充実に向けて各校の取組の交流を行ったり、PTAと連携して手引の活用等を支援したりして家庭学習の確かな定着を目指した取組をすすめている。

3 土曜授業などの課外授業の実施

土曜日の教育活動の充実のため、地域人材を活用した児童生徒への学習の機会を提供している。

① 土曜授業の年6回の実施

地域に開かれた教育活動を行っている。(2回は、町内統一学校公開日としている。)

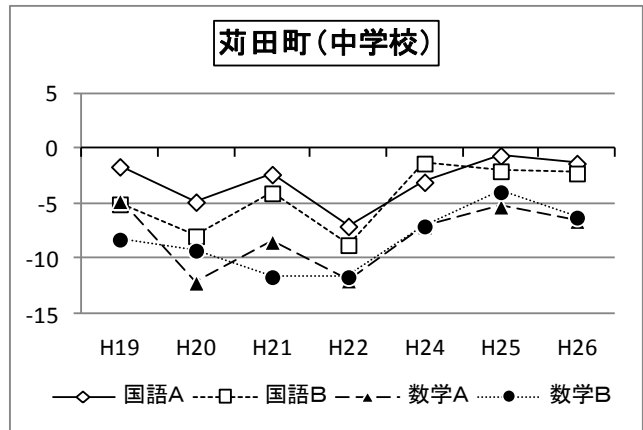
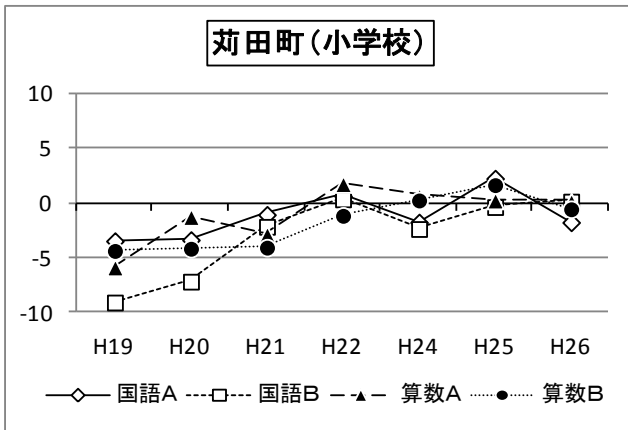
② 夏季休業中の特別授業の実施

各小中学校で「算数強化講座」や「夏季特別授業」等を夏季休業中に5日間実施している。

③ 土曜学習の実施

希望者を対象に第2・第4土曜日の午前中に、年16回の「土曜学習教室」を開催している。特に、中学校では基礎コースや応用コース等に分かれた学習を行っている。

【苅田町】



【成果に繋がった取組の内容】

1 教育改革に伴う町費負担教員配置事業

国際社会に生きる確かな学力を育むために、苅田町費負担教員を配置し、きめ細かな指導を実現させる教育環境を整備している。

① 少人数指導教員の配置

3 4 人以下学級編制を行い、少人数指導・習熟度別指導を充実させている。

② 専科教員の配置

音楽専科等を配置し、専科教員の専門性を活かした指導を行っている。

2 ICT環境整備事業（電子黒板）

子どもが自ら学ぶ意欲を高め、「わかりやすい」授業の実現と効率化を図るために電子黒板等の ICT 機器やデジタル教科書を整備している。

① 電子黒板

電子黒板や書画カメラ（実物投影機）を整備し、教科・領域で積極的に活用している。また、ICT活用研修を行い、教員の指導力量の向上を図っている。

② デジタル教科書

分かりやすさや楽しさといった視覚的効果や問題解決能力の向上、そして情報の共有や反復学習の効果をねらい、各学校に各教科のデジタル教科書を整備している。

3 教員の資質向上研修の実施

教員の指導力向上のために、教員の経験年数に応じた研修会を実施している。

① 夏季体験型教職員研修

全教員を対象に、毎年夏季休業中に体験型の研修会を実施している。

【実施講座】理科実験・図工指導・英会話・体験考古学・ICT活用・集団行動指導・マナー・ソーシャルスキルトレーニング・集団づくり 等

② 自主研修会の支援

本町には、若年教員・中堅教員・管理職の3つの自主研修サークルがある。このサークルが行う教科指導・学級経営等の研修会では、管理職や主幹教諭・指導教諭が講師となり講義や演習を行い、資質向上を図っている。

7 児童生徒の無解答の状況（教育事務所・政令市別）

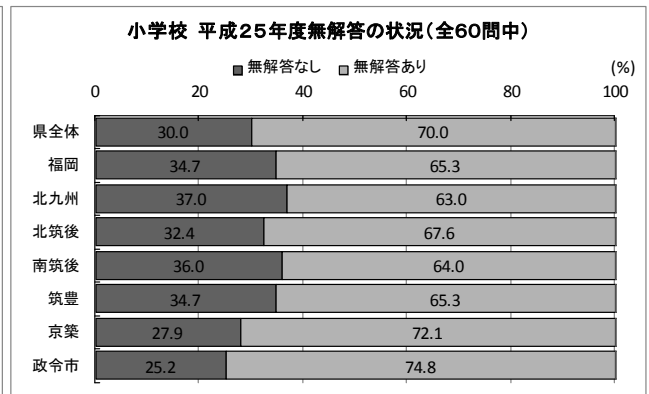
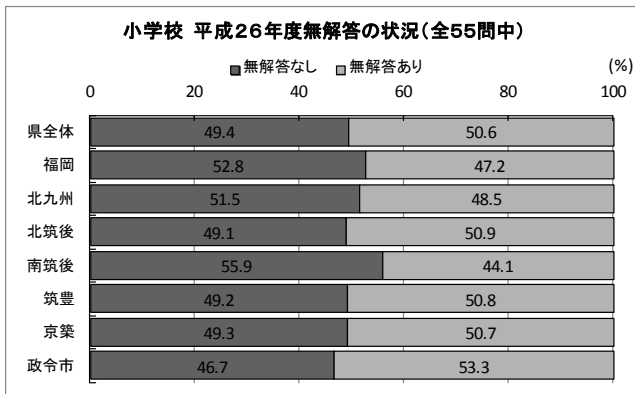
各教科の調査における児童生徒の無解答の状況を教育事務所・政令市別に分析する。

無解答の状況については、小学校は全55問、中学校は全92問を対象として、1つでも無解答がある「無解答あり」と全てに解答した「無解答なし」に分類した。

(1) 全体の状況

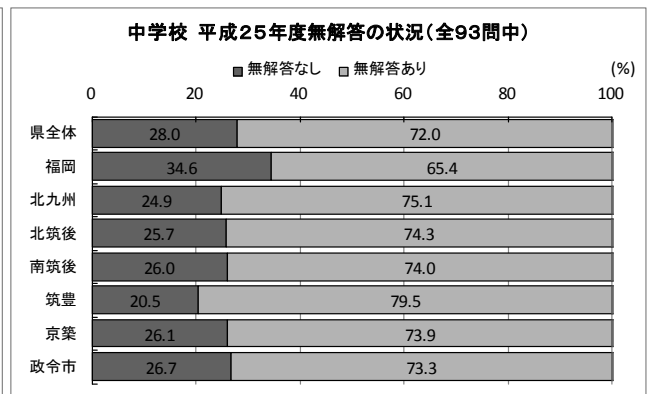
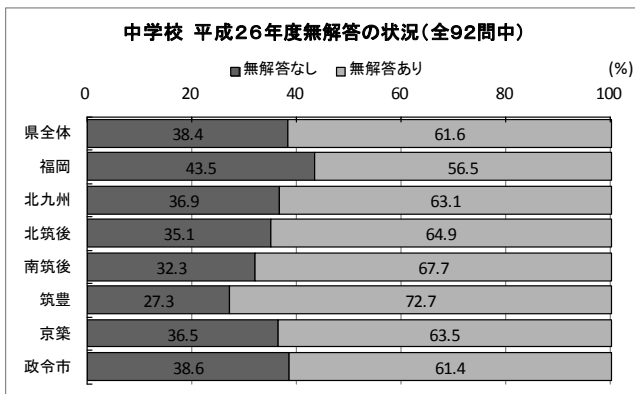
■ 小学校

- 平成25年度と比較すると、全ての地区において、無解答なしの児童の割合が高くなっている。
- 無解答なしの児童の割合を地区間で比較すると、南筑後が最も割合が高く、北筑後、筑豊、京築、政令市が県全体を下回った。



■ 中学校

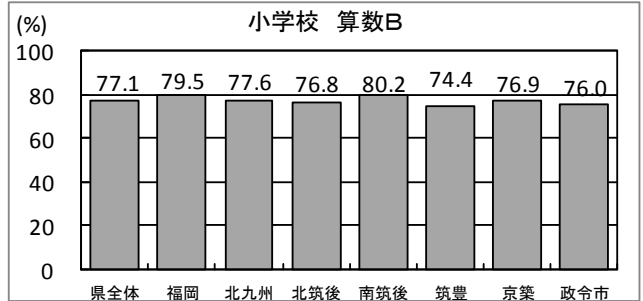
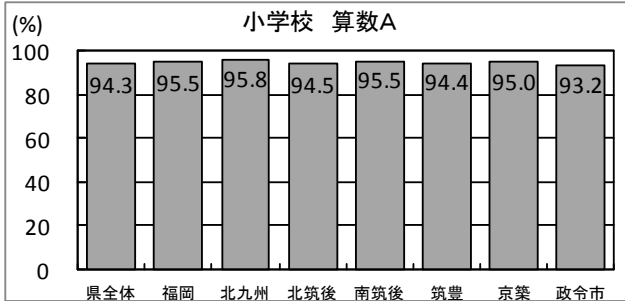
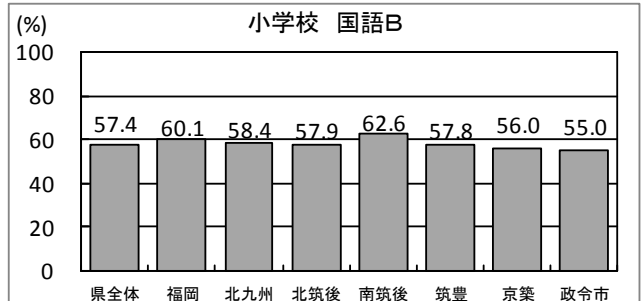
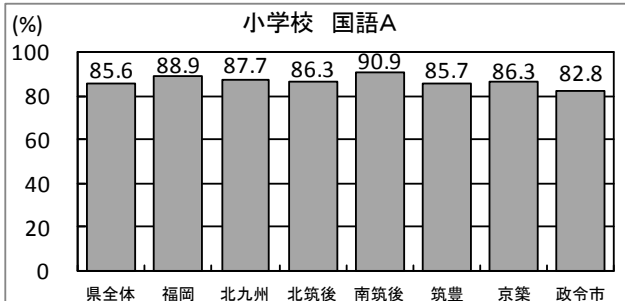
- 平成25年度と比較すると、全ての地区において、無解答なしの生徒の割合が高くなっている。
- 無解答なしの生徒の割合を地区間で比較すると、福岡と政令市以外は県全体を下回った。



(2) 教科区分ごとの無解答なしの児童生徒の状況

■ 小学校

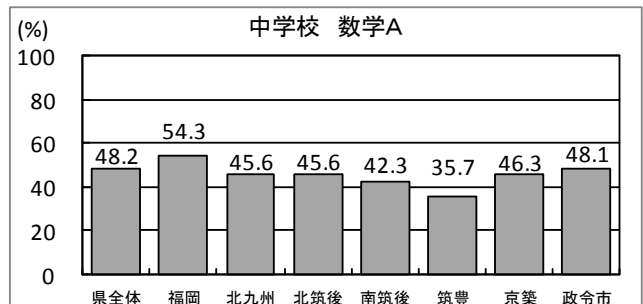
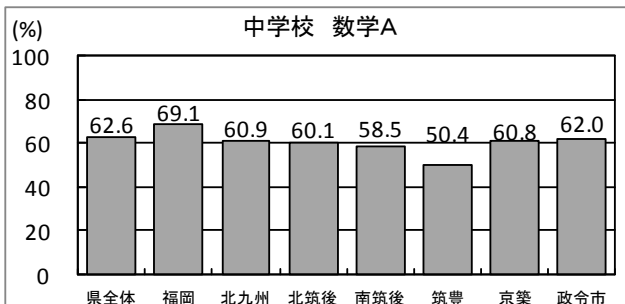
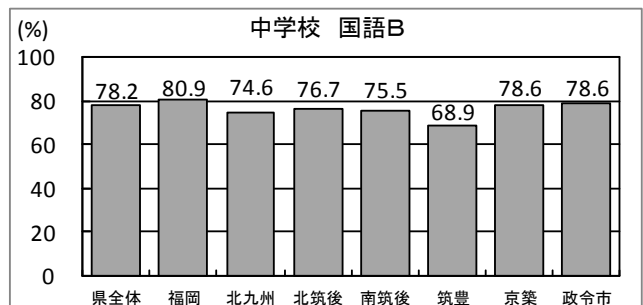
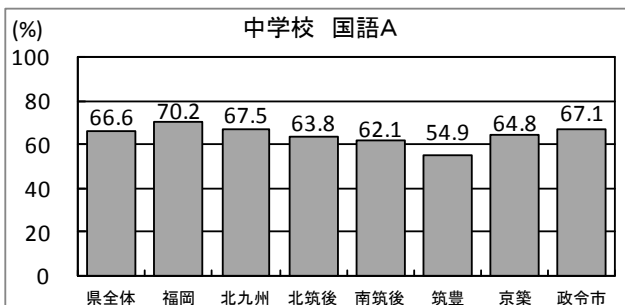
- 県全体の教科区分で見ると、国語、算数ともにA問題の方がB問題に比較して無解答なしの児童の割合が高い。
- 教育事務所・政令市別にみると、福岡、北九州、南筑後は全ての教科区分で、無解答なしの児童の割合が県平均と比較して高くなっている。



(各教科区分における「無解答なしの児童」の割合を、県全体及び7地区間で比較したグラフ)

■ 中学校

- 県全体の教科区分で見ると、国語ではB問題で無解答なしの生徒の割合が高く、数学ではA問題で無解答なしの生徒の割合が高い。
- 教育事務所・政令市別にみると、福岡は全ての教科区分で、無解答なしの生徒の割合が県平均と比較して高くなっている。



(各教科区分における「無解答なしの生徒」の割合を、県全体及び7地区間で比較したグラフ)

Ⅲ 各教科の調査結果

1 小学校国語

- 国語Aでは、次のような課題が見られた。
 - ・ 複数の事柄を並列の関係で書くこと (A⁶一 福岡県 76.9 全国 74.9)
 - ・ 故事成語の意味と使い方を理解すること (A²二 福岡県 46.2 全国 49.9)
- 国語Bでは、次のような課題が見られた。
 - ・ 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くこと (B²二 福岡県 24.9 全国 26.9)
 - ・ 立場を明確にして、質問や意見を述べること (B¹三 福岡県 26.7 全国 28.3)
 - ・ 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くこと (B³三 福岡県 46.5 全国 48.1)

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

<国語A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	10.8	72.0	11.0	3.1
全国(公立)	10.9	72.9	12.0	3.1

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県		72.2	72.6	67.9	72.7	64.6	78.5	
全国		72.4	72.2	68.5	73.7	66.6	78.5	

<国語B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	5.4	54.4	6.0	2.4
全国(公立)	5.5	55.5	6.0	2.4

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県	32.7	50.6	32.7	56.1	68.6	61.0	67.5	32.7
全国	34.4	51.2	34.4	57.3	69.8	62.1	67.7	34.4

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（％）

平成26年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 【国語A：主として知識】

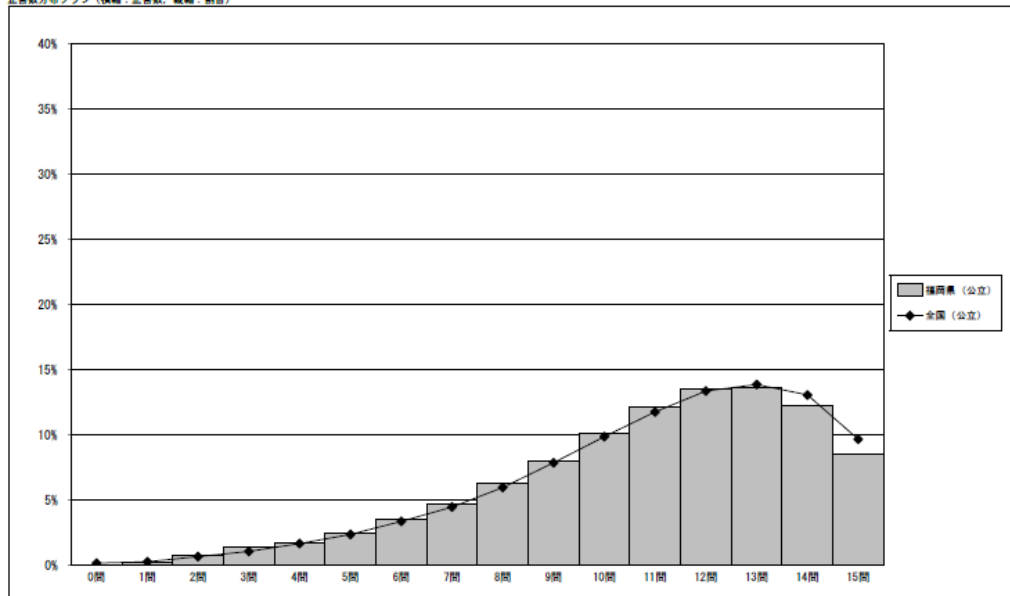
福岡県一児童（公立）

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	44,305	10.8 / 15	72.0	11.0	3.1
全国（公立）	1,080,663	10.9 / 15	72.9	12.0	3.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値
(左：児童数 右：割合(%))

正答数 (問)	児童数	割合 (%)
0	40	0.1
1	145	0.3
2	335	0.8
3	607	1.4
4	799	1.8
5	1,121	2.5
6	1,579	3.6
7	2,068	4.7
8	2,788	6.3
9	3,559	8.0
10	4,524	10.2
11	5,397	12.2
12	6,046	13.6
13	6,062	13.7
14	5,428	12.3
15	3,807	8.6

平成26年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 【国語B：主として活用】

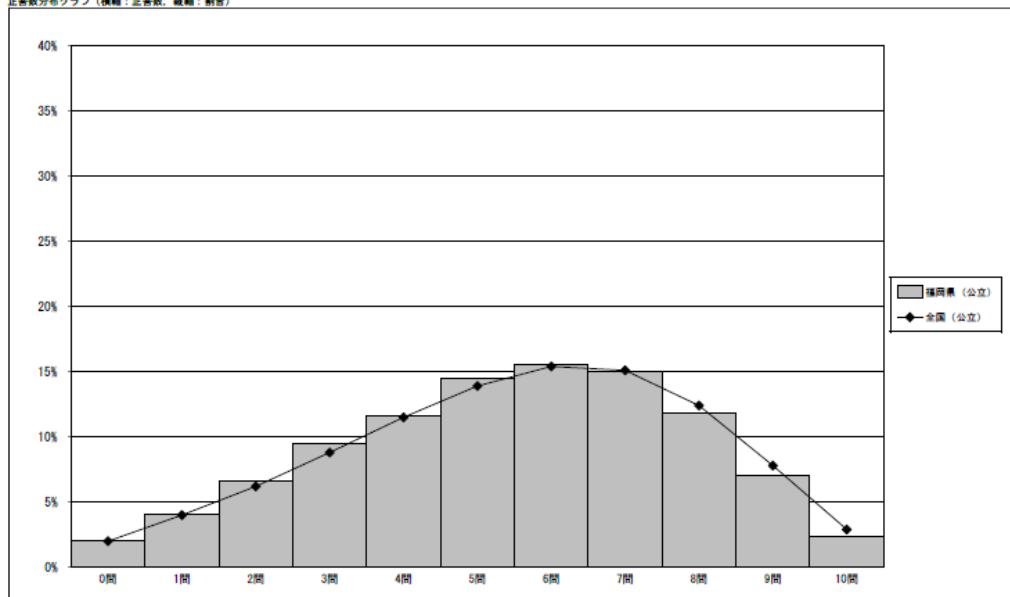
福岡県一児童（公立）

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	44,311	5.4 / 10	54.4	6.0	2.4
全国（公立）	1,080,444	6.5 / 10	65.5	6.0	2.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値
(左：児童数 右：割合(%))

正答数 (問)	児童数	割合 (%)
0	894	2.0
1	1,808	4.1
2	2,904	6.6
3	4,210	9.5
4	5,131	11.6
5	6,410	14.5
6	6,917	16.6
7	6,644	15.0
8	5,216	11.8
9	3,095	7.0
10	1,082	2.4

■ 小学校国語A 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1ー(1)	漢字を読む (道路の標識を見る)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	90.2	91.7	1.9	1.7
1ー(2)	漢字を読む (街灯がつく)		84.6	87.0	2.8	2.5
1ー(3)	漢字を読む (塾いよく走り出す)		75.6	74.4	1.5	1.5
1二(1)	漢字を書く (料理をのせた <u>さら</u> を運ぶ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	98.3	97.8	0.5	0.6
1二(2)	漢字を書く (勝利を <u>いわう</u>)		60.5	59.3	5.6	6.8
1二(3)	漢字を書く (かぜを <u>よぼう</u> する)		77.5	77.4	6.9	7.2
2ー	故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩)	故事成語の意味と使い方を理解する	49.5	55.8	0.3	0.3
2二	故事成語の使い方として適切なものを選択する (百聞は一見にしかず)		46.2	49.9	0.4	0.5
3	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	情景描写の効果を捉える	58.7	58.7	0.1	0.2
4	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える	71.0	71.7	0.3	0.3
5	物語の一部に入る適切な人物の名前を書く	物語の登場人物の相互関係を捉える	64.8	65.3	0.5	0.5
6ー	「～たり、…たり」という表現に直して書く	複数の事柄を並列の関係で書く	76.9	74.9	5.7	5.7
6二	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	仮定の表現として、適切なものを捉える	82.3	83.1	2.0	2.0
7	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	話合いの観点に基づいて情報を関係付ける	72.2	72.4	2.1	2.1
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する (はかる)	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する	72.5	74.3	2.7	2.7

■ 小学校国語B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1一	司会㉔の発言の内容をまとめて書く	目的に応じて、話し合いの観点を整理する	65.7	65.2	7.1	7.9
1二	林さん㉕の質問の狙いとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	59.5	60.2	3.5	3.5
1三	大野さん㉖の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	26.7	28.3	4.9	5.0
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容に関係付けながら、最初にもった疑問を捉える	71.6	71.9	8.4	8.2
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く	24.9	26.9	7.7	7.4
2三	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む	65.3	66.0	5.0	4.3
3一(1)	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える	78.9	80.4	5.0	4.4
3一(2)	【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する		58.3	59.2	6.2	5.5
3二	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する	詩の解釈における着眼点の違いを捉える	47.0	48.5	21.2	19.8
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	46.5	48.1	27.3	26.0

2 小学校算数

- 算数Aでは、次のような課題が見られた。
- ・ 小数第1位までの減法『(整数) - (小数)』の計算をすること
(A 1 (3) 福岡県 82.8 全国 83.8)
 - ・ 分数の相等及び大小についての理解 (A 3 福岡県 70.2 全国 72.5)
- 算数Bでは、次のような課題が見られた。
- ・ 示された情報を基に、必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述すること
(B 3 (3) 福岡県 30.2 全国 30.6)

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

<算数A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	13.2	77.7	14.0	3.1
全国(公立)	13.3	78.1	14.0	3.1

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形の技能	数量や図形の知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県			87.5	69.0	70.0	84.5	
全国			87.9	69.5	70.7	84.8	

<算数B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	7.5	57.4	8.0	3.3
全国(公立)	7.6	58.2	8.0	3.3

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形の技能	数量や図形の知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県		47.6	75.4	53.2	63.5	61.2	49.6
全国		47.8	76.2	54.8	64.7	62.2	49.7

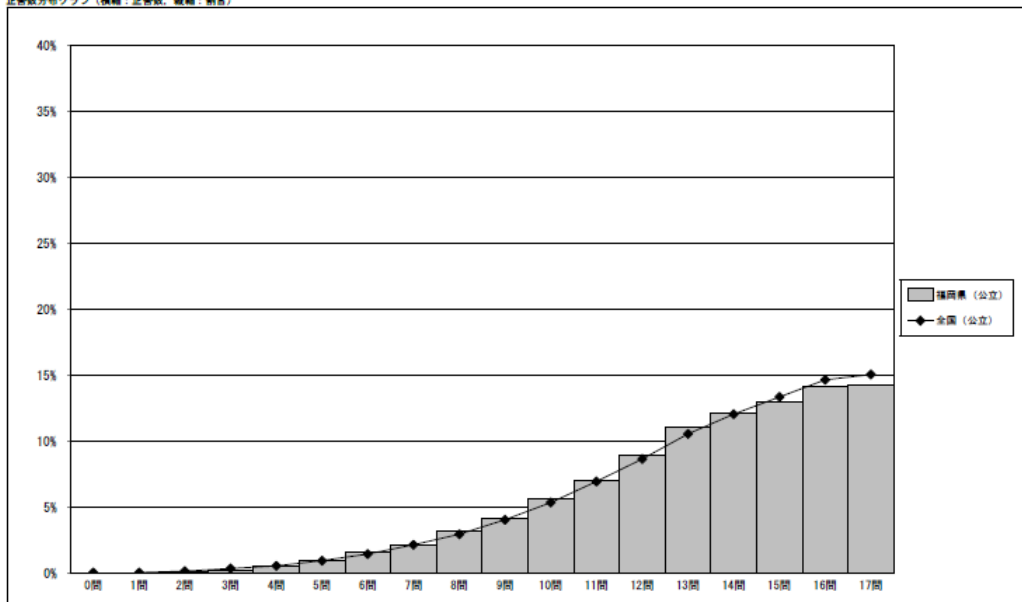
■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（％）

平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況 【算数A：主として知識】 福岡県－児童（公立） 小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	44,309	13.2 / 17	77.7	14.0	3.1
全国（公立）	1,080,657	13.3 / 17	78.1	14.0	3.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



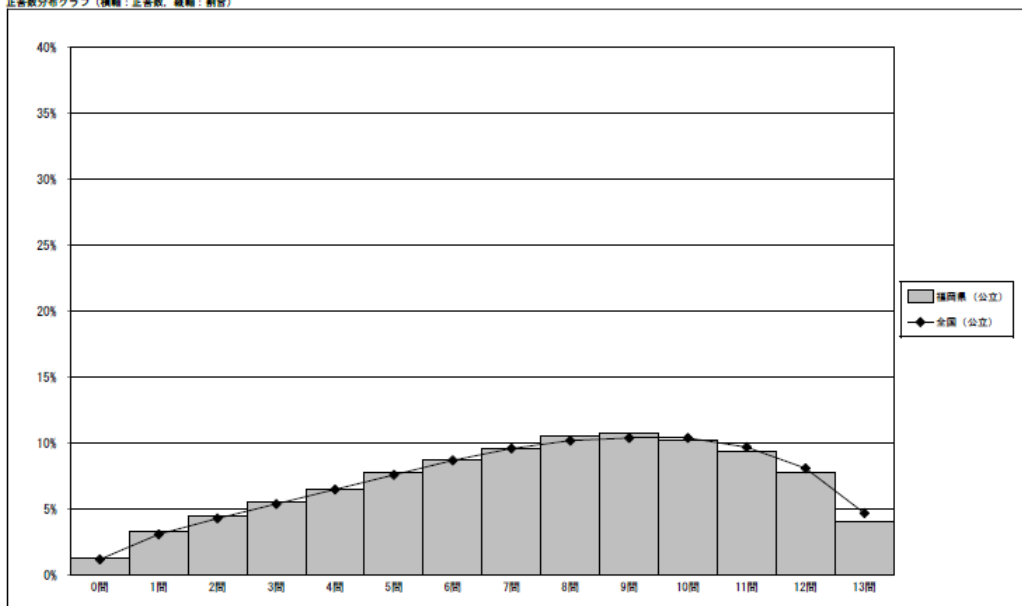
正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	21	0.0
1問	34	0.1
2問	79	0.2
3問	134	0.3
4問	263	0.6
5問	439	1.0
6問	694	1.6
7問	966	2.2
8問	1,429	3.2
9問	1,970	4.2
10問	2,528	5.7
11問	3,163	7.1
12問	3,971	9.0
13問	4,919	11.1
14問	5,423	12.2
15問	6,776	13.0
16問	6,280	14.2
17問	6,321	14.3

平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況 【算数B：主として活用】 福岡県－児童（公立） 小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	44,319	7.5 / 13	57.4	8.0	3.3
全国（公立）	1,080,442	7.6 / 13	58.2	8.0	3.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	578	1.3
1問	1,449	3.3
2問	1,997	4.5
3問	2,439	5.5
4問	2,886	6.5
5問	3,466	7.8
6問	3,849	8.7
7問	4,242	9.6
8問	4,666	10.5
9問	4,799	10.8
10問	4,521	10.2
11問	4,170	9.4
12問	3,452	7.8
13問	1,805	4.1

■ 小学校算数A 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1(1)	$46 + 57$ を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	96.8	96.9	0.1	0.1
1(2)	903×6 を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	92.5	92.8	0.2	0.2
1(3)	$9 - 0.8$ を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	82.8	83.8	0.7	0.8
1(4)	$2 \div 5$ を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	91.6	91.8	0.7	0.9
1(5)	$100 - 20 \times 4$ を計算する	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる	79.5	80.9	0.4	0.5
1(6)	$1 \div 3 + 2 \div 5$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	91.3	90.6	1.0	1.1
2(1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	72.6	71.9	0.3	0.3
2(2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	53.9	54.1	0.3	0.4
3	示された分数の中から、 $1/2$ より大きいものを選ぶ	分数の相等及び大小について理解している	70.2	72.5	0.6	0.6
4(1)	8m^2 に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる	82.4	82.3	0.7	0.7
4(2)	8m^2 に16人いるAの部屋について、 1m^2 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	60.7	60.8	3.1	3.4
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる	84.3	83.9	1.7	1.5
5(2)	1cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	体積の単位(1cm^3)と測定について理解している	81.0	81.1	1.9	1.8
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している	51.8	52.0	0.6	0.6
7	縦5cm、横11cm、高さ4cmの直方体の面㊦になる四角形を選ぶ	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	68.3	69.4	0.6	0.7
8	答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ	四則の混合した式の意味について理解している	80.0	81.0	0.9	0.9
9	正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ	二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができる	81.0	82.0	1.2	1.2

■ 小学校算数B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1(1)	示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ	示された場面から計算の結果の見直しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる	94.2	94.6	0.3	0.3
1(2)	二人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書く	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	56.1	55.2	5.5	6.0
2(1)	6・7月の水の使用量 1500m^3 は、プールに入る水の量 250m^3 の何倍かを求める式と答えを書く	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	82.4	82.5	3.0	3.0
2(2)	1目盛りを 50m^3 として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる	69.8	69.1	2.6	2.6
2(3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の $\frac{1}{4}$ より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる	59.8	61.5	1.3	1.2
3(1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる	37.4	38.6	3.6	3.4
3(2)	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	56.0	56.7	2.1	1.8
3(3)	示された分け方でスープを分けるとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる	30.2	30.6	2.1	1.9
4(1)	㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	61.2	62.2	2.1	1.7
4(2)	二人の㊦のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	60.2	60.5	13.0	12.1
5(1)	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる	63.7	65.7	6.3	5.2
5(2)	使いやすい箸の長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる	43.8	46.1	4.3	3.5
5(3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	31.8	33.0	14.9	13.1

3 中学校国語

- 国語Aでは、次のような課題が見られた。
 - ・ 辞書を活用して、語句の意味を適切に書くこと (A⁸四 福岡県 56.5 全国 59.9)
 - ・ 「漢字を読む (『音響』)」、「適切な語句を選択する (『単刀直入』)」
(A⁸二2 福岡県 86.3 全国 88.6) (A⁸三カ 福岡県 83.9 全国 86.3)
- 国語Bでは、次のような課題が見られた。
 - ・ 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと
(B²三 福岡県 26.7 全国 28.4)
 - ・ 複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること (B²一 福岡県 31.6 全国 31.4)

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

<国語A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	25.1	78.4	27.0	5.9
全国(公立)	25.4	79.4	27.0	5.7

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県		72	81.7	82.5	77.5	82.5	71.7	
全国		72.3	83.4	82.9	78.7	83.2	73.1	

<国語B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	4.5	49.6	5.0	2.3
全国(公立)	4.6	51.0	5.0	2.3

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県	38.7		38.7	47.7	54.7	55.0		38.7
全国	41.0		41.0	49.2	56.8	55.9		41.0

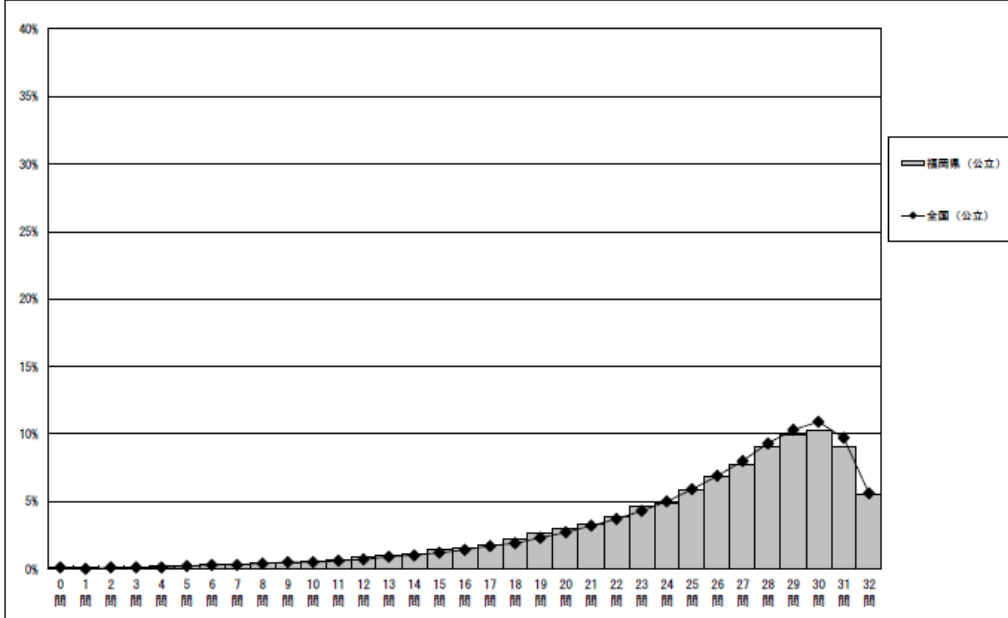
■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（％）

平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況 【国語A：主として知識】 福岡県一生徒（公立） 中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	41,851	25.1 / 32	78.4	27.0	5.9
全国（公立）	1,017,965	25.4 / 32	79.4	27.0	5.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



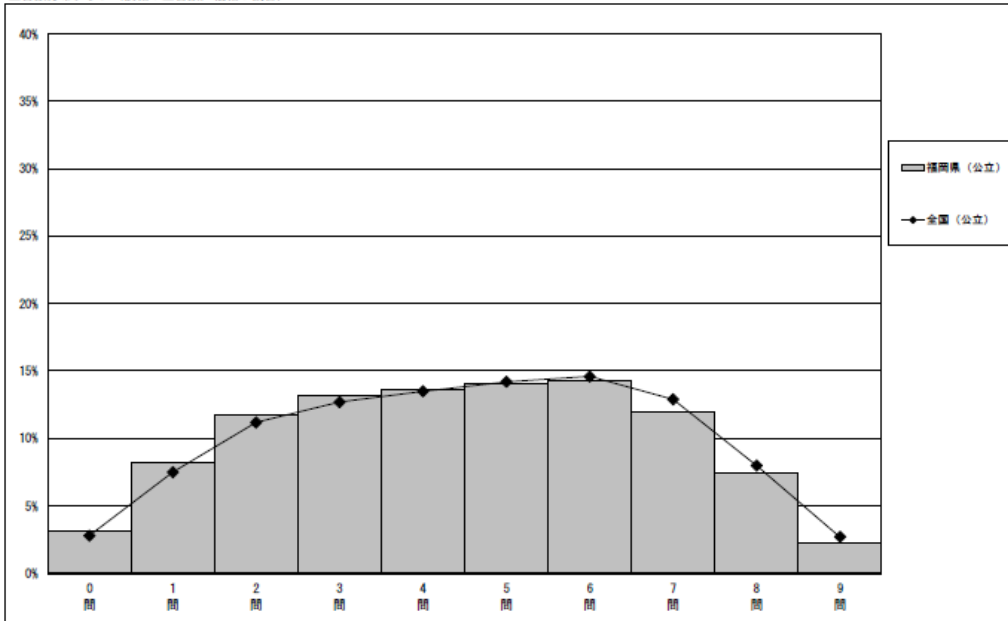
正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	51	0.1
1問	23	0.1
2問	17	0.0
3問	56	0.1
4問	65	0.2
5問	101	0.2
6問	127	0.3
7問	142	0.3
8問	193	0.5
9問	217	0.5
10問	249	0.6
11問	303	0.7
12問	356	0.9
13問	411	1.0
14問	464	1.1
15問	569	1.4
16問	643	1.5
17問	754	1.8
18問	904	2.2
19問	1,069	2.6
20問	1,244	3.0
21問	1,364	3.3
22問	1,622	3.9
23問	1,925	4.6
24問	2,041	4.9
25問	2,475	5.9
26問	2,887	6.9
27問	3,209	7.7
28問	3,820	9.1
29問	4,148	9.9
30問	4,303	10.3
31問	3,802	9.1
32問	2,297	5.5

平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況 【国語B：主として活用】 福岡県一生徒（公立） 中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	41,867	4.5 / 9	49.6	5.0	2.3
全国（公立）	1,018,157	4.6 / 9	51.0	5.0	2.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	1,296	3.1
1問	3,416	8.2
2問	4,952	11.8
3問	5,516	13.2
4問	5,693	13.6
5問	5,903	14.1
6問	6,000	14.3
7問	5,035	12.0
8問	3,088	7.4
9問	968	2.3

■ 中学校国語A 設問別正答率（前半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1ー	フリップの効果を説明したのとして適切なものを選択する	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	79.3	78.6	0.2	0.2
1二	報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	79.1	80.3	0.2	0.2
2ー	主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える	90.8	90.9	0.3	0.2
2二	仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える	77.7	79.8	10.2	9.2
3ー	主人公が「素通りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	91.8	91.9	0.2	0.2
3二	「ひとしくおれの方を見た」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	79.1	79.8	0.2	0.2
3三	生徒の落書きを見たときの主人公の心情を説明したのとして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	79.3	79.1	0.4	0.4
4ー	ウェブページの項目として適切なものを選択する	集めた材料を分類するなどして整理する	91.7	92.6	0.4	0.4
4二	主語を置き換えて行事の記録を書き直す	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える	75.9	80.5	3.9	3.1
5ー	「動物」と「外界のもの」との組合せとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する	77.4	78.2	0.5	0.4
5二	「次々に簡略化していった」理由を説明したのとして適切なものを選択する	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する	85.1	85.6	0.7	0.5
6ー	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	53.6	54.3	6.8	5.9
6二	話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	76.1	76.0	1.2	1.2

■ 中学校国語A 設問別正答率（後半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
7ー	文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる	83.9	84.6	0.7	0.6
7二	文章の構成を変える理由として適切なものを選択する	書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す	70.4	72.1	1.2	1.0
8ー1	漢字を書く（地域の人を <u>ショウタイ</u> する）	文脈に即して漢字を正しく書く	58.7	57.6	11.6	12.3
8ー2	漢字を書く（円の <u>ハンケイ</u> を求める）		60.2	59.5	3.4	3.3
8ー3	漢字を書く（計画を行動に <u>ウツ</u> す）		71.8	73.6	11.9	10.9
8二1	漢字を読む（アユの <u>稚魚</u> を放流する）	文脈に即して漢字を正しく読む	71.3	77.0	9.5	7.7
8二2	漢字を読む（このホールは <u>音響</u> 効果が良い）		86.3	88.6	4.9	4.1
8二3	漢字を読む（新記録に <u>挑む</u> ）		95.3	95.2	1.4	1.3
8三ア	適切な語句を選択する（よい結果を早く出したいときは、 <u>急がば回れ</u> といわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	58.3	59.2	1.1	1.0
8三イ	適切な語句を選択する（先のことは分からないが、 <u>とりあえず</u> 準備だけはしておこう）		95.8	96.2	0.7	0.6
8三ウ	適切な語句を選択する（地域の伝統的な文化を <u>継承</u> する）		79.0	80.8	0.9	0.8
8三エ	適切な語句を選択する（笑い声が満ちている家には幸運が訪れることを、「 <u>笑う門には福来たる</u> 」という）		88.6	89.5	0.9	0.7
8三オ	適切な敬語を選択する（お客様、私が校内を <u>ご案内</u> します）		92.8	93.0	0.8	0.8
8三カ	適切な語句を選択する（あの人は、 <u>単刀直入</u> にものを言う）		83.9	86.3	1.2	1.1
8三キ	適切な語句を選択する（忙しい兄は、休日にのびのびと羽を <u>伸ばす</u> ）		92.0	92.1	1.3	1.0
8四	国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く（英気を <u>養う</u> ）	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く	56.5	59.9	14.5	12.3
8五1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（まうけて）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	83.9	80.3	6.8	7.0
8五2	古文に当てはまる言葉を昔話の中から抜き出す	古典と昔話をを対応させて内容を捉える	68.8	71.0	10.7	9.0
8六	文字を書く際に生かしたアドバイスとして適切なものを選択する	文字の大きさ、配列などに注意して書く	75.2	77.6	2.2	1.6

■ 中学校国語B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1一	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する	64.3	65.3	0.4	0.3
1二	標語から伝わってくるメッセージを書く際に気を付けたこととして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ	58.8	58.9	0.5	0.4
1三	ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	46.5	48.2	3.4	3.4
2一	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える	31.6	31.4	0.7	0.6
2二	本やインターネットの内容から答えが得られるものとして適切なものを選択する	複数の資料から必要な情報を読み取る	59.7	60.9	0.8	0.7
2三	水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く	26.7	28.4	17.4	16.0
3一	演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る	50.5	52.0	1.0	0.7
3二	殿さまの言葉が表す殿さまの姿として適切なものを選択する	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する	65.2	67.2	1.1	0.8
3三	落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く	43.0	46.5	9.3	8.6

4 中学校数学

- 数学Aでは、次のような課題が見られた。
- ・ 指数を含む正の数と負の数の計算 (A¹) (2) 福岡県 67.3 全国 70.7)
 - ・ 分数を含む一元一次方程式を解くこと (A³) (2) 福岡県 56.1 全国 59.5)
 - ・ 線分の垂直二等分線の作図の方法の理解 (A⁴) (2) 福岡県 52.1 全国 56.0)
- 数学Bでは、次のような課題が見られた。
- ・ 図形の性質を、構想を立てて証明すること (B⁴) (1) 福岡県 35.1 全国 39.4)
 - ・ 学習指導要領の関数領域
(B³) (2) 福岡県 58.4 全国 62.3) (B⁶) (1) 福岡県 57.7 全国 62.7)

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

<数学A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	23.6	65.6	25.0	8.5
全国(公立)	24.3	67.4	26.0	8.2

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数学的な技能	数量や図形の知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県			66.5	65.1	62.4	68.9	
全国			68.2	66.8	64.4	70.4	

<数学B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	8.7	57.8	9.0	3.9
全国(公立)	9.0	59.8	10.0	3.9

	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数学的な技能	数量や図形の知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県		55.8		85.8	82.1	61.1	42.3
全国		57.9		87.5	83.2	63.3	44.8

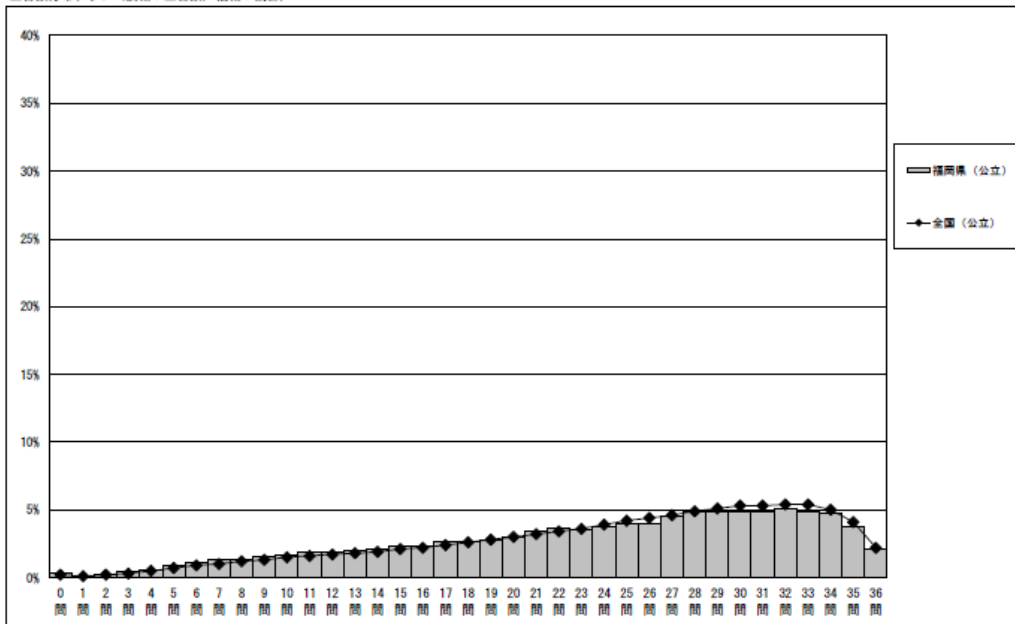
■ 正答数分布 (横軸：正答数 縦軸：割合)

平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況【数学A：主として知識】 福岡県一生徒（公立） 中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	41,879	23.6 / 36	65.6	25.0	8.5
全国（公立）	1,018,328	24.3 / 36	67.4	26.0	8.2

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



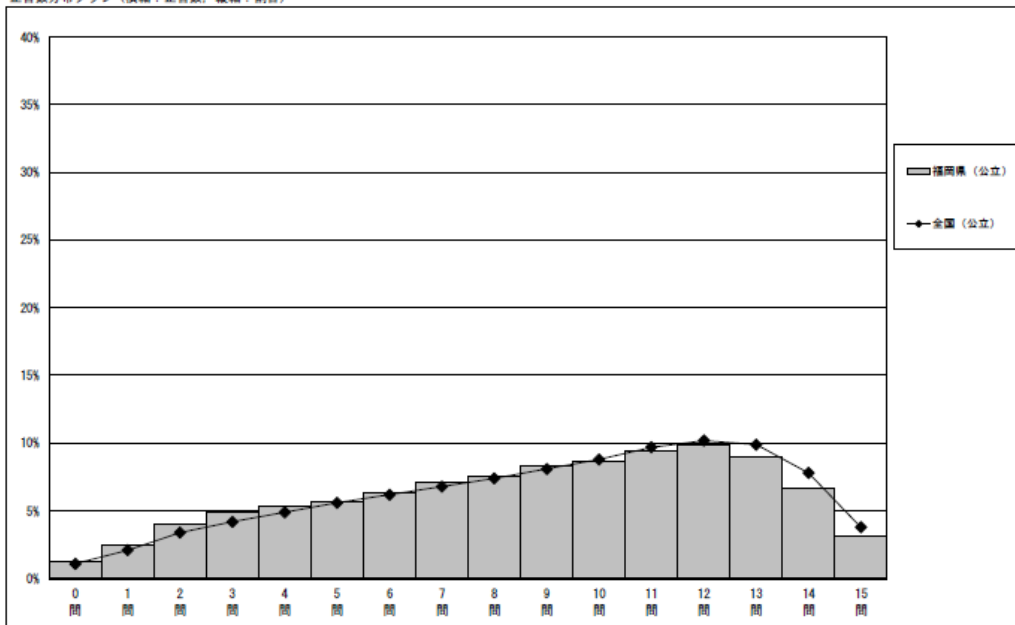
正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	110	0.3
1問	54	0.1
2問	95	0.2
3問	155	0.4
4問	255	0.6
5問	374	0.9
6問	444	1.1
7問	551	1.3
8問	553	1.3
9問	620	1.5
10問	676	1.6
11問	812	1.9
12問	791	1.9
13問	853	2.0
14問	866	2.1
15問	978	2.3
16問	949	2.3
17問	1,074	2.6
18問	1,138	2.7
19問	1,155	2.8
20問	1,270	3.0
21問	1,409	3.4
22問	1,490	3.6
23問	1,485	3.5
24問	1,607	3.8
25問	1,655	4.0
26問	1,695	4.0
27問	1,878	4.5
28問	2,058	4.9
29問	2,069	4.9
30問	2,060	4.9
31問	2,073	4.9
32問	2,134	5.1
33問	2,047	4.9
34問	1,986	4.7
35問	1,573	3.8
36問	887	2.1

平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況【数学B：主として活用】 福岡県一生徒（公立） 中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月22日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	41,869	8.7 / 15	57.8	9.0	3.9
全国（公立）	1,018,365	9.0 / 15	59.8	10.0	3.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	557	1.3
1問	1,040	2.5
2問	1,664	4.0
3問	2,039	4.9
4問	2,207	5.3
5問	2,397	5.7
6問	2,656	6.3
7問	2,980	7.1
8問	3,201	7.6
9問	3,492	8.3
10問	3,639	8.7
11問	3,933	9.4
12問	4,134	9.9
13問	3,786	9.0
14問	2,812	6.7
15問	1,332	3.2

■ 中学校数学A 設問別正答率（前半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1(1)	$3/4 \div 5/6$ を計算する	分数の除法の計算ができる	84.5	85.8	3.3	2.8
1(2)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	67.3	70.7	1.8	1.5
1(3)	-7の絶対値を書く	絶対値の意味を理解している	84.0	81.0	5.2	5.9
1(4)	35を基準にして38を正の数で表す	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	90.8	91.1	2.9	2.3
2(1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	44.2	45.2	12.3	11.1
2(2)	$10xy \div 5x$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	89.4	90.7	2.9	2.4
2(3)	$a=2$ 、 $b=3$ のときの式 ab^2 の値を求める	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	79.4	82.6	7.1	5.9
2(4)	男子 m 人と女子 n 人が1人2個ずつ持った風船の合計数を、 m と n を用いて表した式を選ぶ	数量を文字式で表すことができる	90.3	91.2	0.5	0.4
3(1)	一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ	等式の性質と移項の関係を理解している	88.4	89.7	0.6	0.6
3(2)	一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	56.1	59.5	14.0	12.4
3(3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	72.5	74.1	1.1	1.0
3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y=3x-2 \\ y=2x+3 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	65.0	67.2	11.6	10.0
4(1)	線対称な図形を完成する	対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる	92.5	93.8	2.8	2.5
4(2)	与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ	線分の垂直二等分線の作図の方法について理解している	52.1	56.0	0.9	0.7
4(3)	与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる	39.6	42.5	0.7	0.6
5(1)	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	空間における直線と平面の平行について理解している	79.1	81.0	4.9	4.2
5(2)	三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ	平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について理解している	83.2	84.8	0.6	0.5
5(3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読み取ることができる	65.7	67.7	9.0	7.4
5(4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	34.8	38.7	0.8	0.7

■ 中学校数学A 設問別正答率（後半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
6(1)	長方形ABCDにおいて、 $AC=BD$ が表す性質を選ぶ	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる	60.0	61.7	0.7	0.6
6(2)	三角形の外角について、正しい記述を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	71.1	73.4	1.1	1.0
6(3)	n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	n 角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n-2)$ における $(n-2)$ の意味を理解している	46.7	47.8	1.2	1.0
7	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	69.9	73.1	1.1	0.9
8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	証明のための構想や方針の必要性と意味を理解している	72.6	75.8	8.3	7.2
9	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	34.8	35.8	20.3	17.9
10(1)	$x=2$ 、 $y=6$ の比例の式を求める	比例の関係を式に表すことができる	57.1	56.7	13.9	13.0
10(2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	反比例の意味を理解している	74.7	75.9	1.3	1.1
10(3)	$s=vt$ を基に、速さ v が一定のとき、時間 t と道のり s の関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる	59.0	60.4	1.7	1.5
10(4)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している	45.1	45.7	1.9	1.7
11(1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	44.7	47.3	1.9	1.8
11(2)	一次関数 $y=3x-4$ のグラフを選ぶ	一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	73.3	75.1	1.6	1.4
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とす点を選ぶ	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している	63.9	66.7	2.8	2.5
13(1)	生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	度数分布表から相対度数を求めることができる	41.0	42.7	18.8	16.7
13(2)	ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している	52.2	52.0	1.9	1.8
14(1)	画びょうを投げた実験結果から、上向きになる確率を選ぶ	確率の意味を理解している	73.4	76.6	2.3	2.0
14(2)	樹形図を利用して、3枚の硬貨を同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める	樹形図などを利用して、確率を求めることができる	64.8	65.1	12.1	10.6

■ 中学校数学B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1(1)	案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ	与えられた図から情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができる	76.2	77.0	0.3	0.3
1(2)	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる	92.5	92.8	0.4	0.4
1(3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる	59.1	60.6	13.8	12.7
2(1)	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m+2n$ を変形する	与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる	60.5	61.2	10.8	9.3
2(2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	事柄が成り立たない理由を説明する場面で、反例をあげることで、その説明を完成することができる	63.9	65.4	10.4	9.0
2(3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる	42.7	44.2	6.3	6.3
3(1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	85.8	87.5	7.3	5.8
3(2)	大地さんの求め方を基に、ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる	58.4	62.3	33.9	30.1
4(1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する	図形の性質を、構想を立てて証明することができる	35.1	39.4	25.5	22.5
4(2)	$\angle BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる	20.6	23.3	28.8	25.8
5(1)	スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める	ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる	78.4	79.7	6.2	4.8
5(2)	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確かな事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	31.7	32.1	7.7	7.3
6(1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる	57.7	62.7	11.4	9.0
6(2)	兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる	77.5	79.8	3.1	2.5
6(3)	兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる	26.9	29.9	19.7	17.5

5 過去の調査問題（同一問題）との正答率比較

※ 「過去の県結果との比較」は、過去の同一問題の正答率との比較による差を表す。

（↑：向上、↓：低下、数値は過去の県調査結果と比較した増減値）

※ 「過去の全国差との比較」は、過去の全国平均との差と平成26年度結果の差とを比較した増減を表す。（数値は、過去調査結果に対する本年度の増減値）

【小学校国語】

問題番号	問題の内容	H26 福岡県	H26 全国	H26 全国差	過去の福岡（公立）正答率 （実施年度・全国正答率）全国差	過去の県結果 との比較	過去の全国差 との比較
1一 (3)	漢字を読む（勢い）	75.6	74.4	+1.2	77.6（H20・76.3）+1.3	↓-2.0	↓-0.1
1二 (3)	漢字を書く（予防）	77.5	77.4	+0.1	59.7（H20・63.0）-3.3	↑+17.8	↑+3.4

【中学校国語】

問題番号	問題の内容	H26 福岡県	H26 全国	H26 全国差	過去の福岡（公立）正答率 （実施年度・全国正答率）全国差	過去の県結果 との比較	過去の全国差 との比較
8一 1	漢字を書く（招待）	58.7	57.6	+1.1	52.6（H24・51.5）+1.1	↑+6.1	変化なし
8二 2	漢字を読む（音響）	86.3	88.6	-2.3	89.3（H20・90.6）-1.3	↓-3.0	↓-1.0
83 カ	適切な語句を選択 する（あの人は、 単刀直入にものを 言う）	83.9	86.3	-2.4	88.2（H19・89.8）-1.6	↓-4.3	↓-0.8

【小学校算数A】

問題番号	問題の内容	H26 福岡県	H26 全国	H26 全国差	過去の福岡（公立）正答率 （実施年度・全国正答率）全国差	過去の県結果 との比較	過去の全国差 との比較
1(2)	903×6	92.5	92.8	-0.3	85.8 (H21年度類・85.6) +0.2	↑+6.7	↓-0.5
1(3)	$9 - 0.8$	82.8	83.8	-1.0	82.9 (H22年度類・83.2) -0.3	↓-0.1	↓-0.7
1(4)	$2 \div 5$	91.6	91.8	-0.2	88.4 (H25年度類・88.3) +0.1	↑+3.2	↓-0.3
1(5)	$100 - 20 \times 4$	79.5	80.9	-1.4	62.0 (H22年度類・65.9) -3.9	↑+17.5	↑+2.5
1(6)	$1/3 + 2/5$	91.3	90.6	+0.7	85.4 (H24年度類・85.7) -0.3	↑+5.9	↑+1.0
2(2)	80 cmの0.4倍の長さを求める式の選択	53.9	54.1	-0.2	39.8 (H24年度類・41.1) -1.3	↑+14.1	↑+1.1
4(2)	1㎡あたりの人数を求める式を書く	60.7	60.8	-0.1	49.7 (H25年度類・50.0) -0.3	↑+11.0	↑+0.2

【中学校数学A】

問題番号	問題の内容	H26 福岡県	H26 全国	H26 全国差	過去の福岡（公立）正答率 （実施年度・全国正答率）全国差	過去の県結果 との比較	過去の全国差 との比較
1(2)	$2 \times (-5^2)$	67.3	70.7	-3.4	67.6 (H20年度類・71.5) -3.9	↓-0.3	↑+0.5
2(3)	$a = 2$ 、 $b = 3$ のときの式 $a^2 b^2$ の値を求める	79.4	82.6	-3.2	69.5 (H20年度類・70.7) -1.2	↑+9.9	↓-2.0
3(2)	分数を含む一元一次方程式を解く	56.1	59.5	-3.4	55.4 (H22年度類・58.1) -2.7	↑+0.7	↓-0.7
3(4)	連立二元一次方程式を解く	65.0	67.2	-2.2	74.3 (H20年度類・76.7) -2.4	↓-9.3	↑+0.2
4(2)	与えられた方法で作図される直線について正しい記述を選ぶ	52.1	56.0	-3.9	51.9 (H24年度類・56.3) -4.4	↑+0.2	↑+0.5
5(2)	三角形を平行移動してできる立体の選ぶ	83.2	84.8	-1.6	81.4 (H22年度類・83.0) -1.6	↑+1.8	変化なし
5(4)	円すいと円柱の体積を比較し、正しい図を選ぶ	34.8	38.7	-3.9	35.7 (H19年度同・38.1) -2.4	↓-0.9	↓-1.5
6(3)	n 角形の内角の和を求める式で、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	46.7	47.8	-1.1	41.7 (H24年度類・45.7) -4.0	↑+5.0	↑+2.9
7	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	69.9	73.1	-3.2	75.8 (H25年度類・79.2) -3.4	↓-5.9	↑+0.2
10(2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	74.7	75.9	-1.2	58.9 (H20年度同・62.7) -3.8	↑+15.8	↑+2.6
11(2)	一次関数 $y = 3x - 4$ のグラフを選ぶ	73.3	75.1	-1.8	57.8 (H19年度類・60.4) -2.6	↑+15.5	↑+0.8
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ	63.9	66.7	-2.8	55.2 (H22年度類・58.7) -3.5	↑+8.7	↑+0.7
13(2)	ヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	52.2	52.0	+0.2	37.1 (H24年度類・42.4) -5.3	↑+15.1	↑+5.5

IV 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析

1 児童生徒質問紙調査の目的

小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査を行い、児童生徒の学習意欲や学習習慣の改善・充実のための教育活用や教育施策の改善を図る。

2 本報告書において分析した児童生徒質問紙の内容

- 生活習慣の定着状況
- 自尊意識
- 家庭生活の過ごし方
- 家族とのかかわり
- 家庭での学習状況
- 規範意識
- 学習意欲 ... 等

3 分析の目的と方法

(1) 目的

各教科区分の平均正答率と児童生徒の意識や学校生活・家庭生活の相関を分析し、教育活動や教育施策の改善・充実を図る。

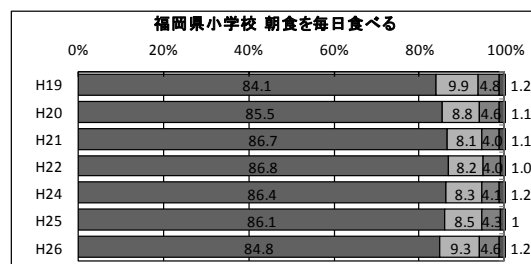
(2) 方法

児童生徒質問紙の回答状況及び回答と各教科の正答率の相関、教育事務所・政令市別の回答状況、無解答数による分析、記述式問題による分析等、次のA～Cの分析を行う。

なお、各学校における児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との相関等については、「福岡県学力実態調査検証システム」を活用して分析できる。(福岡県教育センターホームページに掲載)

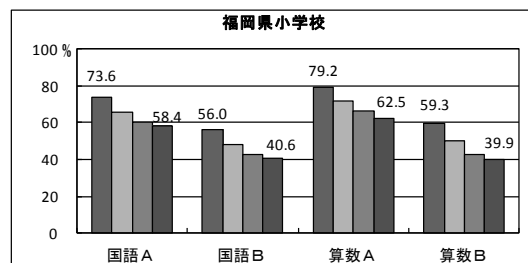
A 回答状況の経年比較

平成19～26年度(平成23年度は除く)の児童生徒質問紙の同じ質問項目について、福岡県における回答の割合を比較する。



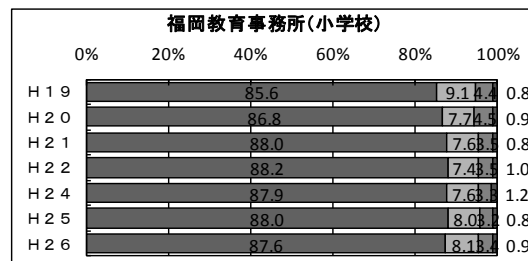
B 回答状況と教科の正答率との相関

児童生徒質問紙の各選択肢に回答した児童生徒の各教科区分の平均正答率を集計し、平成26年度児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との相関を示す。



C 教育事務所・政令市別の回答状況

教育事務所・政令市ごとに平成19年度～26年度(平成23年度は除く)の回答状況を比較する。



4 資料を読み取る際の留意点

特定の選択肢を回答した児童生徒が少ない場合には、極端な傾向を示す場合がある。また、質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。

5 分析に使用する児童生徒質問紙の質問項目について

平成19～26年度の分析に使用した項目及び特徴的な傾向が見られる項目について分析する。

1 学習に対する関心・意欲・態度

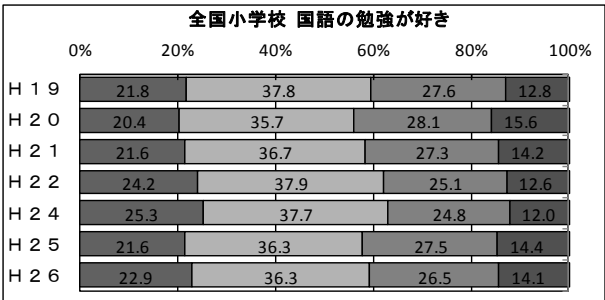
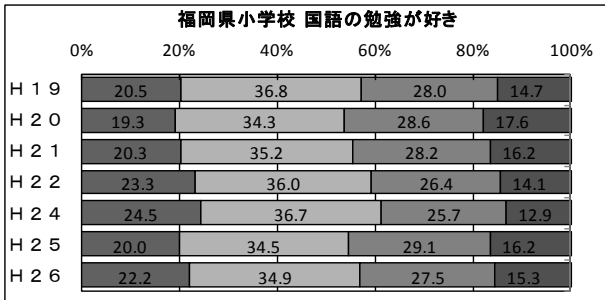
※ 数字は、児童生徒質問紙中の質問番号

50	国語の勉強は好きですか。
----	--------------

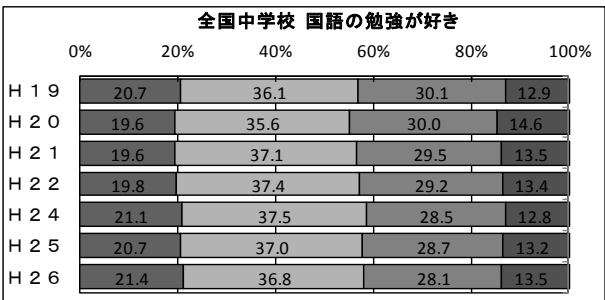
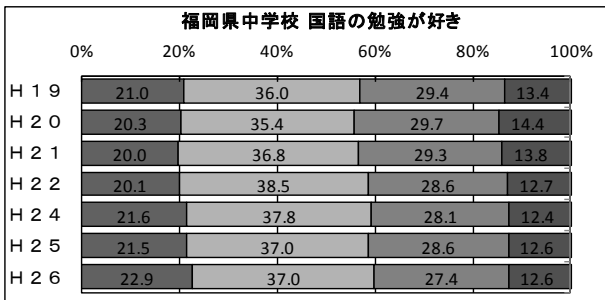
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合の合計は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の国語の正答率は、高い傾向にある。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

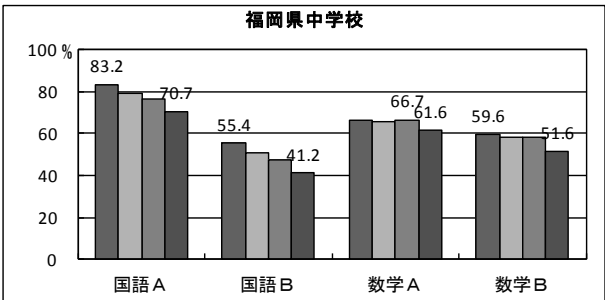
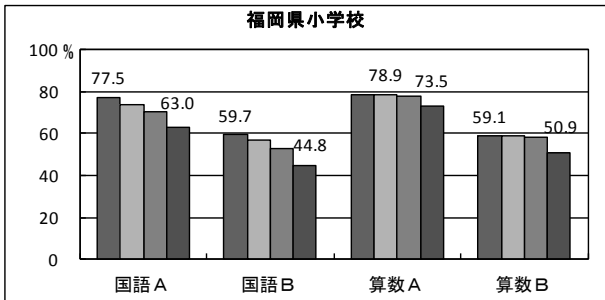
■ 小学校回答状況



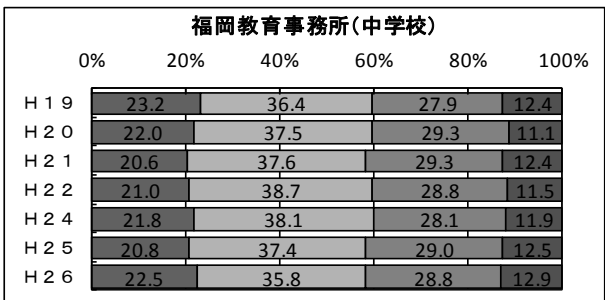
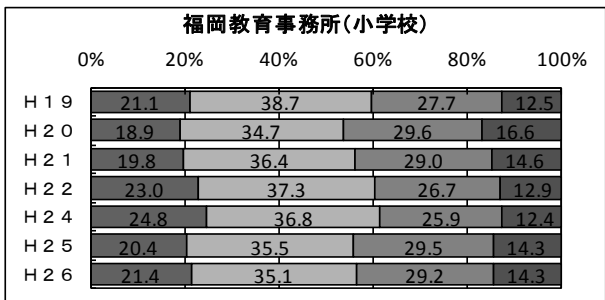
■ 中学校回答状況

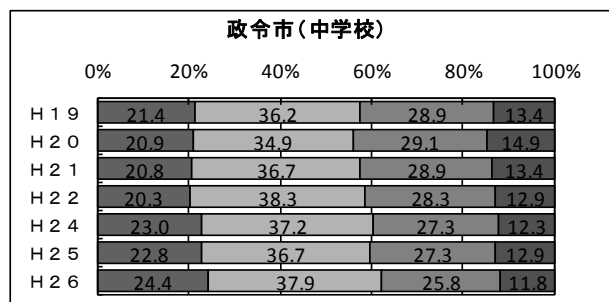
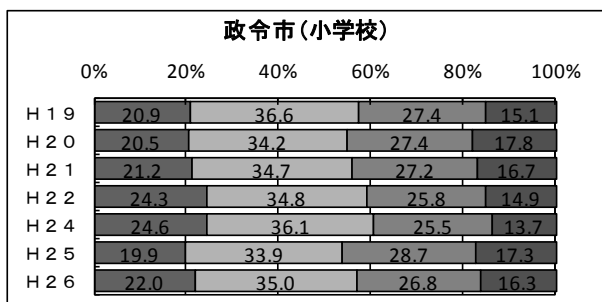
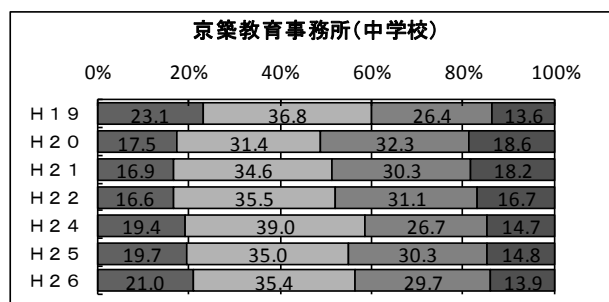
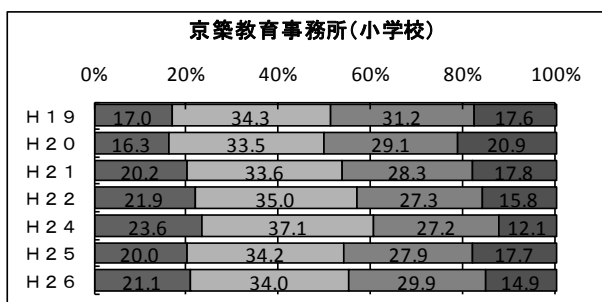
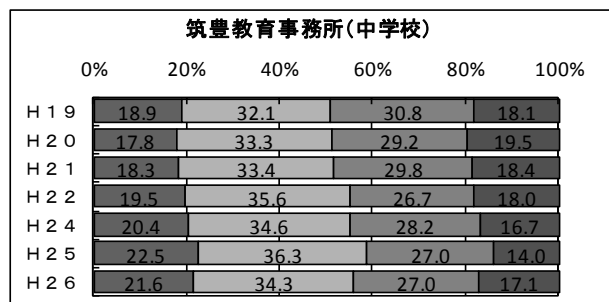
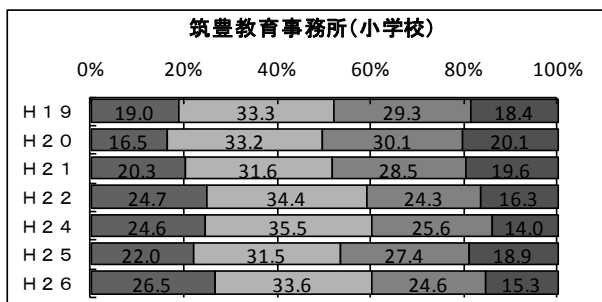
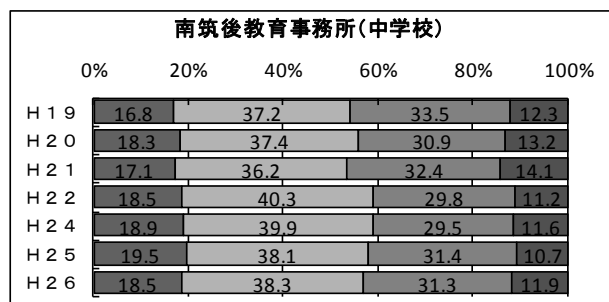
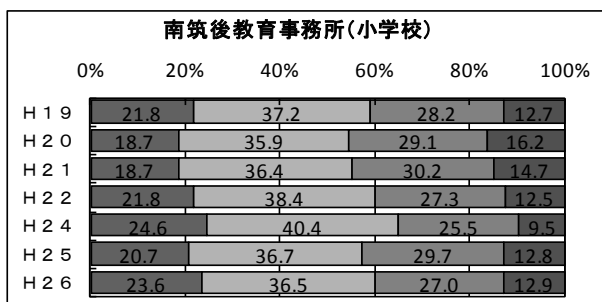
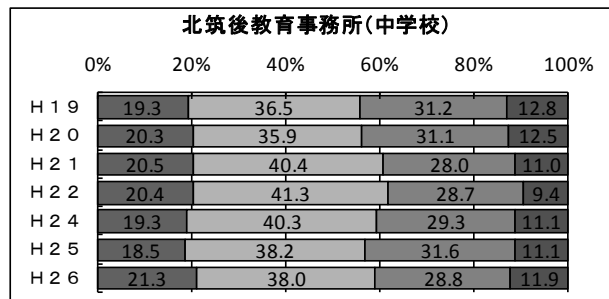
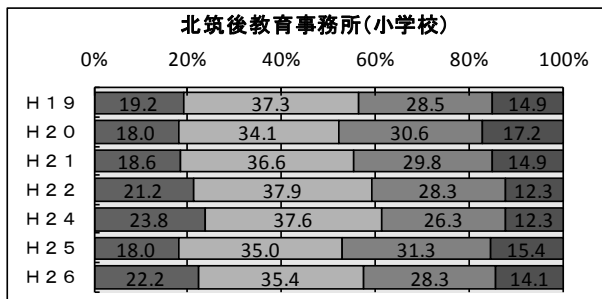
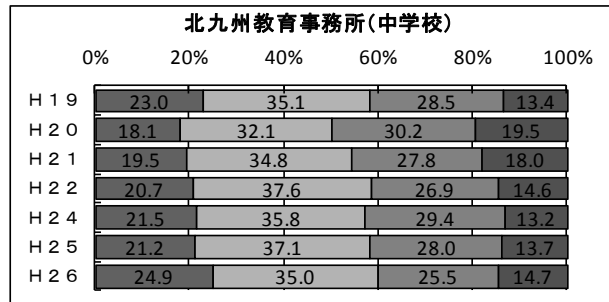
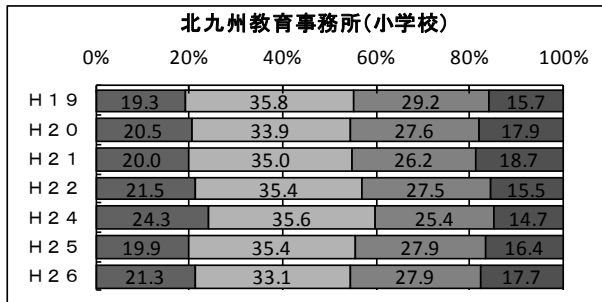


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況



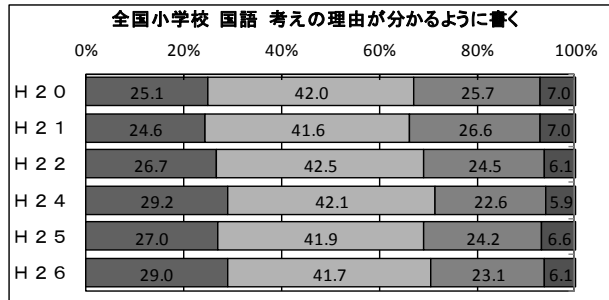
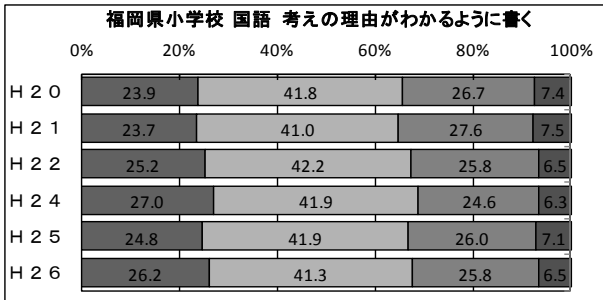


57 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。

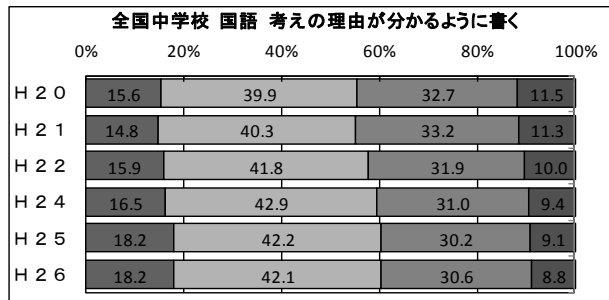
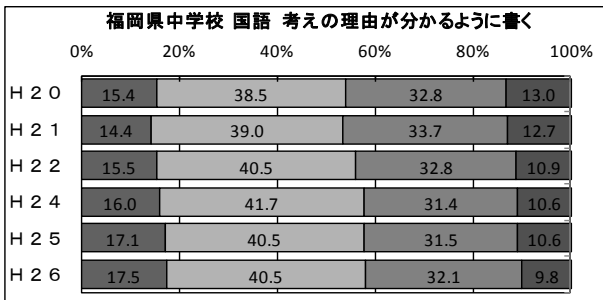
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合の合計は、平成25年度と比較して小学校、中学校とも増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

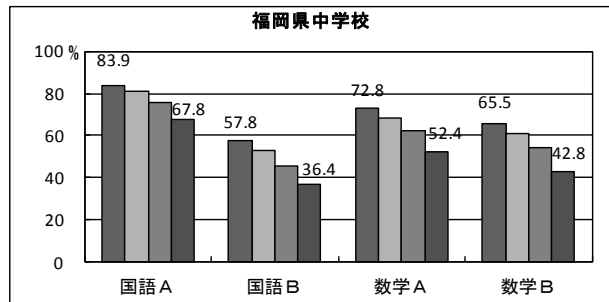
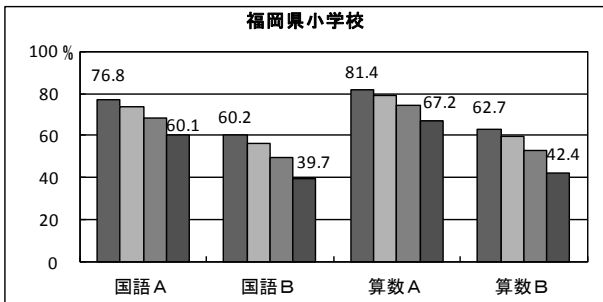
■ 小学校回答状況



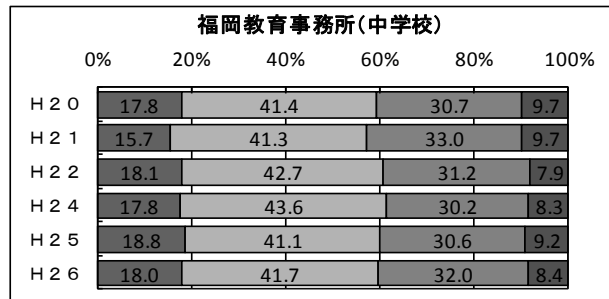
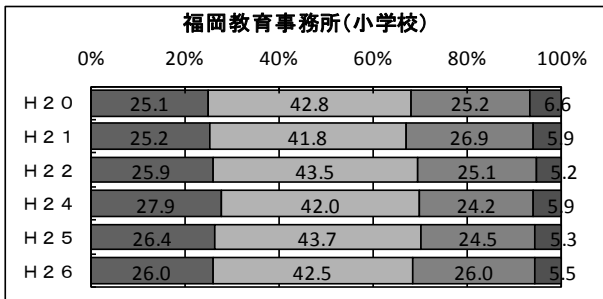
■ 中学校回答状況

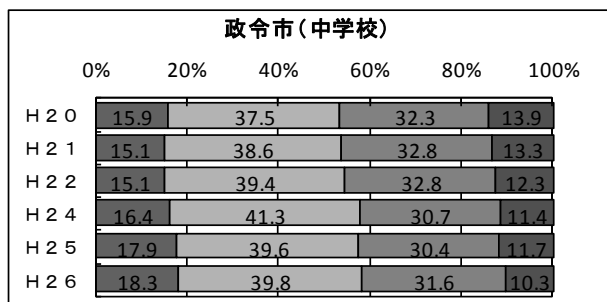
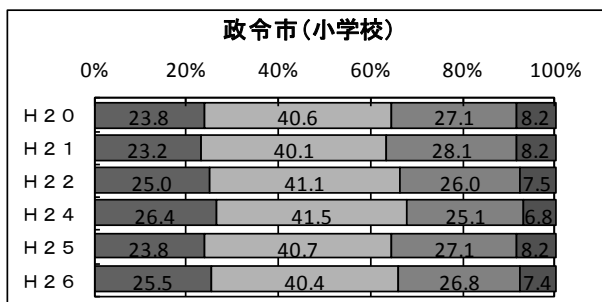
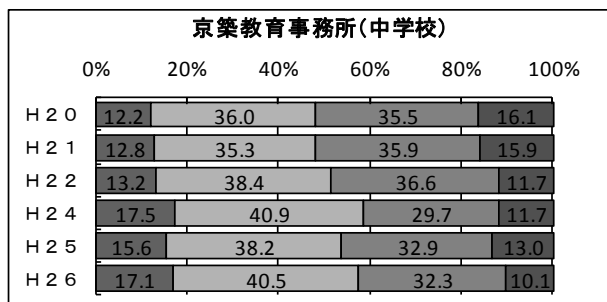
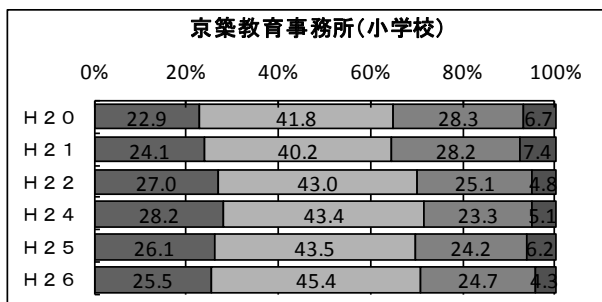
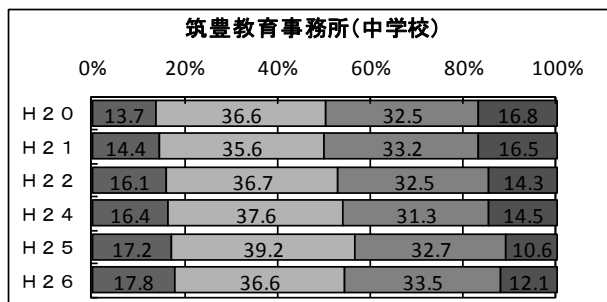
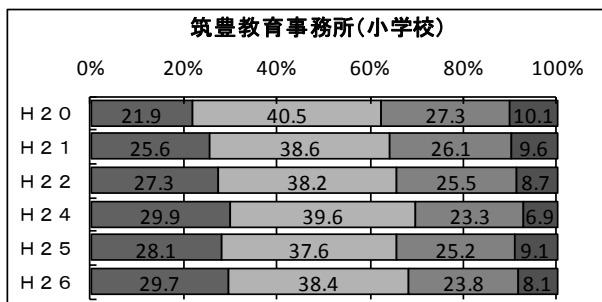
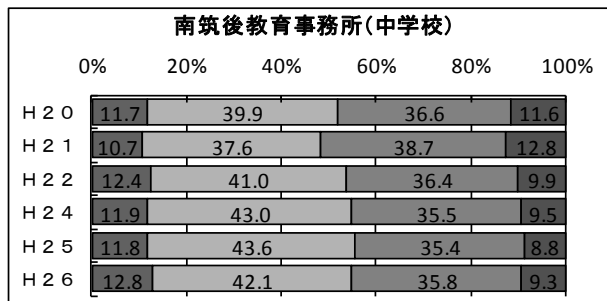
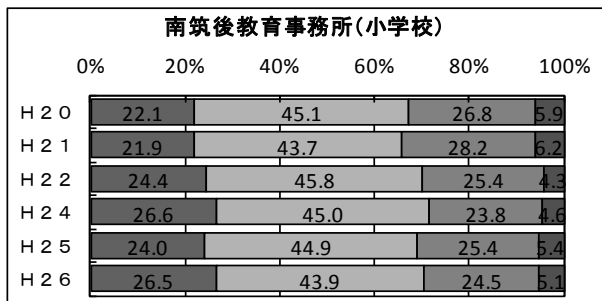
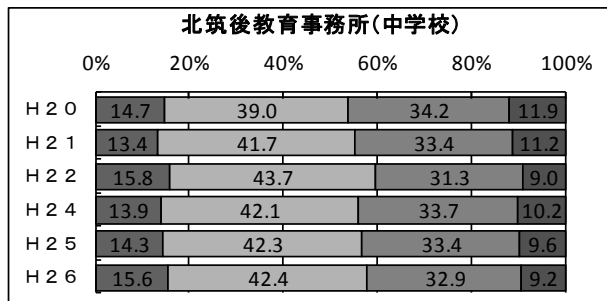
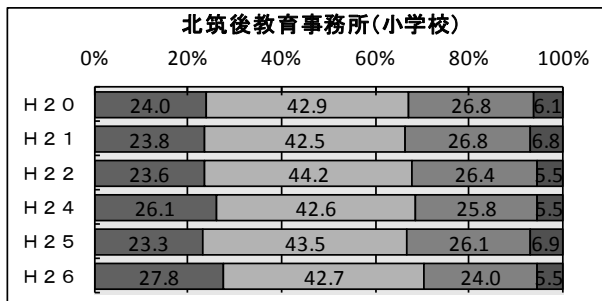
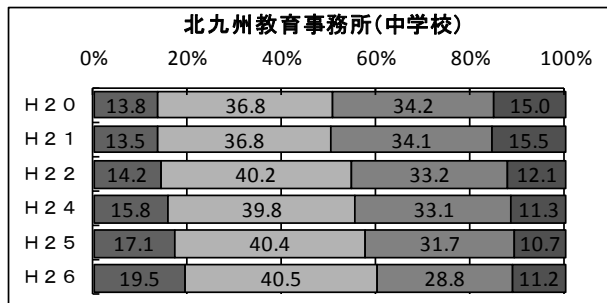
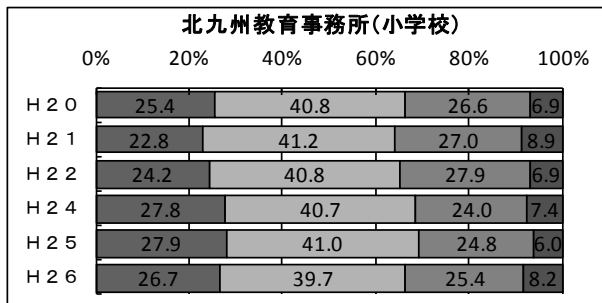


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況

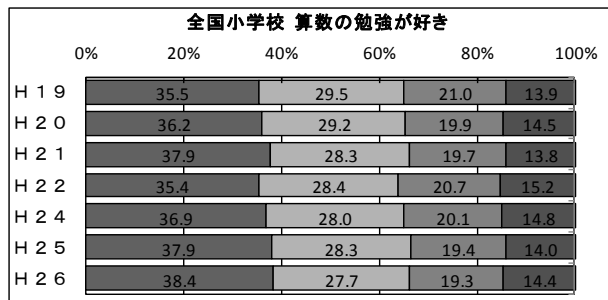
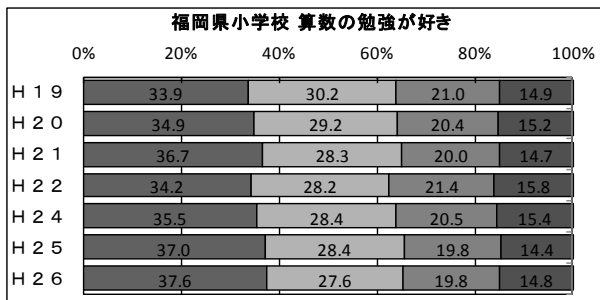




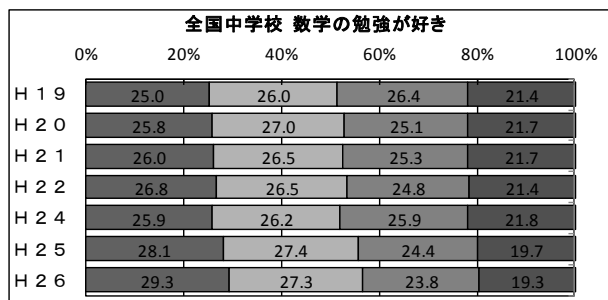
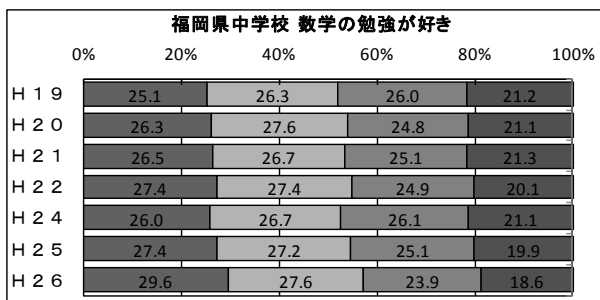
- 当てはまると回答している児童生徒の割合の合計は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

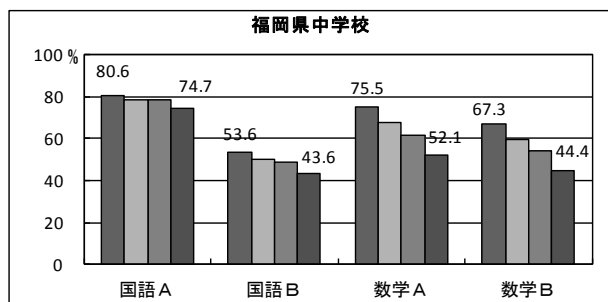
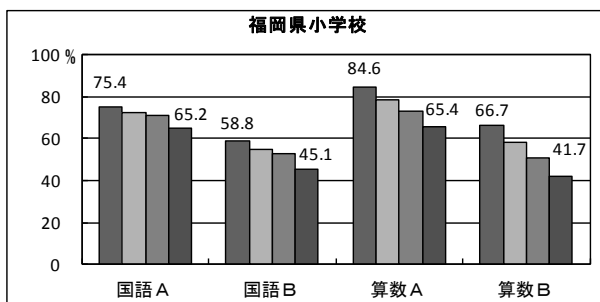
■ 小学校回答状況



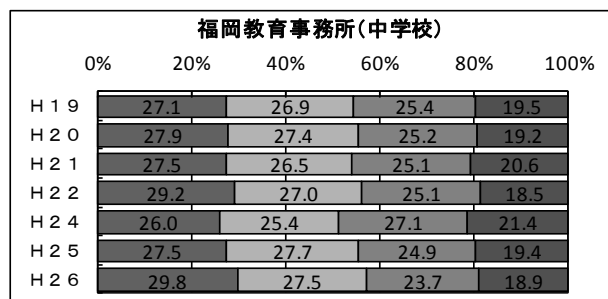
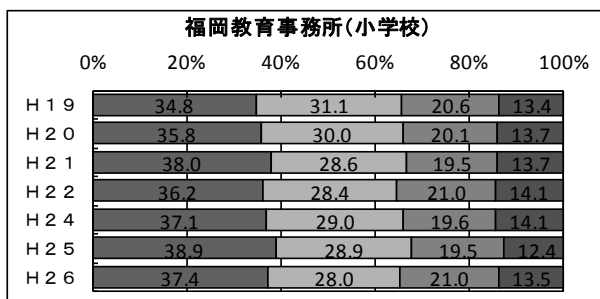
■ 中学校回答状況

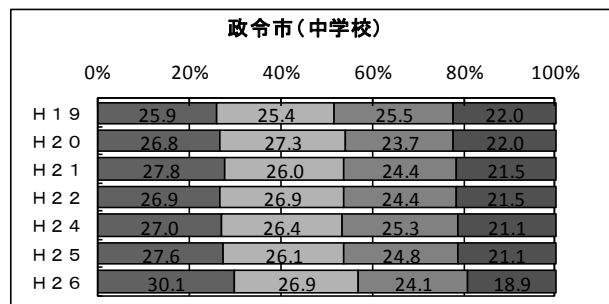
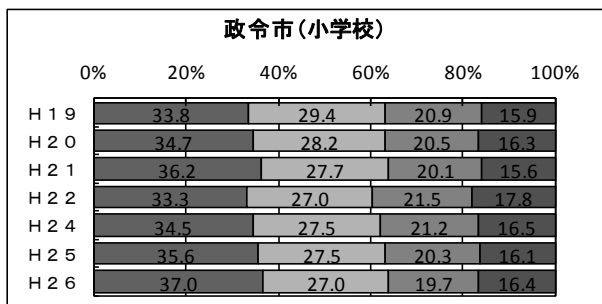
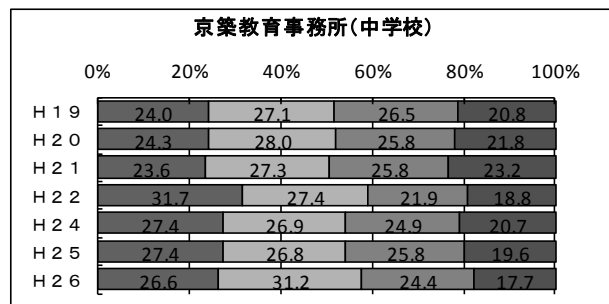
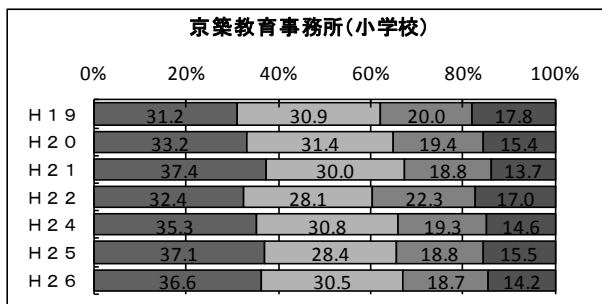
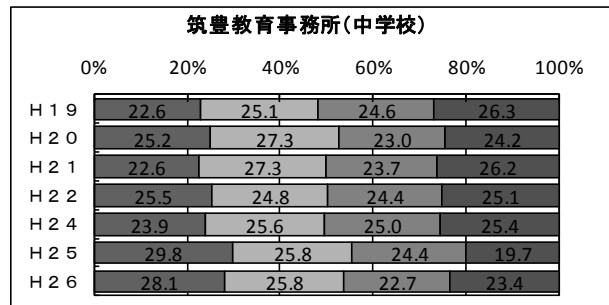
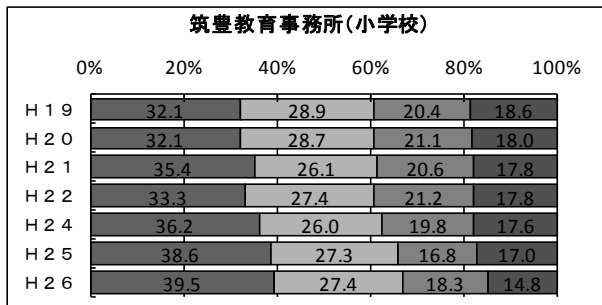
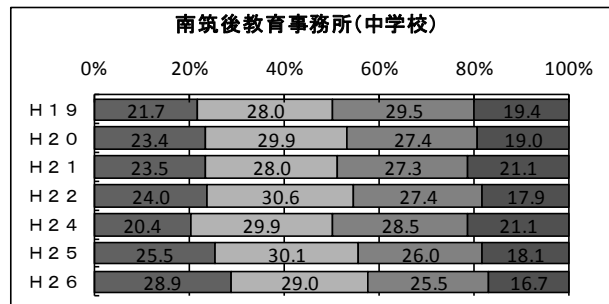
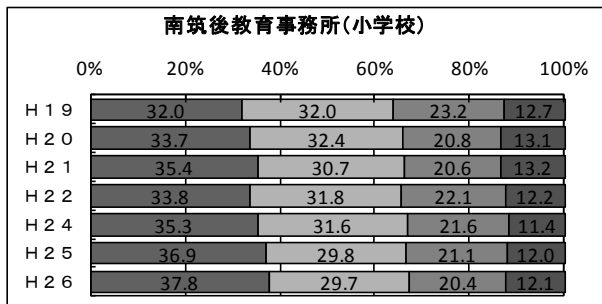
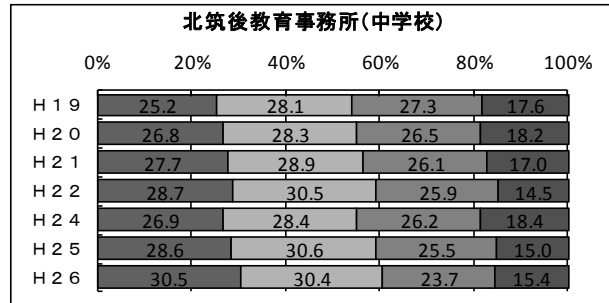
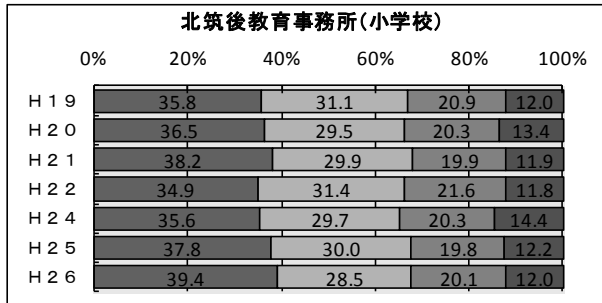
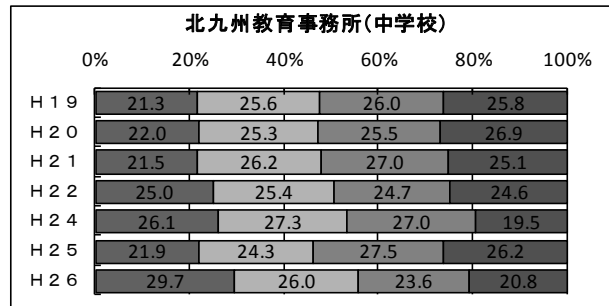
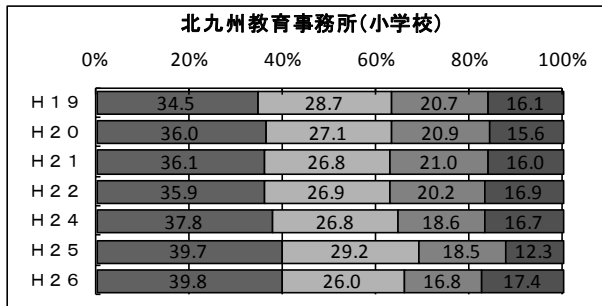


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況



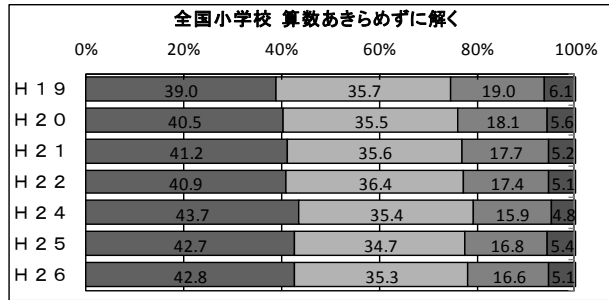
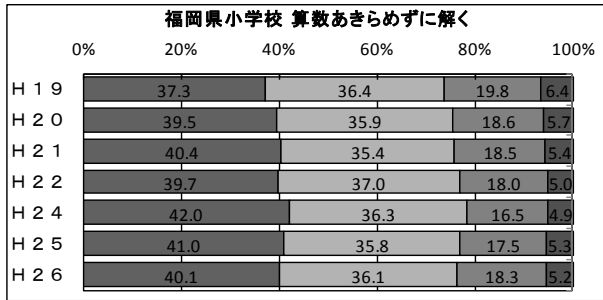


算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。

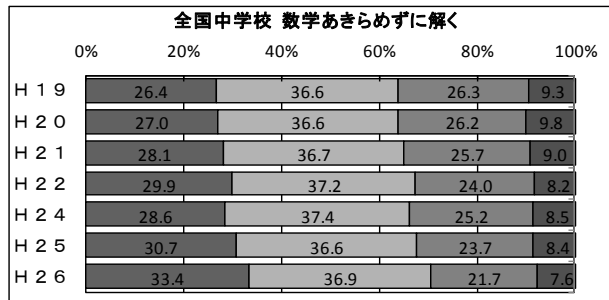
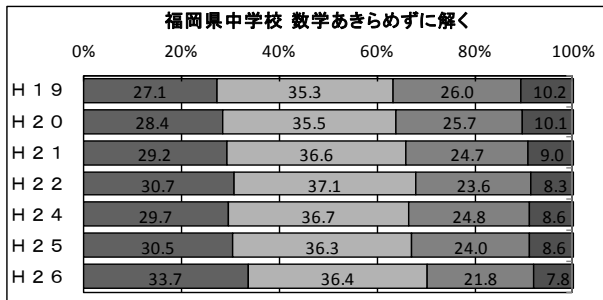
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校では減少し、中学校では増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

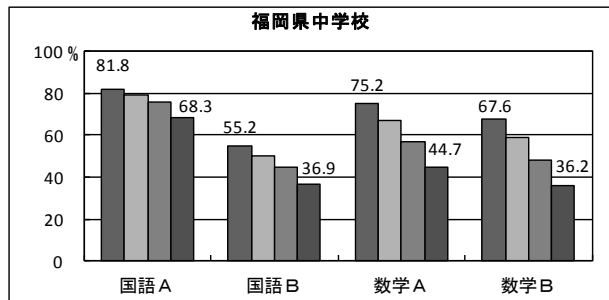
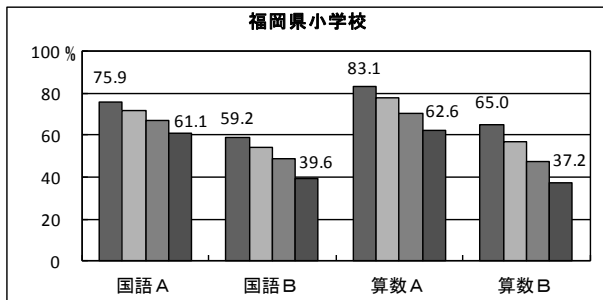
■ 小学校回答状況



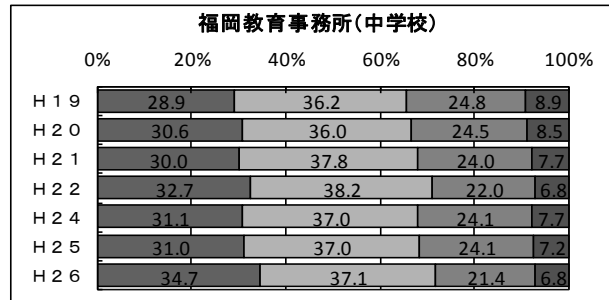
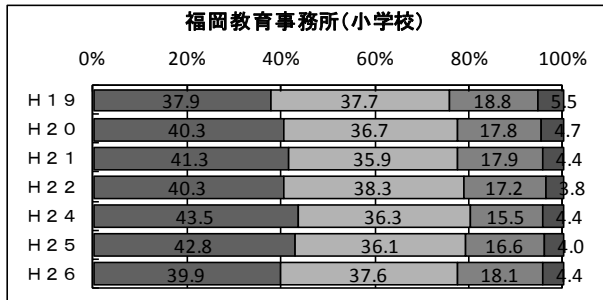
■ 中学校回答状況

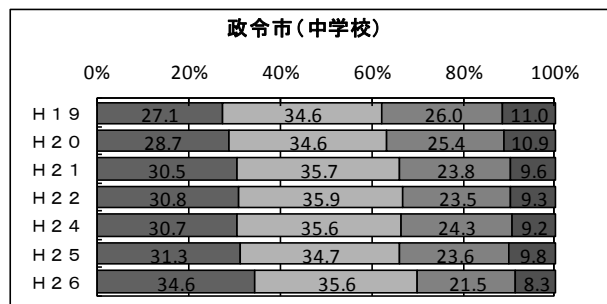
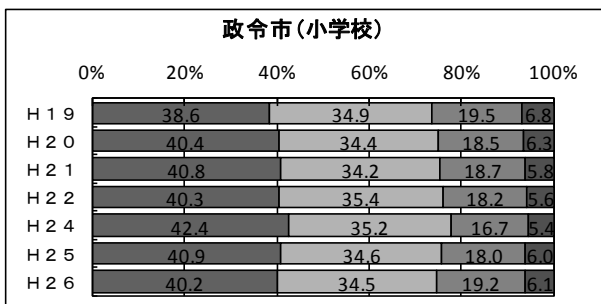
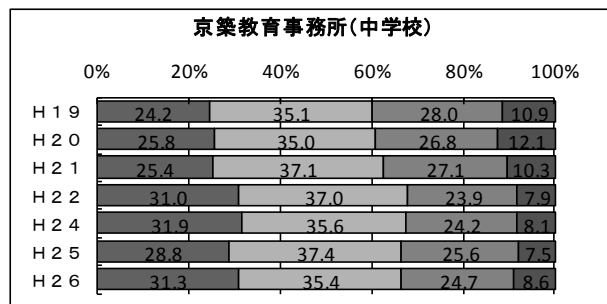
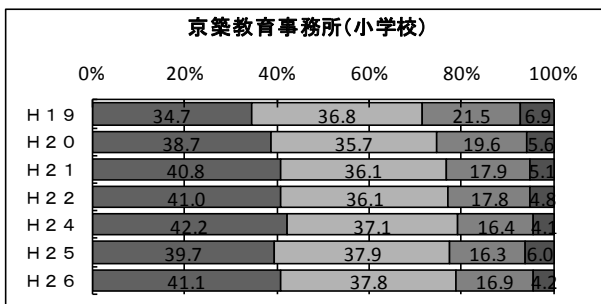
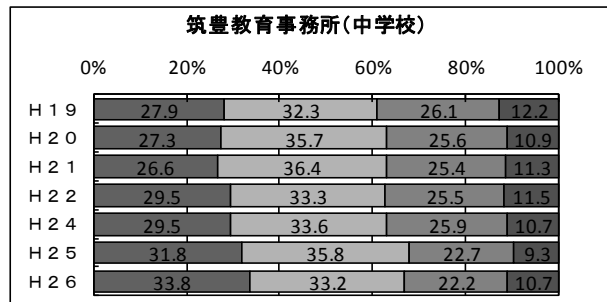
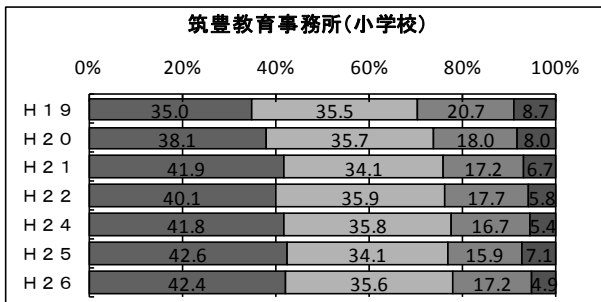
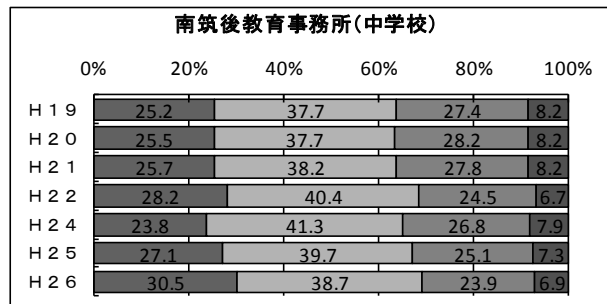
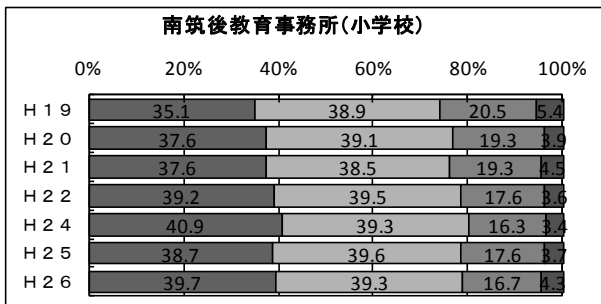
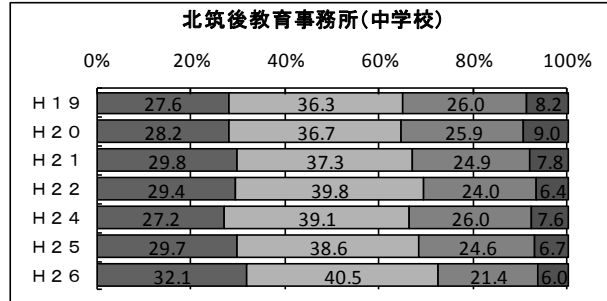
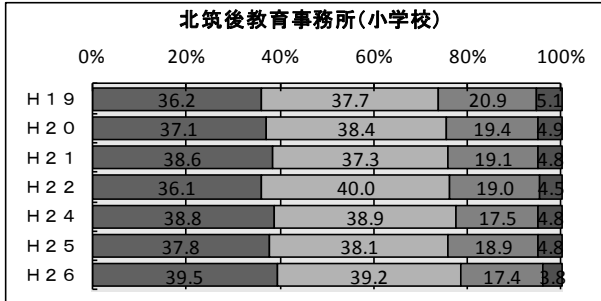
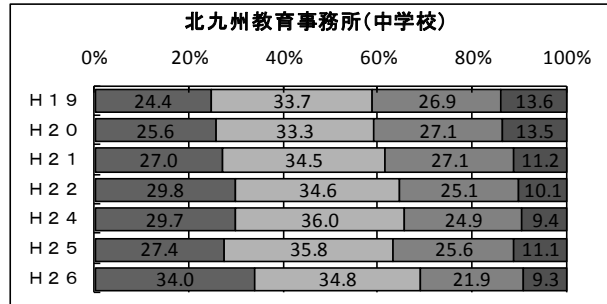
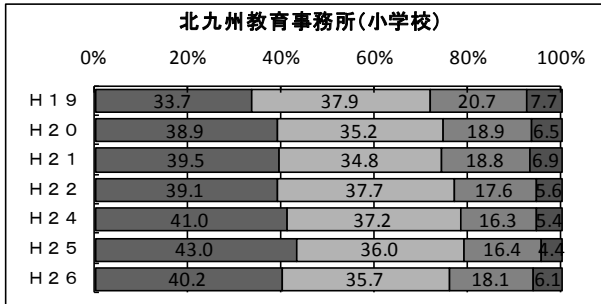


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





2 算数・数学の内容理解

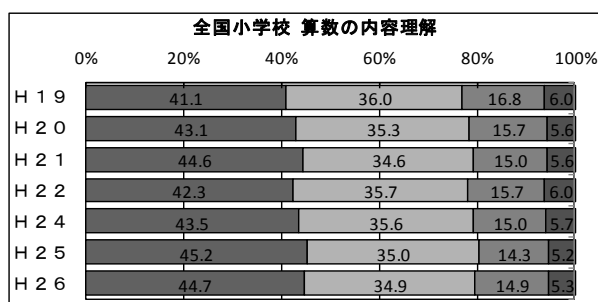
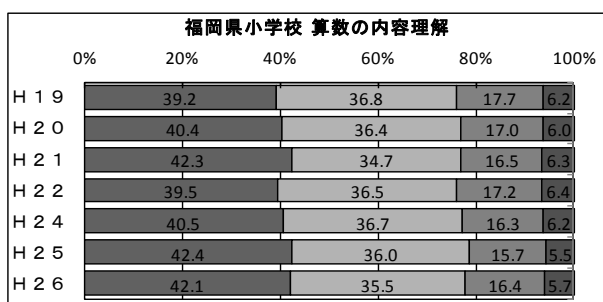
64

算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

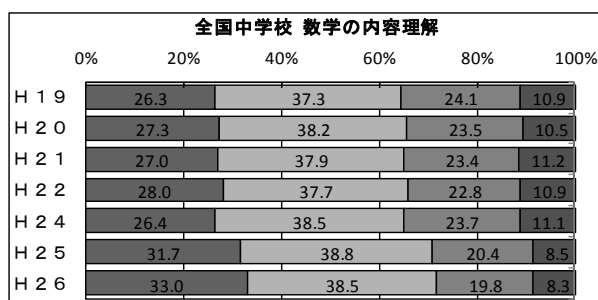
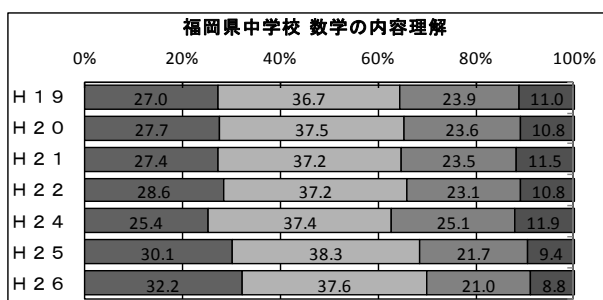
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校では減少し、中学校では増加した。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

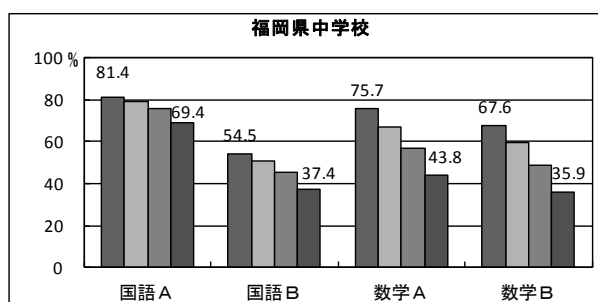
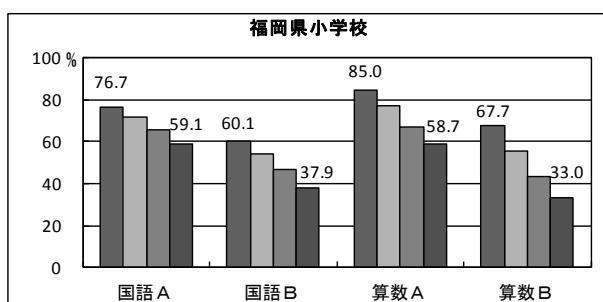
■ 小学校回答状況



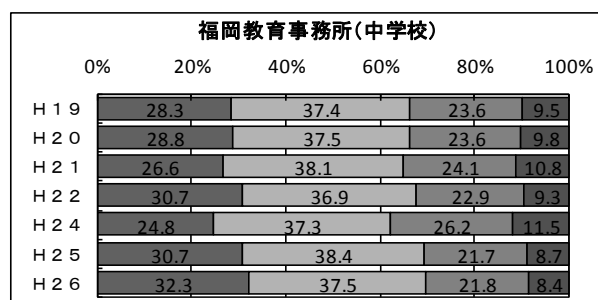
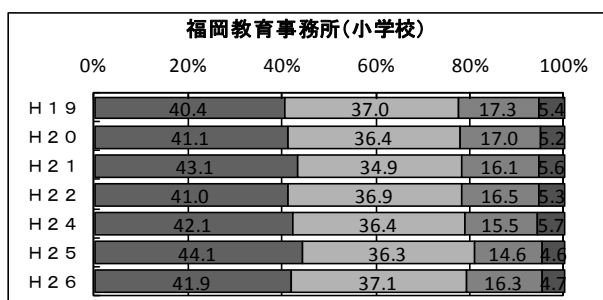
■ 中学校回答状況

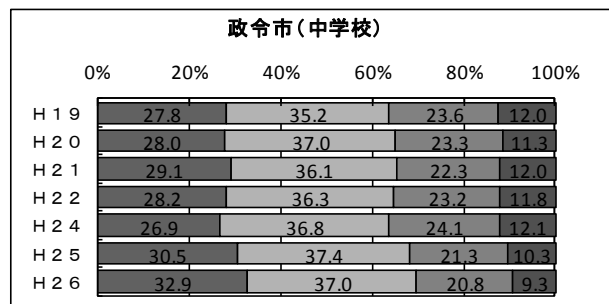
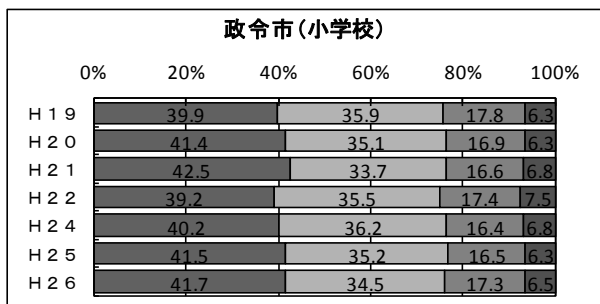
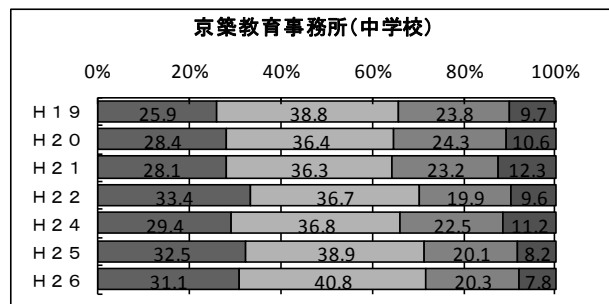
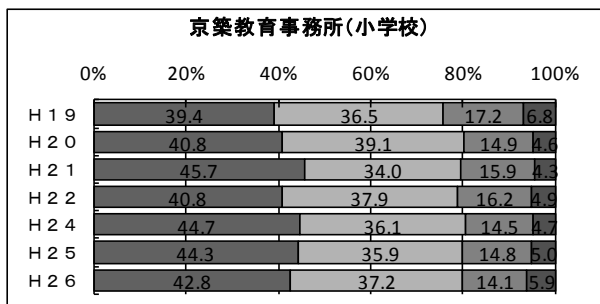
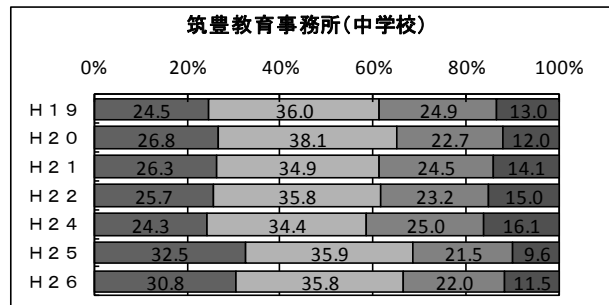
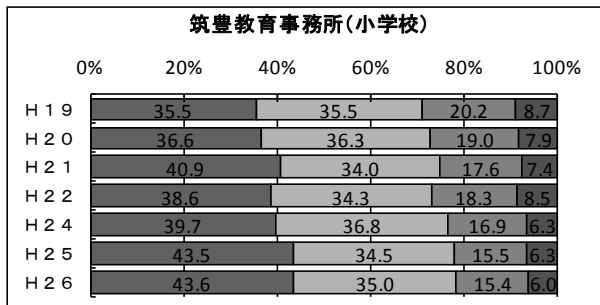
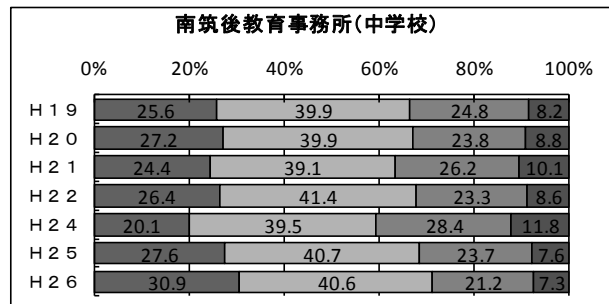
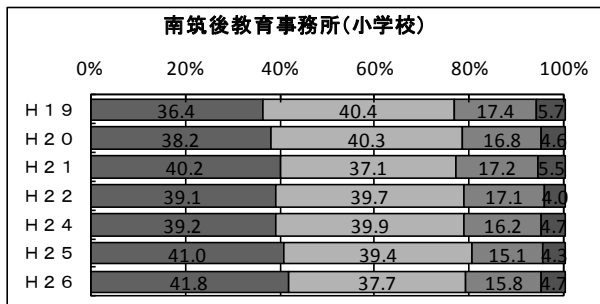
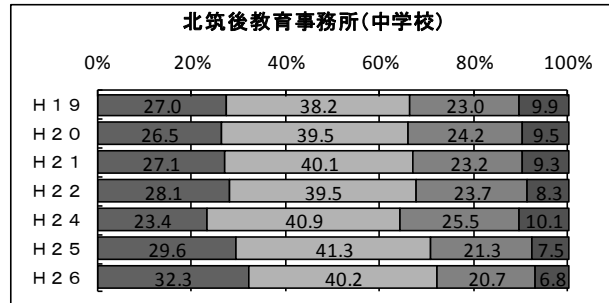
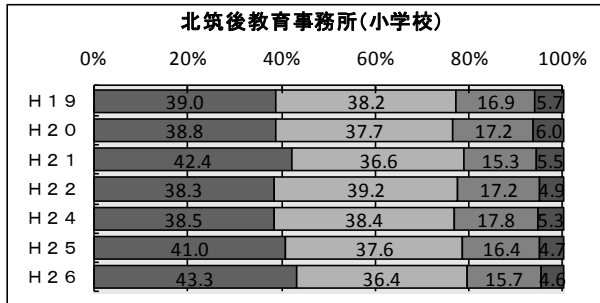
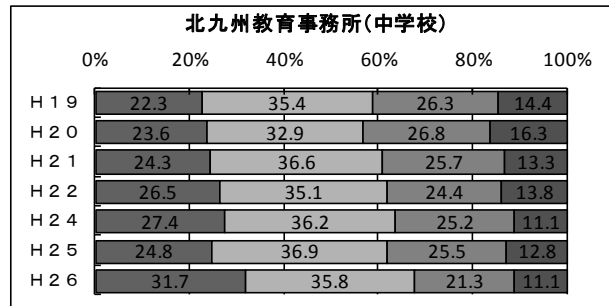
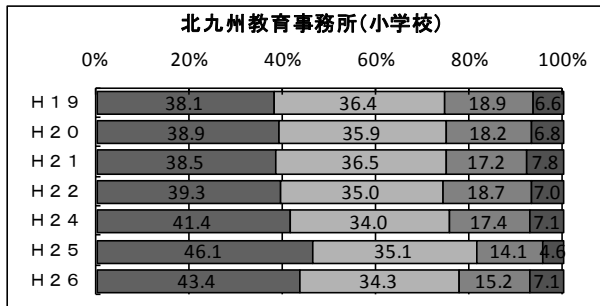


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





3 発表の機会

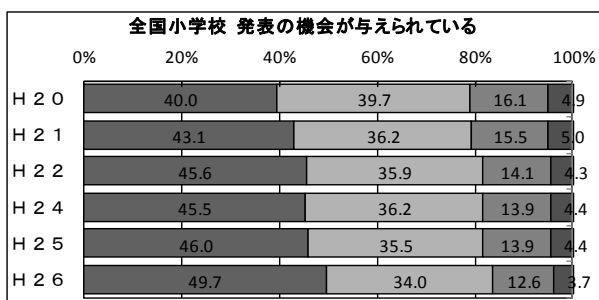
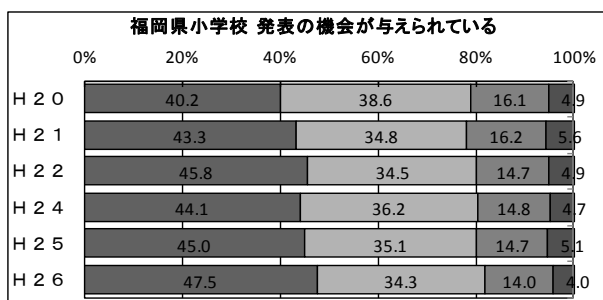
※平成20年度から加えられた質問

42 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。

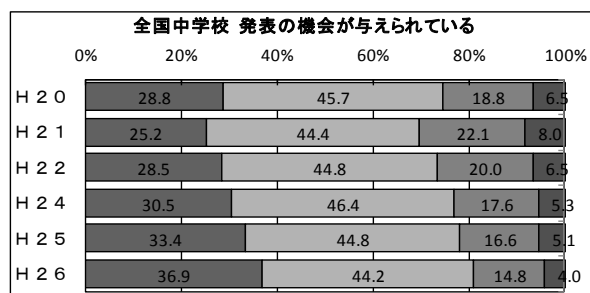
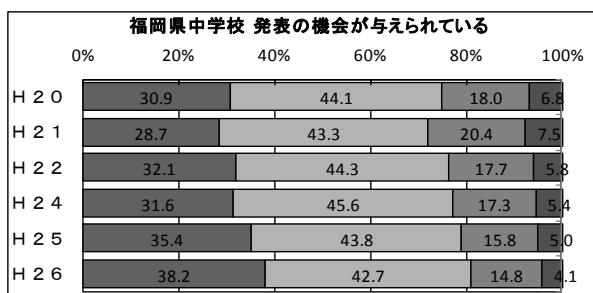
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加した。また、中学校では平成21年度以降着実に増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

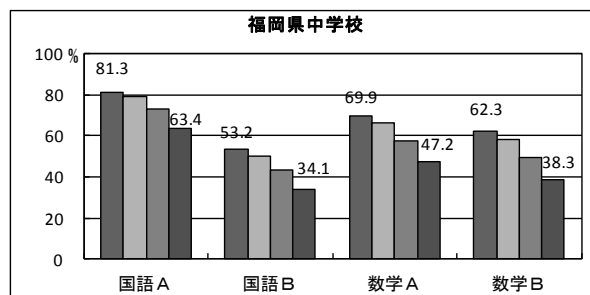
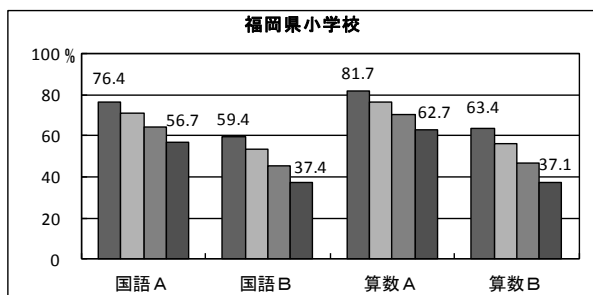
■ 小学校回答状況



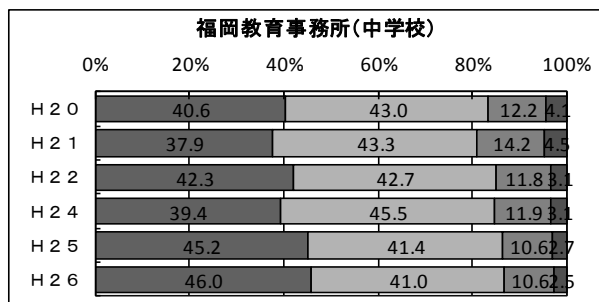
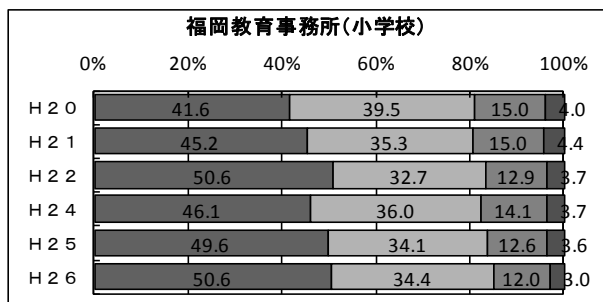
■ 中学校回答状況

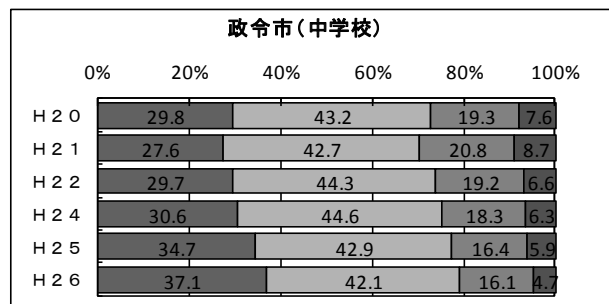
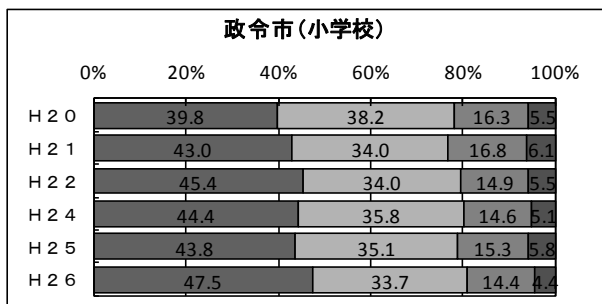
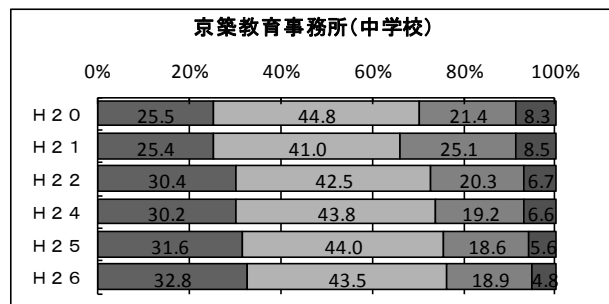
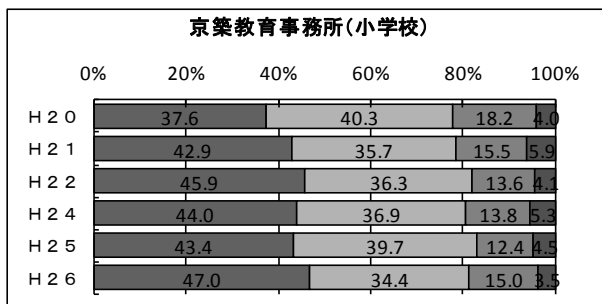
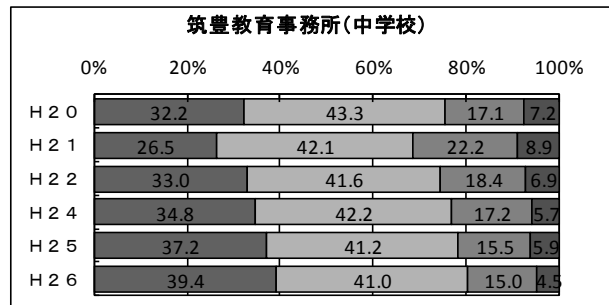
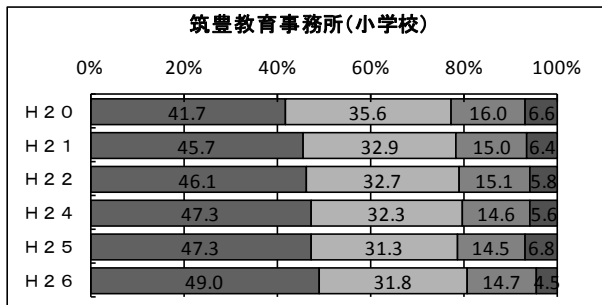
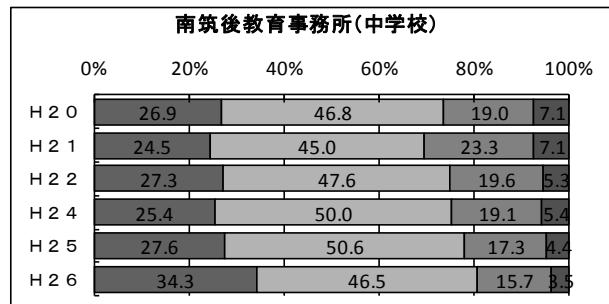
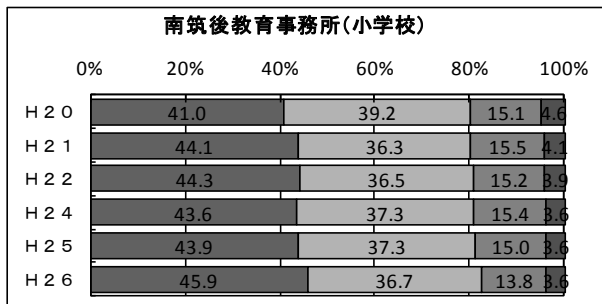
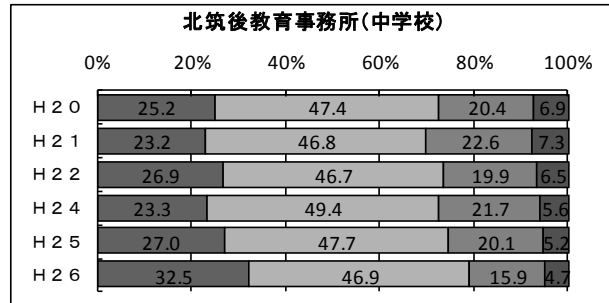
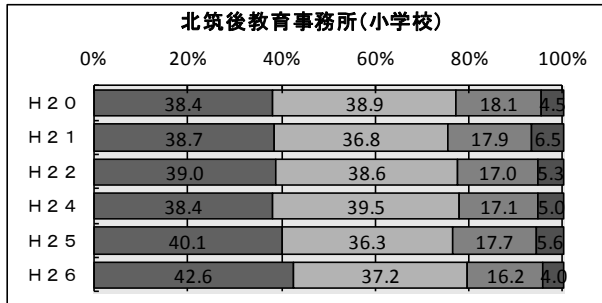
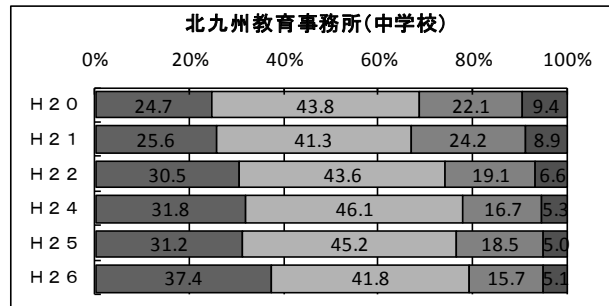
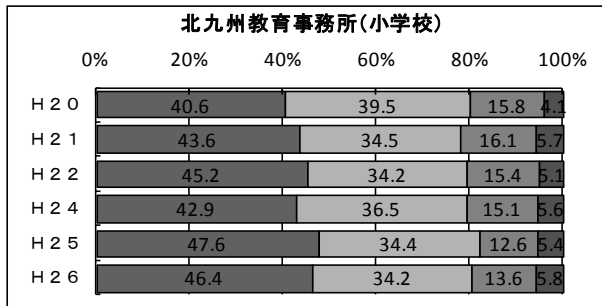


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





4 家庭学習

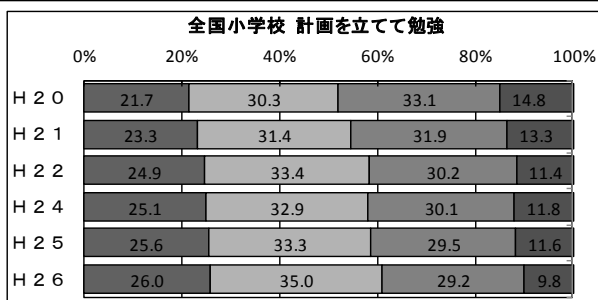
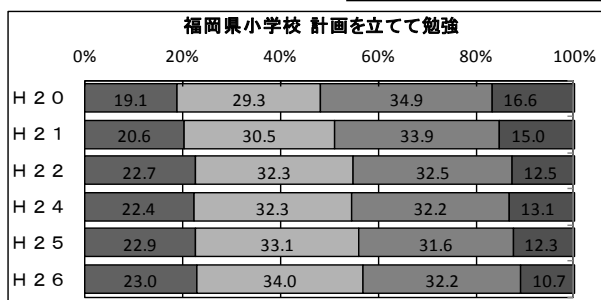
※平成20年度から加えられた質問

21 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

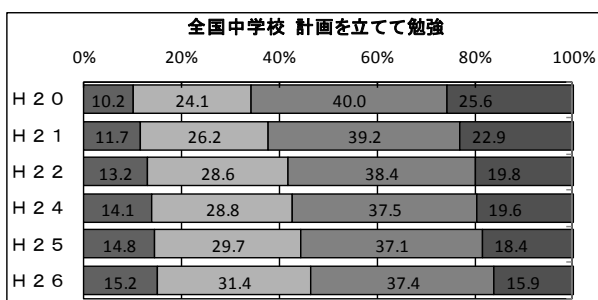
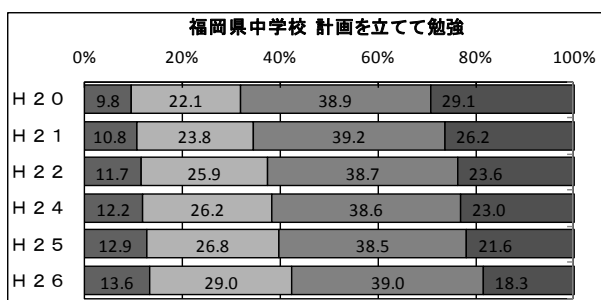
- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも増加傾向にあり、まったくしないと回答している児童生徒の割合は、減少傾向にある。
- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 小学校回答状況

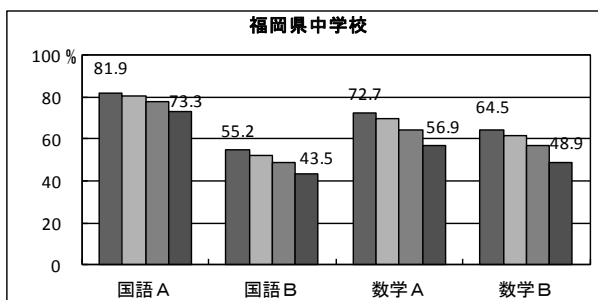
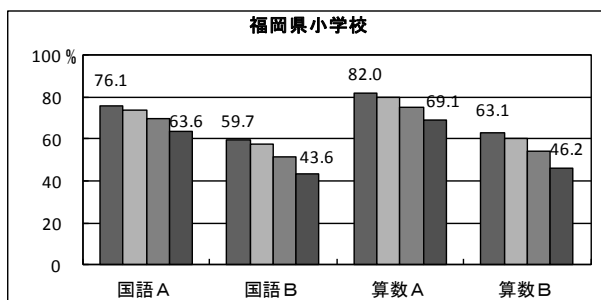
■ している ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない



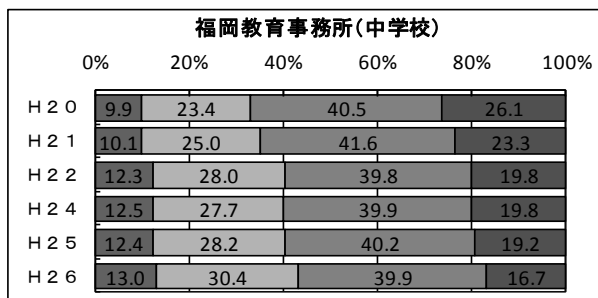
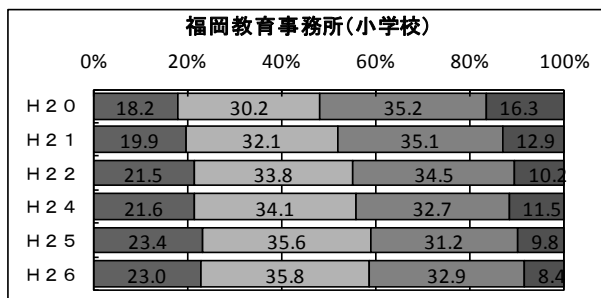
■ 中学校回答状況

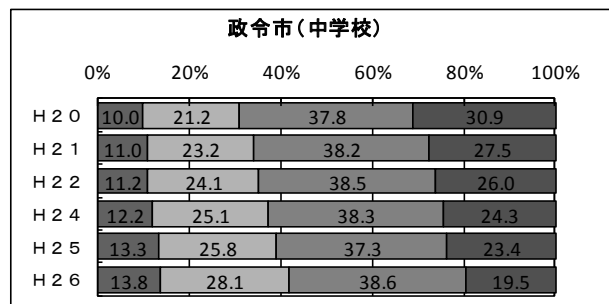
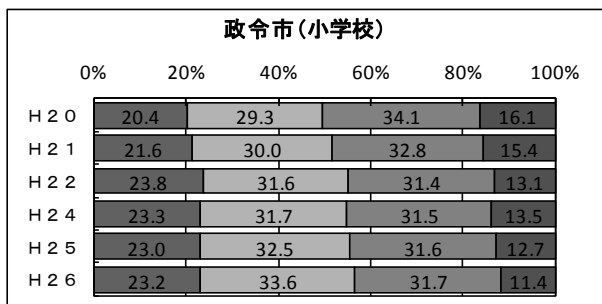
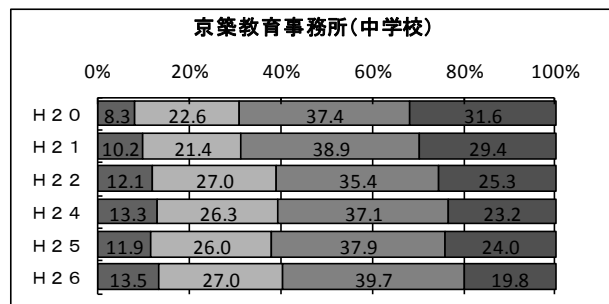
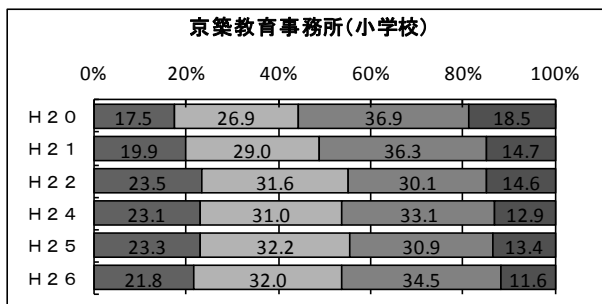
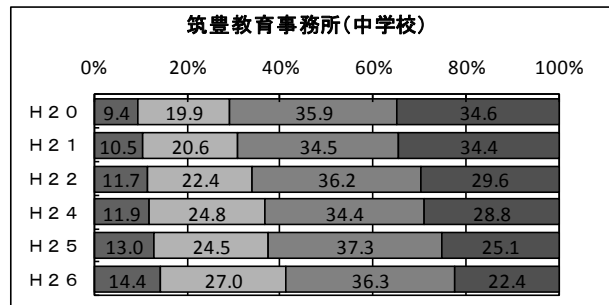
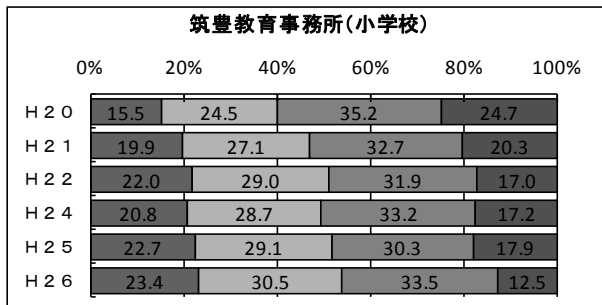
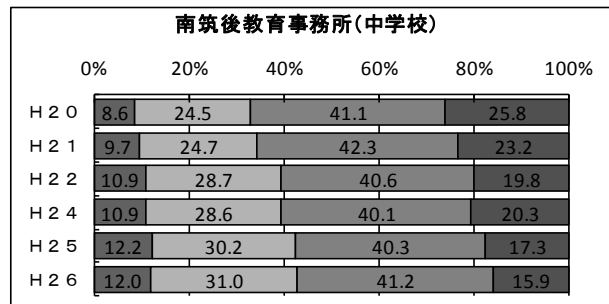
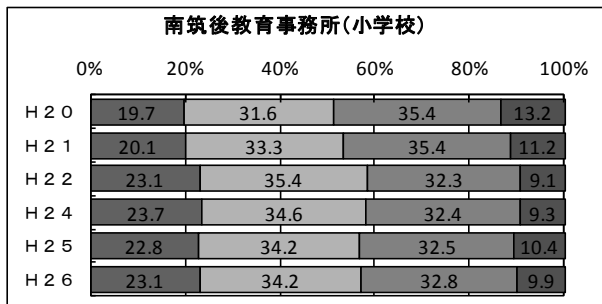
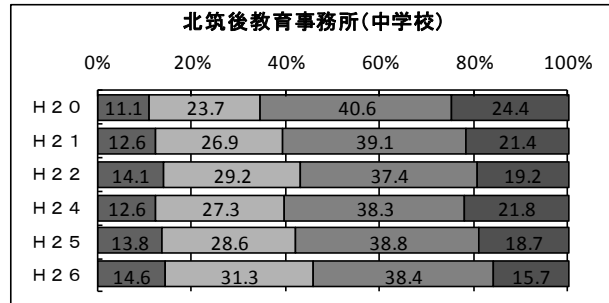
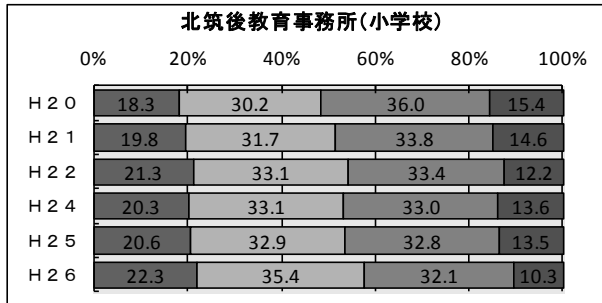
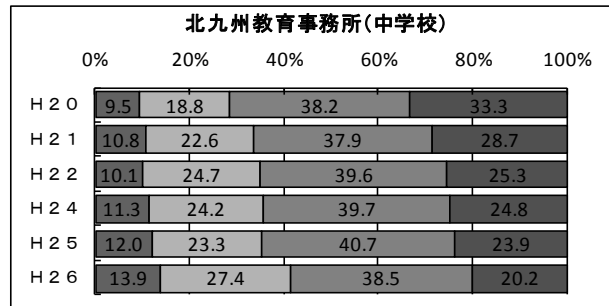
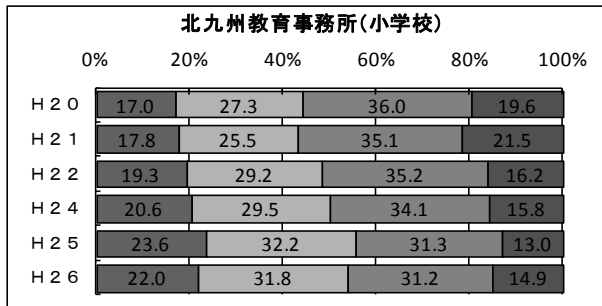


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況



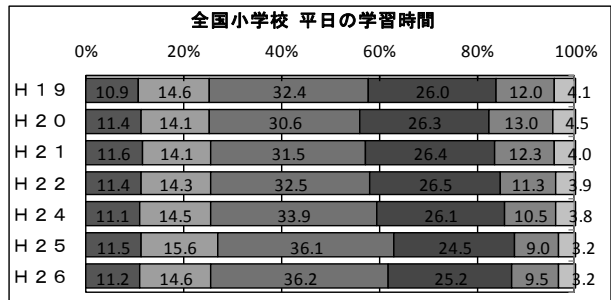
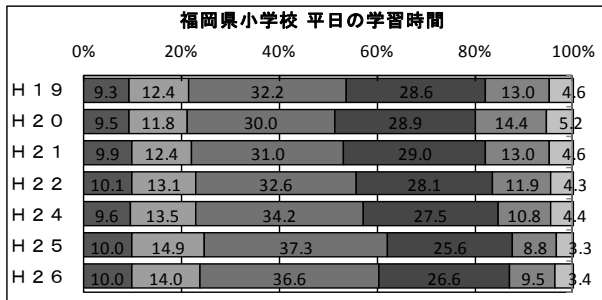


学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか（学習塾や家庭教師も含む）。

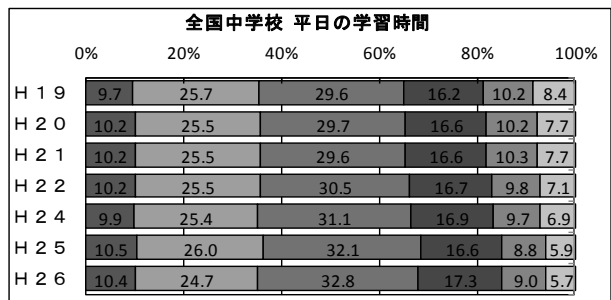
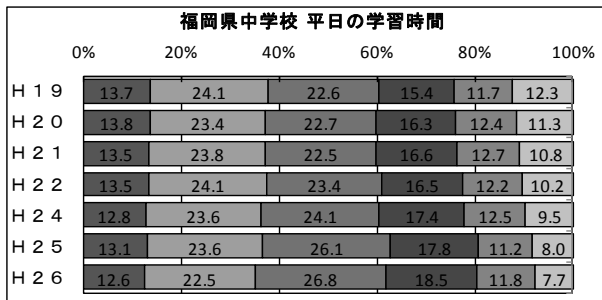
- 平日に家庭学習を小学校1時間以上、中学校2時間以上する児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに減少した。
- 平日の家庭学習の時間が多い児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。このような傾向は、「休みの日の勉強時間」「家で学校の宿題をする」「家で学校の授業の予習をする」「家で学校の授業の復習をする」といった質問項目においても同様に見られる。

■ 3時間以上 ■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 30分以上 ■ 30分未満 ■ 全く

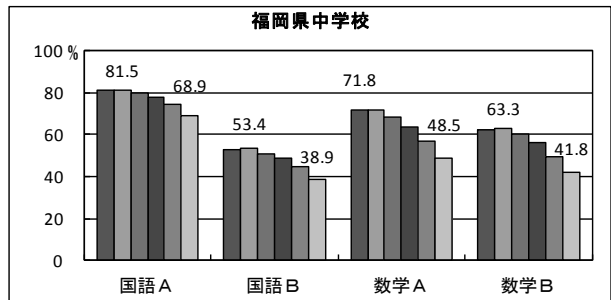
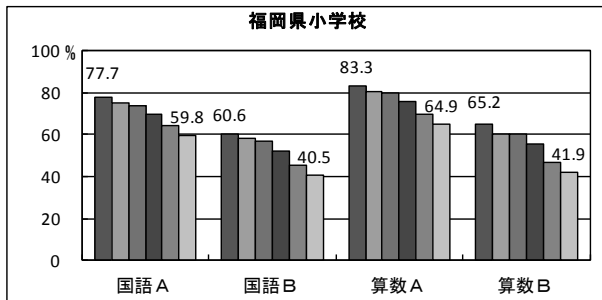
■ 小学校回答状況



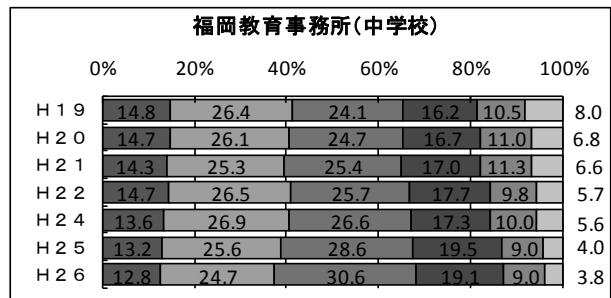
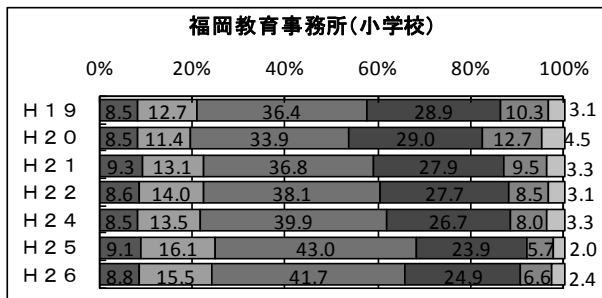
■ 中学校回答状況

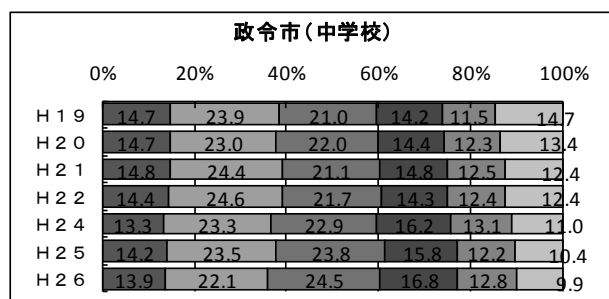
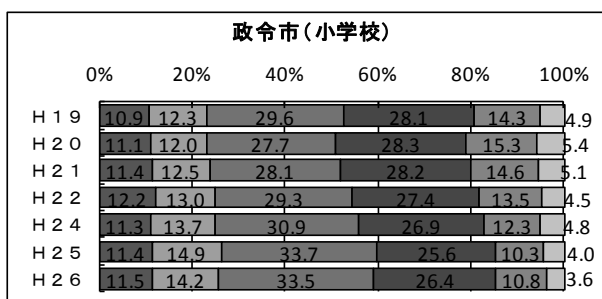
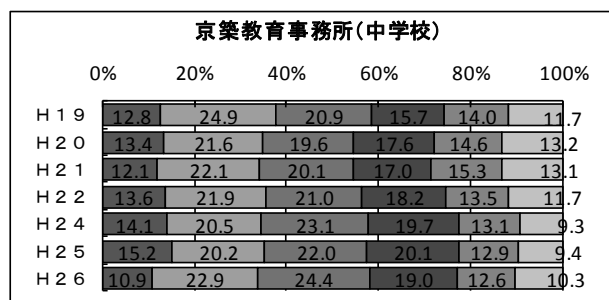
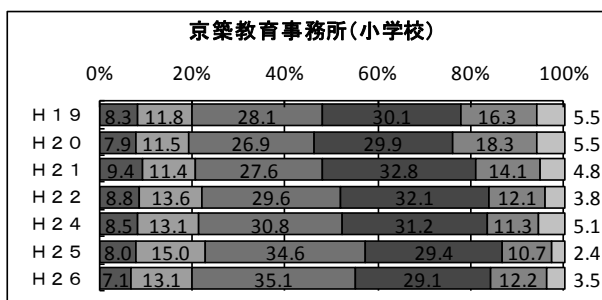
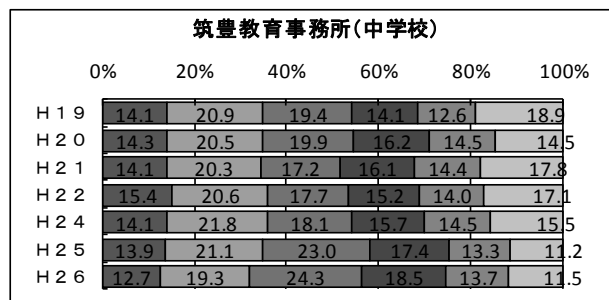
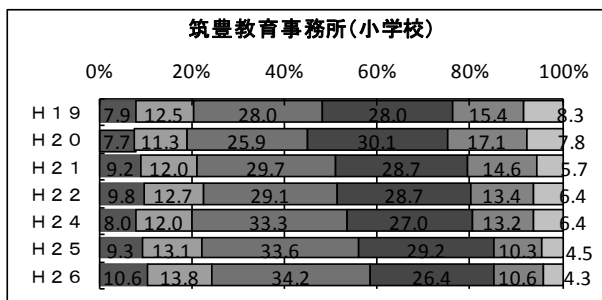
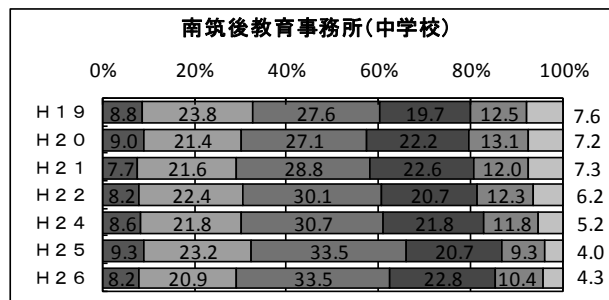
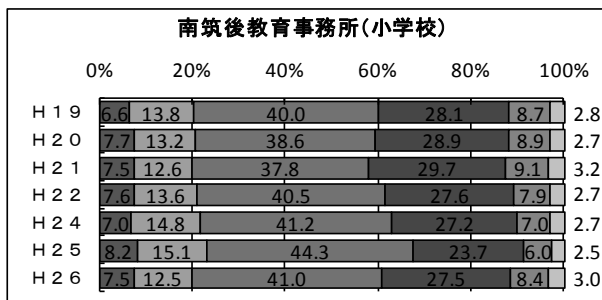
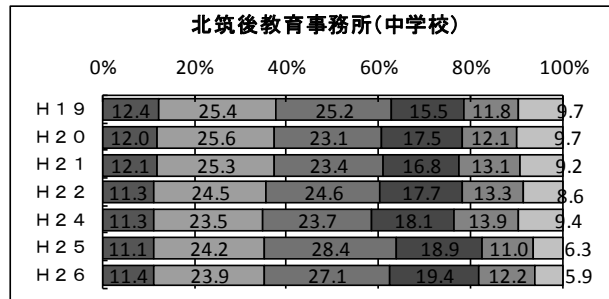
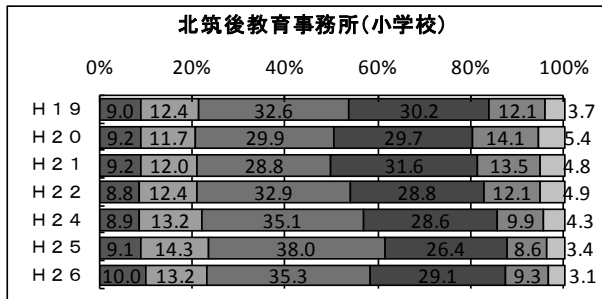
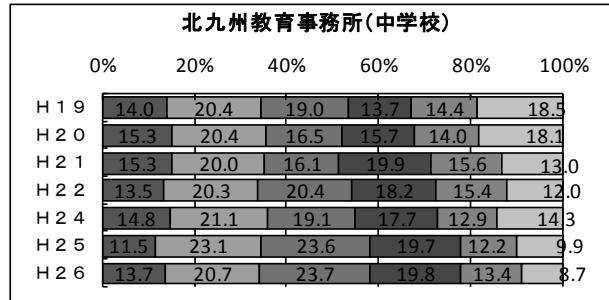
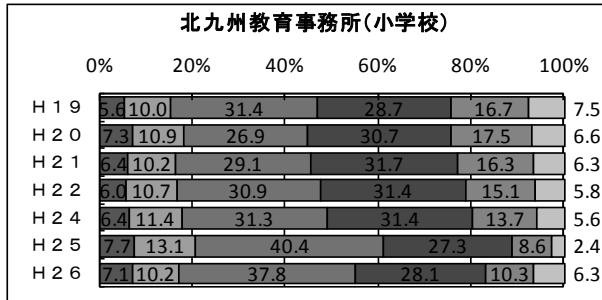


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





5 読書

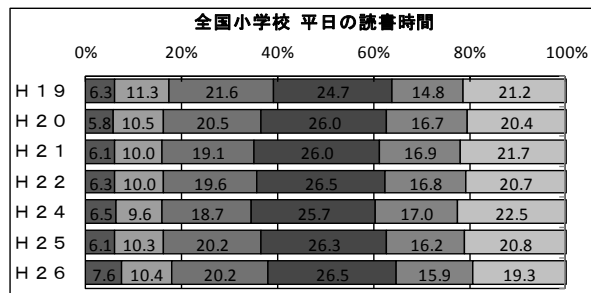
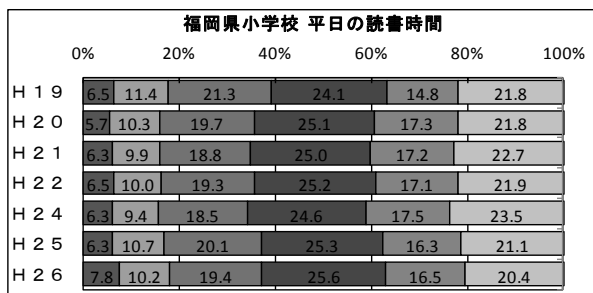
17

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

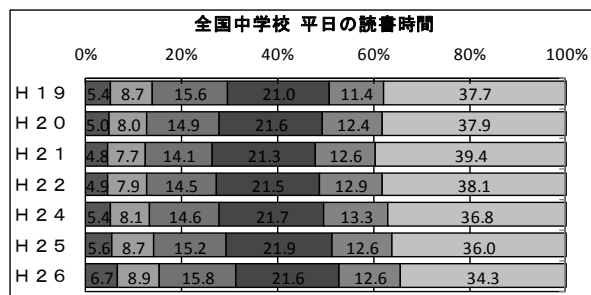
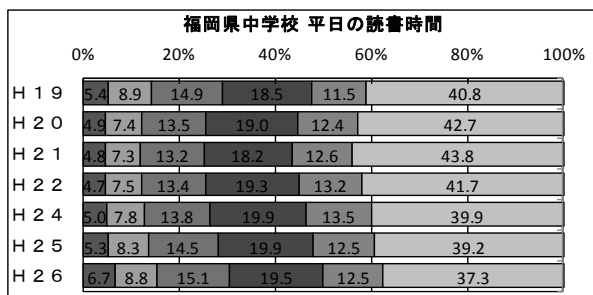
- 30分以上読書をしていると回答している児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加している。
- 全く読書をしないと回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において低い傾向にある。

■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 30分以上 ■ 10分以下 ■ 10分未満 ■ 全

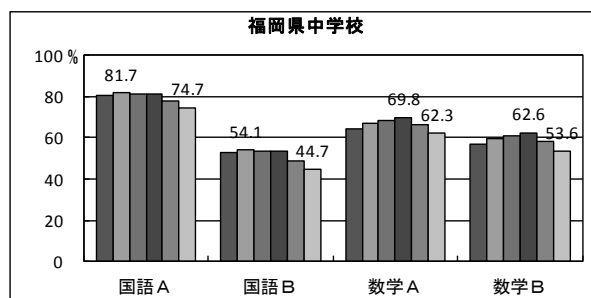
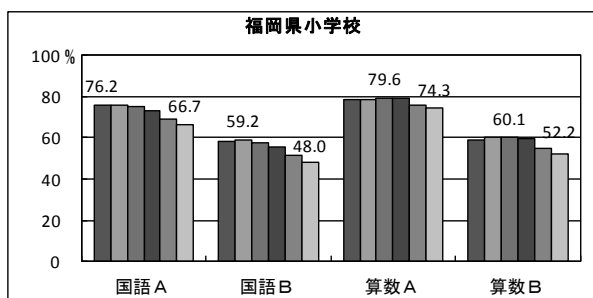
■ 小学校回答状況



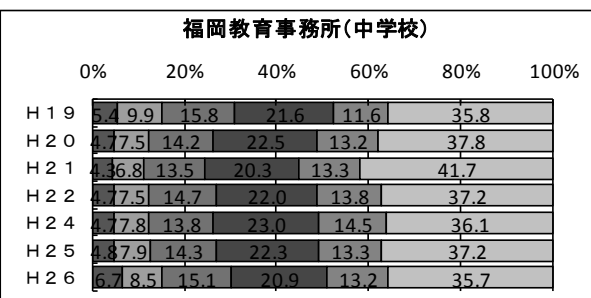
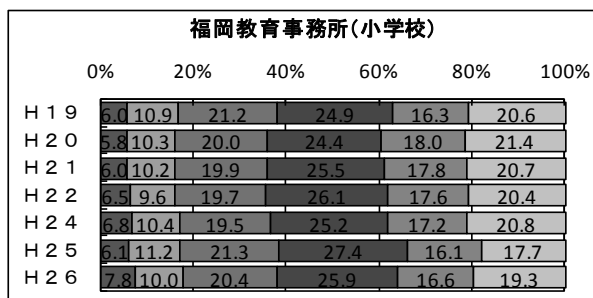
■ 中学校回答状況

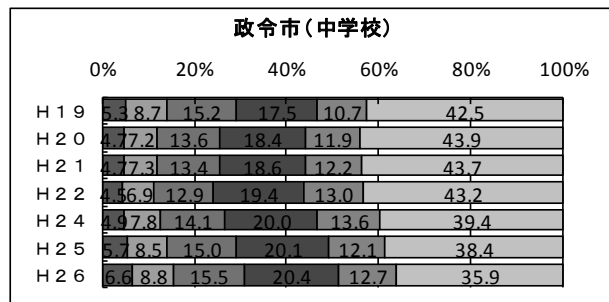
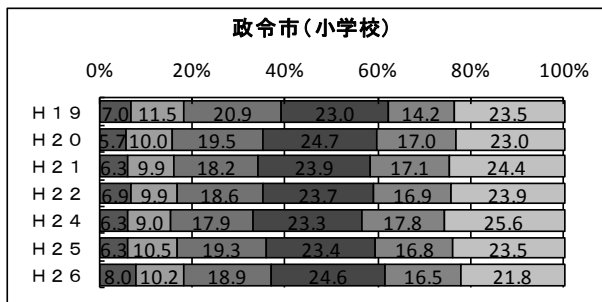
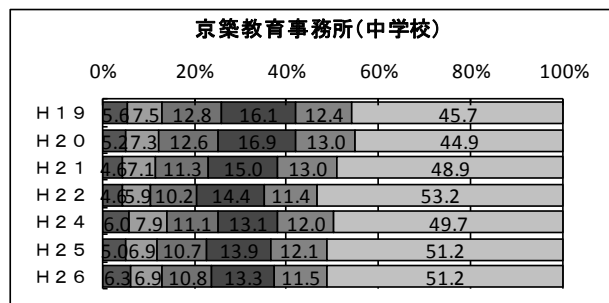
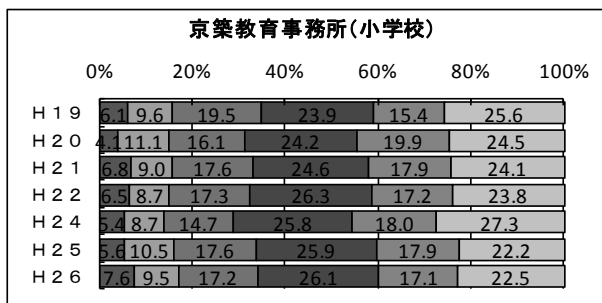
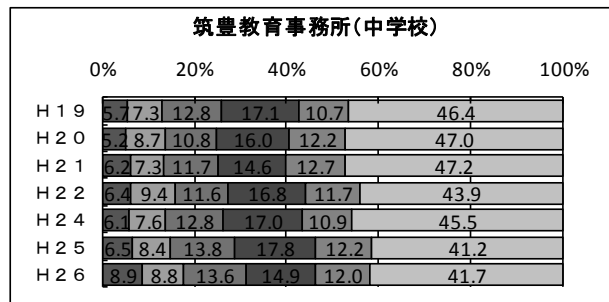
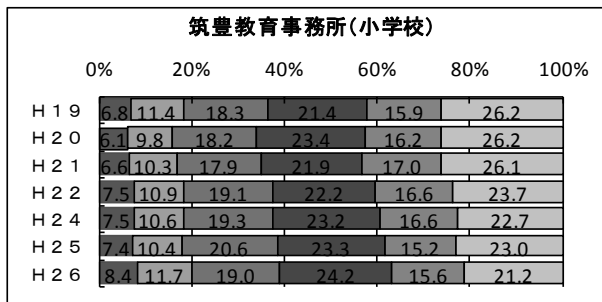
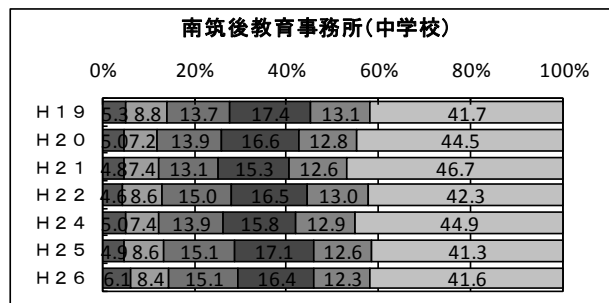
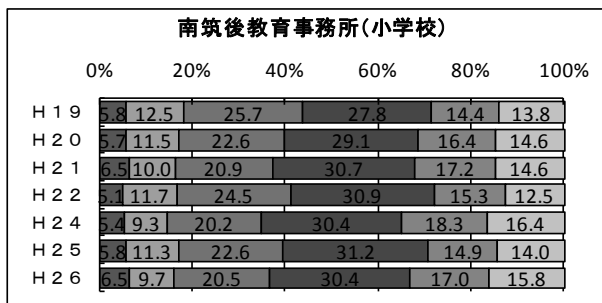
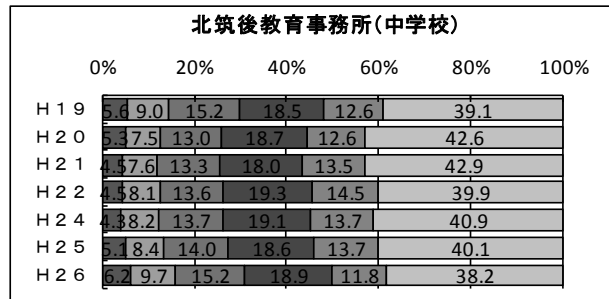
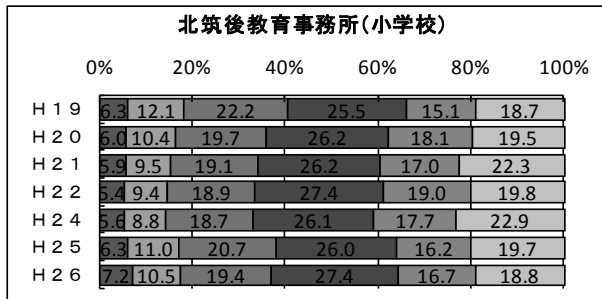
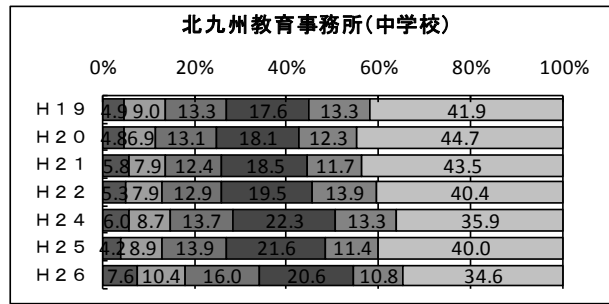
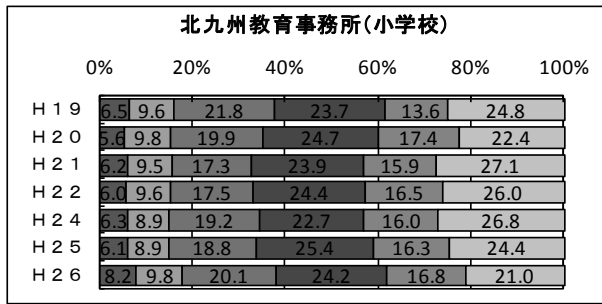


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





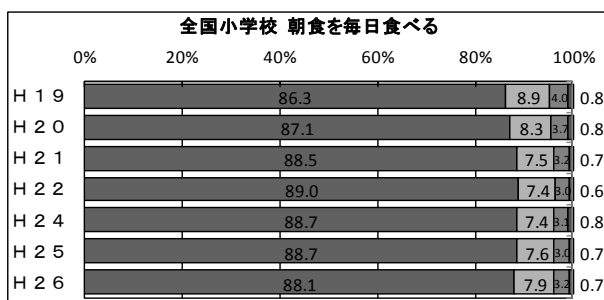
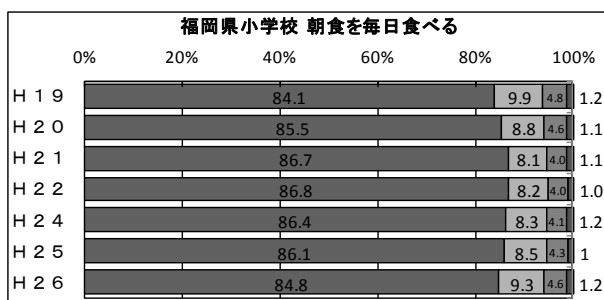
6 基本的な生活習慣

1 朝食を毎日食べていますか。

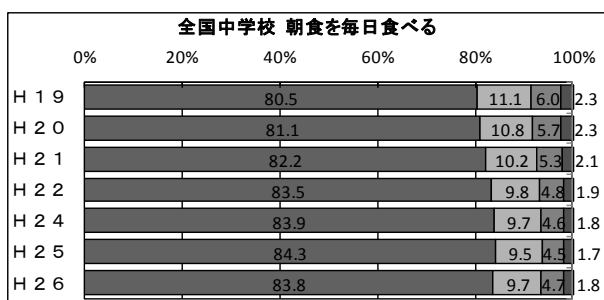
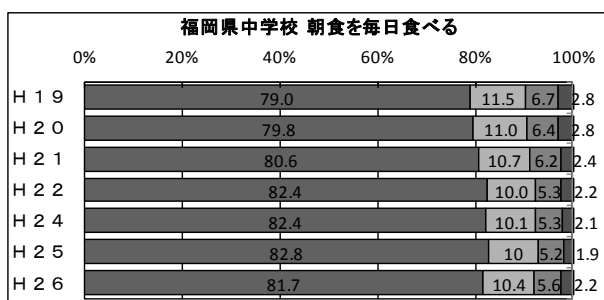
- 朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに減少し、全く食べないと回答している児童生徒の割合は増加した。
- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。また、このような傾向は、基本的な生活習慣に関する「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか、起きていますか」の質問項目においても、同様に見られる。

■ している ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない

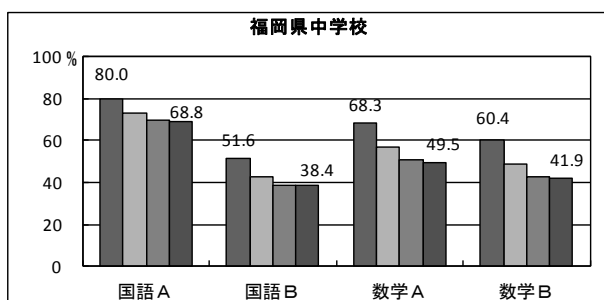
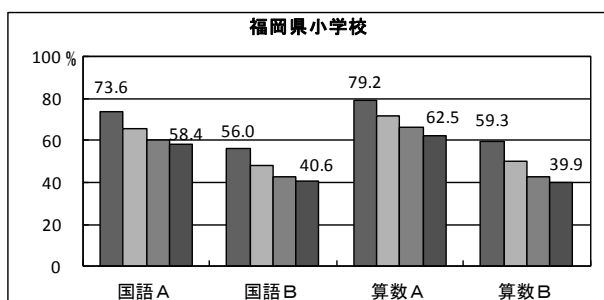
■ 小学校回答状況



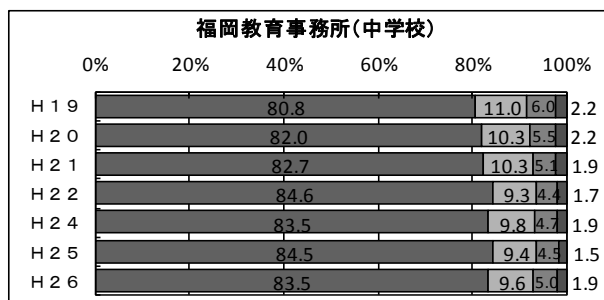
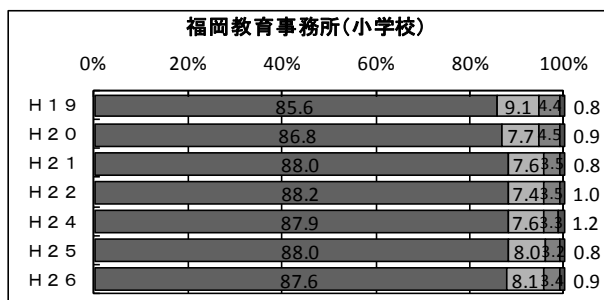
■ 中学校回答状況

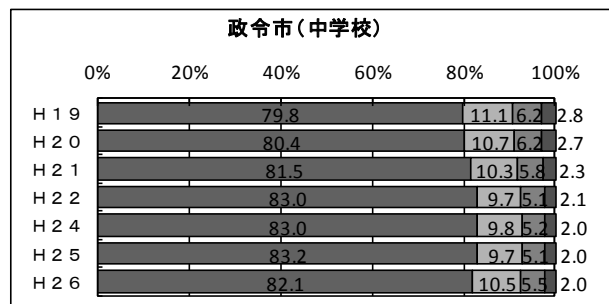
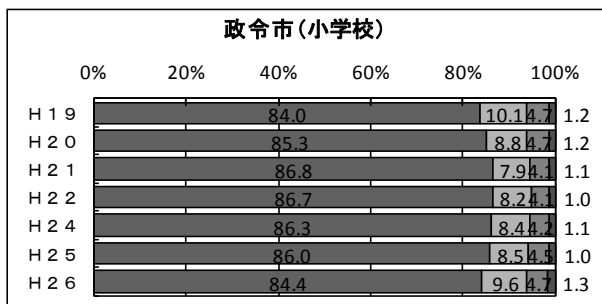
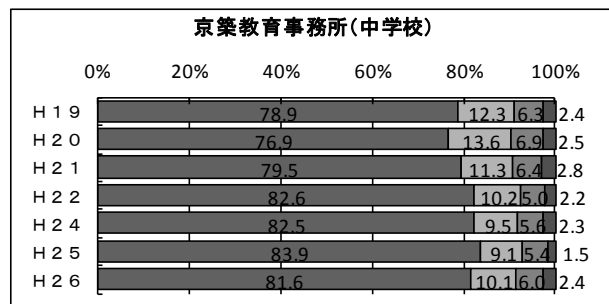
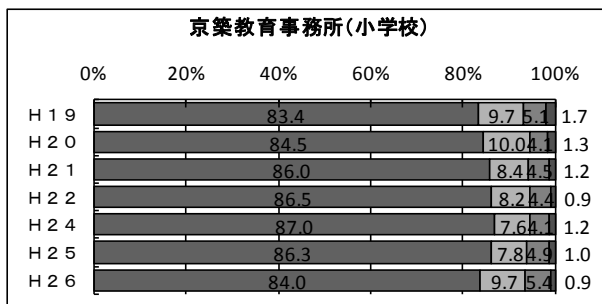
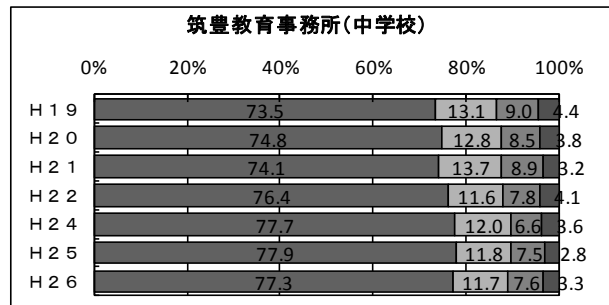
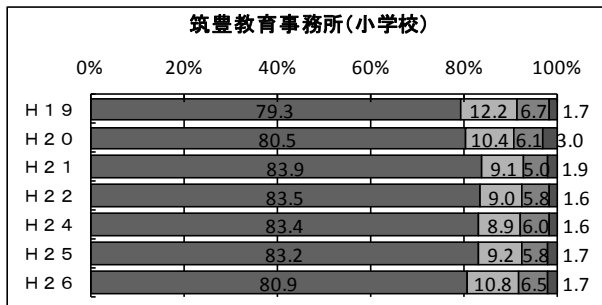
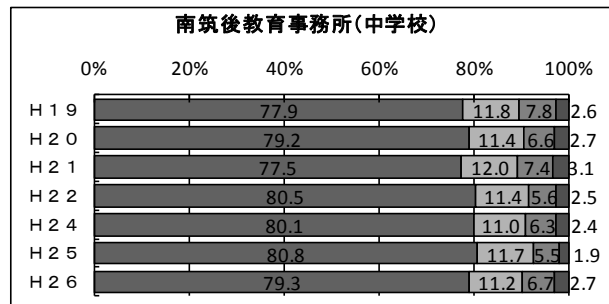
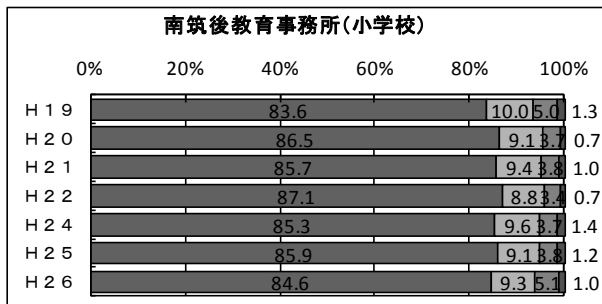
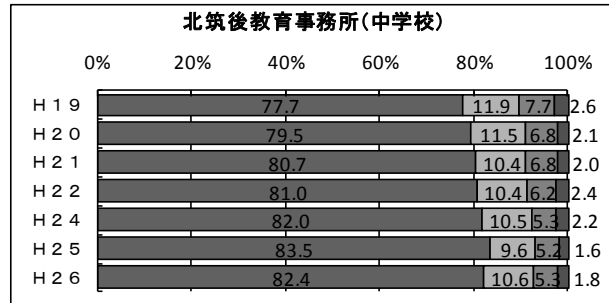
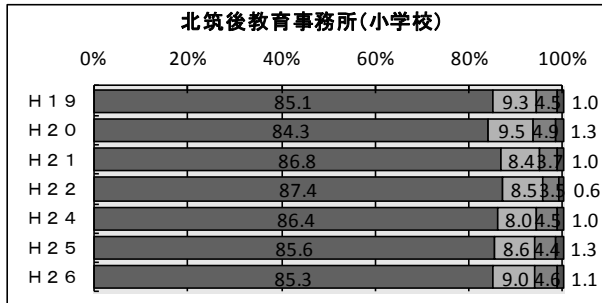
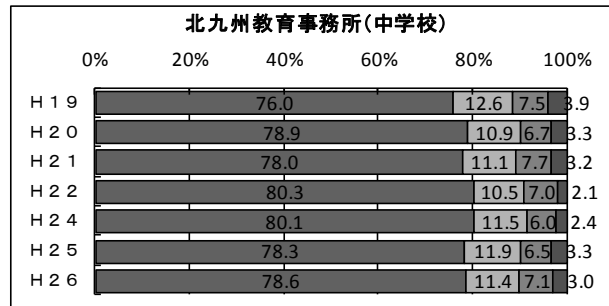
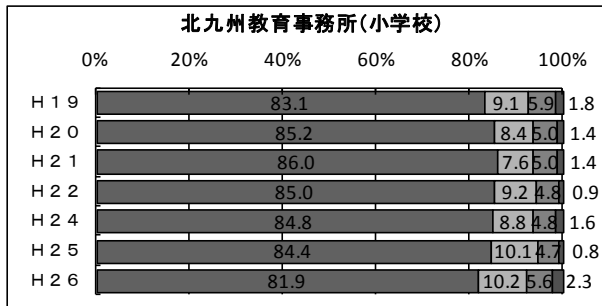


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





7 テレビやビデオ・DVD

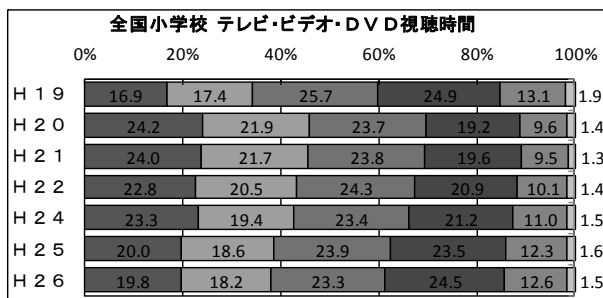
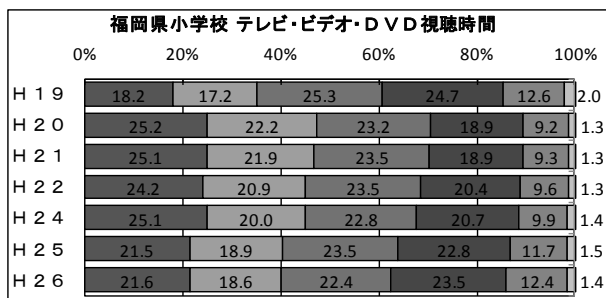
11

普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームをする時間は除く）。

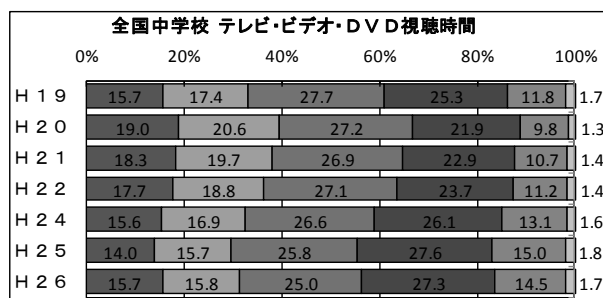
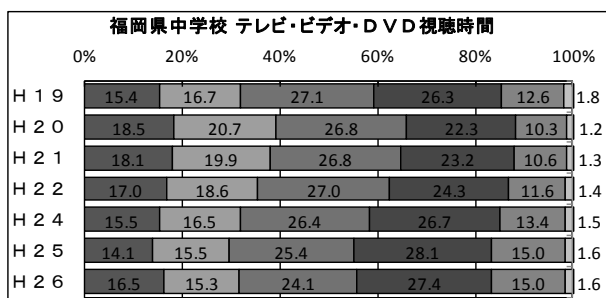
- 3時間以上視聴する児童生徒の割合は、平成20年度以降、小学校では減少傾向にあるが、中学校は平成25年度と比較して増加した。
- 視聴時間が1時間未満の児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 4時間以上 ■ 3時間以上 ■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 1時間未満 ■ 全

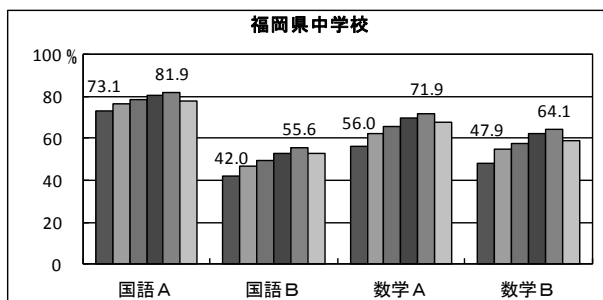
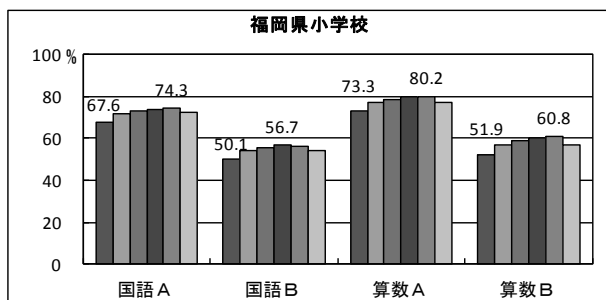
■ 小学校回答状況



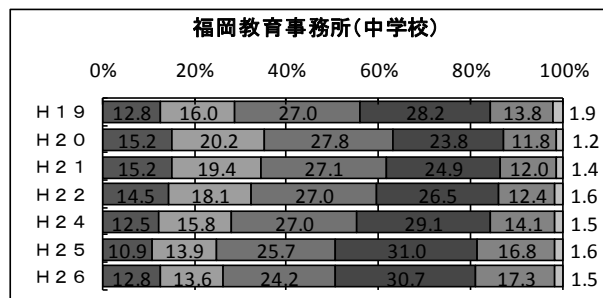
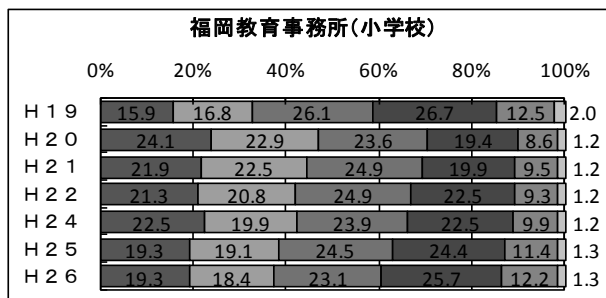
■ 中学校回答状況

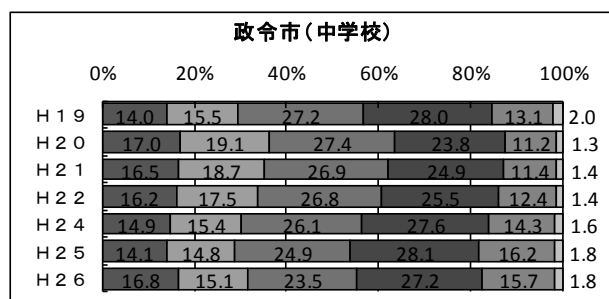
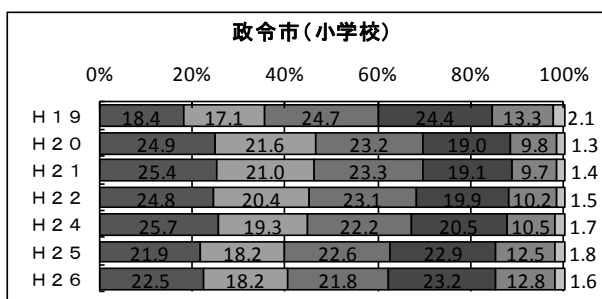
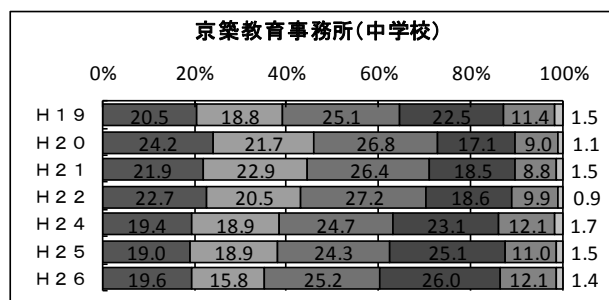
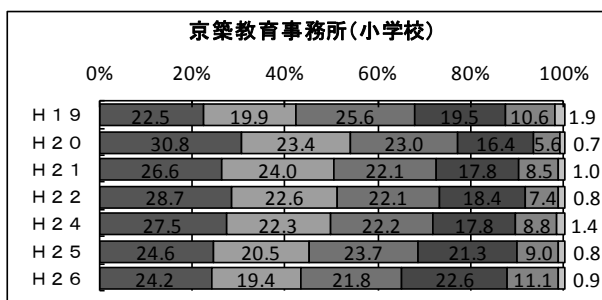
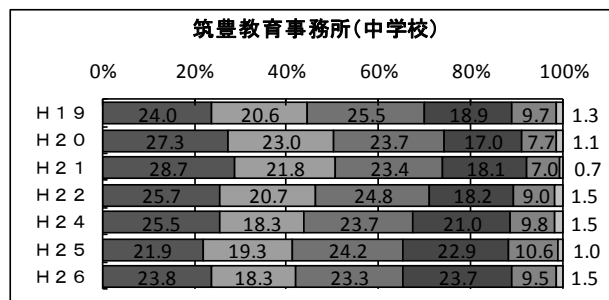
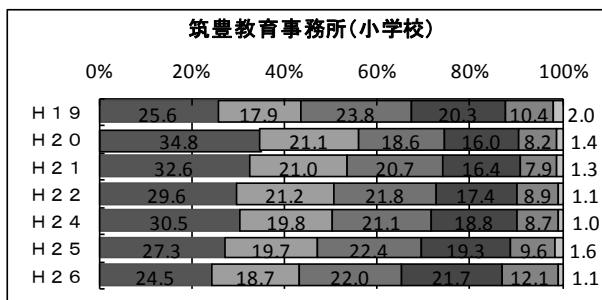
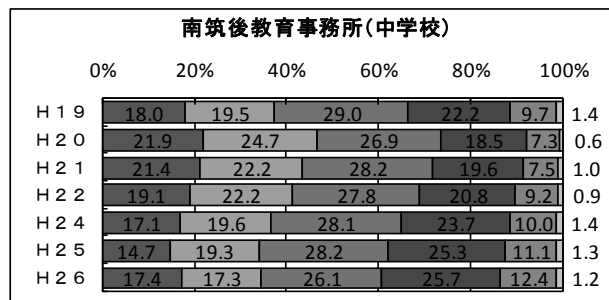
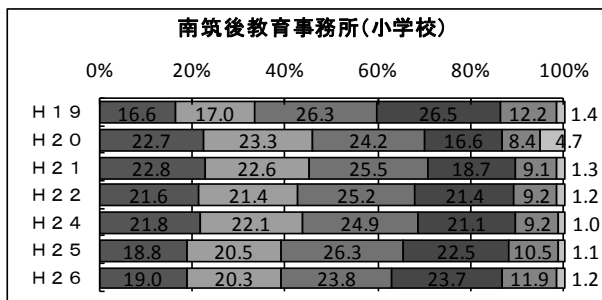
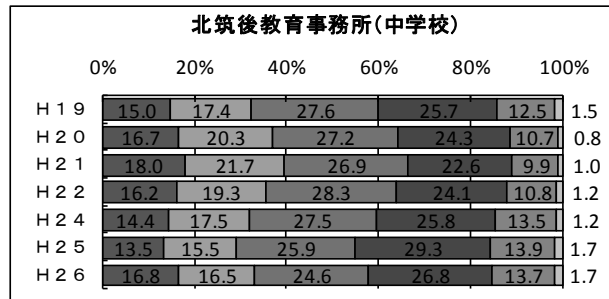
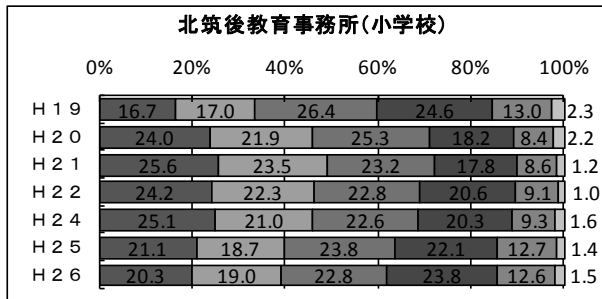
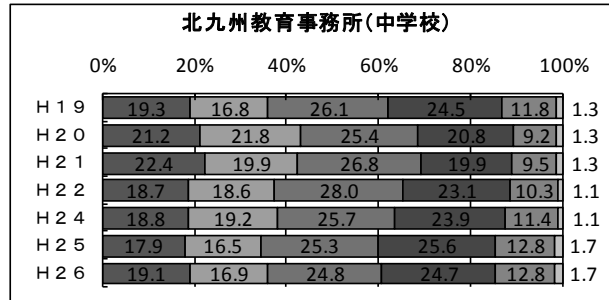
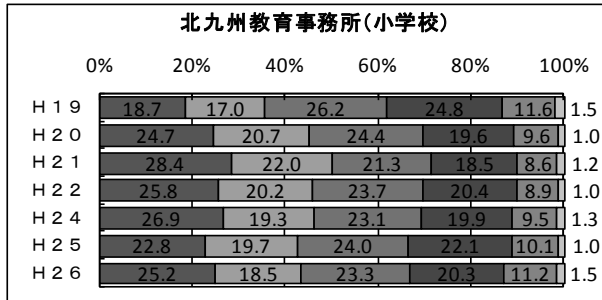


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





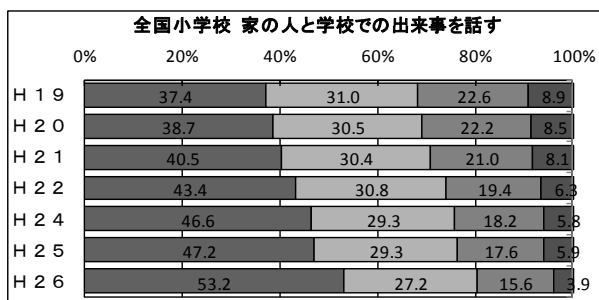
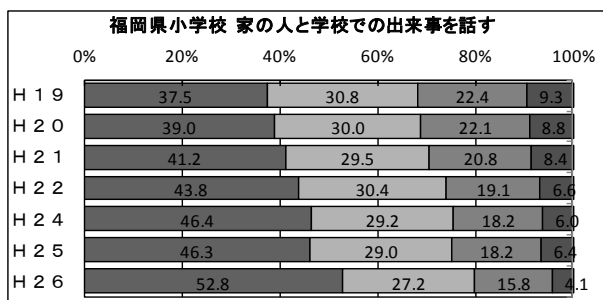
8 家庭でのコミュニケーション

19 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

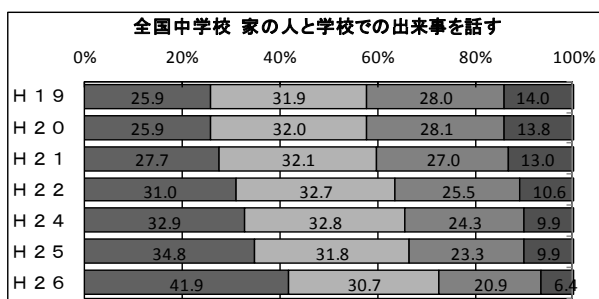
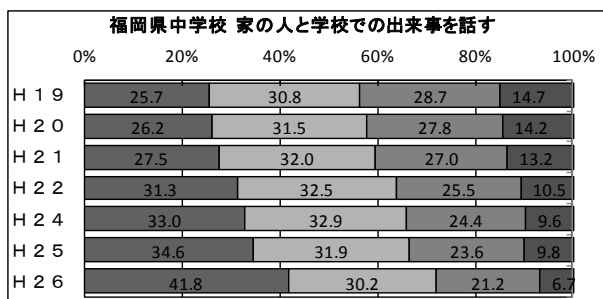
- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加した。
- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ している ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない

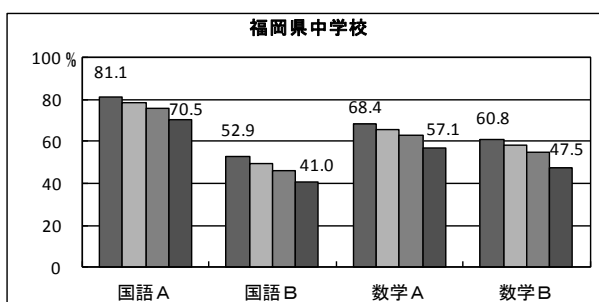
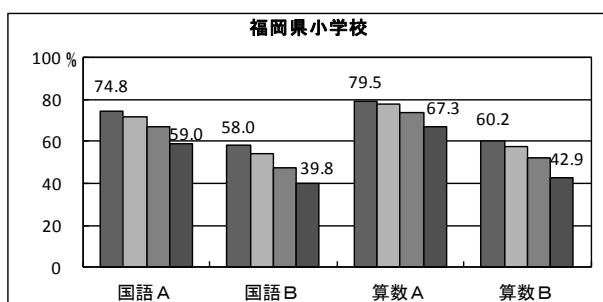
■ 小学校回答状況



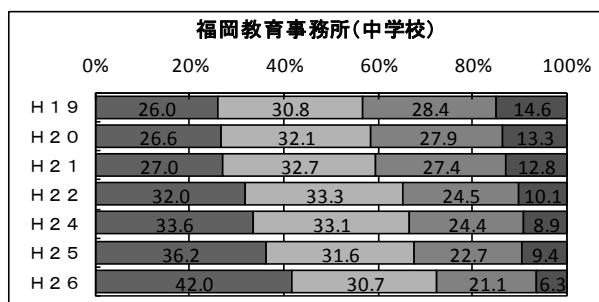
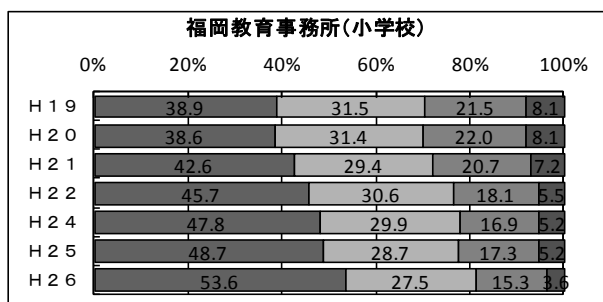
■ 中学校回答状況

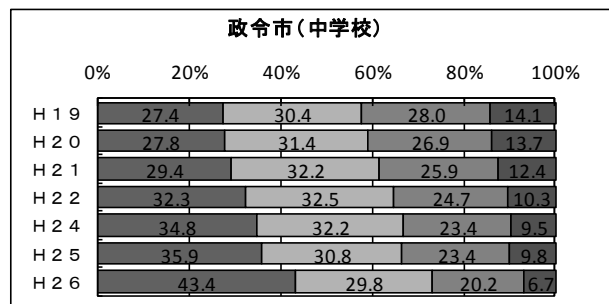
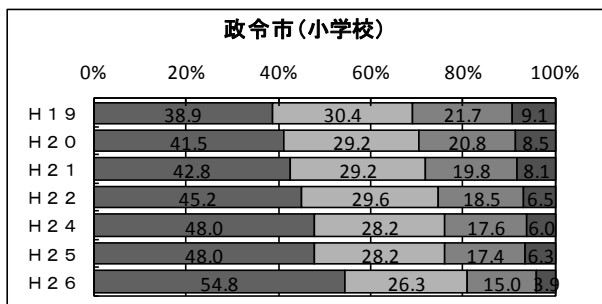
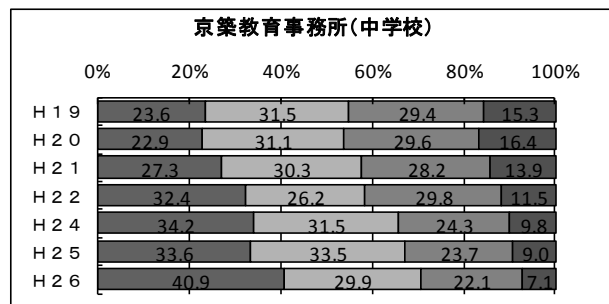
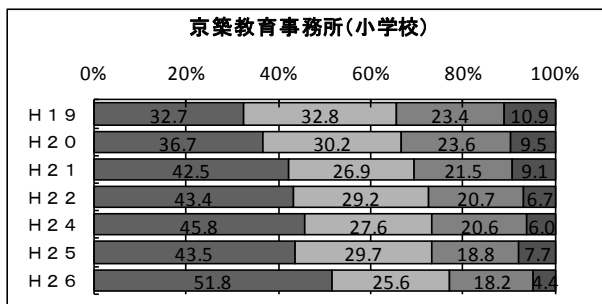
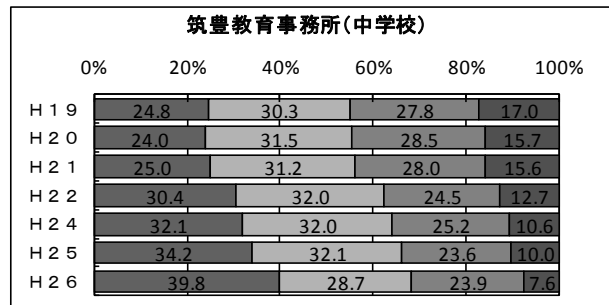
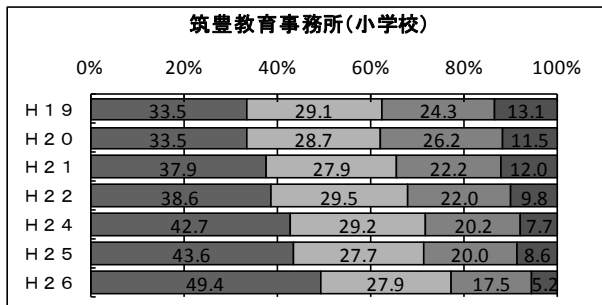
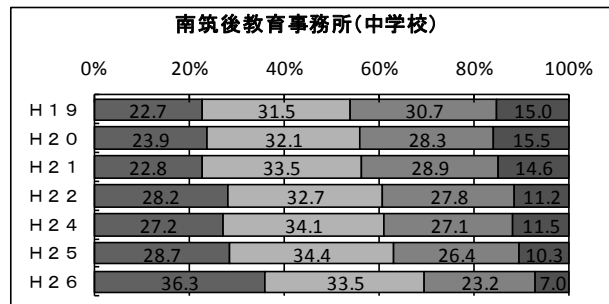
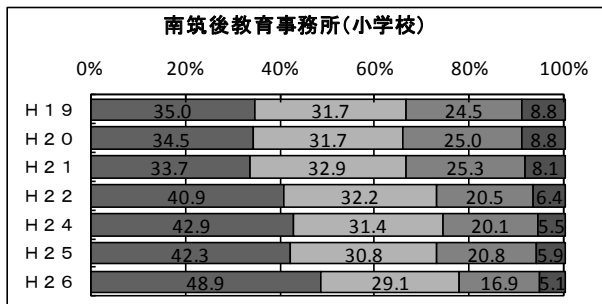
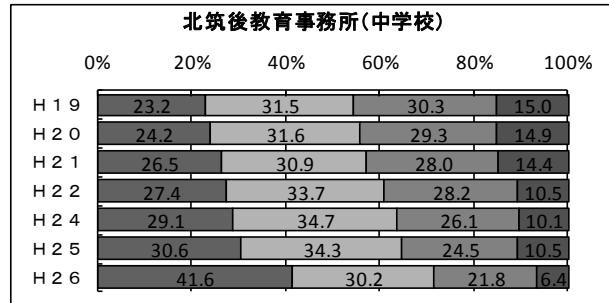
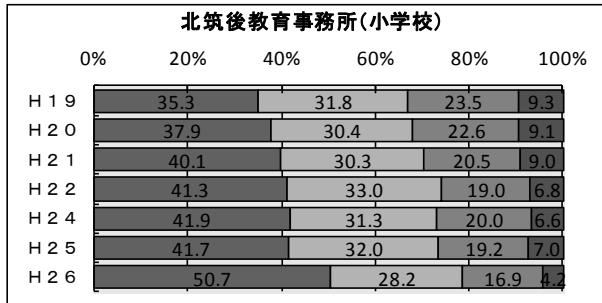
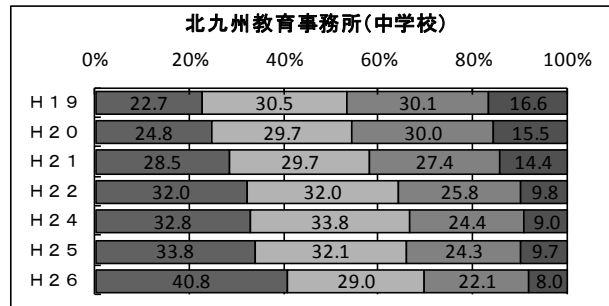
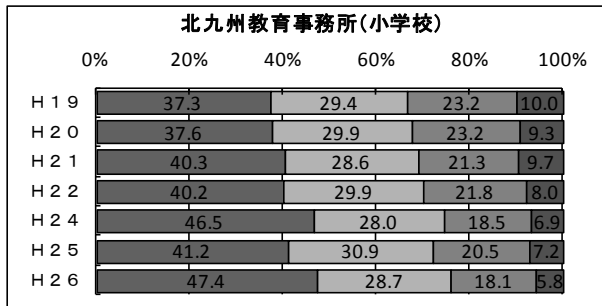


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





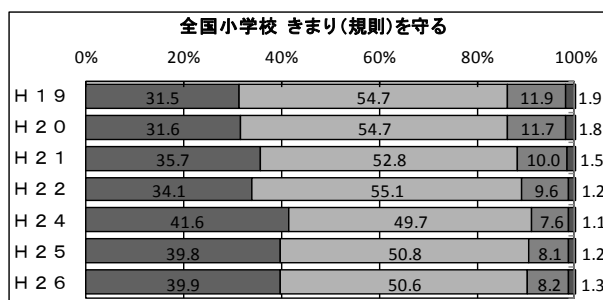
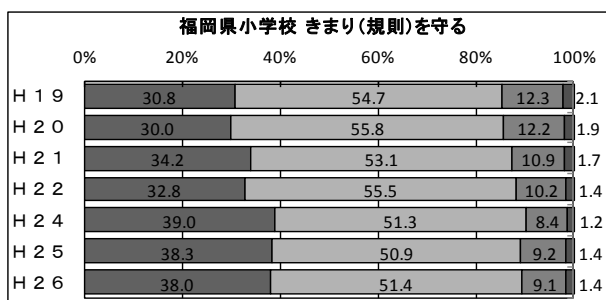
9 規範意識

34 学校のきまり（規則）を守っていますか。

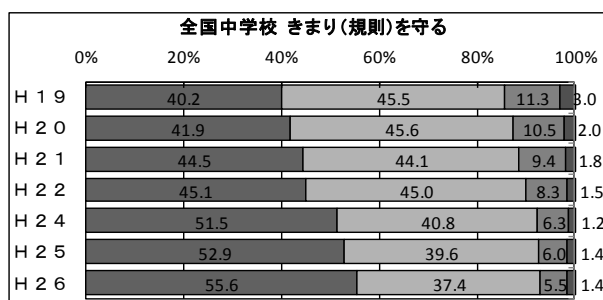
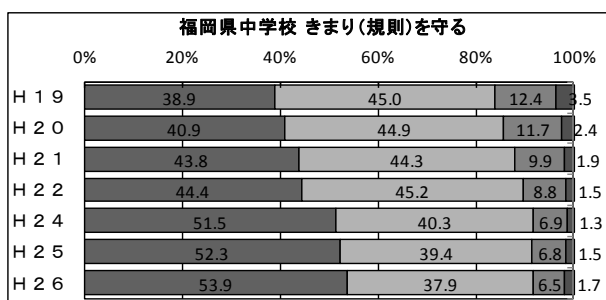
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともほぼ同じである。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は全教科区分において高い傾向にあり、特に中学校でその相関が強い。このような傾向は、「友達との約束を守る」の質問項目においても、同様に見られる。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

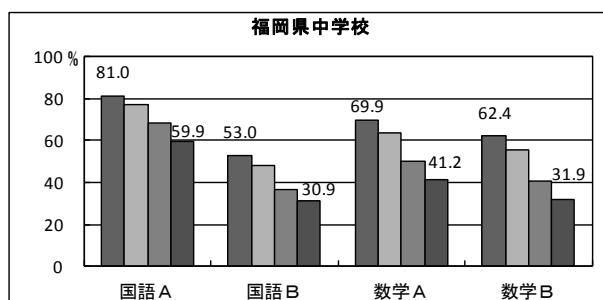
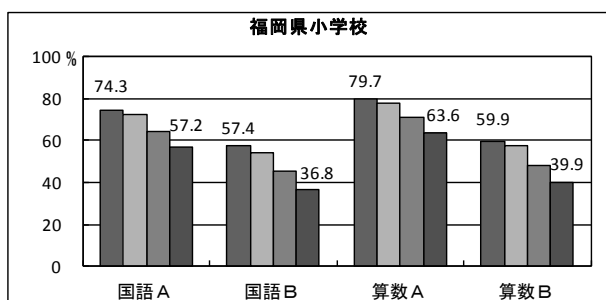
■ 小学校回答状況



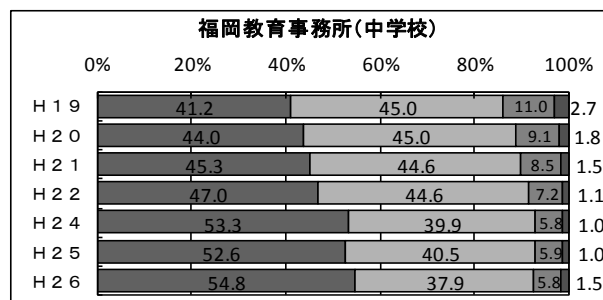
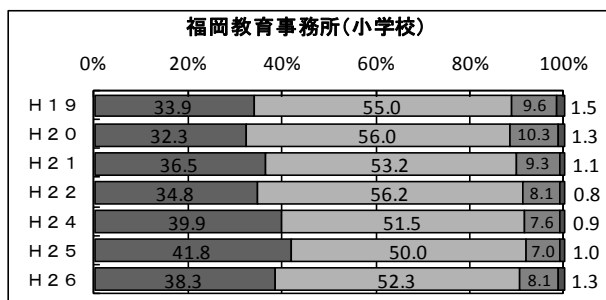
■ 中学校回答状況

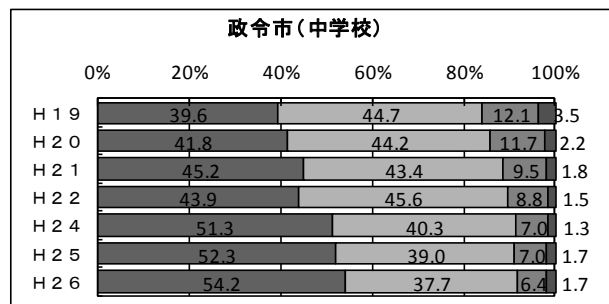
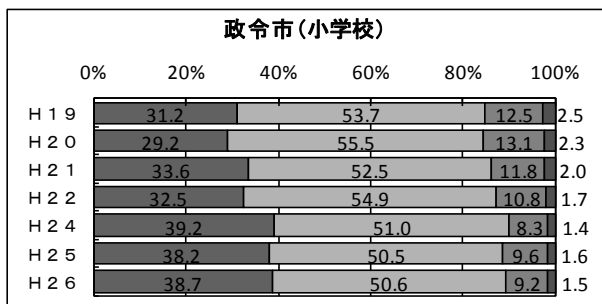
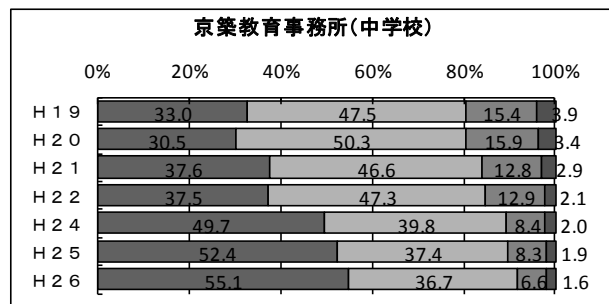
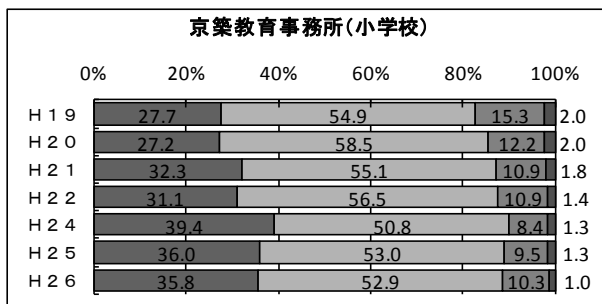
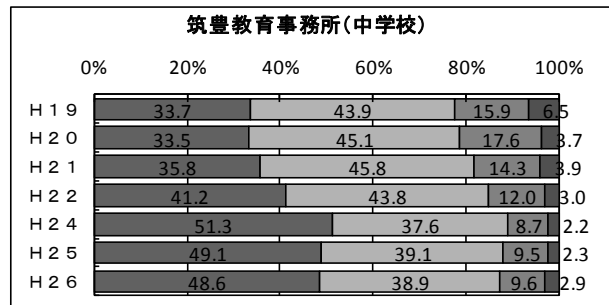
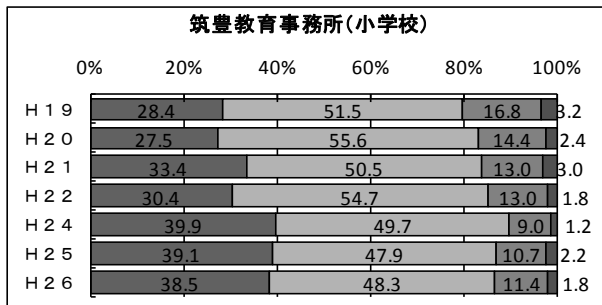
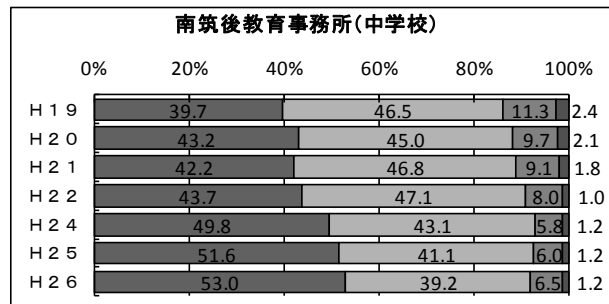
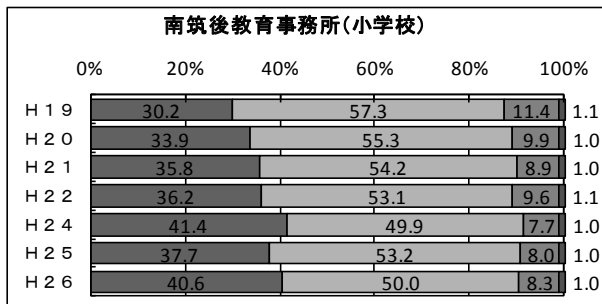
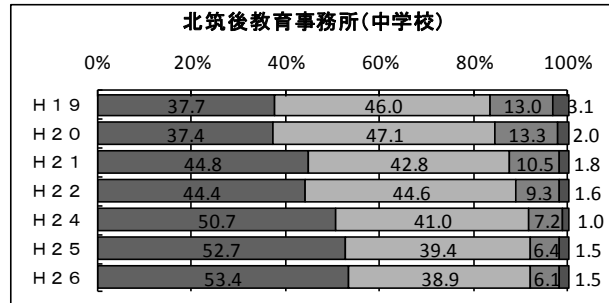
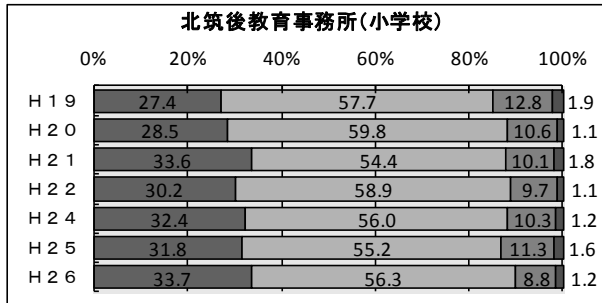
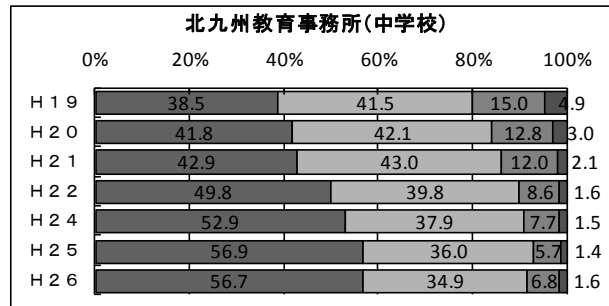
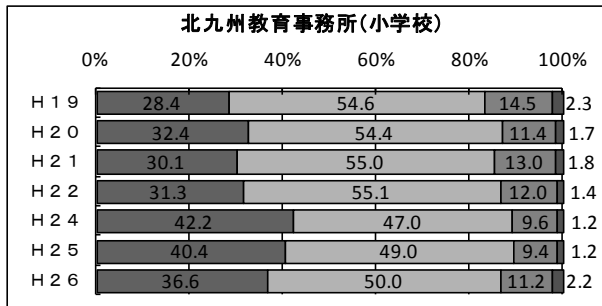


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





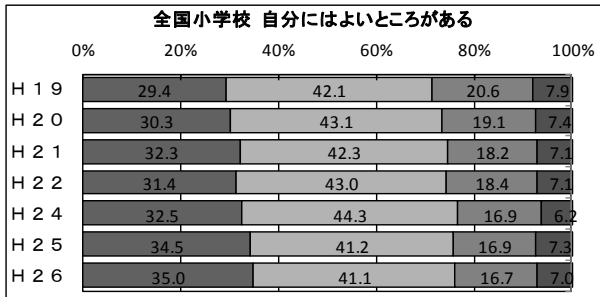
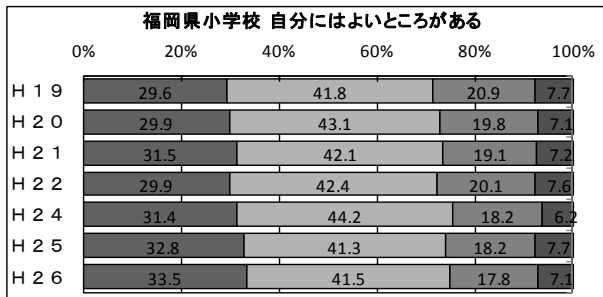
10 自尊意識

6 自分には、よいところがあると思いますか。

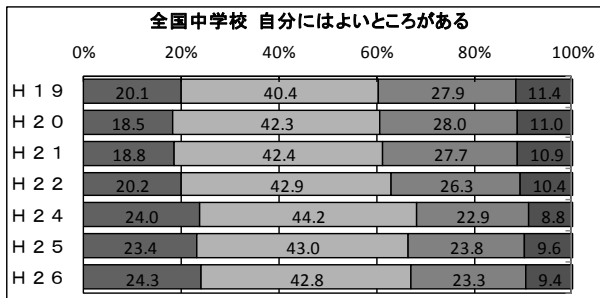
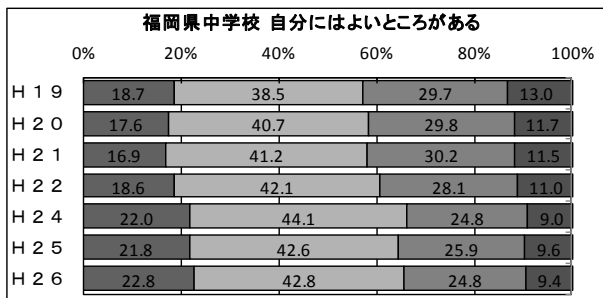
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない

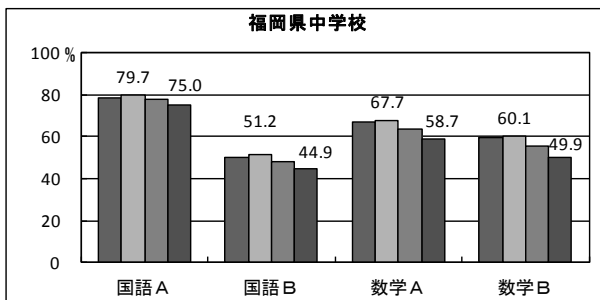
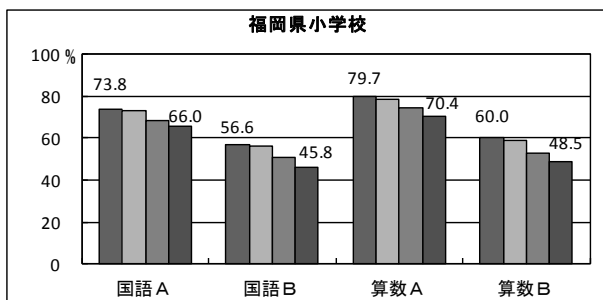
■ 小学校回答状況



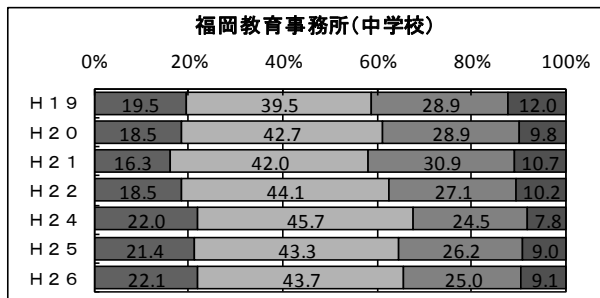
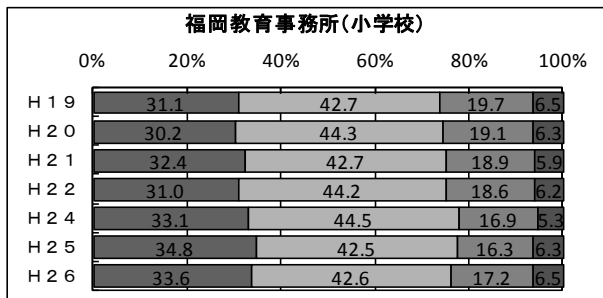
■ 中学校回答状況

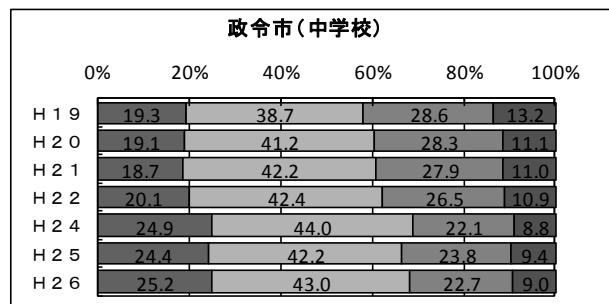
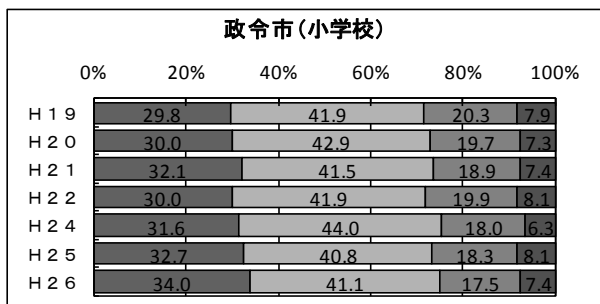
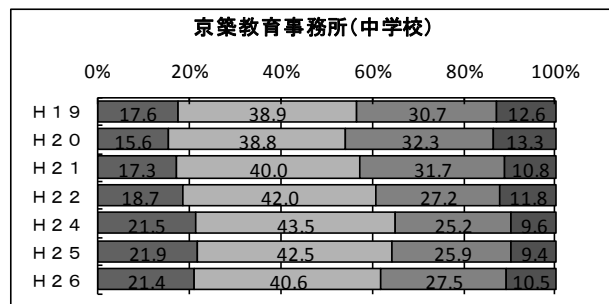
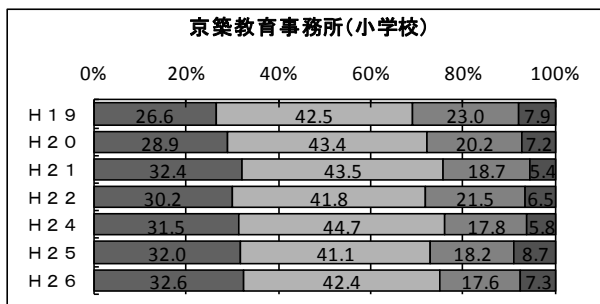
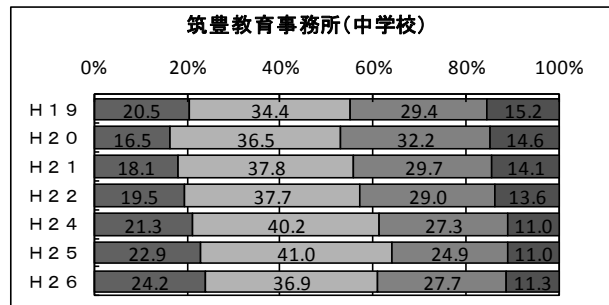
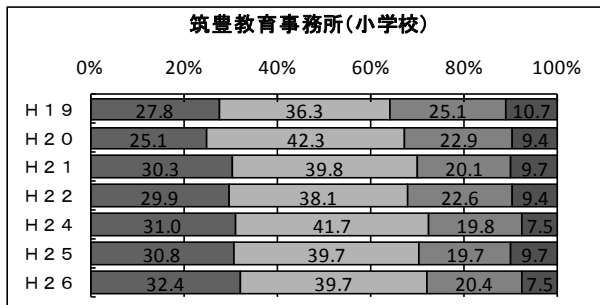
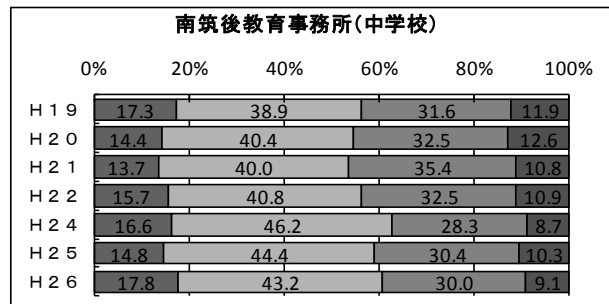
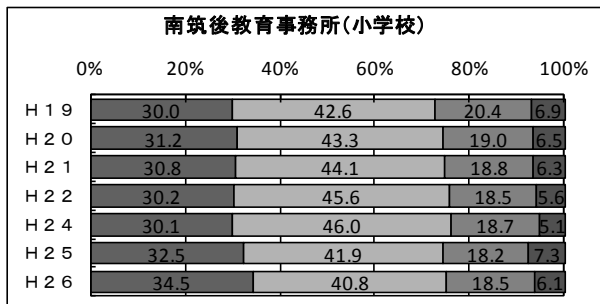
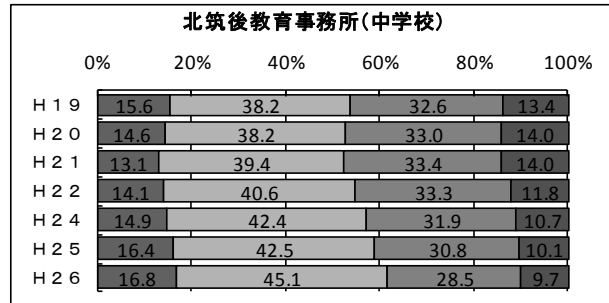
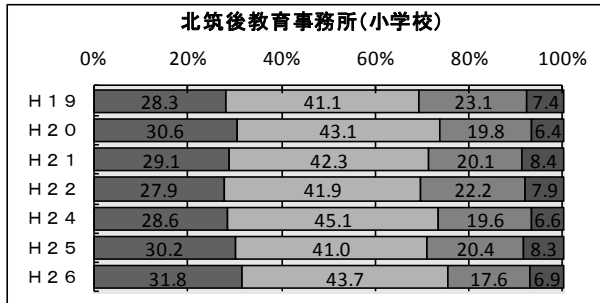
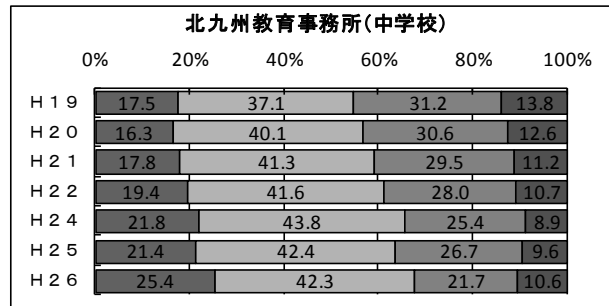
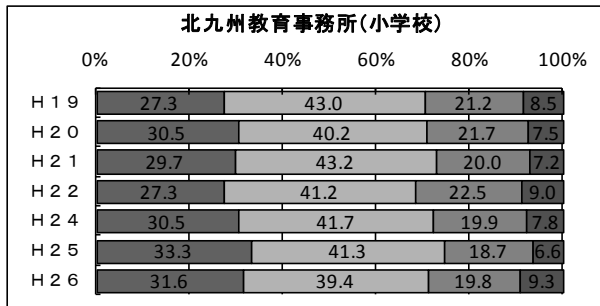


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





V 学校質問紙に関する調査結果と分析

1 学校質問紙調査の目的

学校における指導内容、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等を調査することにより、市町村教育委員会や学校の教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

2 本報告書において分析した学校質問紙の内容

- ・ 児童生徒の様態 ・ 学習規律 ・ 地域の人材、施設の活用
- ・ 国語科の指導方法 ・ 算数、数学科の指導方法 ・ 教員研修... 等

3 分析の目的と方法

(1) 目的

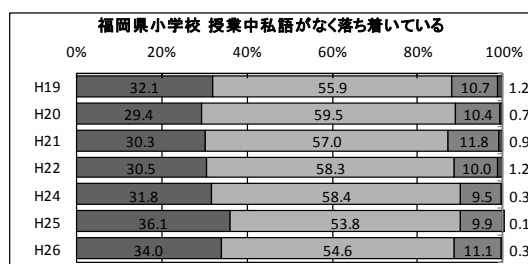
各教科の平均正答率と学校の指導体制や指導方法の相関を分析し、各学校における教育活動の充実・改善を図る。

(2) 方法

学校質問紙の回答状況の経年比較及び質問紙の回答と各教科の正答率との相関、教育事務所・政令市別の回答状況、記述式問題での正答数が多い学校と少ない学校の質問紙の回答状況の比較、学力の向上・低下が継続している学校の回答状況の変容等について、次のA～Cの分析を行う。

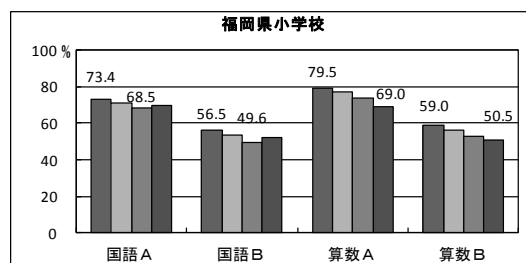
A 回答状況の経年比較

平成19～26年度（平成23年度は除く）の学校質問紙の同じ質問項目について、福岡県における回答の割合を比較する。



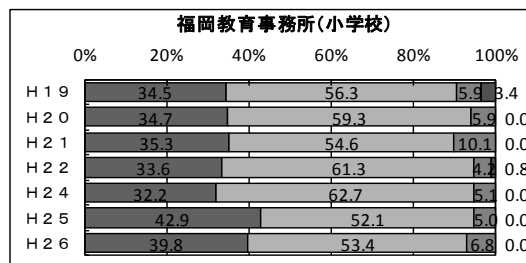
B 回答状況と教科の正答率との相関

学校質問紙の各選択肢に回答した学校の各教科区分の平均正答率を集計し、平成26年度学校質問紙の回答と教科の正答率との相関を示す。



C 教育事務所・政令市別の回答状況

教育事務所・政令市ごとに平成19年度～26年度（平成23年度は除く）の回答状況を比較する。



4 資料を読み取る際の留意点

特定の選択肢を回答した学校が少ない場合には、極端な傾向を示す場合がある。また、質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。

5 分析に使用する学校質問紙の質問項目について

平成19～26年度の分析に使用した項目及び特徴的な傾向が見られる項目について分析する。

1 学習態度

※ 数字は、学校質問紙中の質問番号

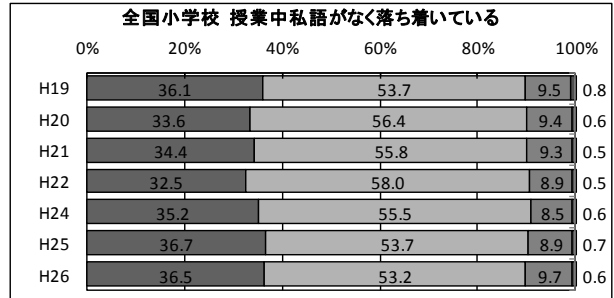
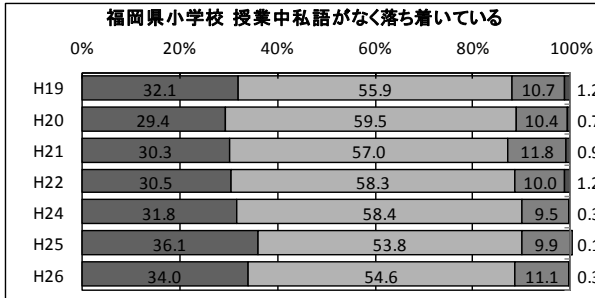
小16・中16 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。

- そのとおりだと思う、どちらかといえばそう思うと回答している学校の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに減少している。
- そのとおりだと思う、どちらかといえばそう思うと回答している学校の正答率は、全ての教科区分において高い傾向にある。

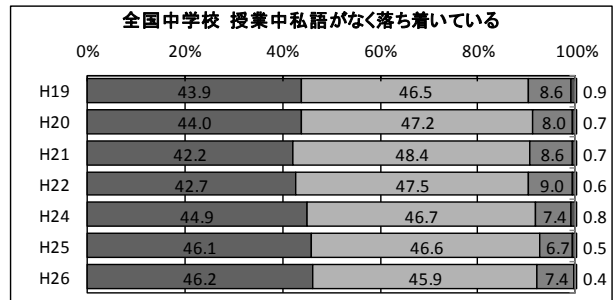
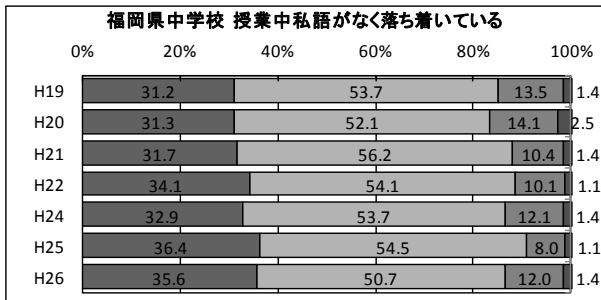
※ 「そうは思わない」と回答した小学校は2校であったため、分析の対象から除外した。

■ 小学校回答状況

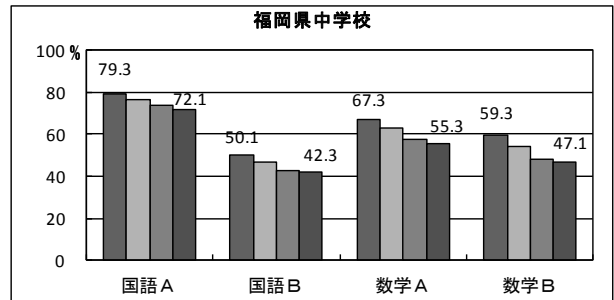
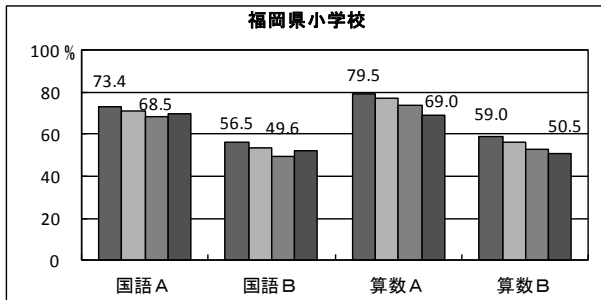
■ そのとおり ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



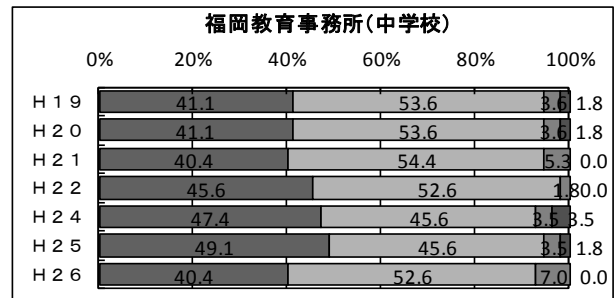
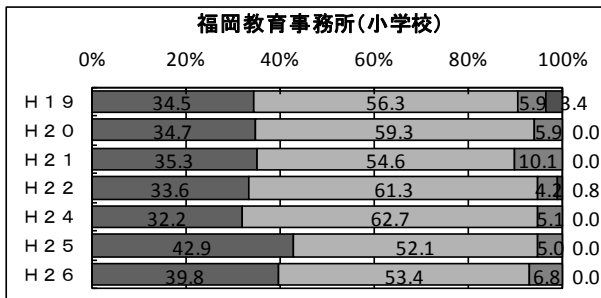
■ 中学校回答状況

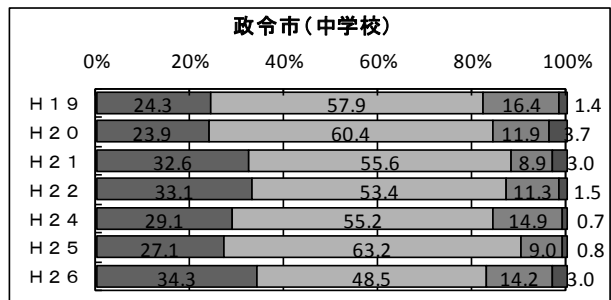
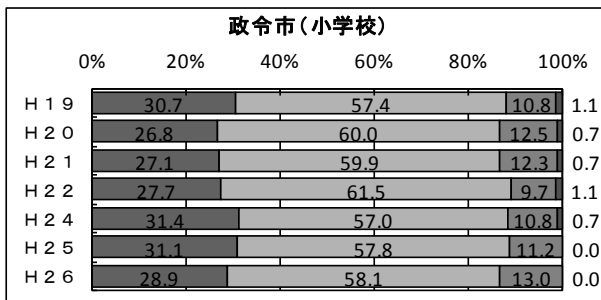
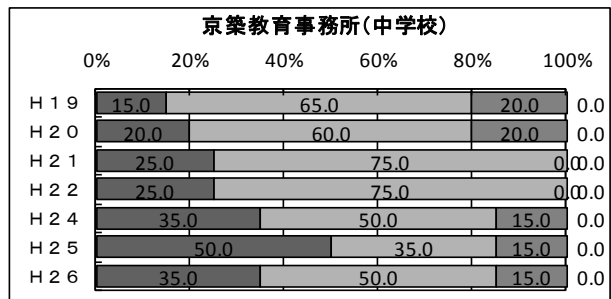
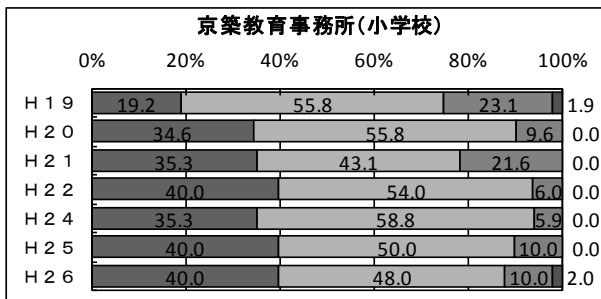
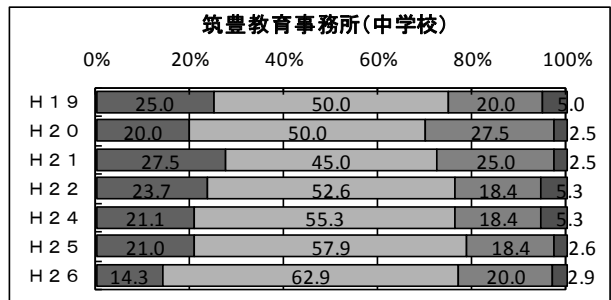
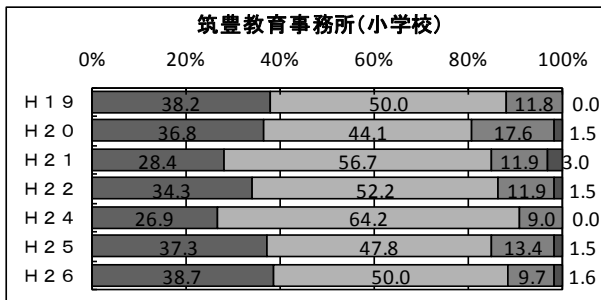
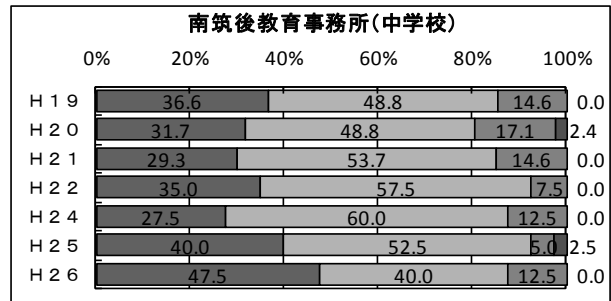
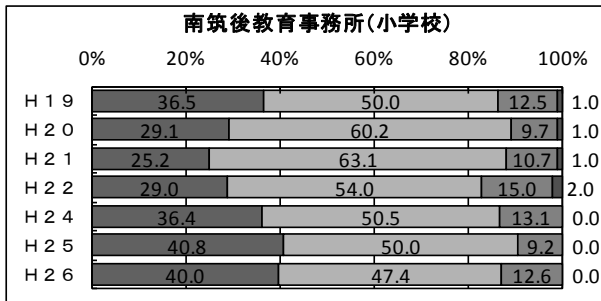
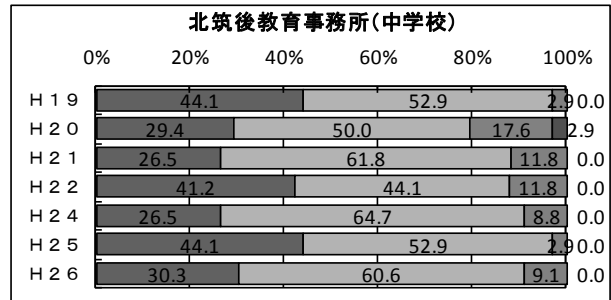
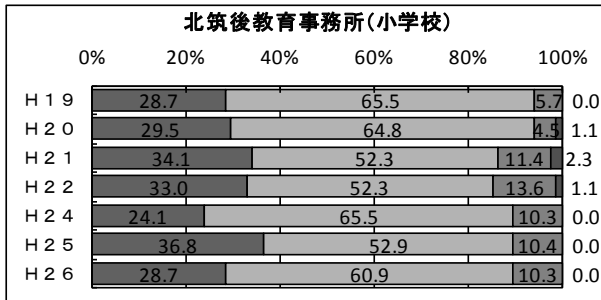
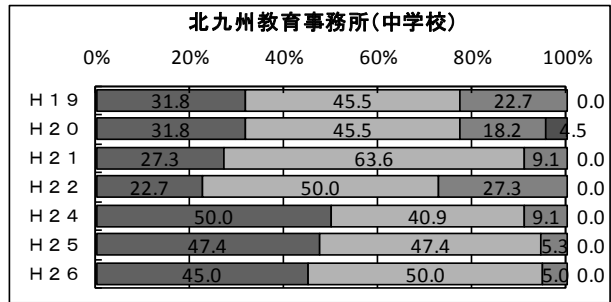
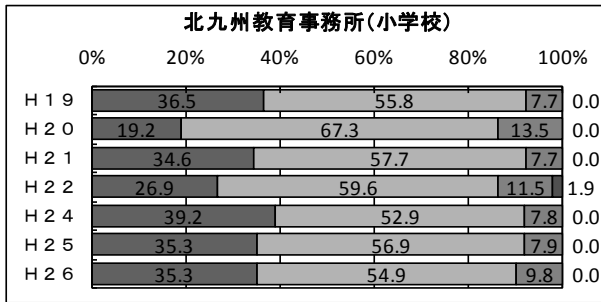


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





2 指導方法

小31・中31

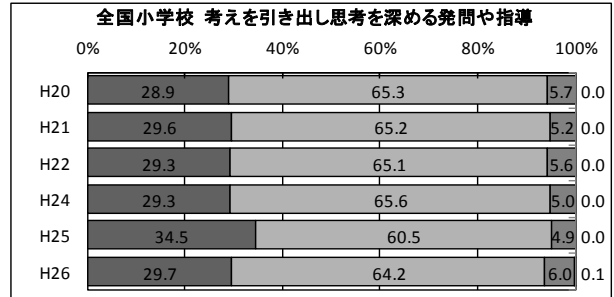
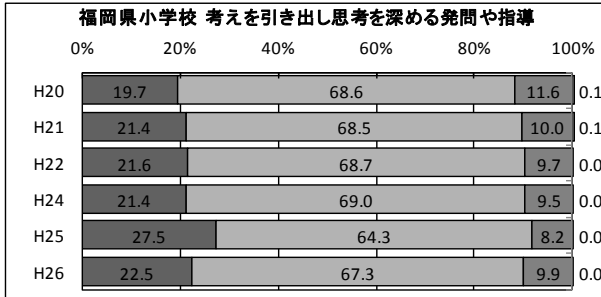
前年度までに、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。

※平成20年度から加えられた質問

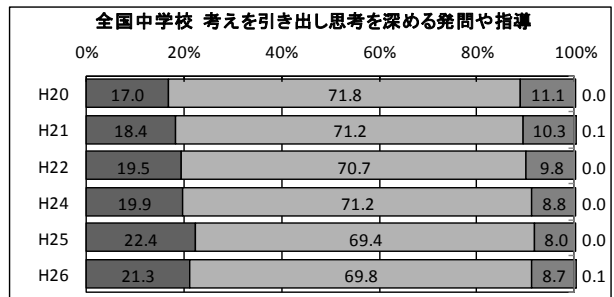
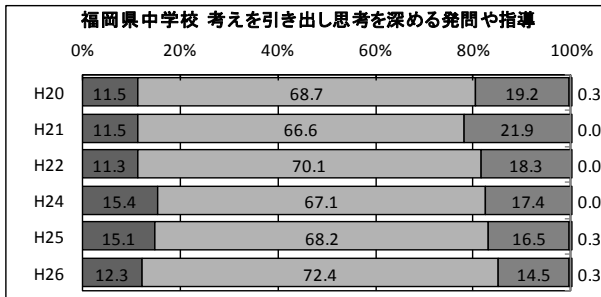
- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の割合は、平成25年度と比較して小学校は減少し、中学校は増加している。
- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 小学校回答状況

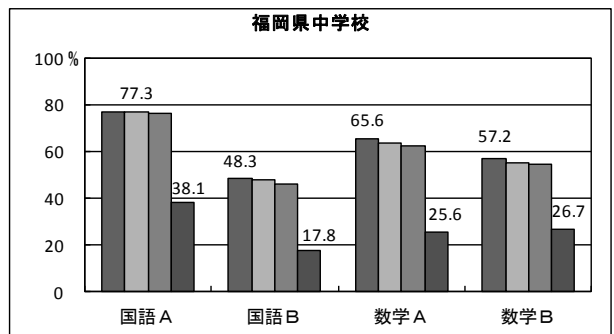
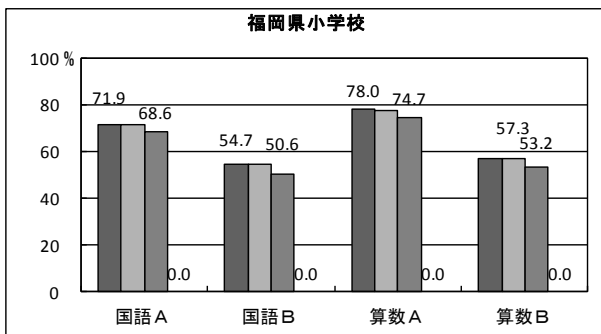
■よく行った ■どちらかといえば ■あまり ■行っていない



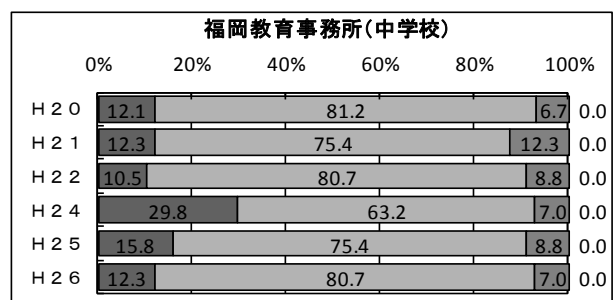
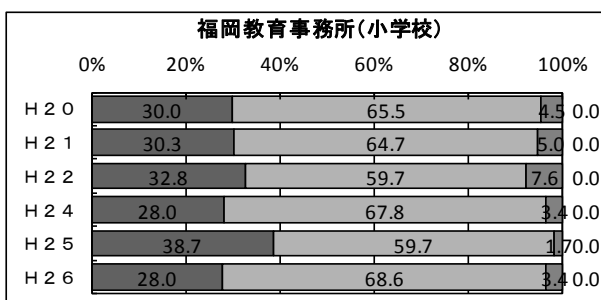
■ 中学校回答状況

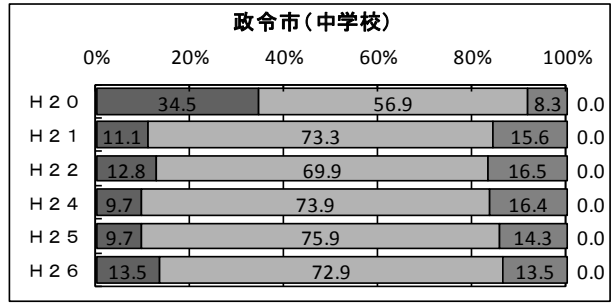
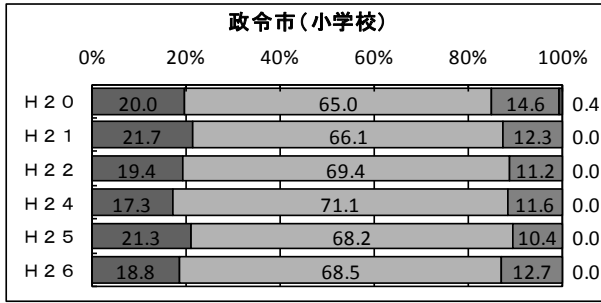
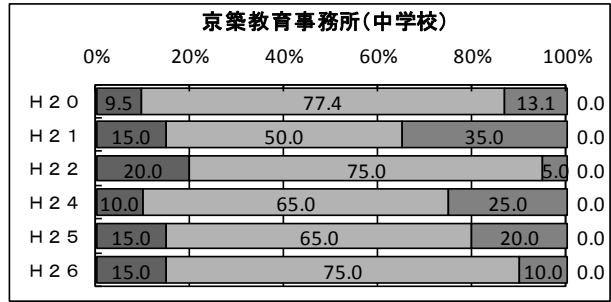
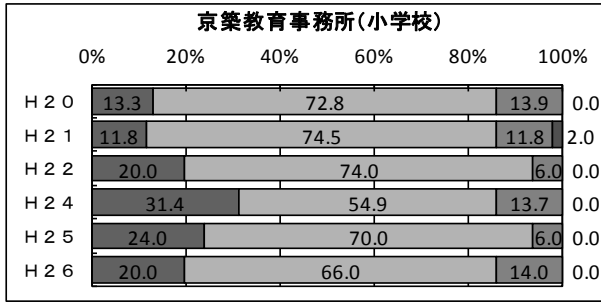
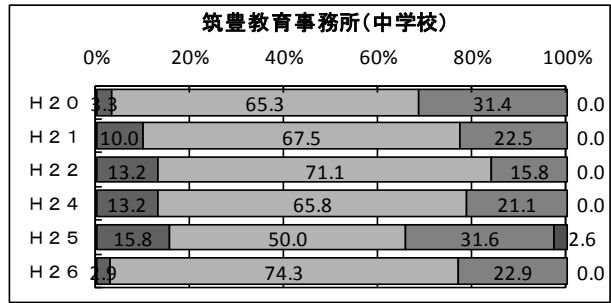
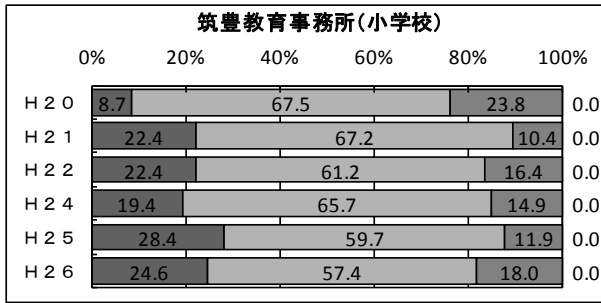
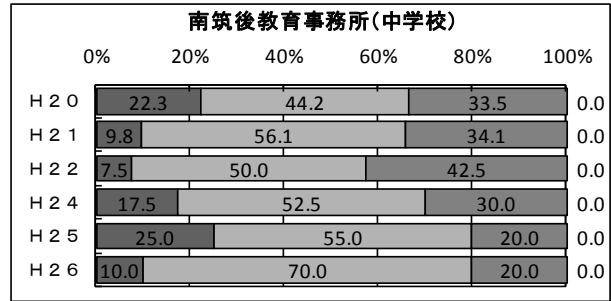
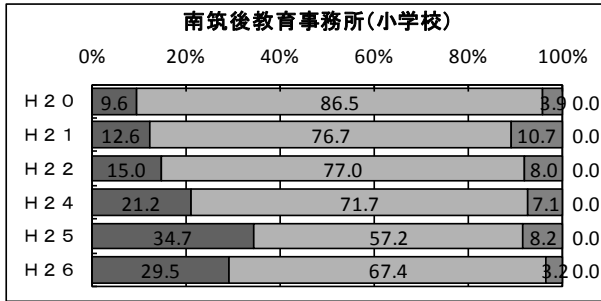
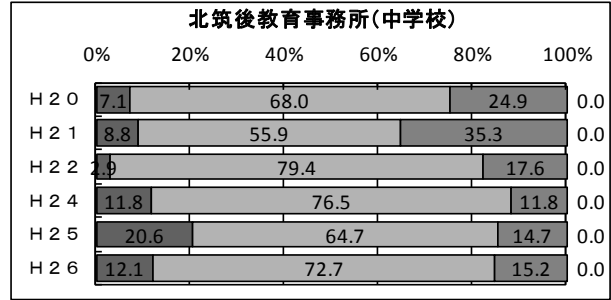
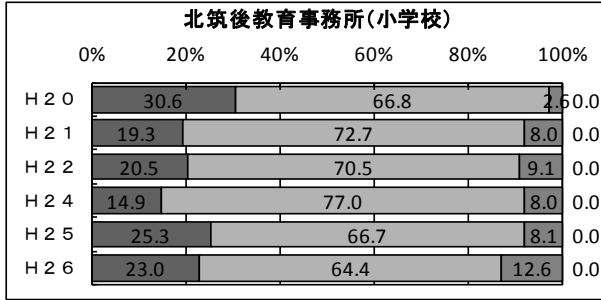
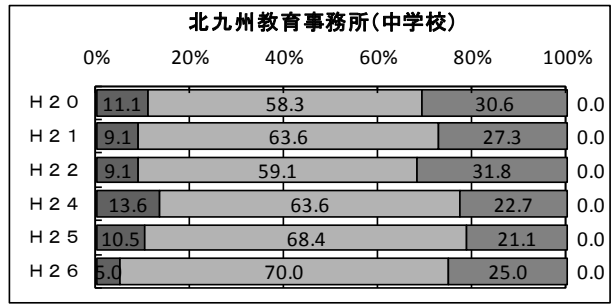
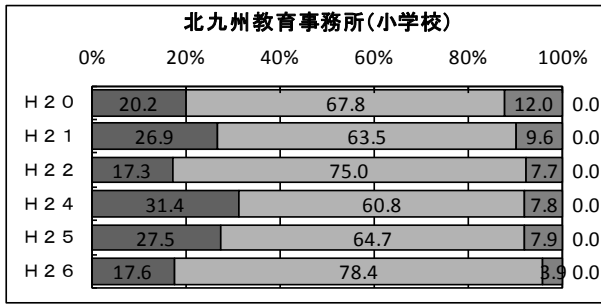


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





3 学習規律の指導

小35・中35

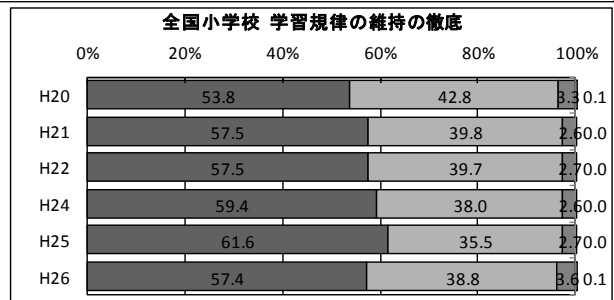
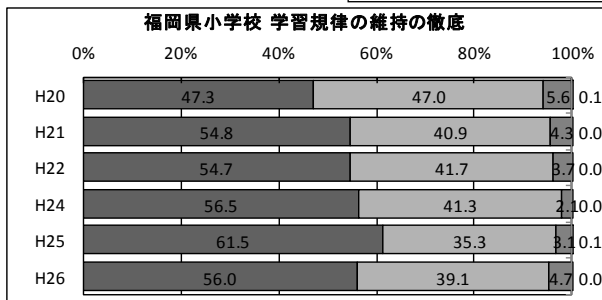
児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか。

※平成20年度から加えられた質問

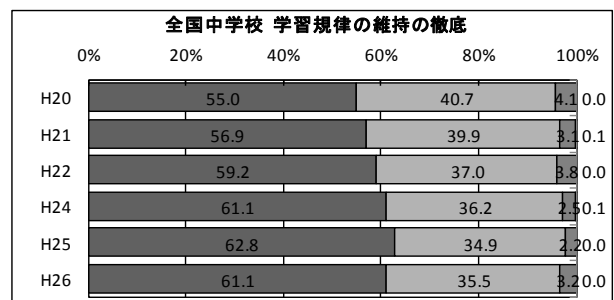
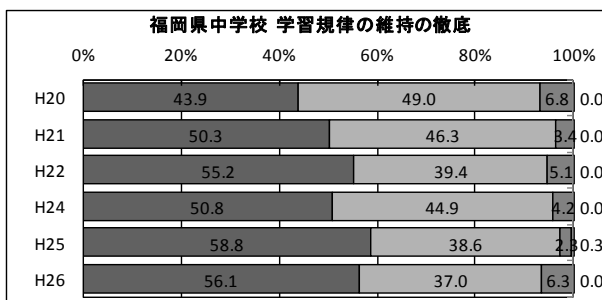
- よく行ったと回答している学校の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校とも減少している。
- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 小学校回答状況

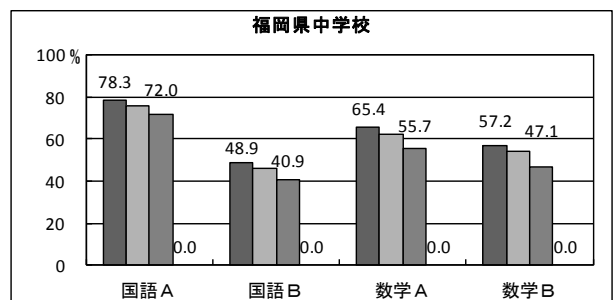
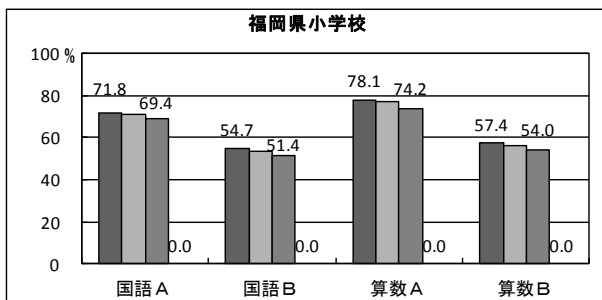
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない



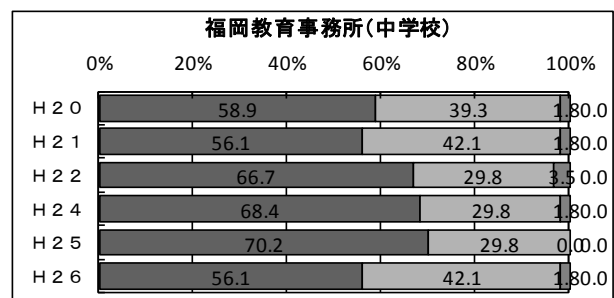
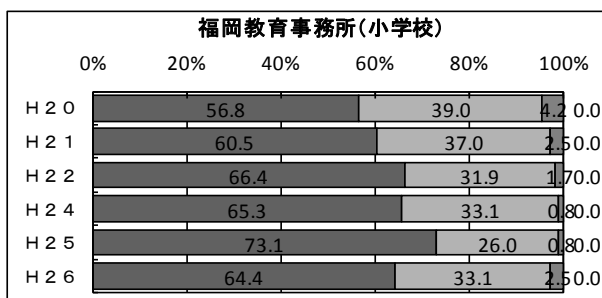
■ 中学校回答状況

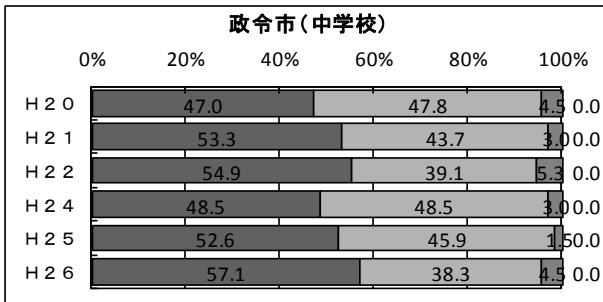
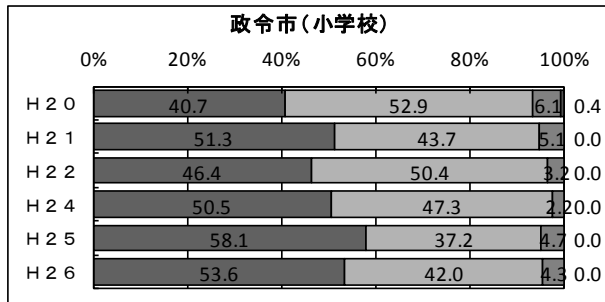
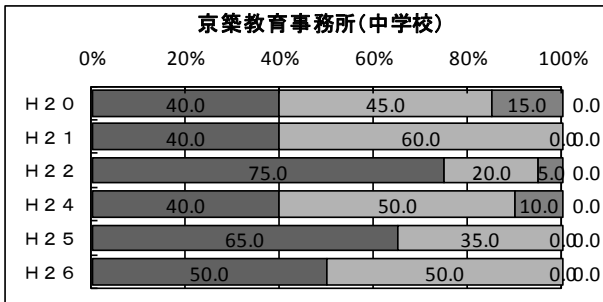
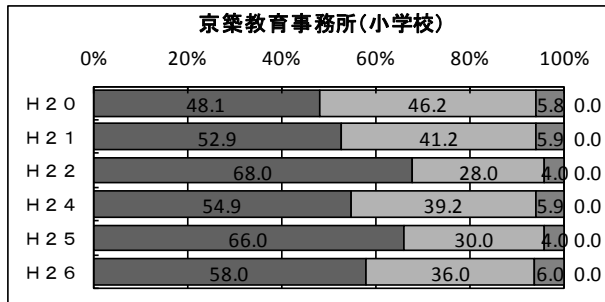
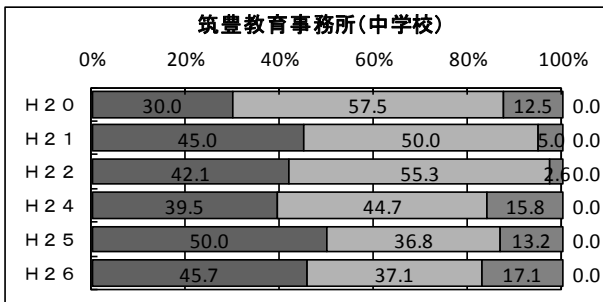
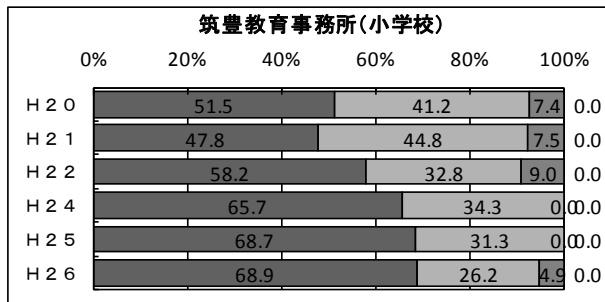
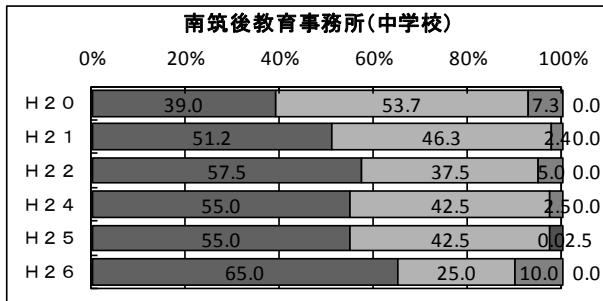
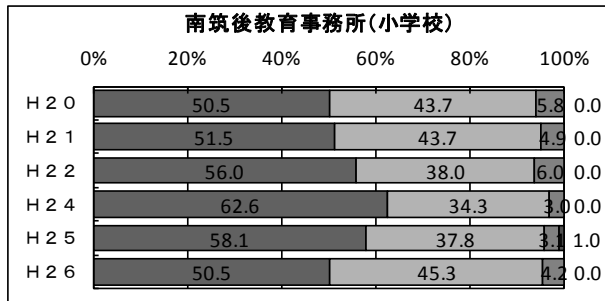
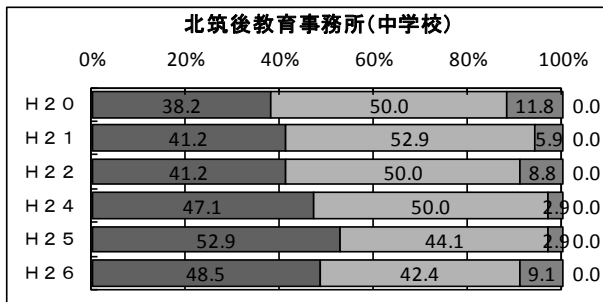
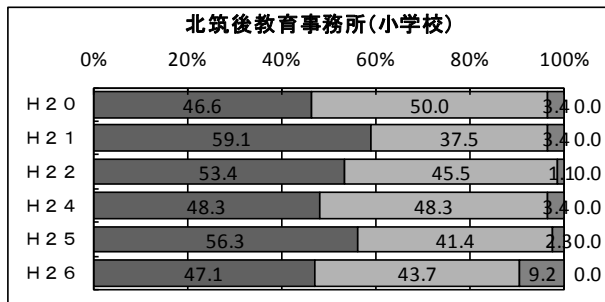
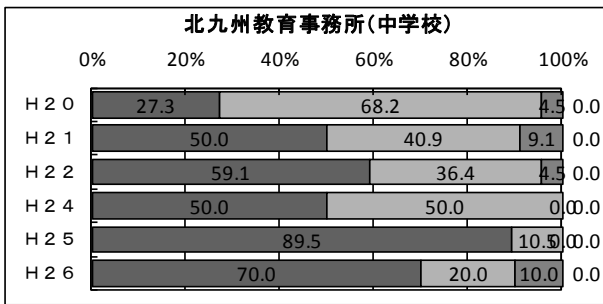
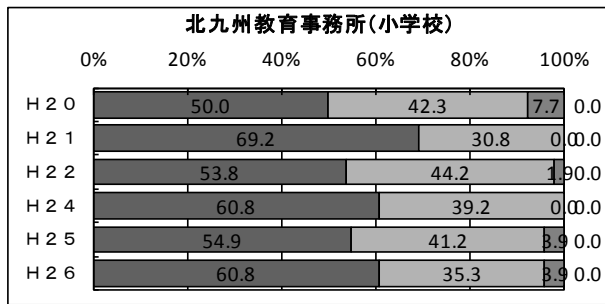


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





4 家庭での学習の指導

小 87・中 85

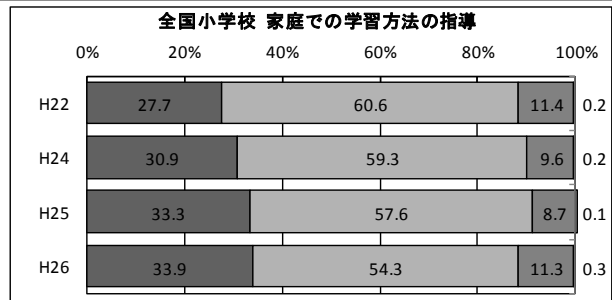
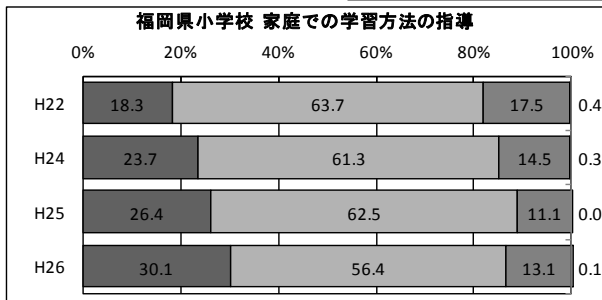
児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。(国、算・数共通)

※平成22年度から加えられた質問

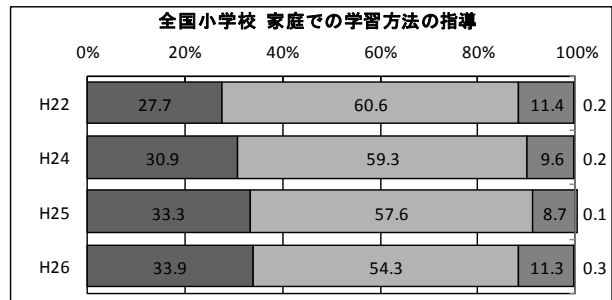
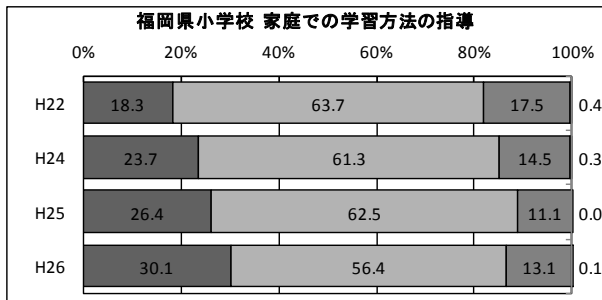
- よく行ったと回答している学校の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校とも増加している。
 - よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- ※ 「まったく行っていない」と回答した中学校は1校であったため、分析の対象から除外した。

■ 小学校回答状況

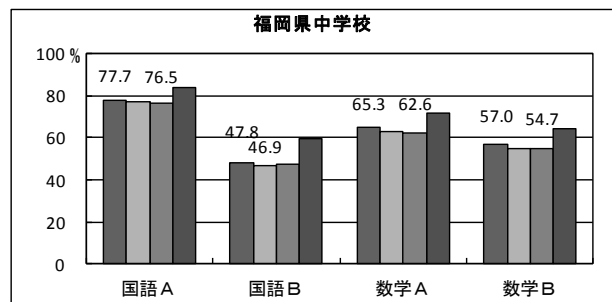
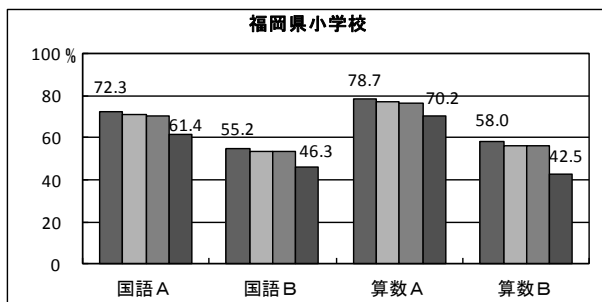
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない



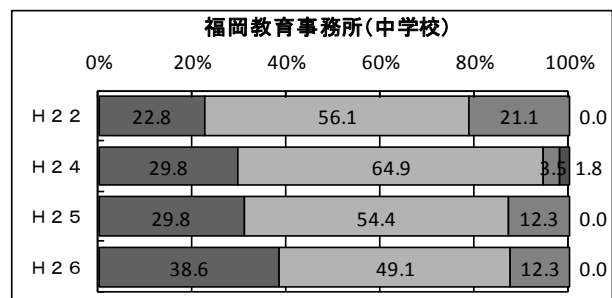
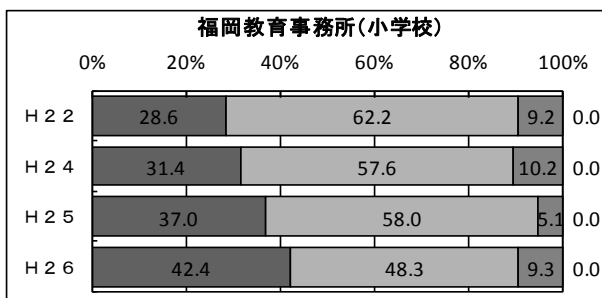
■ 中学校回答状況

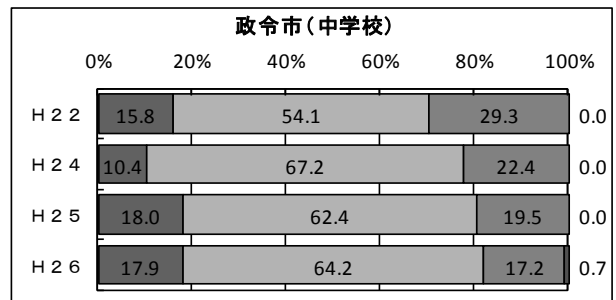
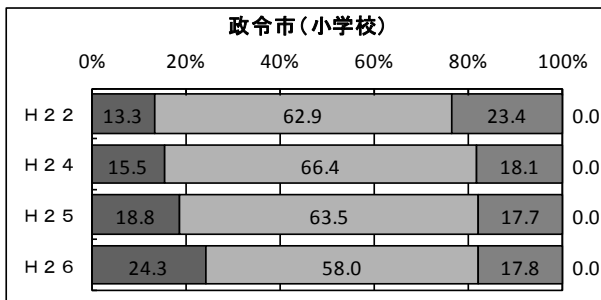
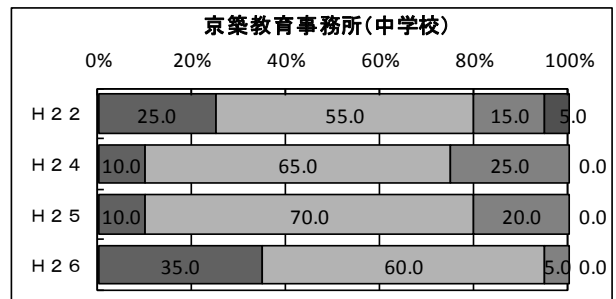
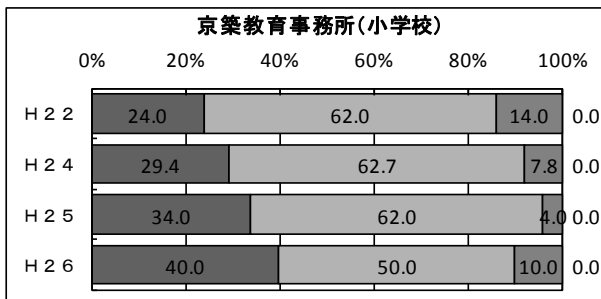
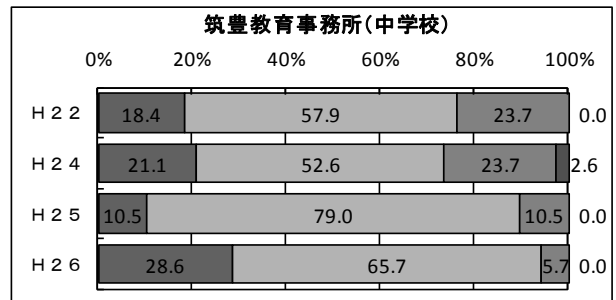
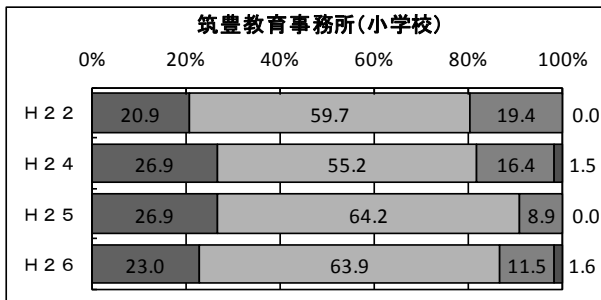
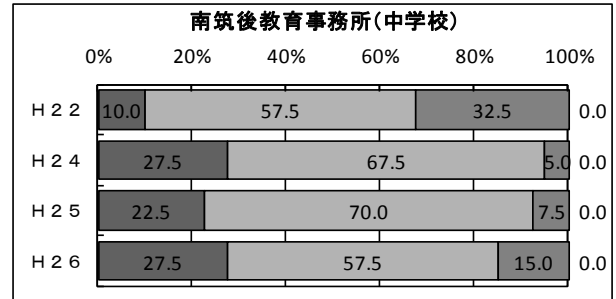
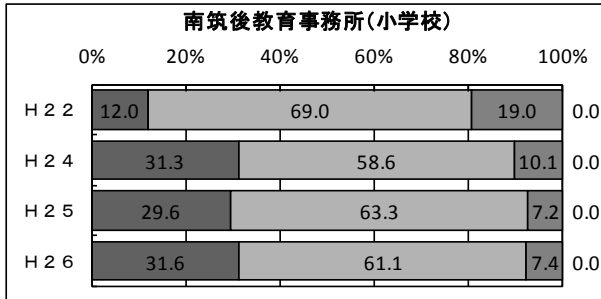
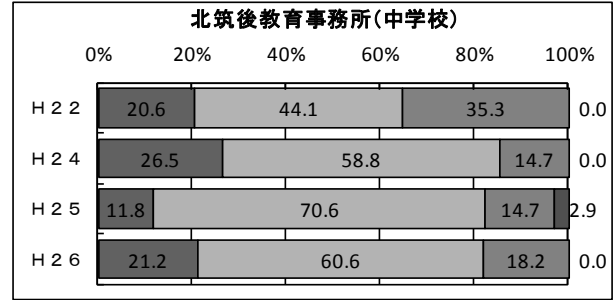
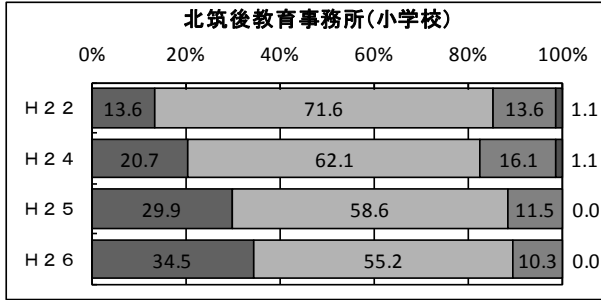
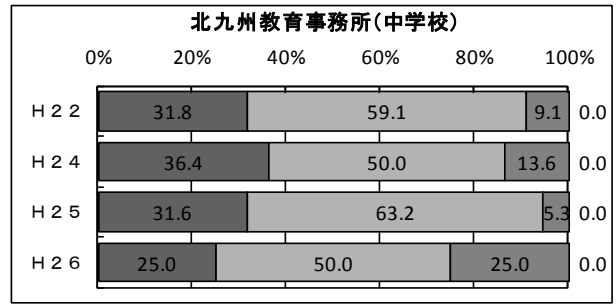
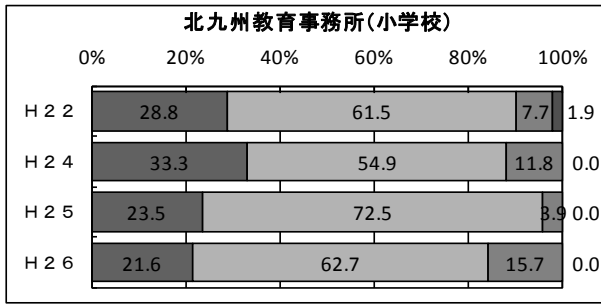


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





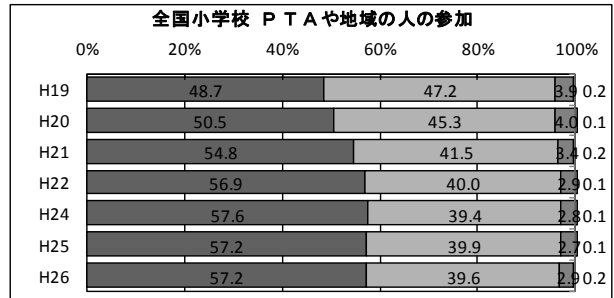
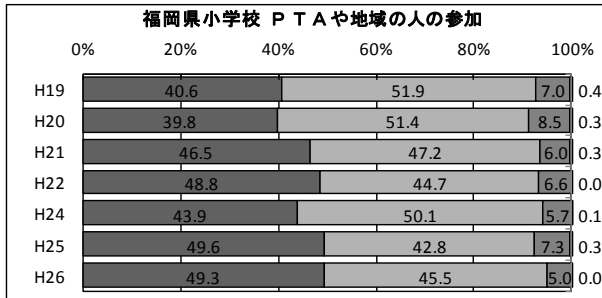
5 地域やPTAとの連携

小77・中75 PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか。

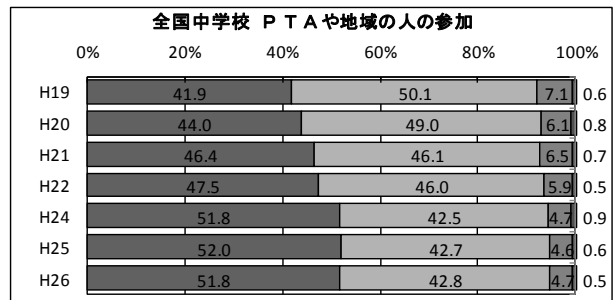
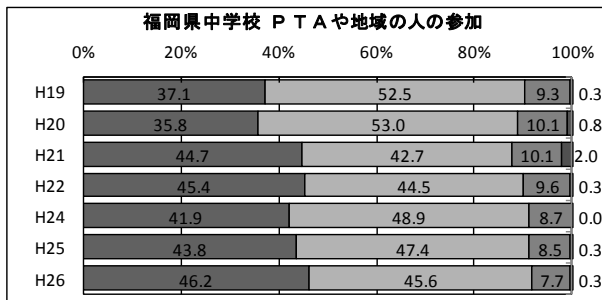
- よく参加してくれる、どちらかといえば参加してくれると回答した学校の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加している。
- よく参加してくれる、参加してくれると回答した学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

■ 小学校回答状況

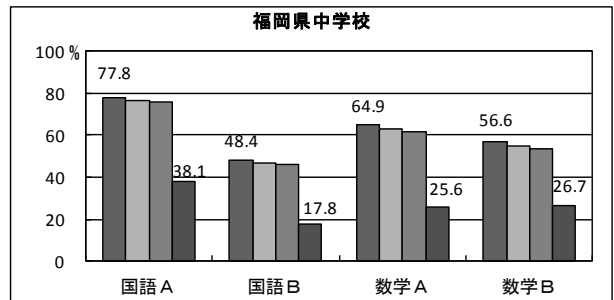
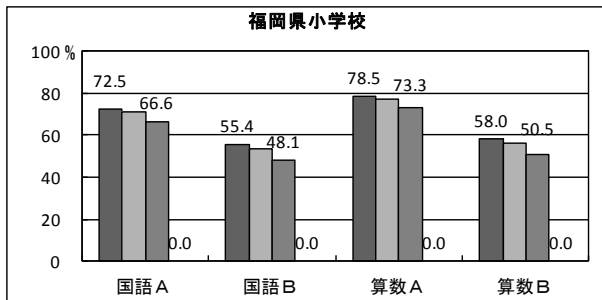
■よく参加してくれる ■どちらかといえば ■あまり ■参加してくれない



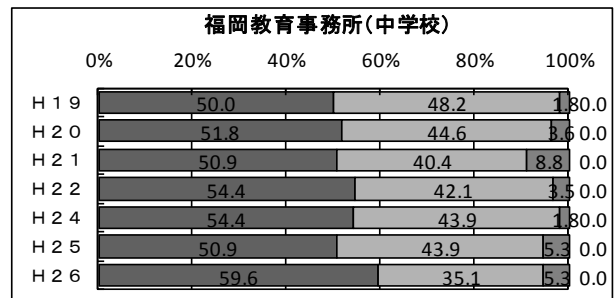
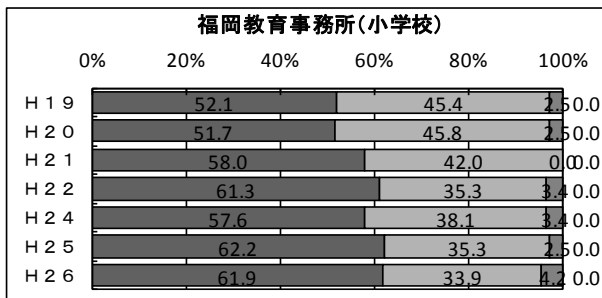
■ 中学校回答状況

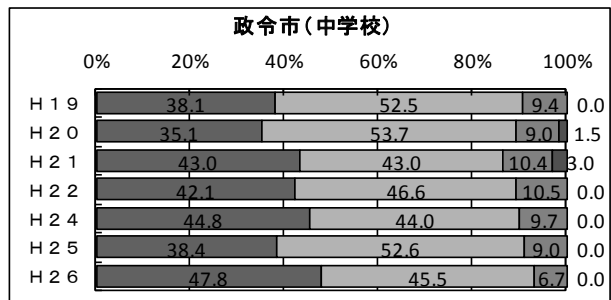
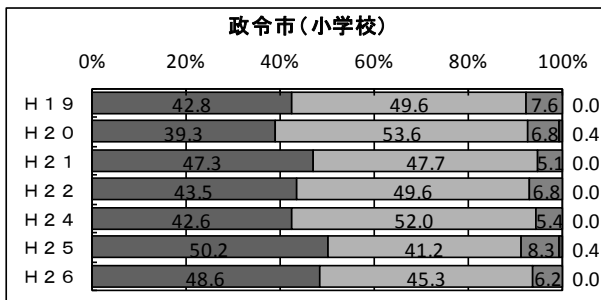
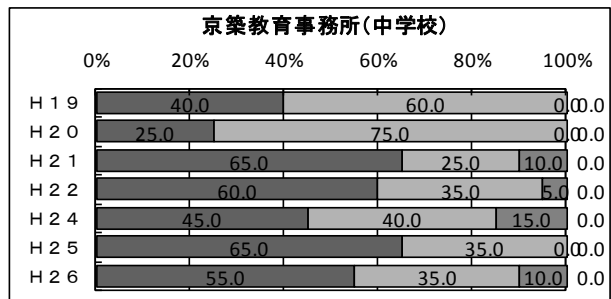
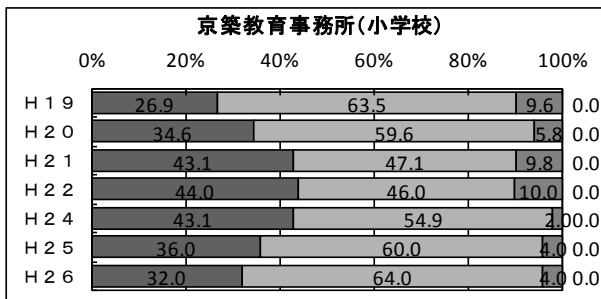
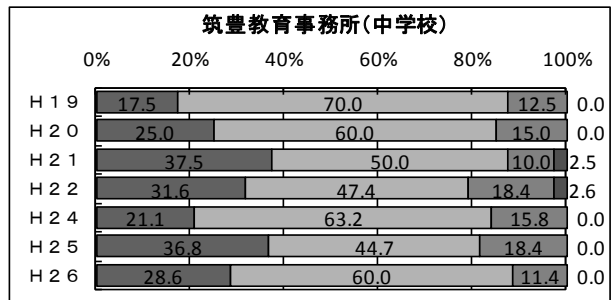
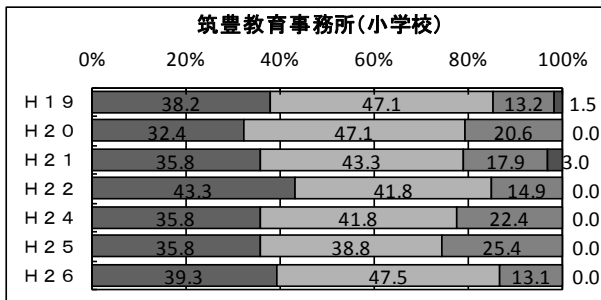
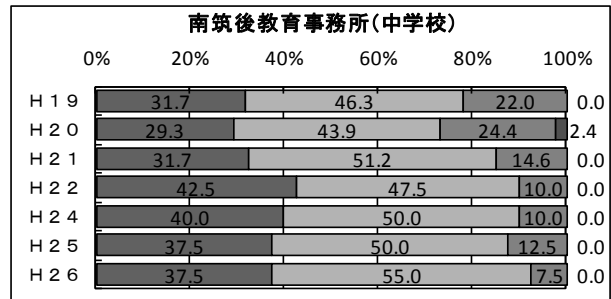
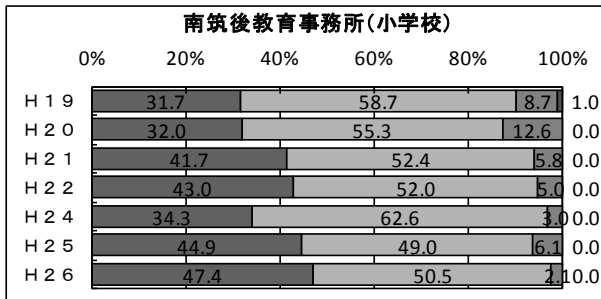
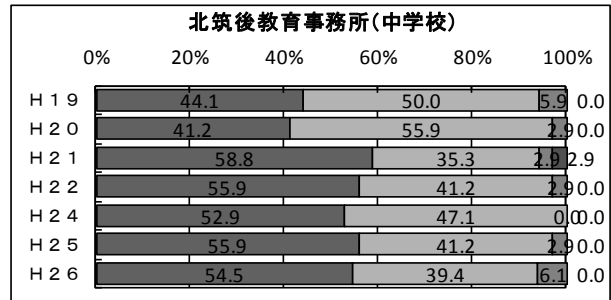
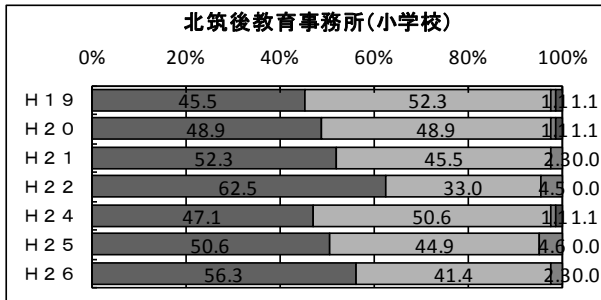
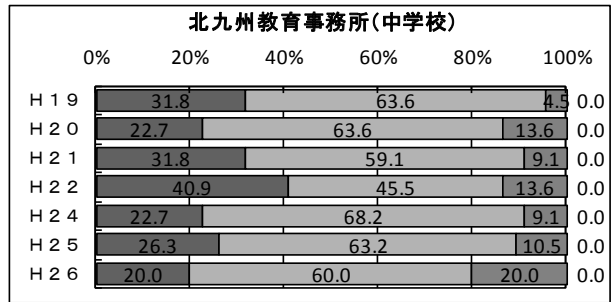
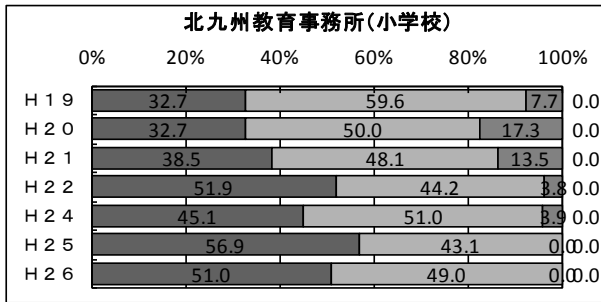


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





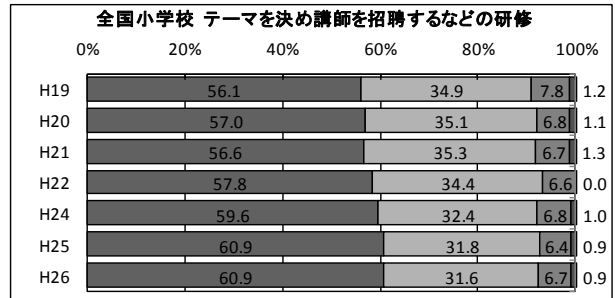
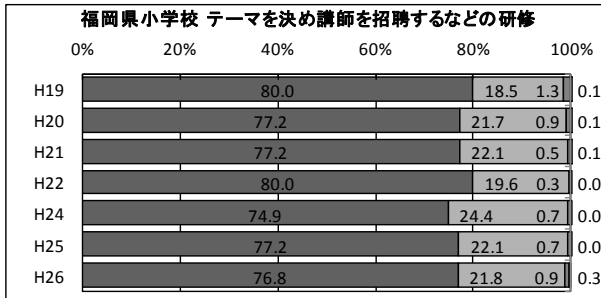
6 教員研修

小 88・中 86 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。

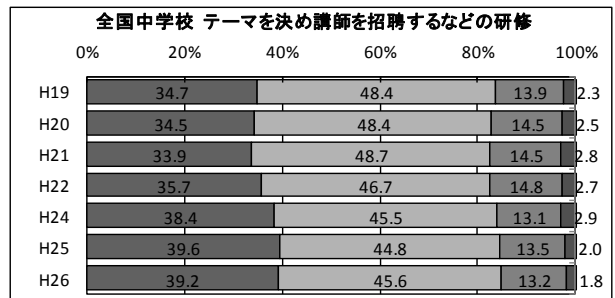
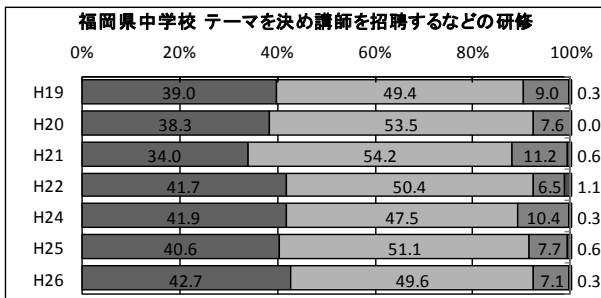
- よくしている回答している学校の割合は、平成25年度と比較して小学校では減少し、中学校では増加している。
- よくしている、どちらかといえばしていると回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- ※ 「まったく行っていない」と回答した小学校は2校であったため、分析の対象から除外した。

■ 小学校回答状況

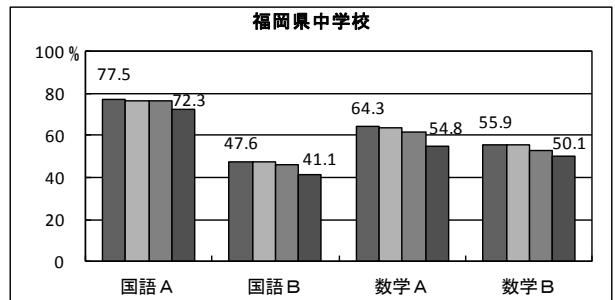
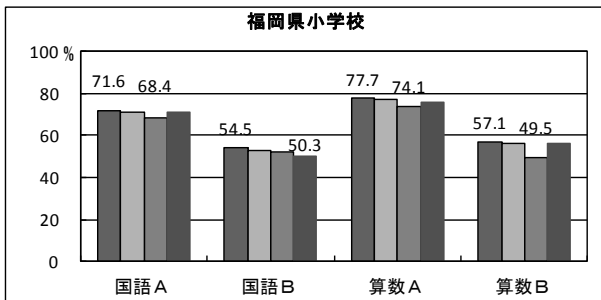
■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ していない



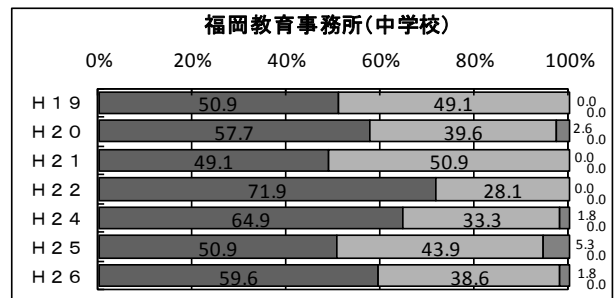
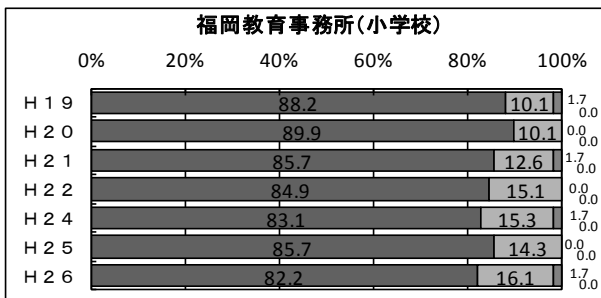
■ 中学校回答状況

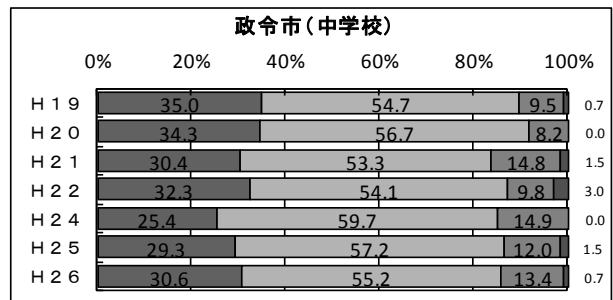
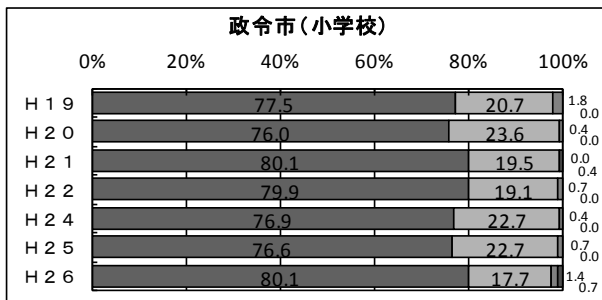
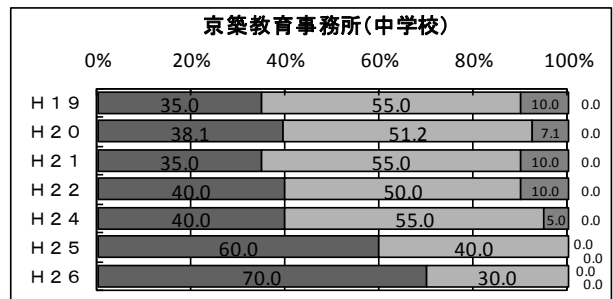
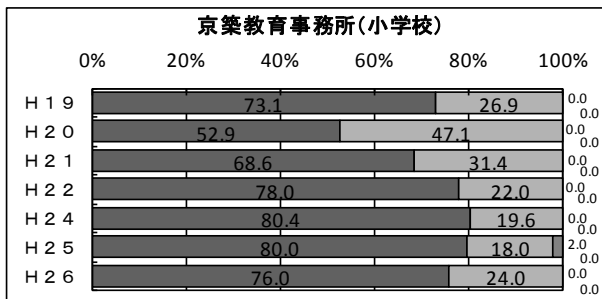
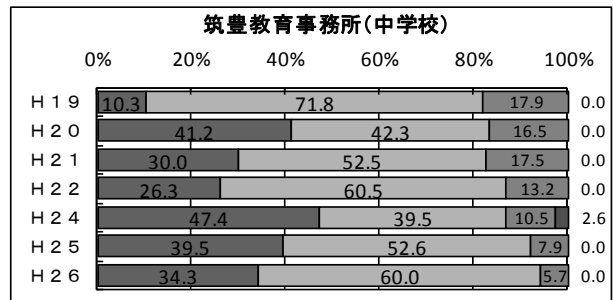
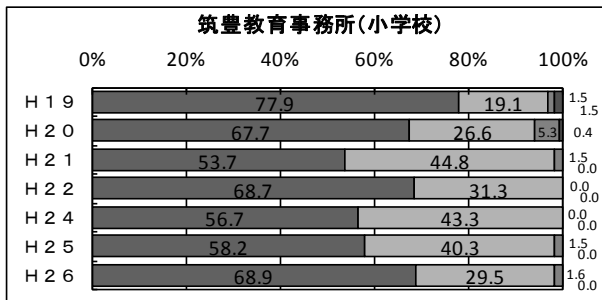
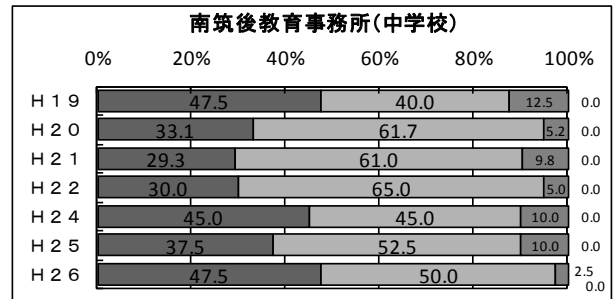
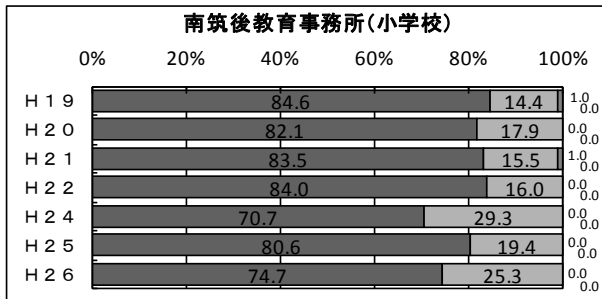
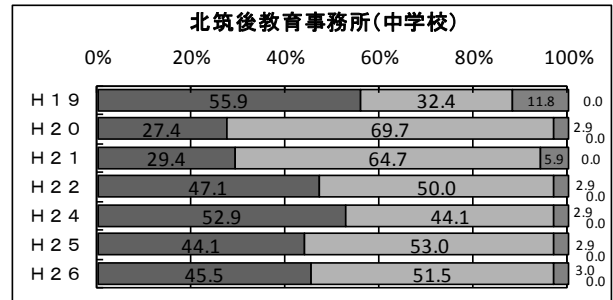
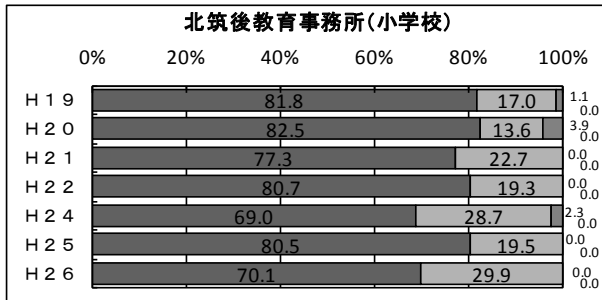
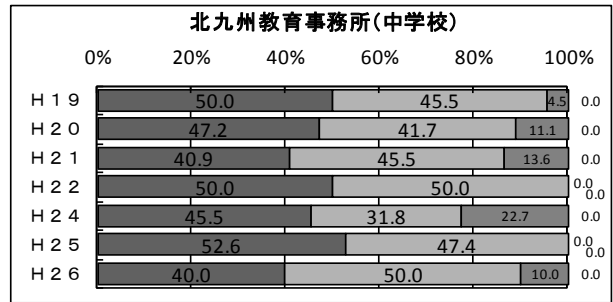
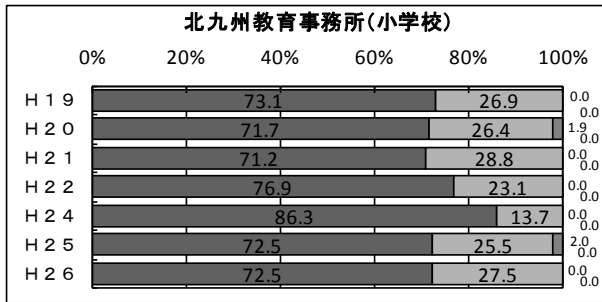


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





7 就学援助

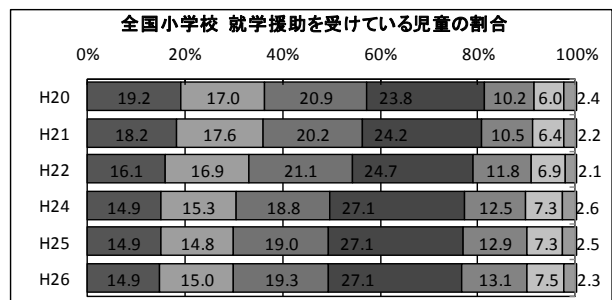
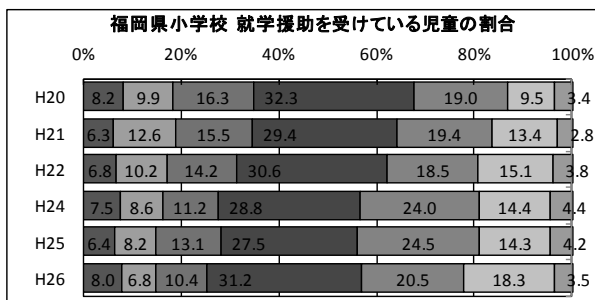
小21・中21 就学援助を受けている児童生徒の割合

※平成20年度から加えられた質問

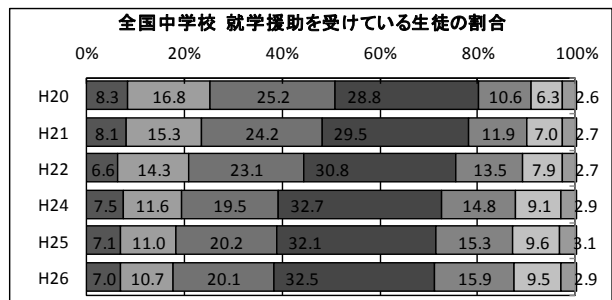
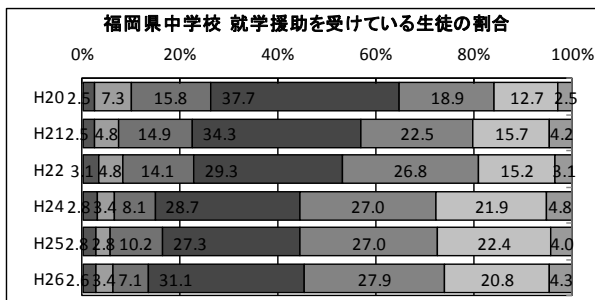
- 本県は全国と比べて小学校、中学校ともに就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校が多い。
- 就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校の方が、全教科区分において平均正答率が低い傾向にある。

■ 小学校回答状況

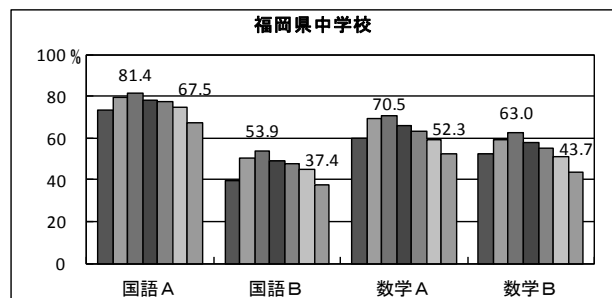
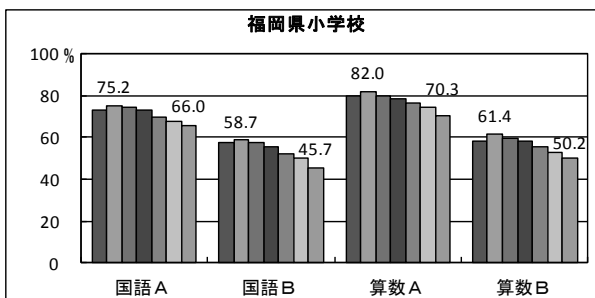
■ 受けていない ■ 5%未満 ■ 10%未満 ■ 20%未満 ■ 30%未満 ■ 50%未満 ■ 50%以上



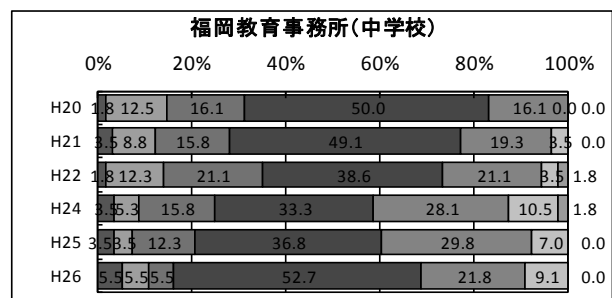
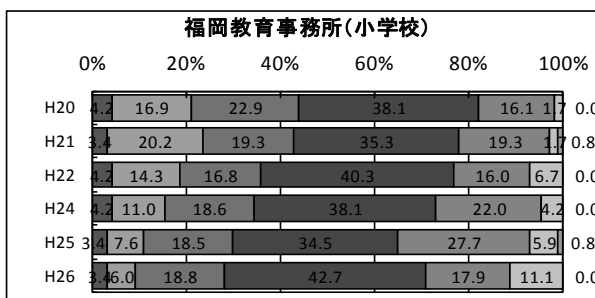
■ 中学校回答状況

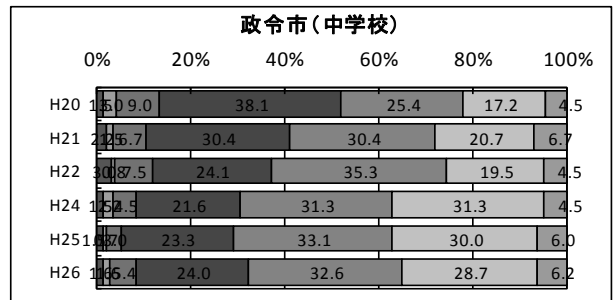
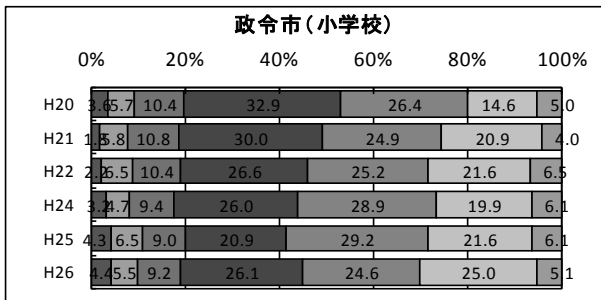
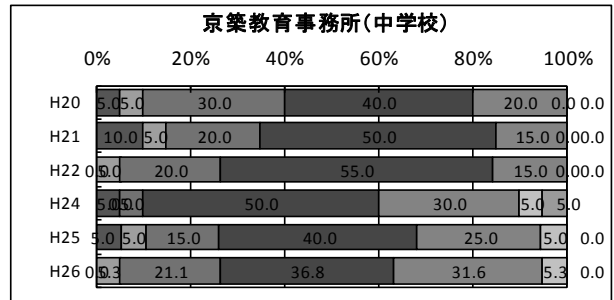
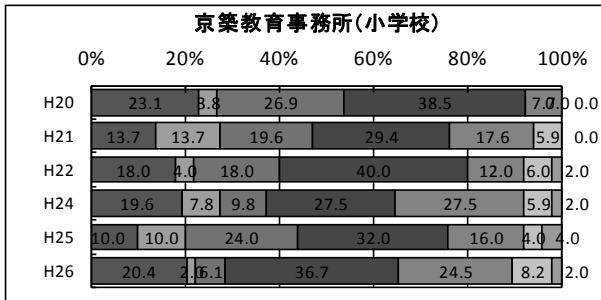
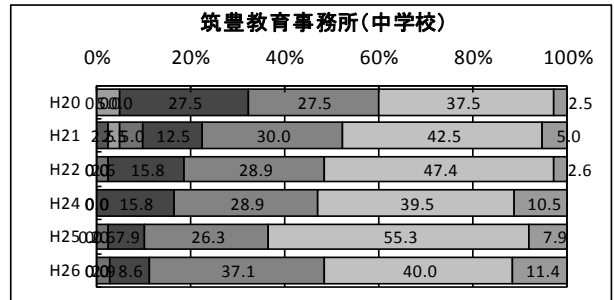
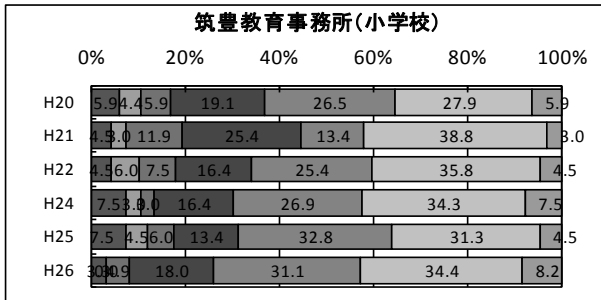
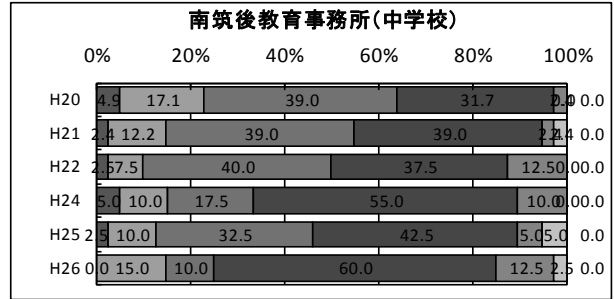
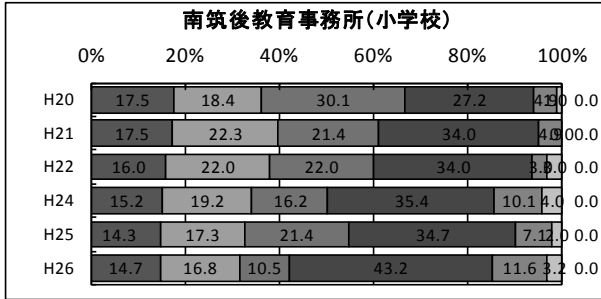
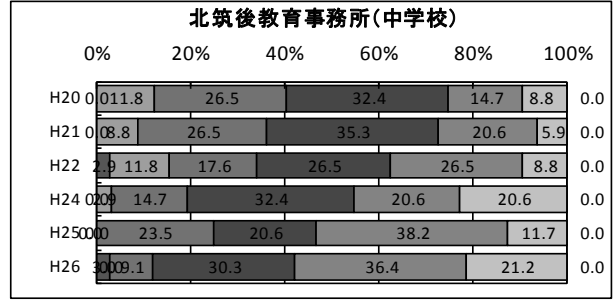
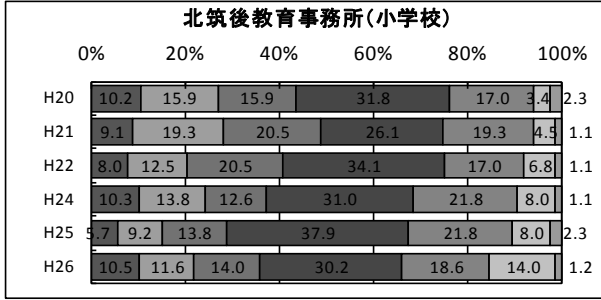
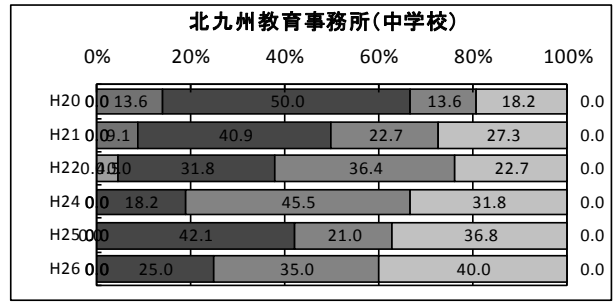
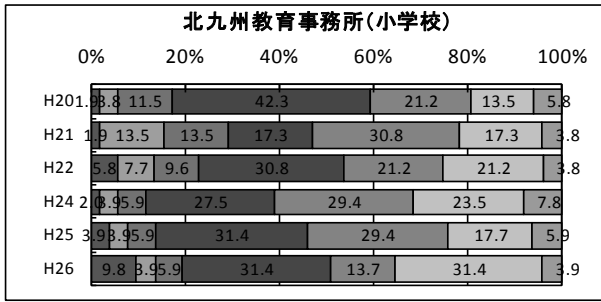


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





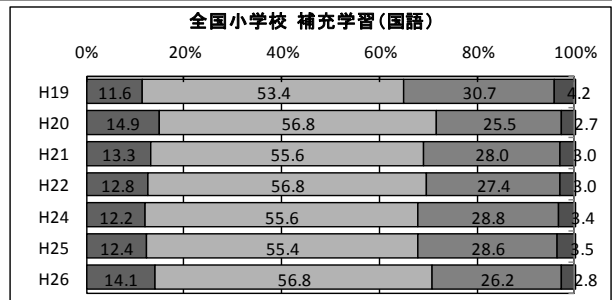
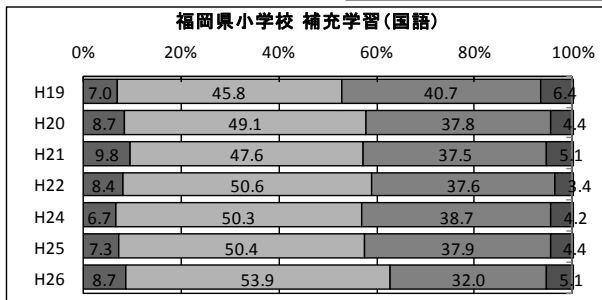
8 補充学習

小59・中59 国語の指導として、前年度までに補充的な学習の指導を行いましたか。

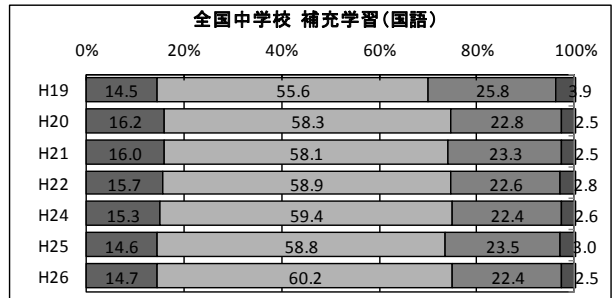
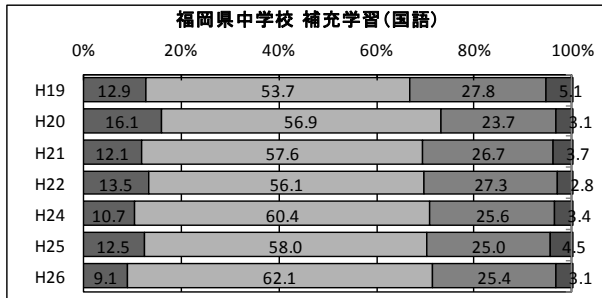
○ よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加した。

■ 小学校回答状況

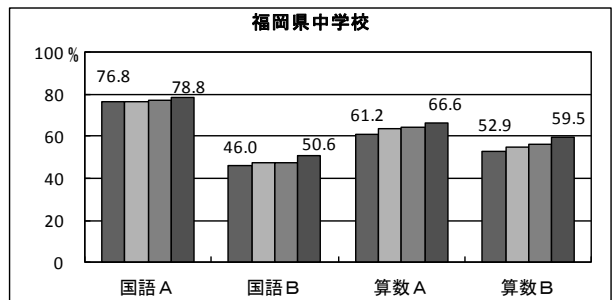
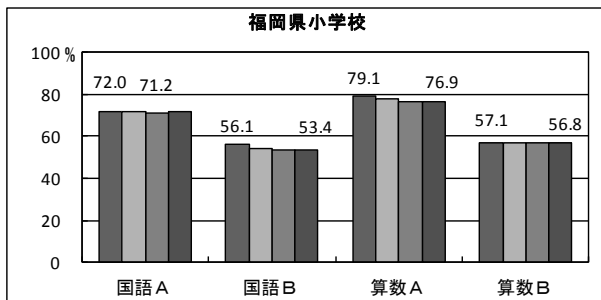
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない



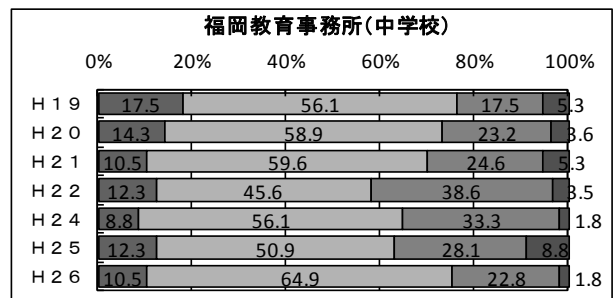
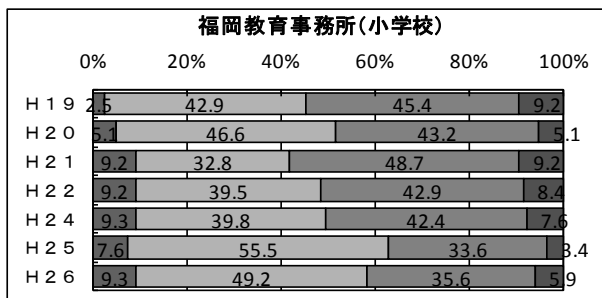
■ 中学校回答状況

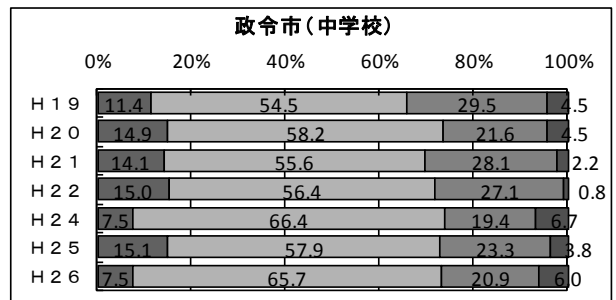
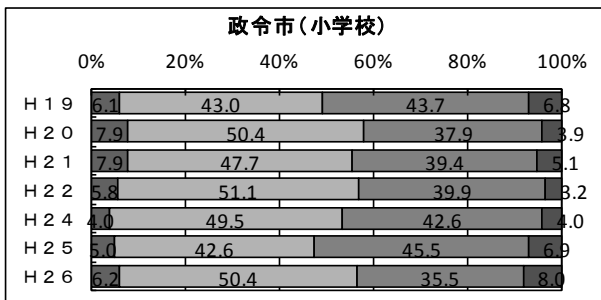
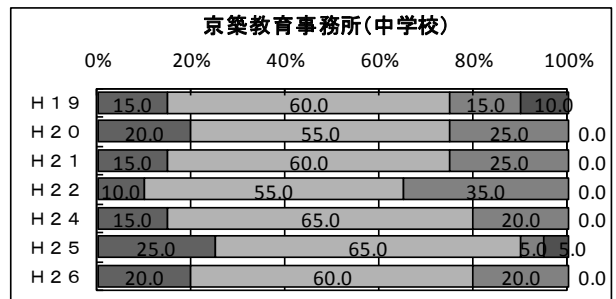
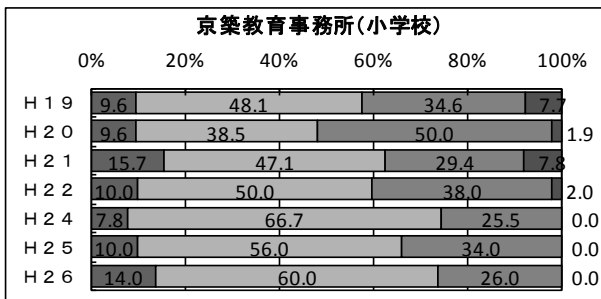
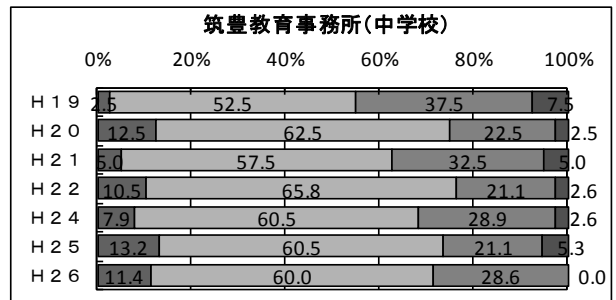
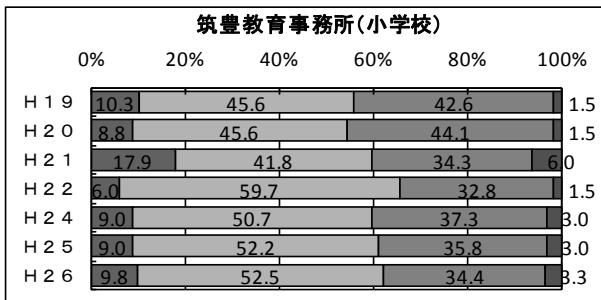
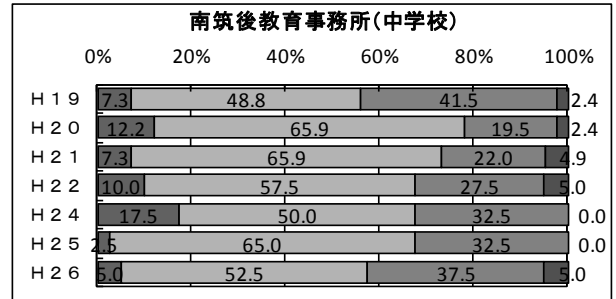
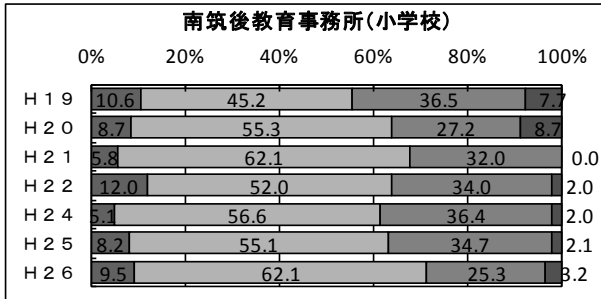
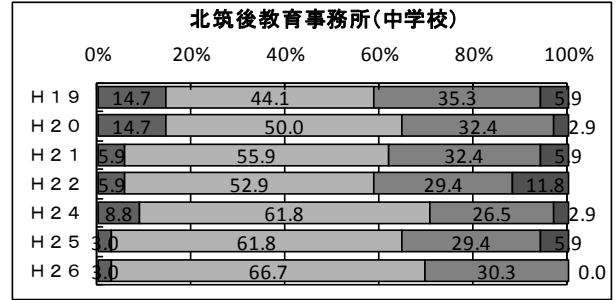
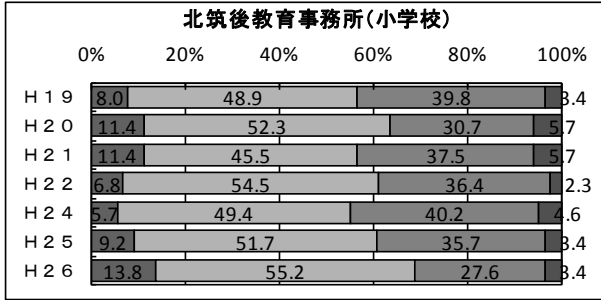
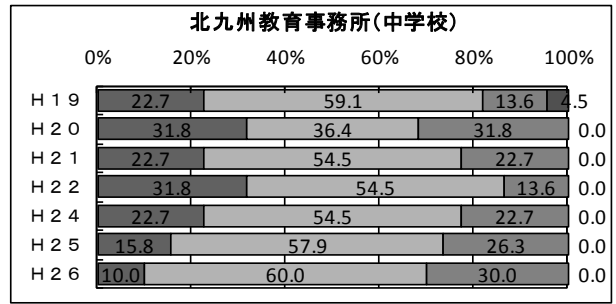
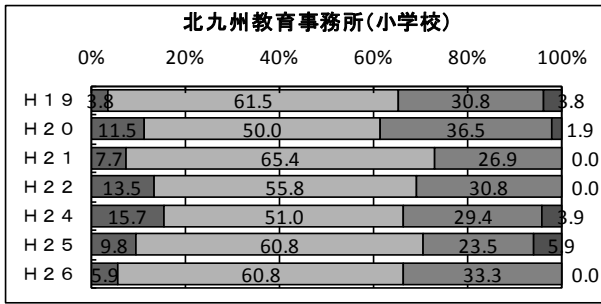


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





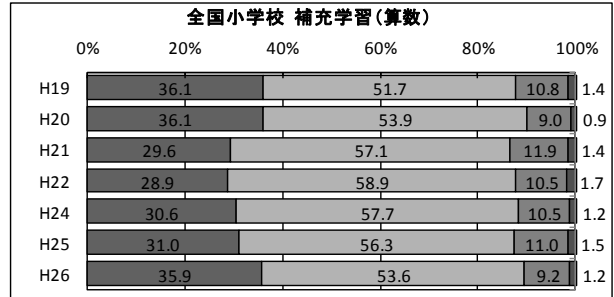
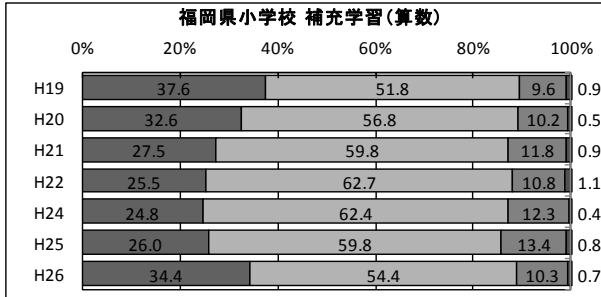
小66・中65

算数・数学の指導として、前年度までに補足的な学習の指導を行いましたか。

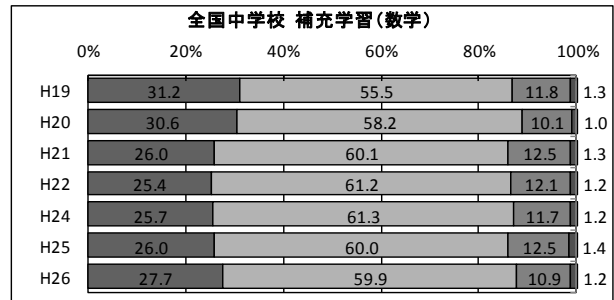
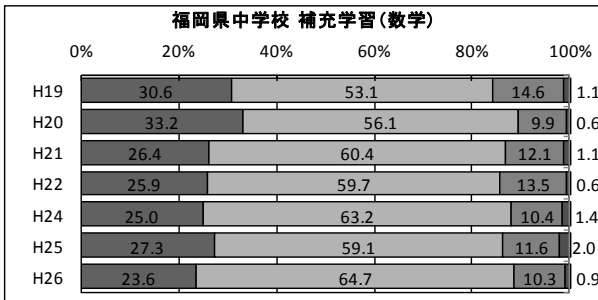
○ よく行った、どちらかといえば行っていると回答している学校の割合は、平成25年度と比較して小学校、中学校ともに増加している。

■ 小学校回答状況

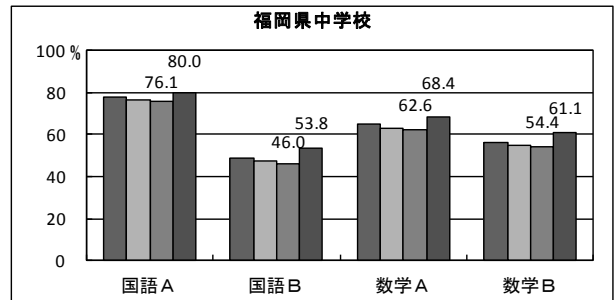
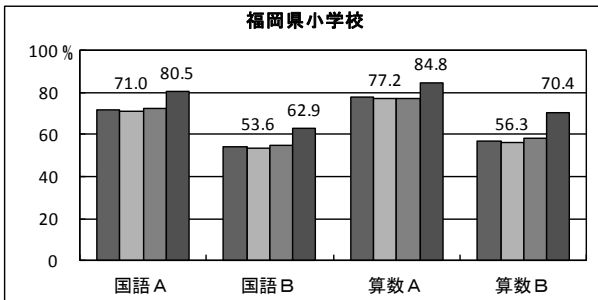
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行っていない



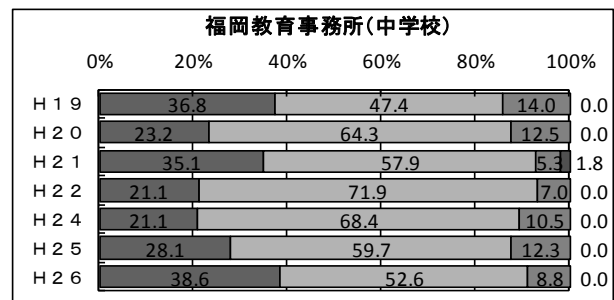
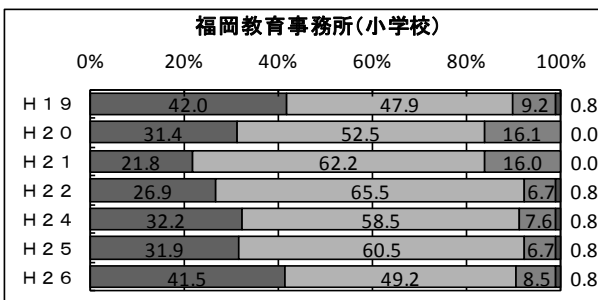
■ 中学校回答状況

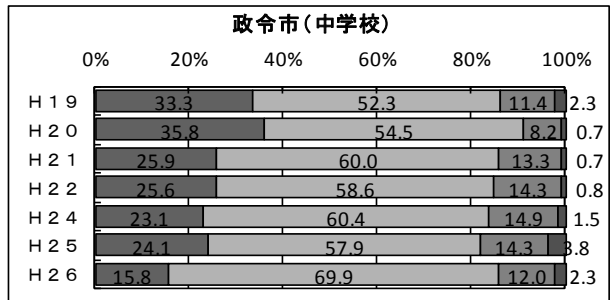
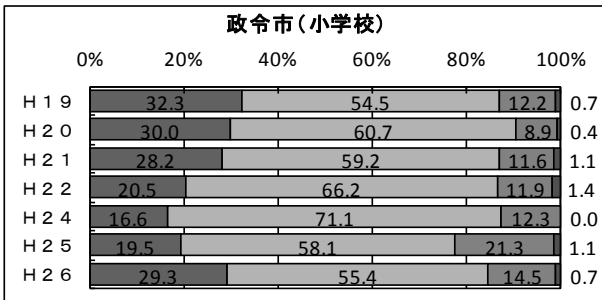
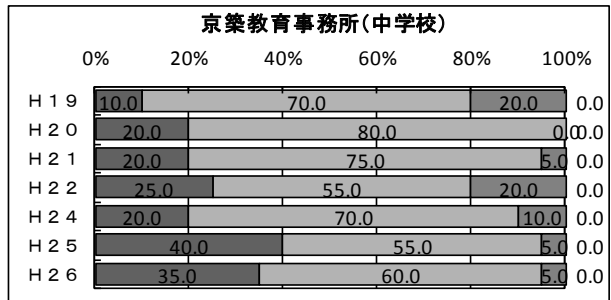
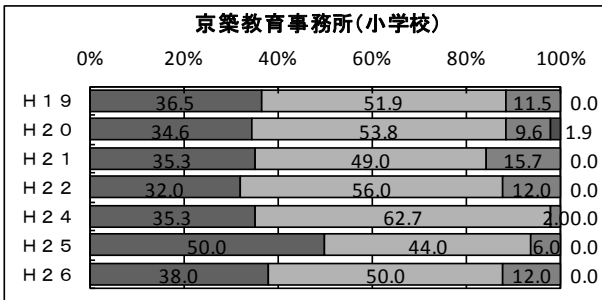
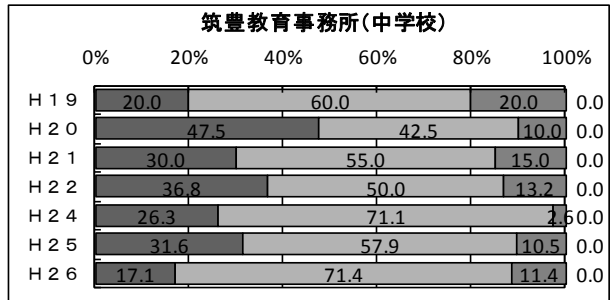
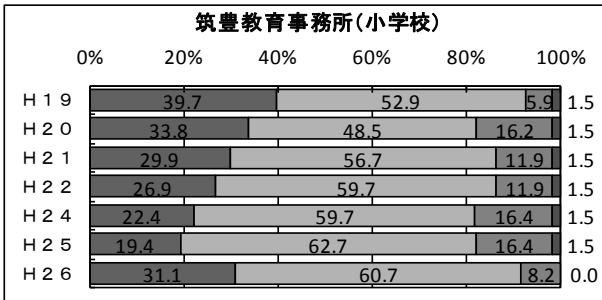
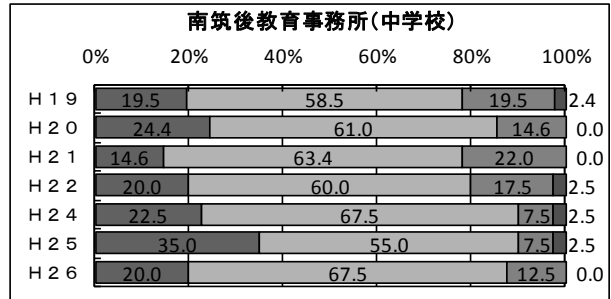
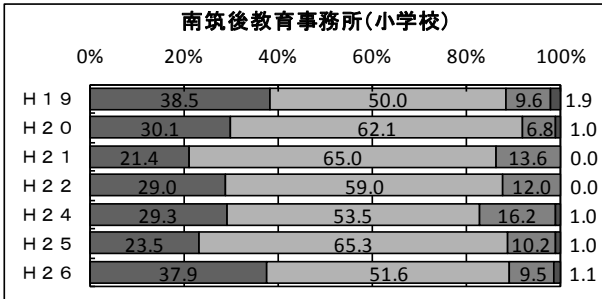
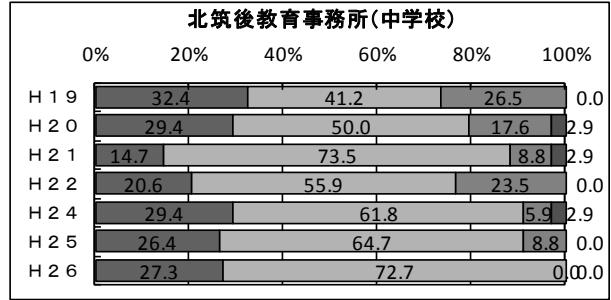
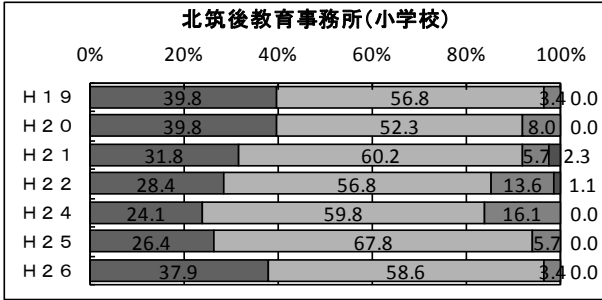
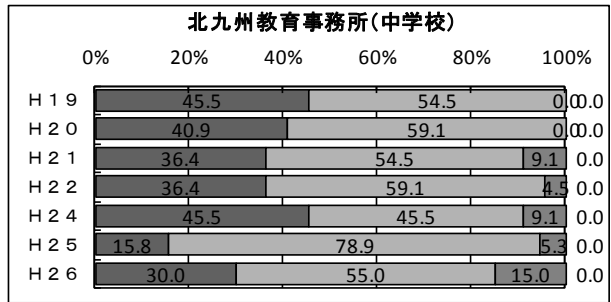
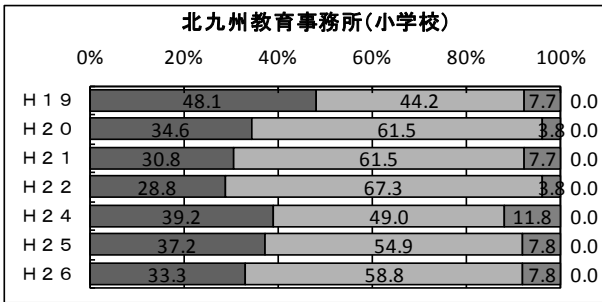


■ 教科の正答率との相関



■ 地区別回答状況





VI 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の対比

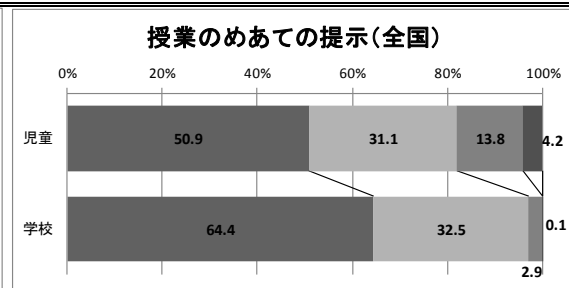
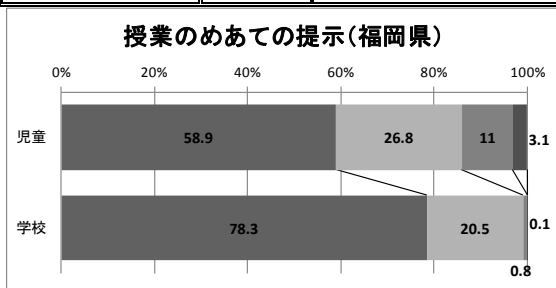
児童生徒質問紙と学校質問紙の共通質問について、教師と児童生徒の認識の違いをみる。

1 小学校

あてはまる
 どちらかといえば
 あまり
 全く

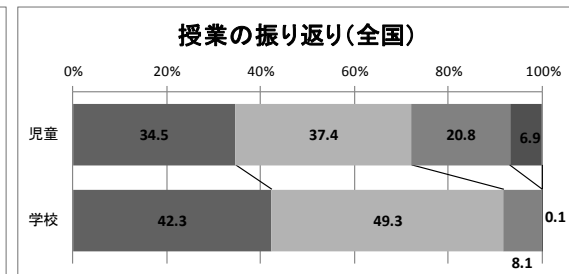
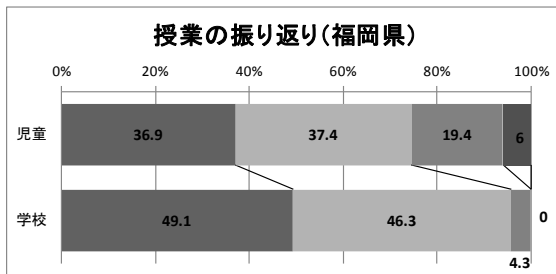
※ 数字は児童生徒質問紙及び学校質問紙中の質問番号

児童質問紙	44	5年生までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。
学校質問紙	28	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。



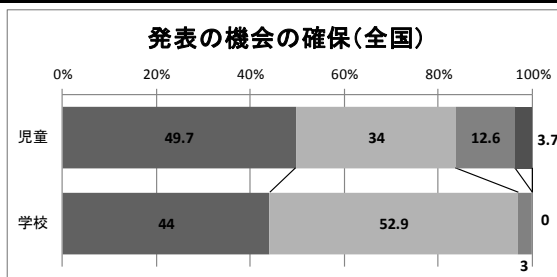
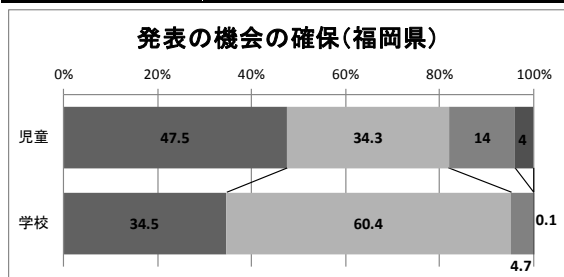
「授業のめあてが示されていたか」という問いに対し、肯定的な回答をした児童の割合は、学校が回答した割合よりも13.2ポイント低い。

児童質問紙	45	5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。
学校質問紙	29	調査学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。



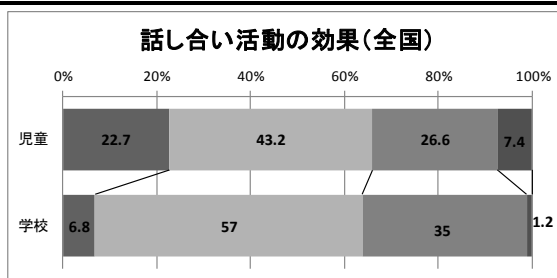
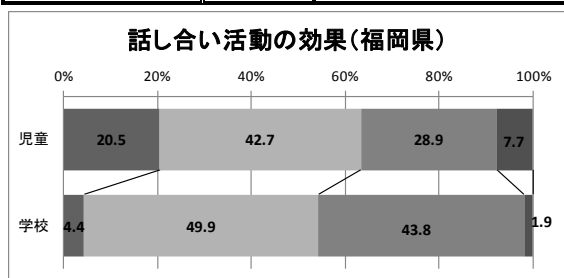
「授業の振り返りが行われていたか」という問いに対し、肯定的な回答をした児童の割合は、学校が回答した割合よりも21.1ポイント低い。

児童質問紙	4 2	5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。
学校質問紙	3 2	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して学習を進めましたか。



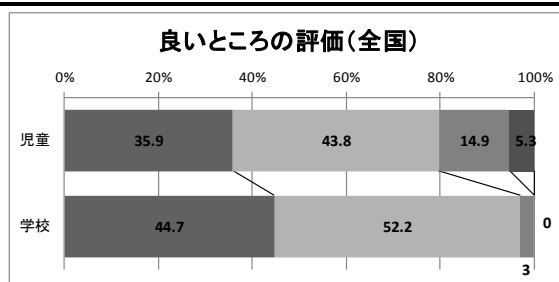
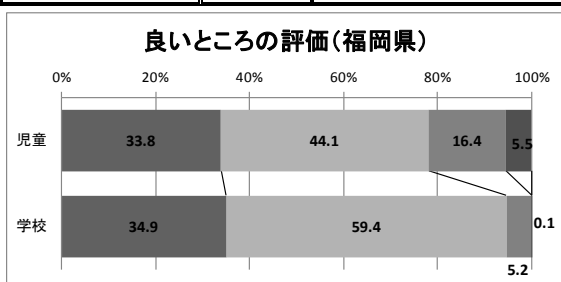
「発表の機会が与えられていたか」という問いに対し、肯定的な回答をした児童の割合は、学校が回答した割合よりも13.1ポイント低い。

児童質問紙	4 8	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。
学校質問紙	2 0	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



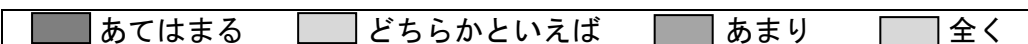
「自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」という問いに対し、肯定的な回答をした児童の割合は、学校が回答した割合よりも8.9ポイント高く、全くそう思わないと回答した児童の割合も学校が回答した割合よりも5.8ポイント高い。

児童質問紙	28	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
学校質問紙	20	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか。

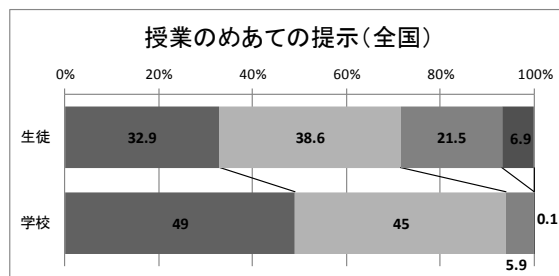
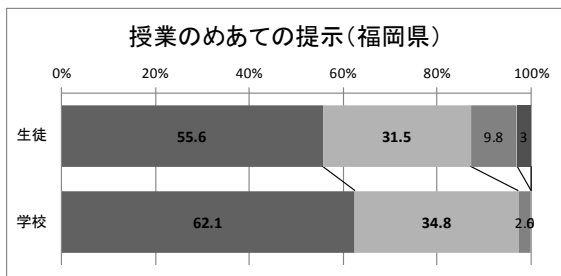


教師による「児童のよいところ」の評価に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、学校が回答した割合よりも16.4ポイント低い。

2 中学校

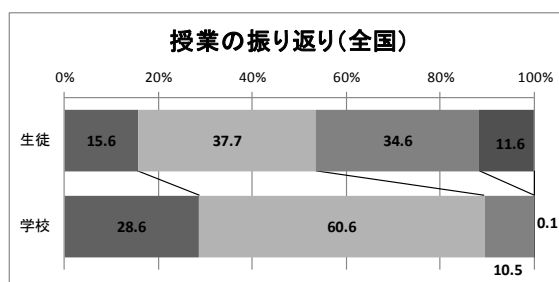
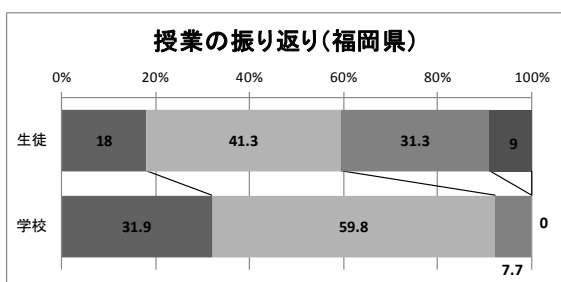


生徒質問紙	44	1、2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。
学校質問紙	28	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。



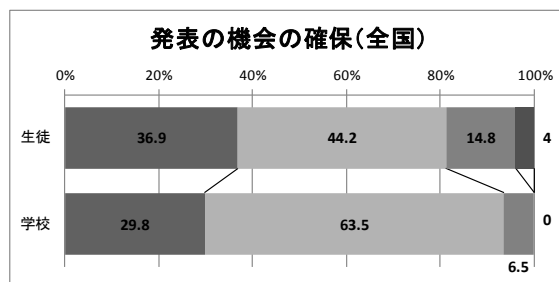
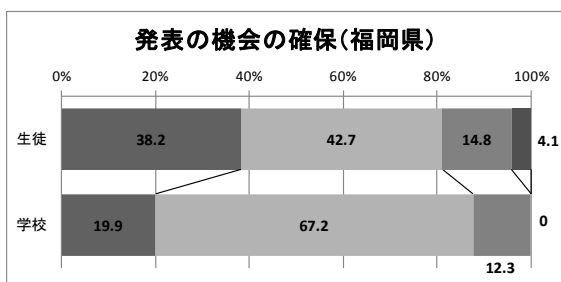
「授業のめあての提示が示されていたか」という問いに対し、肯定的な回答をした生徒の割合は、学校が回答した割合よりも9.8ポイント低い。

生徒質問紙	45	1、2年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。
学校質問紙	29	調査学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。



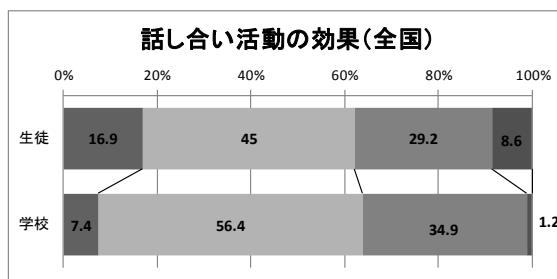
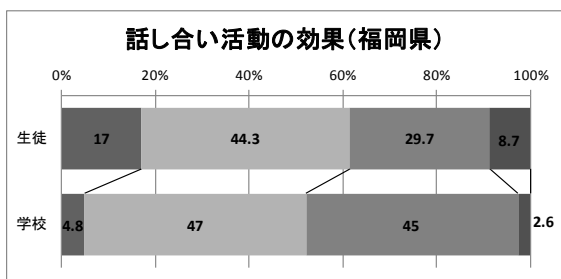
「授業の振り返りが行われていたか」という問いに対し、肯定的な回答をした生徒の割合は、学校が回答した割合よりも32.4ポイント低い。

生徒質問紙	42	1、2年生の時に受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。
学校質問紙	32	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して学習を進めましたか。



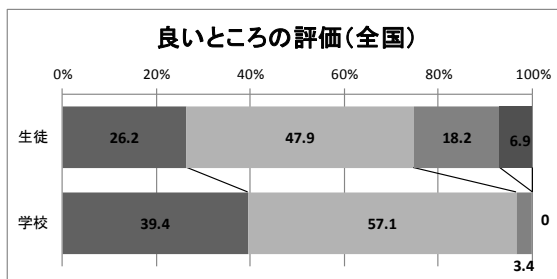
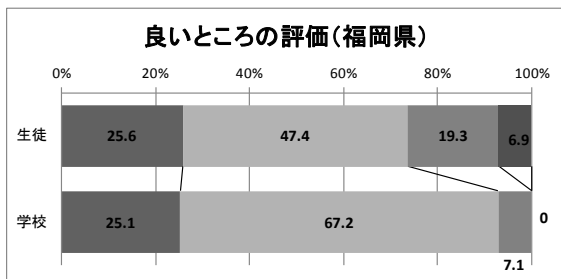
「発表の機会が与えられていたか」という問いに対し、肯定的な回答をした生徒の割合は、学校が回答した割合よりも6.2ポイント低い。

生徒質問紙	48	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。
学校質問紙	20	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



「自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」という問いに対し、肯定的な回答をした生徒の割合は、学校が回答した割合よりも9.5ポイント高く、「全くそう思わない」と回答した生徒の割合も、学校が回答した割合よりも6.1ポイント高い。

生徒質問紙	28	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
学校質問紙	34	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか。



教師による「生徒のよいところ」の評価に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、学校が回答した割合よりも19.3ポイント低い。

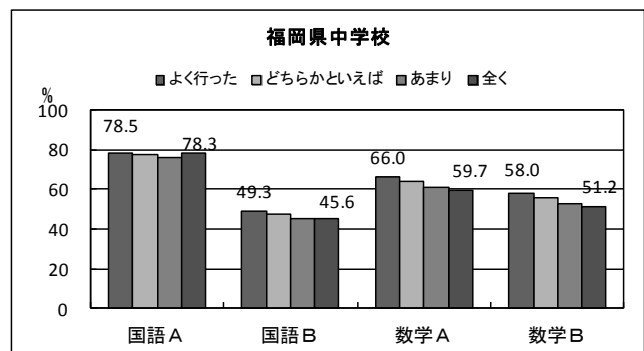
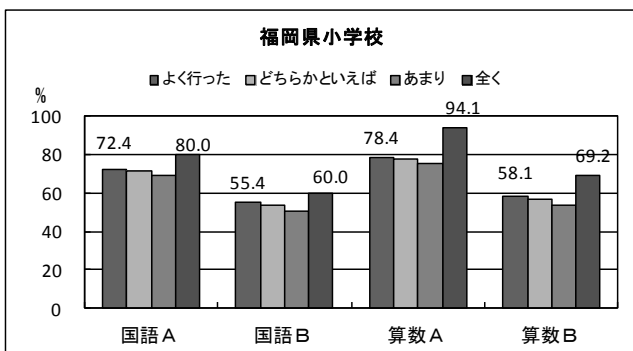
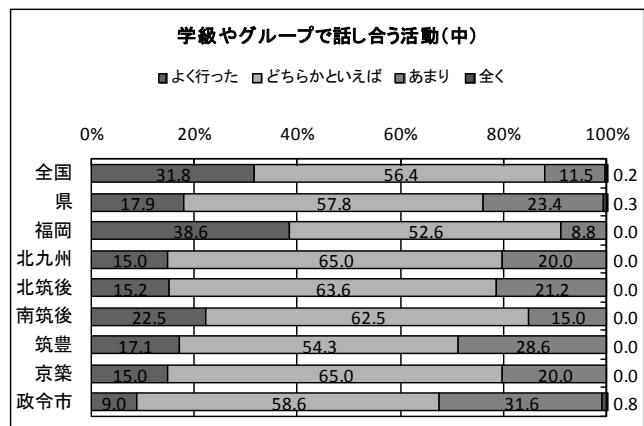
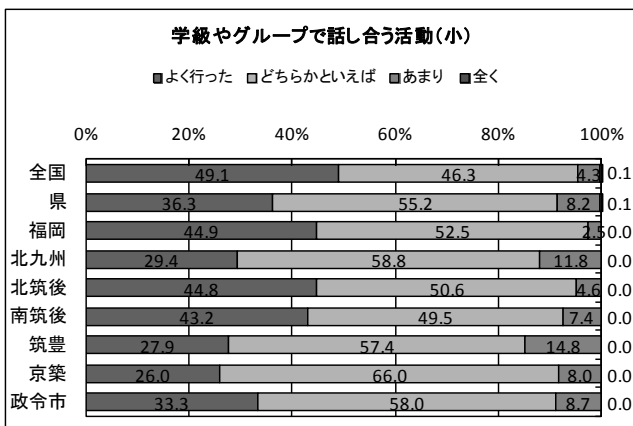
Ⅵ 本年度新たに分析した調査項目

1 学級やグループで話し合う活動

※ 数字は、児童生徒質問紙及び学校質問紙中の質問番号

小38	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業で行いましたか。
中38	

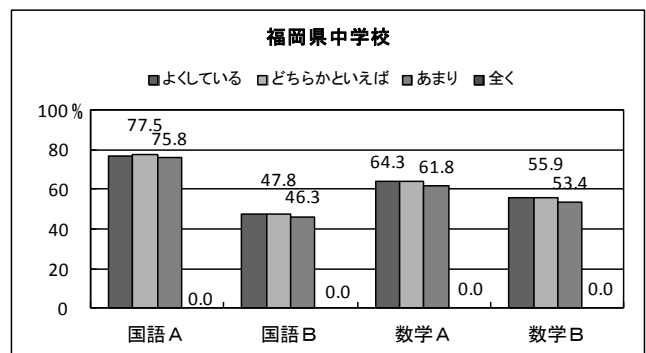
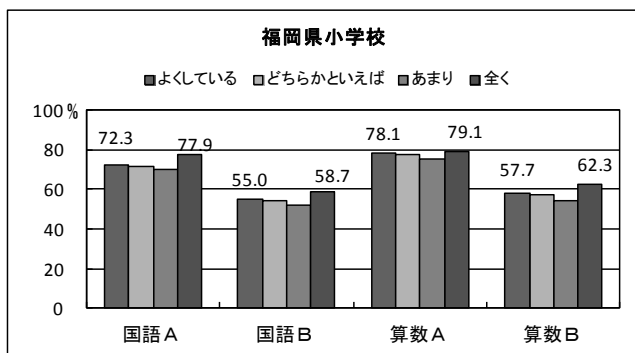
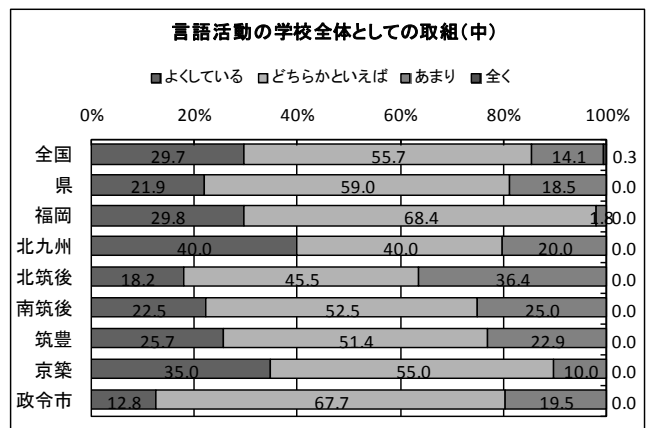
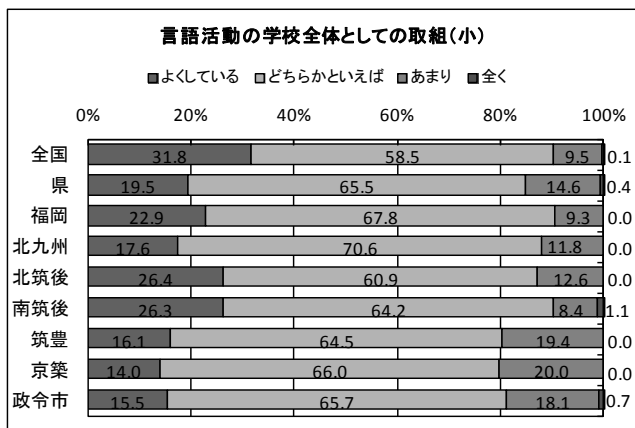
- 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べ小学校は12.8ポイント、中学校は13.9ポイント下回っている。
 - 「よく行った」と回答している学校の割合は、小中を比較すると、小学校の方が高い。
 - 「よく行った」と回答している学校の割合について、地区間の差を見ると、小学校は最大18.9ポイント、中学校は最大29.6ポイントの差がある。
 - 「よく行った」と回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- ※ 「まったく行っていない」と回答した小学校は1校であったため、分析の対象から除外した。



2 言語活動の学校全体としての取組

小97 中95	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。
------------	---

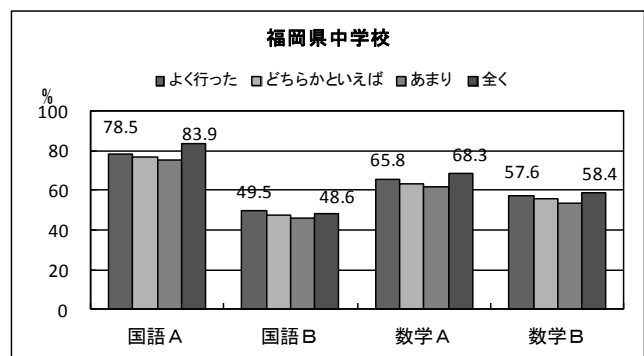
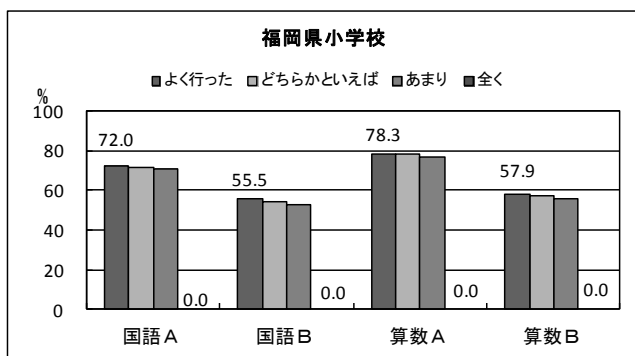
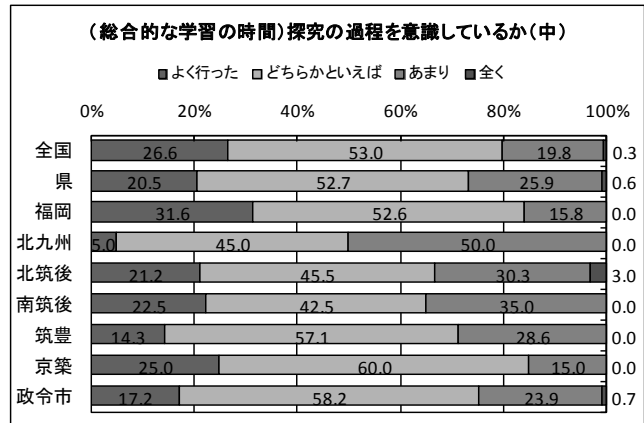
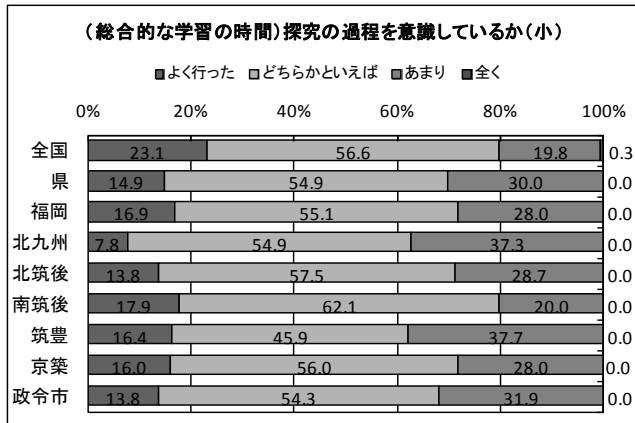
- 「よくしている」と回答している学校の割合は、全国と比べ、小学校は12.3ポイント、中学校は7.8ポイント下回っている。
 - 「よくしている」と回答している学校の割合は、小中を比較すると、中学校の方が高い。
 - 「よくしている」と回答している学校の割合について、地区間の差を見ると、小学校は最大12.4ポイント、中学校は最大27.2ポイントの差がある。
 - 「よくしている」と回答している学校の正答率は、小学校は全教科区分において高い傾向にある。
- ※ 「全くしていない」と回答した小学校は3校であったため、分析の対象から除外した。



3 総合的な学習の時間

小4 2 中4 2	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。
--------------	--

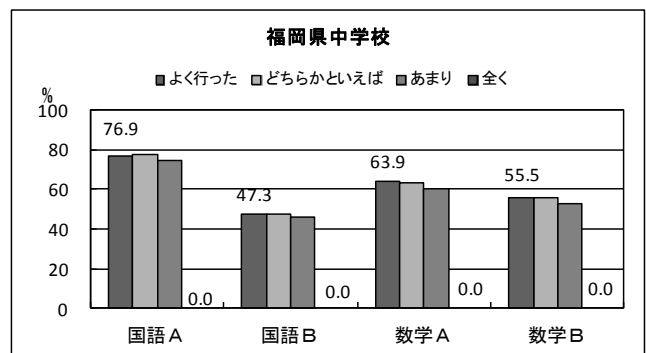
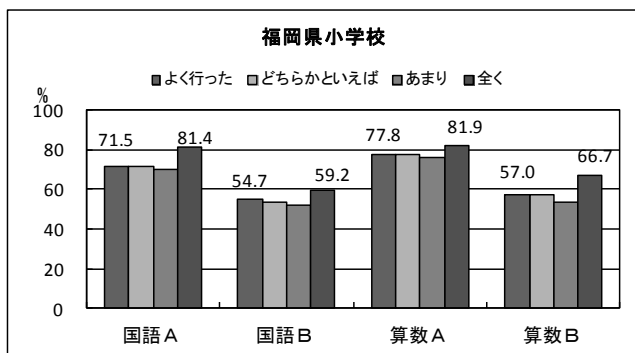
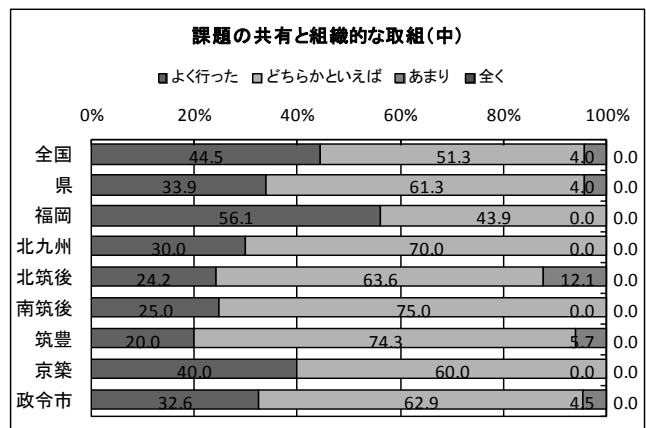
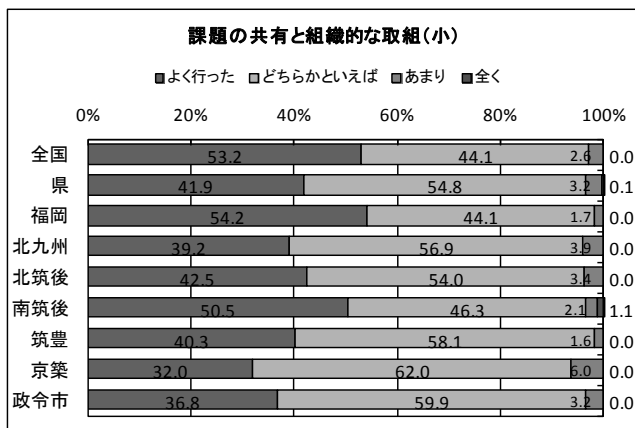
- 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べ、小学校は8.2ポイント、中学校は6.1ポイント下回っている。
 - 「よく行った」と回答している学校の割合は、小中を比較すると、中学校の方が高い。
 - 「よく行った」と回答している学校の割合について、地区間の差を見ると、小学校は最大10.1ポイント、中学校は最大26.6ポイントの差がある。
 - 「よく行った」と回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- ※ 「まったく行っていない」と回答した中学校は1校であったため、分析の対象から除外した。



4 全職員による課題の共有と組織的な取組

小100 中98	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。
-------------	---

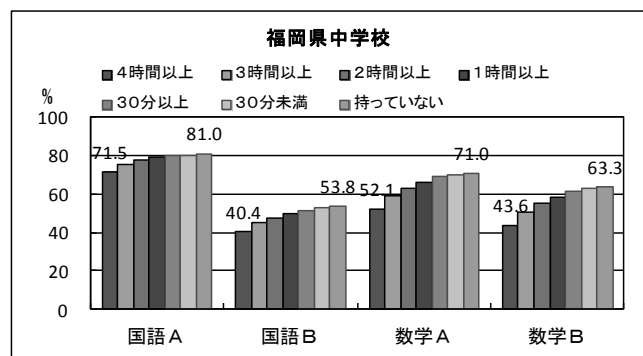
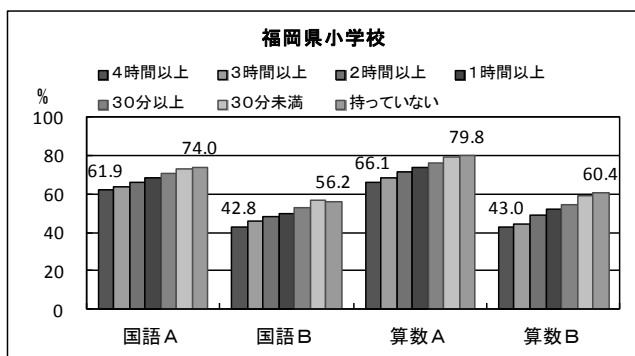
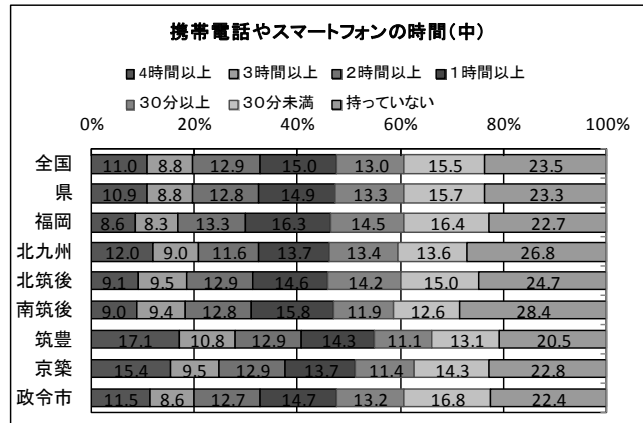
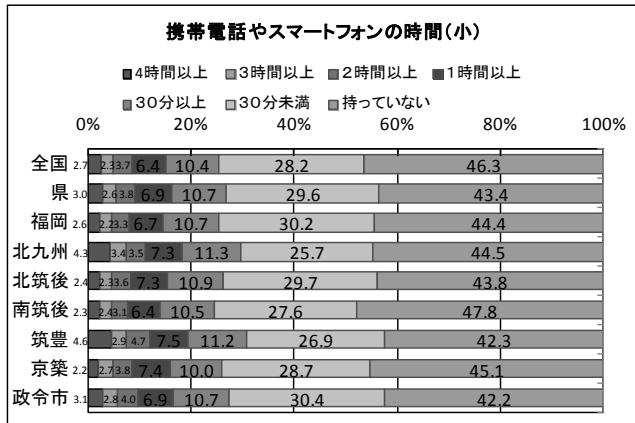
- 「よく行った」と回答している学校の割合は、全国と比べ、小学校は11.3ポイント、中学校は10.6ポイント下回っている。
 - 「よく行った」と回答している学校の割合は、小中を比較すると、小学校の方が高い。
 - 「よく行った」と回答している学校の割合について、地区間の差を見ると、小学校は最大22.2ポイント、中学校は最大36.1ポイントの差がある。
 - 「よく行った」と回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。
- ※ 「まったく行っていない」と回答した小学校は1校であったため、分析の対象から除外した。



5 携帯電話やスマートフォンの時間（児童生徒質問紙）

小13 中13	<p>普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）</p>
------------	---

- 携帯電話やスマートフォンを持っている児童生徒の割合は、小学生児童が 56.6%、中学校生徒が 76.5%である。
- 1日の通話やメール、インターネットの時間が1時間以上の児童生徒の割合は、小学校児童が 16.3%、中学校生徒が 47.7%である。
- 1日の通話やメール、インターネットの時間が1時間以上の児童生徒の割合について、地区間の差を見ると、小学校は最大 5.5 ポイント、中学校は最大 9.0 ポイントの差がある。
- 通話やメール、インターネットをする時間が短いほど、全教科区分において正答率が高い傾向にある。



Ⅷ まとめと今後の取組

1 分析結果の総括

■ <教科に関する調査について>

- 小中学校ともに、平成25年度と比較して、無回答の児童生徒の割合が低くなった。このことは、全ての地区においてあてはまる。
- 小学校では、国語A以外の教科区分で平成19年度と比較して全国平均との差が縮まったが、中学校では、全ての教科区分で差が広がった。
- 小中学校ともに、正答率が低い層の児童生徒の割合が高い。
- 小学校では、平成19年度と比較して、地区ごとの平均正答率の最大・最小の差が国語Aと算数Bで広がっており、地区別の差は算数Bで9.4ポイントある。中学校では、平成19年度と比較して、地区ごとの平均正答率の最大・最小の差が国語B以外で広がっており、地区別の差は数学Bで14.2ポイントある。

■ <市町村別の状況について>

(1) 「市町村別の平均正答率の状況」について

本年度、県教育委員会が調査結果を公表した市町数は、小学校51、中学校41であり、小学校・中学校共に公表した市町数は41である(市町村内の学校数が1小学校又は1中学校の場合は公表(掲載)していない)。これらの公表した市町村についての概況は次のとおりである。

- 正答率が全国平均を上回っている教科区分ごとの市町数
(小学校) 国語A 26 国語B 30 算数A 33 算数B 21
(中学校) 国語A 16 国語B 11 数学A 16 数学B 13
- 小学校・中学校共に8教科区分全てで全国平均を上回っている市町数 4

(2) 「取組の成果が見られる市町村」における主な取組の内容について

以下のような市町村の取組が成果に繋がっている。

【個に応じた指導体制の充実】

- ・ 地域の人材を活用する支援体制を整え、土曜日や夏季休業中等の学習を充実させている。また、市町村費負担教員を配置し、きめ細かな授業を行うことのできる少人数指導体制を整えている。

【組織的な分析に基づく改善】

- ・ 市町村独自の学力向上検証組織を立ち上げ、学力調査結果の分析、改善点の把握、改善策の共有等を行っている。
- ・ 県教育委員会が作成・配布した「基礎基本を含む活用力育成教材集」と「診断テスト」を効果的に授業等に活用するための情報交換や活用方法の指導を行っている。
- ・ 学力分析結果を基に具体的な改善策を策定するとともに、児童生徒の実態に応じた指導資料の作成を行い、授業改善に生かしている。

【家庭・地域と連携した教育環境の構築】

- ・ 家庭や地域との連携を推進し、「家庭学習の手引」「親子チェック表」等の資料を作成し、家庭学習の支援体制を整えている。

【小中連携した指導体制の構築】

- ・ 小学校と中学校で、授業交流や合同研修会等を実施して同一中学校区の成果や課題の共有化を図り、9年間を見通した一貫性のある小中連携教育推進体制をつくっている。

【教職員の実態に応じた職員研修の工夫】

- ・ 経験年数や職務内容に応じた市町村独自の研修を行っている。

■ <児童生徒質問紙、学校質問紙について>

(1) 児童生徒質問紙に関する調査結果について

- 「勉強は好きですか」という問いに対して、小学校国語、中学校国語及び数学については肯定的な回答をした児童生徒の割合が平成25年度と比較して増加しており、特に中学校は経年で増加傾向にある。
- 学校の授業以外の平日の家庭学習時間は、平成25年度と比較して小・中ともに減少している。学校と保護者が連携して家庭における学習習慣を確立することが課題である。

(2) 学校質問紙調査に関する調査結果について

- 「学級やグループで話し合う活動の位置づけ」、「言語活動の学校全体としての取組」、「総合的な学習の時間における探究の過程を意識した指導」、「全職員による課題の共有と組織的な取組」等の項目は、全国と比較して本県の実施率が顕著に低く、特に課題が見られる。

(3) 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の対比について

- 児童生徒質問紙と学校質問紙に共通する質問の回答状況を比較すると、特に、「学習内容を振り返る活動の位置づけ」、「児童生徒のよさの評価」等の項目について、児童生徒と教師間の意識の差が大きい。

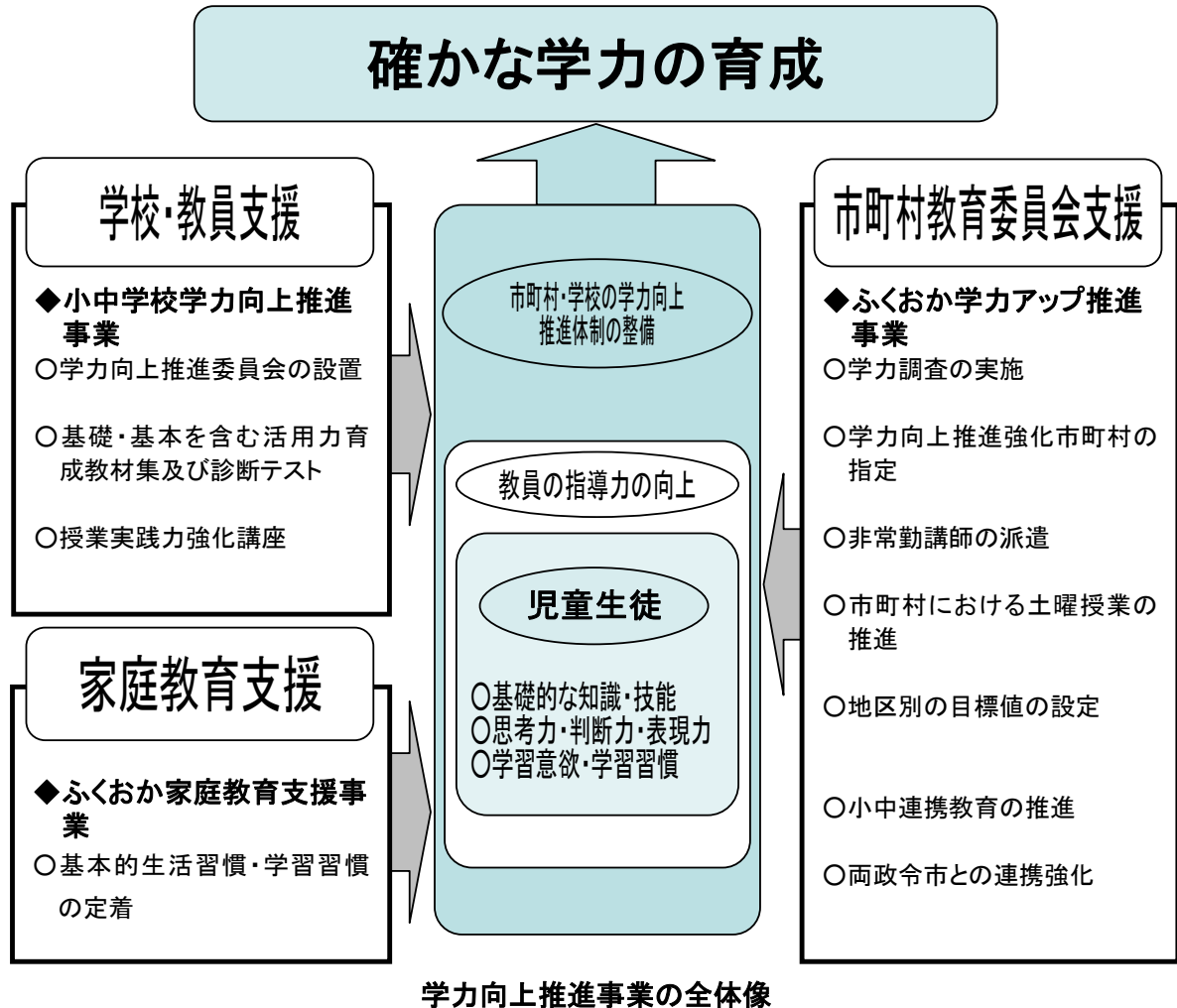
「学習内容を振り返る活動の位置づけ」について、小学校では、肯定的な回答をした児童の割合は、学校の割合よりも21.1ポイント低く、中学校では、肯定的な回答をした生徒の割合は、学校の割合よりも32.4ポイント低い。授業の終末段階で、児童生徒自身が学習内容を振り返る活動を意識して行うことができるよう工夫することが課題である。

「児童生徒のよさの評価」については、小学校では、肯定的な回答をした児童の割合は、学校の割合よりも16.4ポイント低く、中学校では、肯定的な回答をした生徒の割合は、学校の割合よりも19.3ポイント低い。児童生徒自身がよいところを認められていると感じることができるよう、一人一人のよさや努力を評価し積極的に伝えるようにすることが課題である。

2 改善に向けた今後の取組

■ これまでの取組

これまでの調査結果を踏まえ、県教育委員会では、「学力向上総合推進事業」を展開している。この事業は、「ふくおか学力アップ推進事業」、「小中学校学力向上推進事業」、「ふくおか家庭教育支援事業」を3つの柱としており、以下に示す施策を県、市町村、学校が一体となって総合的に推進することにより、本県児童生徒の確かな学力の育成を図っている。



(1) ふくおか学力アップ推進事業

本年度は、平成20年度から6年間実施してきた「ふくおか学力アップ推進事業」に新たな内容を追加・拡充し、実施している。

① 学力調査の実施

次の①・②の調査を通じて、各市町村教育委員会と各学校が、教育及び教育施策の成果と課題を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

ア 全国学力・学習状況調査（小6 - 国語、算数、中3 - 国語、数学）

イ 福岡県学力実態調査（小6 - 社会、理科、中3 - 社会、理科、英語）

② 学力向上推進強化市町村の指定

学力向上に向けて特に支援が必要と認められる市町村を学力向上推進強化市町村（以下「強化市町村」という。）として3年間指定し、次に掲げる支援を行う。

ア 教育事務所の学力向上支援チームによる学力向上施策や学校への指導内容・方法、学力分析の方法、授業改善の具体的方法等についての指導助言

イ 強化市町村が行う教員の指導力向上の研修、家庭学習推進の取組、放課後や長期休業中の補充学習等に対する経費の補助

③ 非常勤講師の派遣

強化市町村に対し、非常勤講師を派遣し、国語、算数・数学における少人数指導や習熟度別指導等の取組を支援する。

④ 土曜授業の推進

土曜日に保護者、地域住民等の人材を活用した授業等を行う市町村教育委員会の取組を支援するため、当該授業等に係る経費の一部を補助する。

⑤ 地区別の目標値設定

全国学力・学習状況調査を基に、地区別目標値の設定状況及び目標値に基づく学力向上等の取組状況を確認する。

⑥ 小中連携教育の推進

次のア・イのような取組を通じて、小中連携教育を推し進める。

ア 市町村教育委員会及び学校における小中学校間の教員による授業交流を促進

イ 福岡県重点課題研究指定・委嘱校の取組の成果を積極的に活用し、市町村教育委員会及び学校における小中学校教員の合同研修会の実施を促進

⑦ 両政令市との連携強化

両政令市の学力向上の取組の成果と課題を共有するとともに、「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」、「診断テスト」、指導資料の相互活用、共通実践を進める。

(2) 小中学校学力向上推進事業

昨年度から実施している「小中学校学力向上推進事業」については、内容を充実させ、本年度も引き続き実施している。

① 各地区学力向上推進委員会

6 教育事務所それぞれの管内において、学校及び市町村の学力向上の取組状況を具体的に把握し、課題に応じた改善の取組を地区内で統一的に推進する。

② 基礎基本を含む活用力を育成する教材集

「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」を授業等で活用し、活用する力の向上を図る。

ア 対象

小学校第5・6学年全児童及び中学校全学年全生徒

イ 教科

国語、算数・数学

ウ 内容と構成

・ 基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を育成する教材

・ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る教材

エ 活用方法

授業や家庭学習等で繰り返し活用する。

③ 基礎基本を含む活用力診断テスト

診断テストを定期的実施することにより、児童生徒のつまづきや課題を短いスパンで定期的に明らかにし、習熟度別指導等の個に応じた指導が実施されるよう啓発を行う。

ア 対象

小学校第5・6学年全児童及び中学校全学年全生徒

イ 教科

国語、算数・数学

ウ 内容

基礎的・基本的な内容や思考力、判断力、表現力の育成状況を診断する問題

エ 実施回数

小学校…年間3回、中学校…年間2回

なお、(2)・(3)の実施を通じて、児童生徒の基礎基本を含む活用力を高めるとともに、教員の指導

力を高め、授業改善に資することをねらいとしている。

④ 授業実践力強化講座

小学校第5・6学年の全担任と中学校の国語科、数学科担当の全教員を対象に、国語、算数・数学の授業研究・協議及び学習指導に関する講義を通して教員の実践的指導力の向上を図る。福岡教育大学及び福岡教育大学附属小中学校と連携して実施している。

(3) ふくおか家庭教育支援事業

① 基本的な生活習慣の定着「元気いっぱい『ねるちゃん・けすちゃん』」

県内の5・6歳の幼児、小学校第1学年の子供をもつ全ての家庭を対象に、「生活習慣カード」の記入等、家庭における規則正しい生活習慣づくりの取組を実施する。

② 学習習慣の定着「学びをはぐくむ『ふくおか寺子屋』」

ア 市町村における「補充学習事業」の実施

イ 教育事務所による相談対応・情報提供

■ 今後の改善の視点

- 児童生徒の学力実態や課題、改善の方策を学校の職員全体で共有して取組に当たる。
- 学力低位層の児童生徒をきめ細かにフォローアップするための方策を充実させる。
- 授業では、適切な言語活動や学んだことを振り返る活動を確実に位置付け、評価を行う。
- 学力向上に向け、学校と地域・保護者が一体となって協働する体制づくりを行う。
- 県教育委員会は、市町村教育委員会及び学校の取組についてフォローアップを行う。

■ 今後の取組

これまでの取組の実効性を高めつつ、今後の改善の視点を踏まえて取組の徹底を図り、全県で取り組む。

